



資料シリーズ
No.54

障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究 —第1回職業生活後期調査（平成21年度）—

2010年3月

独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構
障害者職業総合センター

NATIONAL INSTITUTE OF VOCATIONAL REHABILITATION

まえがき

障害者職業総合センターは、「障害者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、わが国における職業リハビリテーションの基盤整備とサービスの質的な向上に貢献することをめざして、職業リハビリテーションに関する調査・研究、職業リハビリテーション技法の開発、専門職員の養成・研修などの事業を行っており、調査研究の成果は調査研究報告書、及び、それに関連する資料シリーズ等の形で取りまとめ、関係者に提供しております。

現在、我が国においては、障害の有無にかかわらず、国民だれもが相互に人格と個性を尊重し支え合う共生社会の実現に向けた取組が進められています。雇用・就業は、障害者が地域でいきいきと生活していくための重要な柱であり、障害のある人が働く意欲と能力を発揮して、充実感を得ることができ、人生の各段階に応じて仕事と生活の調和が図ることのできる社会を実現することが求められています。

働くことを職業生活という視点からみると、職業準備、求職活動、職業能力習得、就職、職場適応、就業継続、離転職、退職、再就職、職業生活からの引退、引退後という連続した局面があります。働く障害者がよりよい職業生活を継続して送っていくためには、それぞれの局面においてどのような課題があるのか、これに対してどのような支援が求められているのか等を把握していくことが必要です。

ところが、働く障害者に関する統計調査は厚生労働省等の国の機関をはじめ数種の機関が実施していますが、これらはそれぞれの目的に応じて一定の時点の状況を調査したもののが中心であり、同一の個々人をその職業生活を通じて長期的に継続して調査を行ったものは、一部の能力開発機関や福祉機関がその修了生等を調査したものはあるものの、広く把握したものはみられません。

このため、当センター研究部門では、障害のある労働者の就職、就業の継続、職業生活の維持・向上等の職業サイクルの全体像を明らかにするため長期継続調査－パネル調査（同一の対象者を継続して調査する方法）－により職業サイクルの現状と課題を把握し、企業における雇用管理の改善や障害者の円滑な就業の実現に関する今後の施策展開のための基礎資料を得ることを目的として、「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究（平成19～21年度）」を実施することとしました。

調査は、身体障害（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由不自由、内部障害）、知的障害又は精神障害を有する労働者個々人に対して、若年期を中心とする就職及びこれに続く職業生活への適応の過程等を明らかにする調査－職業生活前期調査（15歳以上39歳以下対象（調査開始時点））－と、一定の就業経験経過後の職業生活の維持・向上等の過程を明らかにする調査－職業生活後期調査（40歳以上概ね55歳以下対象（同））－を、平成20年度から平成35年度まで、毎年交互に各調査8回、計16回、パネル調査（同一の対象者を継続して調査する方法）として実施することとしました。

すでに、平成21年1月～2月に第1回職業生活前期調査を行い、その調査研究の成果を資料シリーズとしてとりまとめたところです。

本資料シリーズは、平成21年度7～8月に行った職業生活後期調査の第1回目の調査結果をまとめたものです。前期調査と同様、この第1回目の調査は、まずスタート時点で後期調査の対象者が現在どのような状況にあるのか、また、今までにどのようなキャリアを積んできた方たちなのかなど今後の調査の基礎部分を把握することが主眼です。

平成23年度以降においては、2年ごとに後期調査を実施して、後半の職業生活において、どのように職業

生活を送っていくか、人生後半のライフサイクルによってどう変化していくか、引退時期や引退後の生活はどうか、それらの過程でどのような課題があるか、どのような支援が求められているかなどを把握しようとする、平成35年度までの17年間という長期間に及ぶ計画です。

今般の後期調査の実施に当たりましては、ご回答いただいた方々をはじめ、調査実施にご協力いただいた方々に厚く御礼を申し上げますとともに、引き続き本調査研究にご協力よろしくお願ひ申し上げます。

2010年3月

独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構

障害者職業総合センター

研究主幹 上村俊一

執筆担当

亀田 敦志	(統括研究員)	概要、第1章、第2章、第5章
石黒 豊	(主任研究員)	第1章、第2章、第3章
田村 みつよ	(研究員)	第4章、第5章
清水 亜也	(研究協力員)	第3章、第4章
森山 葉子	(研究協力員)	第3章

研究担当者

本研究は、障害者職業総合センター社会的支援部門が担当した。

研究担当者(職名) [担当した年度] は次のとおりである。

佐藤 珠己	(統括研究員)	[平成19年度]
亀田 敦志	(統括研究員)	[平成20、21年度]
石黒 豊	(主任研究員)	[平成19～21年度]
三島 広和	(研究員)	[平成19、20年度]
田村 みつよ	(研究員)	[平成21年度]
清水 亜也	(研究協力員)	[平成19～21年度]
真柄 希里穂	(研究協力員)	[平成19年度]
木村 美也子	(研究協力員)	[平成20年度]
高橋 寛	(研究協力員)	[平成20年度]
森山 葉子	(研究協力員)	[平成21年度]

目次

ヘーリー

概要	1
第1章 本調査研究の目的、実施方法及び実施経過	13
第1節 目的	13
第2節 実施方法	13
1 基本的な考え方	13
2 調査事項	13
3 調査方法	13
4 実施期間	14
第3節 実施経過	15
1 研究委員会の設置	15
2 研究委員会の開催	16
3 調査票検討会の開催	17
4 第1回後期調査の実施	18
第2章 第1回後期調査の実施経過	19
第1節 調査票の作成	19
1 考え方	19
2 設問の項目	20
3 2回目以降の設問項目の検討	25
4 調査全体の計画	27
第2節 調査の実施	29
1 調査対象	29
2 調査の時期	29
3 調査の方法	29
4 調査票の回収結果	30
第3章 第1回後期調査の実施結果	31
第1節 基本的事項	31
第2節 仕事に関する事項	51
第3節 生活に関する事項	67
第4節 仕事や生活に対する意識に関する事項	69
第4章 第1回後期調査の結果分析	79
第1節 就業形態別の就業状況	79

第2節 仕事内容別の給与等	85
第3節 住居環境別の就業形態等	90
第4節 取得免許・資格別の就業形態・給与	98
第5節 環境整備及び配慮事項の分類による障害別の状況	102
第6節 男女別の就業形態・仕事満足度	105
第7節 初職と転職別の勤続年数	107
第8節 障害診断時期別の学歴等	109
第9節 仕事満足度の影響要因	112
第10節 仕事に対する今後の考え方と就業状況等	123
第11節 前期調査との比較	127
 第5章 考察	131
第1節 調査対象集団の特性と調査時点までのキャリア	131
第2節 職業生活の維持・向上等の状況	135
第3節 2回目以降の調査	137
 資料	141
資料1 【調査結果補足】	
仕事についていない人（非就業者）の就業関連の質問への回答結果	141
自由記述の内容について	143
資料2 【参考資料】	
一般的な雇用状況（雇用形態別雇用者数、従業員規模別雇用者数、年齢階級別賃金額）	146
資料3 【対象者周知文書】	
「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」に関するアンケート調査実施の概要	147
資料4 【調査協力同意書様式】	
「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」に関するアンケート調査協力同意書	149
資料5 【アンケート調査ID番号通知書】	
「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」に関するアンケートID番号のお知らせ	149
資料6 【アンケート調査票】	
資料6 【アンケート調査票】	150
資料7 【アンケート調査票】（知的障害者用）	
資料7 【アンケート調査票】（知的障害者用）	155
資料8 【アンケート調査票】（点字）	
資料8 【アンケート調査票】（点字）	160
資料9 【アンケート調査票】（音声化用テキストファイル）	
資料9 【アンケート調査票】（音声化用テキストファイル）	181
資料10 【アンケート調査票】（電子ファイル版）（上肢障害のある方等パソコンでの回答者対象）	
資料10 【アンケート調査票】（電子ファイル版）（上肢障害のある方等パソコンでの回答者対象）	186
資料11 【アンケート調査票記入の手引き】	
資料11 【アンケート調査票記入の手引き】	191

概要

第1章 本調査研究の目的、実施方法及び実施経過

障害者の安定した円滑な就業を進めていくためには、障害者の職業サイクル（就職、就業継続、離職（退職等）の各局面における状況と課題を把握し、これに応じたきめ細かい雇用対策を進めていくことが不可欠である。

このため、障害のある労働者の就職、就業の継続、職業生活の維持・向上等の職業サイクルの全体像を明らかにするための長期継続調査により、職業サイクルの現状と課題を把握し、企業における雇用管理の改善や障害者の円滑な就業の実現に関する今後の施策展開のための基礎資料を得るため、本調査研究を行うこととした。

調査は、身体障害（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害）、知的障害又は精神障害を有する労働者個々人に対して、若年期を中心とする就職及びこれにつづく職業生活への適応の過程等を明らかにする調査－職業生活前期調査（15歳以上39歳以下対象）－と、一定の就業経験経過後の職業生活の維持・向上等の過程を明らかにする調査－職業生活後期調査（40歳以上概ね55歳以下対象）－を、平成20年度から平成35年度まで、毎年交互に各調査8回、計16回、パネル調査（同一の対象者を継続して調査する方法）として実施することとした。

また、本調査研究の企画、実施に当たり、専門的知見と関係者の協力等を得て円滑に実施するため、平成19年11月に、学識経験者、当事者団体関係者、事業主団体関係者、行政関係者、地域障害者職業センター職員による研究委員会を設置して検討を進めた。特に、調査票の詳細な内容及び全8回の調査項目については同研究会委員であるパネル調査専門家により調査票検討会を行った。

これらによる検討を重ね、第1回前期調査を平成21年1～2月に実施したことに引き続き、第1回後期調査を平成21年7～8月に実施した。

第2章 第1回後期調査の実施経過

本調査は調査対象を39歳以下と40歳以上に分けて把握することにより合わせて全職業生活の変化をみていくため、後期調査の調査項目は前期調査のそれと基本的に同一の調査事項とした。

調査票の全体構造としては、「調査対象者の基本的事項（性別、生年月日、障害等）」、「仕事に関する事項（就業・非就業の別、仕事内容、労働状況、離職の場合の離職理由、就職意思等）」、「生活に関する事項（困ったときの相談先、経済状況など）」、「仕事や生活に対する意識に関する事項（仕事をする上で の重要度、配慮希望事項、満足度等）」とした。

また、1回目の調査は、調査対象者の基本的な状況、現在の仕事に関する状況、調査開始時点までの学歴、初めての職業等のキャリア、家族・住まい等の生活を質問し、データの基礎部分を構築していくこととした。これにより、今後、継続して調査を行う対象者の調査時点までのキャリアの状況、調査時点における就業の状況を把握していくこととした。

第2回目以降では基本的には1回目と同じ設問とし、仕事に関する事項の経年変化を捉えていくこととし、前回調査時点以降のライフイベント（結婚、家族構成の変化など）と仕事に関する出来事（配置転換、給料の変化、離転職、離転職の理由等）の設問も加える。また、回ごとに質問トピックを入れ替えて、生活、経済、健康といった関連領域のデータを取得していくこととした。

これらは、前期調査と同様の内容である。

一方、職業生活後期調査の対象者は中高年層となるため、回答の選択肢や設問を追加した。具体的には、選択肢の中に家族の構成員があるものについては「子ども」、「子どもの配偶者」、「孫」を、退職理由に「定年退職」、「定年後の再雇用期間満了」、「体力的にきつくなった」を追加したほか、今後の仕事に対する考え方についての設問を「会社で何歳まで働くか」、「いつまで仕事を続けたいか」等に修正した。

また、前期調査の結果「障害の診断年齢」が「わからない」と回答した者が16%あり、特に知的障害、肢体不自由が多かったため、障害者手帳については「交付年月」の回答欄を追加した。

調査対象者の選定については、当事者団体及び障害者を多数雇用する企業等に協力を依頼し、調査協力の同意が得られた対象者の数は531人であった。

調査は調査回答時点を平成21年7月1日とし、同意が得られた対象者に対して平成21年7月初旬～中旬に調査票を郵送した。調査票回収期限は平成21年8月25日とした。

その結果、回答者数は416人であった。障害別の内訳は視覚障害56人、聴覚障害82人、肢体不自由123人、内部障害42人、知的障害76人、精神障害37人であった。

第3章 第1回後期調査の実施結果

主な調査結果は以下のとおりである。

1 基本的事項

- ①男女比は男性70%、女性30%。
- ②平均年齢47.1歳。「40～44歳」が33%、「45～49歳」が36%、「50～54歳」が25%。
知的障害、精神障害は50～54歳が少なく（それぞれ20%、8%）、内部障害は「50～54歳」が多い（50%）。
- ③障害の診断時期は就職（初職）前が48%、就職（初職）後が34%、不明が18%。
- ④手帳所持者は97%。身体障害は身体障害者手帳所持者100%、知的障害は療育手帳所持者96%、精神障害は精神保健福祉手帳所持者70%。
身体障害手帳者手帳所持者は重度が多く（76%）、療育手帳所持者、精神保健福祉手帳所持者は中軽度が多い（それぞれ89%、93%）。
- ⑤家族構成は配偶者ありが41%。住まいは自宅（賃貸含む）59%。また、一人暮らし16%。
- ⑥最終学歴（中退含む）は中学が8%、高校が31%、専門学校・能開校19%、短大以上が23%。特別支援学校在学ありは38%。

2 仕事に関する事項

①現在の仕事（以下同じ）は、正社員65%、パート・アルバイト25%。

視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害は正社員が多く（それぞれ59%、72%、76%、79%）、知的障害は半々、精神障害はパート・アルバイトが多い（57%）。

②仕事内容はものづくりが29%、事務が27%と多く、清掃・クリーニングが14%、医療・福祉が12%。

視覚障害は福祉・医療（63%）が、聴覚障害はものづくりが（53%）、肢体不自由は事務が（44%）、知的障害は清掃・クリーニング（54%）が多い。

③労働時間は週30時間以上が76%。

内部障害、知的障害及び精神障害において「20時間以上30時間未満」が他の障害に比べて多い（それぞれ22%、24%、47%）。

④1ヶ月当たりの給与は「13～25万円」が36%、「7～13万円」が30%、「26～39万円」が17%。

視覚障害、内部障害は「26～39万円」が他の障害に比べると多く（それぞれ32%、27%）、知的障害、精神障害は「7～13万円」が多い（それぞれ70%、47%）。

⑤障害についての会社への説明は、「ほとんどの人に説明」が60%、「一部の人に説明」が28%。

⑥仕事の満足度（「満足」と「どちらかといえば満足」）は、いずれの項目も50%を超え、「仕事内容」が71%、「給与待遇」が52%、「人間関係」が61%、「職場環境」65%。

聴覚障害は満足度が低い傾向がみられ、知的障害は高い傾向がみられる。

⑦現在の仕事の継続希望については、「今の仕事を続けたい」が63%と最も多く、「別の仕事をしたい」は13%と少ない。

「今の仕事を続けたい」は視覚障害、知的障害が多い（それぞれ74%、68%）。聴覚障害においては「別の仕事がしたい」が25%。

3 経済状況

①障害年金を受給76%、受給していない22%。

聴覚障害は受給している割合が高い（93%）。

②生活の収入源は「年金と労働収入」が48%で最も多く、「労働収入のみ」20%、「年金と家族の支援と労働収入」16%、「家族の支援と労働収入」7%。

4 仕事や生活に関する意識

①仕事をする上で重要な度（「重要」と「どちらかといえば重要」）は、「賃金給料」が90%で最も多く、他の項目（「自分の能力・経験」、「環境整備」、「職場の人間関係」、「仕事内容」、「勤務時間・休日」）はいずれも8割を超えている。

②仕事をする上で必要なことは「まわりに援助者を配置」が43%で最も多く、順に「作業手順をわかりやすく」40%、「勤務時間・休みの調整」32%、「作業スピード・量の調整」が31%。

聴覚障害は「援助者の配置」（70%）、内部障害、精神障害は「勤務時間、休みの調整」（それぞれ60%、46%）、知的障害が「作業手順」（61%）、「援助者の配置」（55%）が多い。

③会社へ望む事項は「障害の理解」が49%で最も多く、順に「ずっと働き続けること」が41%、「給与面の改善」39%、「能力評価」34%。

「ずっと働き続けること」は知的障害、精神障害で多い（それぞれ62%、60%）。 「障害の理解」は視覚障害、聴覚障害、精神障害で多い（それぞれ57%、63%、60%）。

④会社で働く年齢が「決まっている」が66%、「決まっていない（「わからない」含む）」が32%。「決まっている」場合の年齢は「60歳」が54%で最も多く、次いで「65歳」が30%、「61～64歳」9%、「66歳以上」3%となっている。

また、仕事の継続希望については「決まっている年齢まで働きたい」が37%で最も多いが、「それより前にやめたい」24%、「それ以降も働きたい」22%となっている。

第4章 第1回後期調査の結果分析

現在の仕事に関する状況、職業生活の後半において課題となる職業の維持・向上等後期調査の趣旨を踏まえて、関連が考えられる項目について分析を行った。なお、以下は概要であるので主に障害合計の記述が中心となっているものがあるが、障害別に違いがあるものもあるので本文を参照されたい。

1 就業形態別の就業状況

就業形態（正社員・パート・アルバイトの別）と仕事内容、労働時間、給与及び仕事満足度についてクロス集計を行った。

仕事内容については、全体（障害計（以下同じ））では、正社員、パート・アルバイトともに「ものを作る仕事」の割合が他の仕事内容に比べて多く、また、正社員においては「事務の仕事」が多く、パート・アルバイトにおいては「清掃、クリーニングなどのサービスの仕事」が高い。

正社員において労働時間「30時間以上」の割合が他の労働時間の分類より高く、パート・アルバイトにおいては「30時間以上」と「20～30時間」の割合がほぼ同じ程度である。1か月当たりの給与については、正社員においては「13万円以上」の比率が「13万円未満」より高く、パート・アルバイトにおいては「13万円未満」の比率が高い。正社員の方が「経済的自立度が高い」（生活収入源を「働いて得る収入」だけか「年金と働いて得る収入」としている）割合が高い。

また、仕事の満足度については、いずれの就業形態においても満足の傾向が高い。

2 仕事内容別の給与等

仕事内容について給与、初職継続者と転職者、満足度とクロス集計を行った。

給与については、全体では、「ものを教える仕事」、「事務の仕事」及び「医療や福祉に関わる仕事」で「13万円以上」の割合が他の仕事内容に比べて高く、「清掃・クリーニングなどのサービスの仕事」が低い。また、障害別にみると、「13万円以上」の割合が、視覚障害では「医療や福祉に関わる仕事」、聴覚障害では「事務の仕事」及び「ものを作る仕事」、肢体不自由、内部障害及び精神障害では「事務の仕事」がそれぞれの障害において他の仕事内容に比べて高い。

また、初職継続・転職の関係については、全体では、仕事内容合計では「転職あり」が高いが、その中でも「人を相手にするサービスの仕事」、「清掃・クリーニングなどのサービスの仕事」が高い。

障害別にみると、「転職あり」の割合が、視覚障害では「医療や福祉に関わる仕事」、聴覚障害では「事務の仕事」、肢体不自由では「ものを作る仕事」、内部障害では「事務の仕事」、知的障害では「清掃・クリーニングなどのサービスの仕事」がそれぞれの障害において他の仕事内容に比べて高い。

仕事内容と仕事の満足度については、全体では、いずれの仕事内容も満足度が6~8割と高いが、の中でも「ものを教える仕事」、「医療や福祉に関わる仕事」及び「ものを売る仕事」が他の仕事内容に比べて高い。

障害別にみて、満足度は、視覚障害では「医療や福祉に関わる仕事」、聴覚障害では「事務の仕事」、肢体不自由及び内部障害では「事務の仕事」、知的障害では「清掃・クリーニングなどのサービスの仕事」がそれぞれの障害のその他の仕事内容に比べて高い。

3 住居環境別の就業形態等

住居環境と就業形態の関係について、全体的な傾向として「配偶者を含む家族との同居」の正社員の割合が高い。

「一人暮らし」において経済的自立度が高く、「配偶者を含まない家族との同居」及び「配偶者を含む家族との同居」において経済的自立度がやや低い傾向がみられる。

仕事関係の相談に関しては、一人暮らしや家族との同居といった住居環境にかかわらず、「上司・知人」及び「親族」に相談する傾向が高い。また、経済面の相談に関しては、住居環境にかかわらず、「親族」に相談する傾向が高い。

4 取得免許・資格別の就業形態等

免許・資格について取得者の多い「あん摩マッサージ指圧師免許・はり師免許・きゅう師免許」、「普通自動車運転免許」、「簿記」、「パソコン・情報処理系」の4つを取り上げた。

視覚障害における、あん摩マッサージ指圧師免許・はり師免許・きゅう師免許の取得状況との対応に関して、正社員とパート・アルバイトの比較においては顕著な差はみられないが、自営業についてはすべて(14人)が免許取得者となっている。

給与については、資格・免許取得者の給与が高い傾向はみられるが、あん摩マッサージ指圧師免許・はり師免許・きゅう師免許(視覚障害)、パソコン・情報処理系資格における視覚障害、聴覚障害及び肢体不自由では逆の傾向であるなど差がみられない。

5 環境整備及び配慮事項の分類による障害別の状況

環境整備(仕事をする上で必要な事項)に関しては、全体では「作業上の配慮」に対する事項が最も多く、次いで「通勤、コミュニケーション」、「健康管理」となっている。障害別にみると、聴覚障害では「通勤、コミュニケーション」に対する事項が顕著に多く、肢体不自由及び内部障害においては「健康管理」に対する事項が顕著に多い傾向がみられる。

配慮事項(仕事をする上で会社への要望事項)に関しては、全体的な傾向として「雇用条件」に対する要望が最も多く、次いで「障害理解」、「環境整備」となっている。障害別にみると、聴覚障害では「障害理解」に対する要望が「雇用条件」と同程度に多い。

6 男女別の就業形態・仕事満足度

正社員とパート・アルバイトの就業者数を全体としたとき（視覚障害は自営も含む）、このうち正社員の占める割合は、男性 75%、女性 65% であり、男性の方が高い。障害別にみると、肢体不自由においては正社員の占める割合は男女で差ではなく、知的障害、精神障害においては女性の方が正社員の比率が高い傾向がみられる。

また、男女別による仕事満足度の状況をみると、全体では、男性及び女性のいずれにおいても全体的に満足の傾向が高いが、両者の比較においてはその傾向に顕著な差はみられない。障害別にみると、視覚障害において女性の満足度が高い傾向がみられ、聴覚障害においては「職場の人間関係」及び「職場の環境」で女性の満足度が高い傾向がみられる。

7 初職、転職別の勤続年数

「初職継続者」は 90 人（22%）、「転職者」は 285 人（69%）であり、転職経験の方が多い傾向がみられる。

また、「対象者の年齢」と「現職就職年齢」から勤続年数を算出してみると、全体では、勤続年数 11 年以上の者が 165 人（39.7%）と最も多く、3 年以内の者は 81 人（19.5%）、4 年以上 10 年以内の者は 83 人（20.0%）となっている。

「初職継続者」のうち勤続年数 11 年以上の者が 68 人（76%）と最も多く、3 年以内の者及び 4 年以上 10 年以内の者はそれぞれ 0 人、3 人（3%）と少ない。一方、「転職者」においては、勤続年数の構成比に顕著な差ではなく、それぞれ勤続年数 11 年以上の者が 92 人（32%）、4 年以上 10 年以内の者は 79 人（28%）、3 年以内の者は 79 人（28%）となっている。

8 障害診断時期別の学歴等

本調査は障害のある労働者の職業生活全体を前半と後半に分けて調査をしていく設計上、後期調査対象の中途障害者について診断時期の一部は前期調査対象者の年齢範囲を超えており、その集団は職業生活後半に受障した者であり前半に受障した者と質的に異なると考えられる。今後の経年変化では、この群を分けて把握していく必要性も考えられるため、まずこの集団の特性を分析しておくという目的で、障害診断時期を「35 歳以降」と「34 歳以前」に分類し、学歴、仕事内容及び給与とクロス集計を行った。

学歴については、全体では、診断時期が「35 歳以降」では最終学歴（中退含む）が「大学・短大」が最も多く、これは「34 歳以前」の「大学・短大」の割合を大きく上回っている。「35 歳以降」では「特別支援学校中等部」、「同高等部」は 0 人、「同専攻科」は 2 人である。

仕事内容については、全体では、診断時期が「35 歳以降」で「事務の仕事」が最も多く、続いて「ものを作る仕事」となっている。診断時期が「34 歳以前」では「ものを作る仕事」が最も多く、次いで「事務の仕事」となっている。

給与額については、全体では、診断時期が「35 歳以降」で「13 万円以上」の割合が、「34 歳以前」のそれより高い。

以上のように違いがみられるところであり、今後の継続調査に当たってこの集団の分析を継続していく必要がある。

9 仕事満足度の影響要因

仕事満足度と他の質問項目回答との関係については、既に就業形態及び性別との関連をみているが、仕事に対する対象者の主観的意識をみる上で「仕事満足度」は重要な指標の一つとして挙げられるため、より多くの項目との関係をみた。

①年代の関係については、全体では、仕事の満足度に関して年代による差はみられない。障害別にみた場合、各年代で回答傾向にばらつきが複数みられるが、「高年齢になるほど満足度が高くなるまたは低くなる」といった一貫した傾向はみられない。

②障害年金受給状況の関係については、全体では、「障害年金受給なし」において仕事満足度が高い傾向がみられる。障害別にみると、視覚障害及び聴覚障害においてその傾向はより顕著にみられ、逆に肢体不自由及び知的障害においては障害年金受給の有無で仕事満足度に顕著な差はみられない。

③給与額の関係について「月額 13 万円未満」と「月額 13 万円以上」の 2 群に再分類し、仕事満足度との対応をみた。全体では、給与額による仕事満足度の差はみられないが、障害別にみると、視覚障害及び聴覚障害、内部障害の「月額 13 万円未満」において「給与や待遇」の満足度が低い傾向がみられる。

④転職経験の関係については、全体では、「転職経験あり」において「給与や待遇」の満足度が低い傾向がみられ、他の項目では顕著な差はみられない。障害別にみると、視覚障害及び肢体不自由、内部障害で、全般的に「転職経験あり」の満足度が低く、逆に聴覚障害においては「転職経験あり」の満足度が高い傾向がみられる。

⑤現職勤続年数の関係については、全体では、現職勤続年数による仕事満足度の差はみられないが、障害別にみると、視覚障害及び肢体不自由、内部障害の「給与や待遇」において、勤続年数が長い方が満足度が高い傾向がみられる。

⑥仕事をする上で的重要と考えること（仕事重要度）との関係については、仕事重要度の項目と仕事満足度の項目が同じものをクロス集計した。

その結果、以下のように、満足度が高い事項について重要度も高い状況がみられるが、今後、継続して調査を実施していく中で、離職、転職の状況など仕事上の出来事とのかかわりなども含めて検討していく。

10 仕事に関する今後の考え方と就業状況等

職場において働く年齢が「決まっている」と回答した対象者に関して、希望する職業生活の引退時期と決まっている年齢・年代・就業形態・勤続年数の関係について検討した。この結果、全体的な傾向として、「決まっている年齢より前にやめたい」、「決まっている年齢まで働きたい」、「決まっている年齢以降も働きたい」の順に、働く年齢「60 歳以下」の割合が増加し、「61 歳以上」の割合が減少する傾向がみられる。また、就業形態（正社員とパート・アルバイト）により差はみられないが、年代については「55～

59歳において「決まっている年齢以降も働きたい」の割合が多く、勤続年数が長いほど「決まっている年齢よりも前に仕事をやめたい」という回答が多い。

第5章 考察

1 調査対象集団の特性及び調査時点までのキャリア

(1) 調査対象集団の特性

調査回答者は40～44歳33%、45～49歳36%、50～54歳25%であり、初職就職年齢からの経過が21～25年の者が31%、25～30年34%であり、21年以上85%を占めた。職業生活の後半部分において、偏りなく分布しており、今後15年間にわたって、調査対象者の職業生活の変遷を総括的に把握していくことが十分に可能であると考えられる。

男女別にみると、男性70%、女性30%であり、男性が大きく上回っている。「平成15年度障害者雇用実態調査」(厚生労働省)(以下「平成15年度雇用実態調査」という)により、常用雇用の身体障害者、知的障害者及び精神障害者計により男女別の比率をみると、男性73%、女性27%となっている。このため、調査対象者の条件に違いはあるが、男女比は実態に近いものといえる。

障害別にみると、身体障害(視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害を含む)70%、知的障害18%、精神障害9%であり、身体障害が多くを占めている。「平成15年度雇用実態調査」により、40歳以上の年齢区分でみると、常用雇用の身体障害者85%、知的障害者13%、精神障害者2%であり、回答者の障害別の状況と比較すると、「平成15年度雇用実態調査」では常用雇用の身体障害者の比率が大きく、知的障害者及び精神障害者の比率が小さい。このため、障害計で集計結果をみるととき及び前期調査と比較してみるとときはこの点に留意する必要がある。

(2) 現在の仕事の状況

第1回後期調査では、雇用形態をみると、全体では「正社員」65%、「パート・アルバイト」25%であり、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由及び内部障害は「正社員」が多く(59～79%)、知的障害は「正社員」と「パート・アルバイト」が半々、精神障害は「パート・アルバイト」が多い(75%)。

また、1週間当たりの労働時間(平成21年6月)をみると、週30時間以上が76%、20時間以上30時間未満15%であり、精神障害(47%)では後者が比較的多い。

「平成18年度身体障害者、知的障害者及び精神障害者就業実態調査」(厚生労働省)(以下「平成18年度就業実態調査」という)では、障害別に就業形態別の就業状況について報告されており、その結果は、身体障害者は常用雇用48%、常用雇用以外47%、知的障害者は常用雇用19%、常用雇用以外80%、精神障害者は常用雇用33%、常用雇用以外60%(いずれも無回答あり)となっている。この常用雇用は週20時間以上の労働時間の者とされており、就業者全体としては週20時間未満の労働時間の者が多い。

「平成18年度就業実態調査」との比較を踏まえると、後期調査の対象者はその条件(精神障害を除き週労働時間20時間以上)からみて、基本的には雇用保険被保険者となり、常用労働者となるので、就業している障害者全体の中では安定的な方の就業環境にあると考えられる。

また、給与額（「13万円以上」58%）、勤務している会社の従業員規模（「50人以上」54%）、障害についての会社への説明（「会社へ説明している」88%、障害者手帳所持（「手帳あり」97%）の状況からみて同様なことがいえよう。

2 職業生活の維持・向上等の状況

職業生活の維持・向上等の状況について、今後前期調査、後期調査それぞれにおいてパネル調査で同一対象者の変化を把握・分析していくこととしている。その際の視点として、後期調査と前期調査との比較から以下のようなことがあげられる。

（1）初職・転職と勤続年数

前期調査では初職継続者が57%、転職者が43%であり、初職継続者が半数を超えており、後期調査では初職継続者は24%と少なく、転職者が76%と大きな割合を占めている。長期の職業生活の中で転職する者も多くなっている。

転職者の勤続年数をみると、前期調査では勤続3年以内の者が61%、4年以上10年以内の者が29%であるのに対し、後期調査では3年以内の者が32%、4年以上の10年以内の者が32%、11年以上の者も36%となっている。これらの状況をみると初職継続者だけでなく、転職者においても後期調査対象者は勤続年数が長期に及んでいる者が多い。

初職継続や転職、勤続年数はキャリア形成の状況をみていく視点として重要であるので、今後の変化継続調査において把握・分析していくこととする。

（2）現在の仕事の状況

①雇用形態は、後期調査では「正社員」の割合が大きく（後期調査65%、前期調査54%）、「パート・アルバイト」の割合が小さい（後期調査25%、前期調査38%）。また労働時間については「週30時間以上」の割合はほぼ同じ（後期調査76%、前期調査74%）だが、給与（月額）は「26万円以上」の割合が大きい（後期調査22%、前期調査5%）。

これらの労働条件の変化を今後の調査において把握・分析していくこととする。

②仕事内容は、後期調査では事務の割合が小さく（後期調査28%、前期調査35%）、ものづくりの割合はわずかに大きい（後期調査28%、前期調査25%）。

今後、仕事の内容はどのように変化していくか把握・分析していくこととする。

（3）経済的状況

職業生活後半では、年齢層からみて当然であるが、前期調査と比較すると「配偶者あり」の割合、「子供あり」の割合、「父母なし」の割合が大きく、住まいも「自宅（賃貸含む）」の割合が大きい。これを支える経済的な自立状況をみる。

障害年金受給は76%で前期調査と同じであるが、生活の収入源についてみると「年金と労働収入」が48%、「労働収入のみ」が20%であり、前期調査の同40%、17%より大きい。

このような経済的状況の変化について、今後の調査において把握・分析していくこととする。

(4) 仕事をする上で必要事項と希望事項

①仕事をする上で必要な事項は「まわりに援助者を配置」（後期調査 44%、前期調査 44%）及び「勤務時間・休みの調整」（後期調査 32%、前期調査 33%）はほぼ同じである。一方、「作業手順をわかりやすく」（後期調査 40%、前期調査 57%）、「作業スピード・量の調整」（後期調査 31%、前期調査 42%）はより小さい割合である。

②仕事をする上で希望事項は「障害の理解」（後期調査 49%、前期調査 49%）、「給与面の改善」（後期調査 39%、前期調査 37%）、「能力評価」（後期調査 34%、前期調査 33%）はほぼ同じである。特に「障害の理解」は後期調査で最も大きい割合である。「ずっと働き続けること」（後期調査 41%、前期調査 54%）は雇用継続への希望が職業生活前半の若者層に比較すると少ない。

以上のように、仕事をする上で必要な事項や希望事項は職業経験を積むことにより変化するものとそうでないものがあることが考えられるので、今後の調査においてよく把握・分析していくこととする。

(5) 現在の仕事の満足度及び現職継続意思

選択肢の各項目について「満足」と「どちらかといえば満足」と回答した者の割合を加えてみると、「仕事の内容」（後期調査 71%、前期調査 72%）、「給料や待遇」（後期調査 52%、前期調査 56%）、「職場の人間関係」（後期調査 61%、前期調査 64%）、「職場の環境」（後期調査 65%、前期調査 63%）ともあまり差はない

また、現在の仕事の継続意思についても、「今の仕事を続けたい」と回答した者（後期調査 63%、前期調査 64%）、「別の仕事をしたい」と回答した者（後期調査 13%、前期調査 15%）ともほとんど差がみられない。

後期調査においては、仕事満足度の要因を検討するため、就業形態、性、年代（40 歳以上の 5 歳幅）、給与額、現職勤続年数との関連を分析した。

職業経験を重ねることによって仕事の満足度や現在の仕事の継続意思に変化があるのかどうか、仕事の満足度の変化や要因はどのようなものか、同一対象者の回答の動向を把握・分析していくこととする。

(6) 仕事に対する今後の考え方

現在の職場において働く年齢が「決まっている」と回答した 262 人のうち、その「決まっている年齢」は「60 歳」が 142 人（54%）、次いで「65 歳」が 79 人（30%）であり、60 歳から 65 歳までが 9 割以上を占める（244 人（93%））。また、いつまで仕事を続けたいかの問い合わせについては、「決められた年齢まで働きたい」の回答が 97 人（37%）と最も多く、次いで「決まっている年齢より前に仕事をやめたい」が 63 人（24%）、「決まっている年齢以降も働きたい」が 57 人（22%）である。

決まっている年齢より前で職業生活から引退を希望する者が少なくない。

前述したように、今の仕事を続けたいとの継続意思を持つ人が 63% を占め、仕事への満足度も比較的高い傾向にあって、リタイアを早めに考えている人がいる。今後、この理由や実際の退職年齢の状況を把握・分析していくこととする。

3 2回目以降の調査

(1) 2回目以降の調査について

2回目以降の調査では、基本的には1回目と同様の調査項目として、仕事の状況、生活の状況、意識等について、第2章で記述した各項目について、職業生活後半については、経年と加齢とともに、どのように変化していくか、どのような課題が生じていくのか把握していくこととしている。

また、子どもの成長、親の高齢化などの家族の状況や自身の障害や健康の状況などの中高年以降の変化によって、仕事の状況等がどう変わっていくのか。今後家庭生活と職業生活はどのように変化していくのかを把握していくこととする。

さらに、後半の職業生活を継続していくなかで、配置転換（部署の異動）、昇進、給料の変化、休職、転職、倒産など仕事上のさまざまな出来事が予測される。また、これらの中で会社へ望む配慮事項がどのように変化していくかについても検討していきたい。例えば、後期調査では転職者が多いことがわかった、2年後の調査では離職や転職が生ずるだろうか、そうであればどのような理由からか、この間支援機関との相談はあったのかなど分析していくことができる。

第2節では主に職業生活の維持・向上の観点から前期調査との比較をみた。同一の対象者ではないことから厳密な変化とはいえないが、今後パネル調査として変化をみていく際の視点のヒントとなると考えられる。

また、現時点では職業生活から引退年齢に至っている対象者はいないが、引退希望と実際の退職との関係など引退に向けての状況、課題についても把握していくことも目的の一つである。今般設問に当たっては、会社で働く年齢や、仕事継続希望の年齢、離職理由の定年などの項目を設けた。これらを今後把握していくこととする。また、前期調査とは調査対象者が異なっているので、同一対象者の変化を把握していくこととする。

(2) 制度等の変化

パネル調査で同一の対象者の回答の変化の分析に当たっては、この間に生じた障害者にかかる支援や制度の変化、社会的な変化によるものかどうかを考察において取り上げる必要がある。このため、次回以降の研究報告においてはこれらの制度的な変化等を総括しておくこととする。また、自由記述にこれらの制度的な変化が現れる場合もあるので分析に活用することが考えられる。

2年ごとの回答の変化と制度的な変化等を継続して把握していくことによって10数年に及ぶ長期的な変化を把握し、これらを分析に当たって考慮していく必要がある。

(3) 対象者への支援等

一方、本調査研究においては、調査研究について調査対象者の理解と協力を継続的に得ていくことが重要である。このため、当センターから調査対象者宛てに定期的にニュースレターを送付することとしている。ニュースレターでは調査結果や調査についての問い合わせに対する回答等を掲載していくとともに職業生活に役立つ情報を提供していくこととしている。調査対象者の方々に対して情報提供を始めとしてていねいな対応を行っていくことが調査協力の継続に繋がっていくと考えられるので、最大限努力していくこととしている。

第1章

本調査研究の目的、実施方法及び実施経過

第1章 本調査研究の目的、実施方法及び実施経過

第1節 目的

障害者の安定した円滑な就業を進めていくためには、障害者の職業サイクル（就職、雇用、離職（退職）等）の各局面における状況と課題を把握し、これに応じたきめ細かい雇用対策を進めていくことが不可欠である。

このため、障害のある労働者の就職、就業の継続、職業生活の維持・向上等の職業サイクルの全体像を明らかにするための長期継続調査により、職業サイクルの現状と課題を把握し、企業における雇用管理の改善や障害者の円滑な就業の実現に関する今後の施策展開のための基礎資料を得るため、本調査研究を行う。

第2節 実施方法

1 基本的な考え方

- (1) 身体障害、知的障害又は精神障害を有する労働者個々人に対して、若年期を中心とする就職及びこれにつづく職業生活への適応の過程等を明らかにする調査－職業生活前期調査（以下「前期調査」という）－と、一定の就業経験経過後の職業生活の維持・向上等の過程を明らかにする調査－職業生活後期調査（以下「後期調査」という）－を、隔年ごとに交互に、パネル調査（同一の対象者を継続して調査する方法）として実施する。
- (2) 本調査研究を円滑に実施するため、専門家の意見を伺うとともに、企画・実施に当たって関係者による委員会を設置して検討を進める。

2 調査事項

基本的に、障害者本人を対象とし、以下の内容を調査することとし、これらが職業生活を通じて（職業サイクルの各過程で）どのように推移していくのかを調査する。

- (1) 就職、職場内での異動・昇進、離職・退職、再就職、引退、福祉施設への入所等の雇用上の地位の変遷
- (2) 労働条件（賃金、労働時間、休日等）
- (3) 障害年金・所得の状況
- (4) 資格取得等のキャリア形成
- (5) 離職・退職の時期と理由、再就職の時期と方法
- (6) 引退の時期、引退後の生活等
- (7) 福祉施設、就労支援機関、就労支援者等とのかかわり

3 調査方法

- (1) 障害者に対する郵送調査を基本とする。
- (2) 調査対象者の選定については、障害者団体等に協力を依頼し、障害（視覚・聴覚・肢体不自由・内部の別

の身体障害、知的障害及び精神障害の 6 障害) 、年齢等を考慮しつつ、各障害について統計処理が可能な程度の数の障害者である労働者を選定することを基本とする。その対象者の年齢区分は以下のとおりとする。

前期調査 15 歳以上 39 歳以下 (昭和 43 年 4 月 2 日以降に生まれた方)

後期調査 40 歳以上概ね 55 歳まで (昭和 43 年 4 月 1 日以前に生まれた方)

(注) 年齢は平成 20 年 4 月 1 日時点のもの

また、調査対象者は、選定時点で、企業等で働いている方を対象として、福祉工場や作業所等の福祉的就労は含まないものとした。労働時間が週 20 時間以上 (精神障害については 15 時間以上) の方とした。自営業も含めている。

(3) 障害のある労働者の把握については、当事者団体等に対して、視覚、聴覚、肢体不自由、内部、知的障害または精神障害がある労働者の紹介を依頼し、障害者手帳を所持していない場合も対象とした。調査結果には手帳を所持していない場合も含め、長期継続調査を行い経年変化を調査していく。

(4) 本調査の方法は、同一の対象者を継続して調査し、実態や意識の変化を把握していくパネル調査であるため、調査対象者を特定して行う。このため、障害者職業総合センター (以下「総合センター」という)において、調査対象者の同意を得て氏名、住所等を把握して、同一人に対して調査票を送付し回答を得ていくものである。なお、この際、個人名は使用せず、各個人ごとに ID 番号を用いる。

また、長期に調査を行うことから調査対象者数の減少が懸念されるため、調査結果についての情報提供等調査対象者の協力が得られる関係の維持を図る。さらに、調査対象者の補充については、本調査が同一対象者の変化を把握していくものであるため、今後の調査の実施状況を踏まえて慎重に検討する。

4 実施期間

平成 19 年度から平成 21 年度まで (3 年計画) において、調査の基本設計及び第 1 回目の前期調査・後期調査を実施する (調査全体の計画としては、平成 19 年度から平成 35 年度までの 17 年間を予定する) (図 1-1)。

	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	…	平成 33年度	平成 34年度	平成 35年度
前期 調査	基本 設計	① 調査	➡	② 調査	➡	③ 調査	➡	…	➡	⑧ 調査	
後期 調査			① 調査	➡	② 調査	➡	③ 調査	…	⑦ 調査	➡	⑧ 調査

図1-1 調査実施計画

第3節 実施経過

1 研究委員会の設置

次により研究委員会を設置した。設置期間は平成20年1月から平成22年3月までである。事務局は総合センター社会的支援部門とした。

(1) 委員

委員の構成は、障害者の就業支援に係る学識経験者、当事者団体関係者、事業主団体関係者、行政関係者、地域障害者職業センター職員とし、委員は以下のとおりである（五十音順）。座長は委員の互選により菊池恵美子帝京平成大学教授が選任された。また、期間中交替があり、（ ）内に委員委嘱期間を記載している。

石塚 謙二	文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官
今田 幸子	独立行政法人労働政策研究・研修機構 特任研究員
岩屋 芳夫	横浜市視覚障害者福祉協会副会長[社会福祉法人日本盲人会連合 推薦]
大久保 常明	社会福祉法人全日本手をつなぐ育成会 常務理事
荻原 喜茂	NPO法人全国精神保健福祉会連合会 施策委員
金子 鮎子	NPO法人全国精神障害者就労支援事業所連合会
菊池 恵美子(座長)	首都大学東京健康福祉学部 教授（～平成21年3月） 帝京平成大学健康メソディカル学部作業療法学科 学科長、教授（平成21年4月～）
小森 雅一	厚生労働省社会・援護局障害福祉課 調査官（～平成20年6月）
嶋崎 尚子	早稲田大学文学学術院 教授
中橋 道紀	財団法人全日本ろうあ連盟 理事
野口 勝則	独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構 群馬障害者職業センター所長

畠山 千蔭 堀化学工業株式会社 監査役[社団法人日本経済団体連合会 推薦]（～平成20年6月）
東京経営者協会 障害者雇用アドバイザー

浜島 秀夫 厚生労働省職業安定局障害者雇用対策課 調査官（～平成20年6月）

前野 哲哉 厚生労働省社会・援護局障害福祉課 就労支援専門官（平成20年3月～）

森 祐司 社会福祉法人日本身体障害者団体連合会 常務理事

渡辺 久晃 厚生労働省職業安定局障害者雇用対策課 調査官（平成20年7月～）

(2) 検討事項

- イ 調査研究の企画及び調査基本方針の作成
- ロ 調査事項の検討
- ハ 調査実施方法の検討
- 二 調査結果の分析
- ホ 報告資料の作成
- ヘ その他調査研究の企画、実施に関すること

2 研究委員会の開催

研究委員会は下記のとおり開催して検討を行った。また、委員からは研究委員会開催時以外にも適時貴重なご意見、ご協力をいただいた。

(1) 第1回

- イ 開催日 平成20年1月28日
- ロ 検討事項
 - (イ) 研究委員会設置要綱(案)について
 - (ロ) 研究計画について
 - (ハ) 実施方法について
- (ニ) 調査事項について
- (ホ) その他

(2) 第2回

- イ 開催日 平成20年3月7日
- ロ 検討事項
 - (イ) 協力依頼要領、本人用リーフレットについて
 - (ロ) 対象者選定進捗状況について
 - (ハ) 調査票(素案)について
- (二) その他

(3) 第3回

- イ 開催日 平成20年5月14日
- ロ 検討事項

- (イ) 対象者選定進捗状況について
 - (ロ) 調査実施マニュアル(案)、調査協力同意書(案)について
 - (ハ) 調査票(案)について
- (二) その他
- (4) 第4回
- イ 開催日 平成21年3月17日
 - ロ 検討事項
 - (イ) 前期調査について（経過、結果集計、分析項目(案)）
 - (ロ) 後期調査について（スケジュール(案)、対象者確保状況、調査票）
 - (ハ) その他

- (5) 第5回
- イ 開催日 平成21年6月18日
 - ロ 検討事項
 - (イ) 前期調査結果報告書(案)について
 - (ロ) 後期調査について（調査対象者、調査票案）
 - (ハ) その他

- (6) 第6回
- イ 開催日 平成21年11月5日
 - ロ 検討事項
 - (イ) 前期調査結果報告書(案)について
 - (ロ) 後期調査結果について
 - (ハ) その他

- (7) 第7回
- イ 開催日 平成22年1月21日
 - ロ 検討事項
 - (イ) 後期調査結果報告書(案)について
 - (ロ) 複数回調査結果分析方法（素案）について
 - (ハ) その他

3 調査票検討会の開催

調査票を検討するため、研究委員会の委員である、パネル調査の専門家の今田幸子労働政策研究・研修機構特任研究員及び嶋崎尚子早稲田大学文学学術院教授と事務局において以下により検討会を行った。

(1) 第1回

イ 開催日 平成20年3月28日

ロ 検討事項

(イ) 前期調査の調査票の回答フローについて

(ロ) 前期調査の調査票の質問項目について

(ハ) 記入依頼（IDの設定）について

(2) 第2回

イ 開催日 平成20年4月10日

ロ 検討事項

(イ) 前期調査の調査票の8回分の質問項目及び回ごとに入れ替えていく項目について

(ロ) 前期調査の調査票の質問項目について

(3) 第3回

イ 開催日 平成21年4月23日

ロ 検討事項

(イ) 後期調査の調査票の8回分の質問項目及び回ごとに入れ替えていく項目について

(ロ) 後期調査の調査票の質問項目について

4 第1回後期調査の実施（詳細は第2章）

平成21年7月～8月

第2章

第1回後期調査の実施経過

第2章 第1回後期調査の実施経過

第1節 調査票の作成

調査票の作成に当たっての考え方、設問項目、趣旨は以下のとおりである。後期調査の調査票は資料6～10（P150～191）のとおりである。

1 考え方

（1）前期調査と同一の事項

本調査は調査対象を39歳以下と40歳以上に分けて把握することにより合わせて全職業生活の変化をみていくため、後期調査の調査項目は前期調査のそれと基本的に同一の調査事項とした。その内容は以下のとおりである。

- イ 調査票の全体構造としては、障害者の職業サイクルを把握するため、調査事項の大きな項目として、「調査対象者の基本的事項」、「仕事に関する事項」、「生活に関する事項」、「仕事や生活に対する意識に関する事項」とする。それぞれの大項目について下位項目を2のとおり構成し、設問を作成した。
- ロ 15年にわたり全体で8回の調査を行うが、1回目は、調査対象者の基本的な状況、現在の仕事に関する状況、調査開始時点までの学歴、初めての職業等のキャリア、家族・住まい等の生活を質問し、データの基礎部分を把握していくこととした。これにより、今後、継続して調査を行う対象者の調査時点までのキャリアの状況、調査時点における就業の状況を把握していくこととした。
- ハ 第2回目以降では基本的には1回目と同じ設問とし、仕事に関する事項の経年変化を捉えていく。前回調査時点以降のライフイベントと仕事に関する出来事についての設問を加える。また、回ごとに質問トピックを入れ替えて、生活、経済、健康といった関連領域のデータを取得していくこととした。
- 二 本調査はパネル調査であることから、継続して調査に協力が得られることがもっとも重要である。このため、回答に当たって、対象者が回答しやすいように、わかりやすい質問項目・回答選択肢の設定、読みやすく記入しやすい体裁とするとともに、回答する際に気付きがあり、また、暖かさを感じられるよう質問の仕方、選択肢について工夫した。

（2）後期調査の趣旨等から変更、追加を行った事項

- 職業生活後期調査の対象者は中高年層となるため、以下のとおり、回答の選択肢や設問を追加した。
- イ 選択肢の中に家族の構成員があるものについては「子ども」、「子どもの配偶者」、「孫」を追加した。
 - ロ 退職理由に「定年退職」、「定年後の再雇用期間満了」、「体力的にきつくなった」を追加した。
 - ハ 今後の仕事に対する考えについての設問を「会社で何歳まで働くか」、「いつまで仕事を続けたいか」等に修正した。

（3）前期調査の結果から修正を事項

前期調査の結果「障害の診断年齢」が「わからない」と回答した者が16.4%あり、特に知的障害、肢

体不自由が多かったため、障害者手帳については「交付年月」の回答欄を追加した。

2 設問の項目

(1) 設問と回答の流れ

最初に「基本的事項」（性別、生年月日、障害等）の設問とする。

次に、「仕事に関する事項」を設問とし、調査時点での仕事についている場合といない場合で枝分かれとする。

仕事についている場合は、「仕事の状況」（仕事内容、労働条件等）の設問に続き、仕事についていない場合は2年間の就業状況（就業の有無、離職理由、就職意思等）の設問とする。

次に合流して、仕事についている場合についていない場合も「生活に関する事項」（第1回目は経済生活）、続いて仕事や生活に関する意識の設問とする。

最後に全般に関する自由意見、回答に当たっての支援者の有無、回答年月日とする。

図示すると、以下のとおりとなる（図2-1）。

(注) 【】内は2回目以降設定

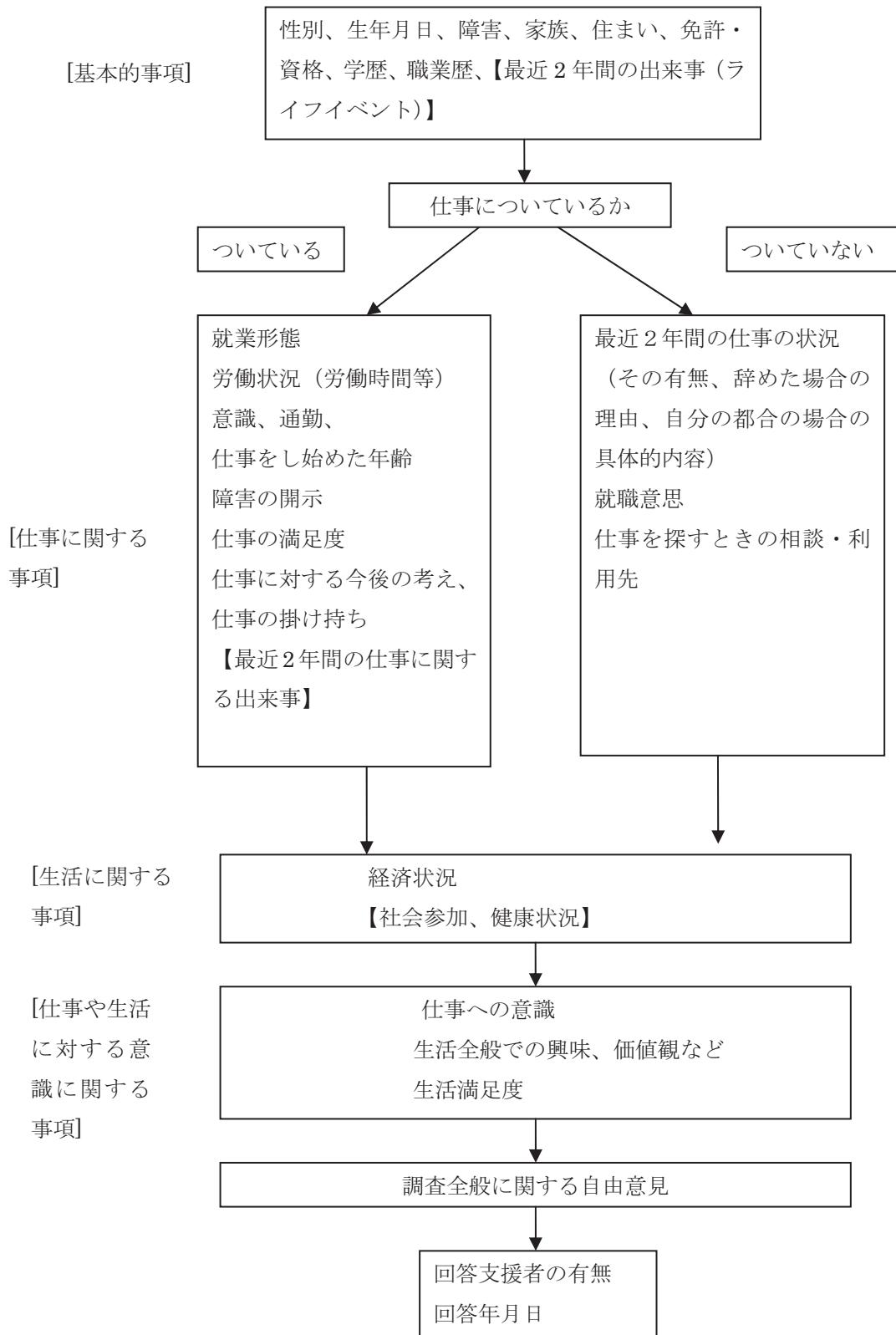


図2-1 設問と回答の流れ

(2) 設問項目とその趣旨

イ 「基本的事項」についての設問項目

- ・性別
- ・生年月日
- ・障害の種類、程度（診断年齢、障害種類、手帳の有無、障害程度、交付年月）
- ・家族構成
- ・住まい（現在の住まい、一人暮らし、同居家族）
- ・学歴（通学した学校、最終学校、現在の学校）
- ・資格・免許
- ・職業歴（初職年齢、初職以前のこと）

上記の設問項目は調査の対象となる障害者の基本的事項として把握するものである。（「性別」、「生年月日」は不变の事項であり、その他の項目も変化は少ないと考えられる。このため、2回目以降は前回の回答を表示し、変化のあった事項のみの回答を依頼することとしている。）

まず、本調査の対象者の特徴や属性はどのような状況か把握することが必要である。

次に、基本的事項の各項目と本調査での主な内容となる職業の状況との関連である。

「障害」は口「仕事に関する事項」、ハ「生活に関する事項」、二「仕事や生活に対する意識に関する事項」のすべての項目と関連付けて分析することができる。また、「手帳の有無」、「障害程度」は「仕事に関する事項」との関連付け、「障害の診断年齢」は就職前と就職後（中途障害かどうか）でどう異なるかを見る能够である。手帳の「交付年月」は手帳の交付時期が仕事に関する事項との関連が考えられることなどから設けたたるものである。

「家族構成」は長期にわたる年月の間に変化するものであり、仕事状況の変化との関連が考えられる。また、住まいについても家族との同居から独立し、また、結婚し新たな家族との同居が考えられ、仕事との関連はどうかみていくことができる。「家族構成」と「同居人」の設問では、回答の選択肢の家族の構成員については、後期調査において「子どもの配偶者」、「孫」を追加した。

「学歴」や「資格・免許」による「仕事に関する事項」に違いはみられるか。また、「資格・免許」は第1回目調査では自由記述とし、2回目以降に主なものを選択肢として設定する方法をとった。しかし、2回目以降の設問回答に当たっては、あまり選択肢が多くなると回答の負担が大きくなるので、選択肢の数を考慮し、「その他」欄を設けることとしている。

これらの基本的な状況とともに、これまでのキャリアを把握するために、職業歴つまり最終学歴の後に初めて就職した時点である「初職年齢」と、それ以前にしていたこと「初職以前のこと」を把握し、第1回目の後期調査のスタート時点までの状況の一部として捉えておくものである。

ロ 「仕事に関する事項」についての設問項目

- ・現在仕事についているか

調査対象者募集時点では仕事についている人を対象としているが、2回目以降は2年経過後の調査となり、この間に仕事を継続している場合と前回調査以降に離職している場合があり、その変化を把握していくものである。また、第1回目の調査では調査票配付時点で離職している場合があり

得る。

また、この設問では同時に雇用形態（正社員、パート・アルバイト・契約社員、派遣社員、自営等）をたずねている。

(イ) 「仕事についている」と回答した人への設問項目

- ・仕事内容
- ・労働状況（1週当たりの労働時間、1週当たりの休日、1カ月の給与）
- ・通勤（通勤手段、通勤時間）
- ・会社の従業員数（規模）
- ・現在の仕事を始めた年齢
- ・障害についての会社の人への説明
- ・仕事の満足度（仕事の内容、給料や待遇、職場の人間関係、職場の環境（施設設備等））
- ・仕事に対する今後の考え方（会社で働く年齢、仕事を続けたい年齢、現在の仕事の継続希望）
- ・仕事の掛け持ち

調査時点現在での「ついている仕事」の状況について把握するものである。

上記事項のほとんどのものは障害種類と関連させて違いを分析することが可能と考えられるとともに、年月の推移、仕事の継続、離転職等によって経年変化をみていくことができる。

「仕事の内容」は選択肢としているが、職業分類による職業名は用いず、多くの障害者が従事していると考えられる「ものを作る仕事」、「ものを売る仕事」等わかりやすく、簡単な表現のもので6種の選択肢とした。それ以外は「その他（ ）」とし、記述されたものを分類集計することとした。

「労働時間」、「給与」、「休日」の労働状況、「通勤」等は労働条件を細かくきくということではなく、どのように働いているかを把握していくという趣旨である。また、労働状況は回答しやすいように特定の月についての設問とした。「給与」については、最低賃金等を考慮して選択肢の階級幅を設定した。

「現在の仕事を始めた年齢」は、勤続年数によって他の事項と関連付けることが可能であるとともに、第1回目調査としてこれまでのキャリアの状況を把握することができる。

「障害についての会社の人への説明」は就業状況の変化等の項目と関連付けて分析することが可能である。

「仕事の満足度（仕事の内容、給料や待遇、職場の人間関係、職場の環境（施設設備等））」は「満足」～「不満足」の5段階尺度による回答となっており、数値による重みをつけて満足意識について「仕事の内容」や「労働状況」等他の項目と関連付けて分析することが可能である。

「仕事に対する今後の考え方」は、前期調査では「仕事を続けたい年齢」及び「現在の仕事の継続希望」としているが、後期調査では「会社で働く年齢」、「その年齢より前、その年齢まで、それ以降も」働きたいか」等の設問を設け、職業生活からの引退についての意識を把握することとした。

なお、上記の仕事についての質問は複数の仕事をしている場合には主な仕事一つについて回答を依頼しているが、複数の仕事をしている場合を考えられるので「仕事の掛け持ち」についての問を設けた。

(ロ) 「仕事に就いていない」と回答した人への設問項目

- ・過去2年間の仕事経験（その有無、辞めた理由、自分の都合の具体的な内容）
- ・就職活動（就業希望、仕事を探すときの相談・利用先）

長期にわたる職業生活の際に、景気の動向、企業活動の動向、働く人のキャリアアップ、生活の変化等多くの事情から離職する場合は少なくない。このため、離職の状況について上記設問とした。

「辞めた理由」の選択肢については、後期調査においては「定年退職（年齢歳）」及び「定年後の再雇用期間満了」を追加した。また、「自分の都合」を選択した場合、さらにその具体的な内容をきくこととした。次に「就職活動」について「仕事を探すときの相談・利用先」の設問とし、その選択肢には「父親」、「母親」等の肉親家族、「会社の上司や同僚」、「知り合い・友人」などの個人、「ハローワーク」、「地域障害者職業センター」等の機関を設けた。これらは、困ったときに頼れる相談・利用機関を選択肢として設けるとともに、次のハの設問において経済面で困ったとき、2回目の地域生活で困ったとき、健康面で困ったときの回答選択肢と同じ内容として、問題の分野によって相談先のその違いを分析検討していくこととしている。経年に伴う相談・利用先の変化をみていくことも可能である。これらの設問の選択肢については、後期調査においては「子ども」追加した。

ハ 「生活に関する事項」についての設問項目

- ・仕事に関して困ったときの相談・利用先
- ・年金受給状況
- ・生活するための収入源
- ・経済的に困ったときの相談・利用先

この事項は、関連事項として、社会リハ及び医療リハサービスの設問と入れかえて1回ごとに、つまり4年ごとに聞く設問である。

第1回目の調査は「仕事に関して困ったときの相談・利用先」、「経済面で困ったときの相談・利用先」と経済面である。経済面では、「障害に関する年金の受給状況」である。障害基礎年金、障害厚生年金等があるがいずれも含まれるよう「障害に関する年金」とした。また、「生活するための収入源」は「年金」、「家族などの支援」、「働いて得る収入」の組み合わせを選択肢とした。

経年による職業の変化、キャリアの形成等によってどう変化していくか、経済的に自立していくか等を検討できる。

二 「仕事や生活に対する意識に関する事項」についての設問項目

- ・仕事をするまでの重要度（賃金や給料、自分の能力・経験、仕事の内容、職場の環境整備、勤務時間や休日、仕事仲間との人間関係）
- ・会社や会社の人への配慮希望（仕事をする上でのこと、お願いしたいこと）
- ・普段の生活で一番楽しみにしていること

- ・近い将来（5年くらい後まで）に実現したいこと
- ・生活の満足度（家族との人間関係、友人・知人との人間関係、自分の体力や健康、収入や経済生活）

上記の設問項目は意識や考え方について把握するものである。

現調査時点での状況と経年とともにどのように変化していくか把握していくこととしている。

また、「仕事をする上で重要な重要度」については「賃金や給料」、「自分の能力・経験」等の項目について、「重要」～「重要でない」の5段階尺度による回答としており、数値による重みをつけて「仕事の内容」や「労働状況」等他の項目と関連付けて分析することが可能である。また、「生活の満足度」については「家族」、「友人・知人」との関係、「自分の体力や健康」等の項目について、「満足」～「不満」の5段階尺度による回答にし、仕事の状況との関連等の分析が可能である。

「会社や会社の人への配慮希望」は、仕事をする上で必要なこと（職務そのものを行うにあたっての配慮事項）と職場での希望についての設問としている。

「普段の生活での楽しみにしていること」と「近い将来（5年くらい後まで）に実現したいこと」は個人が自由に考えることであるので選択肢を用意するのではなく、回答しやすいよう自由記述とした。両設問とも仕事との関係を分析するほか、後者の設問については、仕事の継続や変化によって実現できていくか、変化していくのか分析検討していくことも可能である。

3 2回目以降の設問項目の検討

(1) 第2回目のみの設問項目

- ・結婚年齢
- ・配偶者との離死別の有無
- ・子供の人数と年齢

上記項目は調査対象者の基本的状況として第1回目の調査時点で把握しておくべき事項であるが、回答の負担が大きくなるため2回目としたものである。

なお、1回目は家族構成についての簡単な設問としている。

(2) 第2回目以降毎回の設問項目

イ 最近2年間（前回調査後の期間）に起きた出来事（ライフイベント）

- ・結婚した
- ・離婚した
- ・自分の親が離婚した
- ・子どもを生んだ（子どもが生まれた）
- ・家族（父親、母親、兄弟姉妹、子ども、配偶者）が、病気や事故で長期の入院をした
- ・自分が、病気や事故で長期の入院をした
- ・家族（父親、母親、兄弟姉妹、子ども、配偶者）が亡くなった
- ・学校に通った（学校の種別）

- ・引越しをした
- ・該当する項目なし

この設問項目はライフイベントについてのものであり、該当する上記の項目をすべて選んでもらう複数回答の設問である。前回の調査時点から今回の調査までの間に起きた生活上の出来事を把握し、仕事の状況等と関連付けて分析検討するものである。

長期継続するパネル調査としては最も重要な要素となる。

□ 最近 2 年間（前回調査後の期間）に仕事に関係して起きた出来事（仕事上のイベント）

- ・配置転換（部署の異動）があった
- ・昇進した
- ・給料が上がった
- ・給料が下がった
- ・休職をした
- ・転職をした
- ・勤めていた会社が倒産した
- ・該当する項目なし

この設問は該当する上記の項目をすべて選んでもらう複数回答の設問である。前回の調査時点から今回の調査までの間に起きた仕事上の出来事を把握し、経年等に伴う変化等と分析検討するものである。

イのライフイベントと同様、長期継続するパネル調査としては最も重要な要素となる。

（3）回ごとに入れ替えていく項目（2 の（2）のハの生活に関する事項）

- ・奇数回に設定する設問項目
 - ・仕事に関して困ったときの相談・利用先
 - ・年金受給状況
 - ・生活するための収入源
 - ・経済的に困ったときの相談・利用先
- ・偶数回に設定する設問項目
 - ・参加している地域の行事や集まり
 - ・地域生活に関して困ったときの相談・利用先
 - ・医療機関への通院状況
 - ・健康に関して困ったときの相談・利用先
 - ・健康面で不安に思っていること、困っていること

奇数回に設定する設問項目の趣旨等は2 の（2）のハのとおりである。

偶数回に設定する設問項目は、社会的リハビリテーションサービス利用状況（社会参加の状況）と医療的リハビリテーションサービス利用状況についてである。

「地域生活に関して困ったときの相談・利用先」と「健康に関して困ったときの相談・利用先」の選択肢の趣旨は2の（2）の□の□に記載したとおりである。

「参加している地域の行事や集まり」と「健康面で不安に思っていること、困っていること」は自由記述とした。

4 調査全体の計画

後期調査の第1回から第8回の設問項目を整理すると以下のとおりとなる（表2-1）。

表2-1 後期調査の第1回～第8回の質問項目一覧

(●→実施 ▲→前回回答を表示し変更があった場合に回答)

大項目	中項目	設問項目	問	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回
基本的事項	障害	性別	1	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		生年月日	2	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		障害の診断時期	3a	●							
	家族	障害種類	b	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		手帳の有無、障害程度、交付年月	c	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		家族構成	4	●	●	●	●	●	●	●	●
	住まい	結婚・離婚歴	—		●						
		子ども(人数・年齢)	—		●						
		住居形態	5a	●	●	●	●	●	●	●	●
	学歴・資格	一人暮らし	b	●	●	●	●	●	●	●	●
		同居者	c	●	●	●	●	●	●	●	●
		資格・免許	6	●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲
		学歴	7a	●							
		最終学歴	b	●							
		現在通っている学校	c	●	●	●	●	●	●	●	●
	ライフイベント	初職就職年齢	8a	●							
		初職以前していたこと	b	●							
仕事に関する事項	就業の形態 (働き方)	結婚・離婚、出産、病気・事故、死別等	—		●	●	●	●	●	●	●
		収入のある仕事についているか	9	●	●	●	●	●	●	●	●
		ついていると回答した場合									
		仕事の内容	10	●	●	●	●	●	●	●	●
		労働時間	11a	●	●	●	●	●	●	●	●
		休日	b	●	●	●	●	●	●	●	●
		給与	c	●	●	●	●	●	●	●	●
		通勤方法・時間	12	●	●	●	●	●	●	●	●
		勤務している会社の規模	13	●	●	●	●	●	●	●	●
		現在の会社への入職年齢	14	●	●	●	●	●	●	●	●
	仕事に対する意識	障害についての会社への説明	15	●	●	●	●	●	●	●	●
		仕事の満足度(仕事内容等4項目)	16	●	●	●	●	●	●	●	●
		会社で働く年齢が決まっているか	17a	●	●	●	●	●	●	●	●
		会社で働く年齢	b	●	●	●	●	●	●	●	●
		いつまで仕事を続けたいか	c	●	●	●	●	●	●	●	●
		仕事を続けたい年齢	d	●	●	●	●	●	●	●	●
生活に関する事項	最近2年間の就業状況	現在の仕事の継続希望	e	●	●	●	●	●	●	●	●
		仕事の掛け持ち	18	●							
		就業に関連した出来事	—		●	●	●	●	●	●	●
		ついていないと回答した場合									
		最近2年間に仕事についていたか	19a	●	●	●	●	●	●	●	●
	就職活動	辞めた理由	b	●	●	●	●	●	●	●	●
		自分の都合の場合の具体的な内容	c	●	●	●	●	●	●	●	●
		就業希望	20a	●	●	●	●	●	●	●	●
		仕事を探すときの相談・利用先	b	●	●	●	●	●	●	●	●
		仕事関連	21	●		●		●		●	
仕事や生活に対する意識に関する事項	経済状況	年金受給状況	22	●		●		●		●	
		生活するための収入源	23	●		●		●		●	
		経済的に困ったときの相談・利用先	24	●		●		●		●	
		地域行事への参加の有無	—		●		●		●		●
	社会リハビリテーション利用 (社会参加)	地域の生活で困ったときの相談・利用先	—		●		●		●		●
		医療施設への通院状況	—		●		●		●		●
		健康に関して困ったとき相談・利用先	—		●		●		●		●
		体調や健康面での不安や困っていること	—		●		●		●		●
仕事や生活に対する意識に関する事項	仕事への意識	仕事をする上での重要度(賃金給与等6項目)	25	●	●	●	●	●	●	●	●
		職務遂行上の配慮	26a	●	●	●	●	●	●	●	●
		職場での希望	b	●	●	●	●	●	●	●	●
	生活全般での興味、価値観等	普段の生活での一番の楽しみ	27	●	●	●	●	●	●	●	●
		近い将来(5年くらい後)に実現したいこと	28	●	●	●	●	●	●	●	●
		生活の満足度(家族等4項目)	29	●	●	●	●	●	●	●	●
調査全般について自由記述			30	●	●	●	●	●	●	●	●

(注)「問」欄の数字は第1回後期調査の調査票の問番号

第2節 調査の実施

1 調査対象

当事者団体等に協力を依頼し調査協力が得られた対象者の数は531人であった。障害別の内訳は視覚障害70人(13.2%)、聴覚障害105人(19.8%)、肢体不自由161人(30.3%)、内部障害50人(9.4%)、知的障害100人(18.8%)、精神障害45人(8.5%)となっている。

これらの調査対象者に調査票を郵送し回答があった場合には、調査と調査の間に年3回程度、ニュースレター(各種情報提供と住所等の変更の連絡依頼など)を送付するなど、調査対象者からの協力が得られるよう努め、今後も同一の対象者に対し継続して調査を実施することとしている。

2 調査の時期

調査回答時点	平成21年7月1日
調査票郵送	平成21年7月初旬～中旬
調査票回収期限	平成21年8月25日(9月29日までに返送のあった回答も集計に含めている)

3 調査の方法

- (1) 当事者団体等より紹介があった調査対象候補者に対し、障害者職業総合センターから資料3【対象者周知文書】(P147～148)により協力を依頼し、資料4【調査協力同意書】(P149)の提出により同意を得た。
- (2) 同意者に対し、資料5【アンケート調査ID番号通知書】(P149)によりID番号を各対象者個人に設定し、アンケート調査票を郵送した。記入の要領は、資料11【アンケート調査票記入の手引き】(P191～193)によるものとした。
- (3) 調査票及び付随する各種資料については紙に印刷したものとし、障害に対応した配慮として、視覚障害に対する対応として点字によるもの、電子ファイルによるもの、知的障害に対する対応として簡易表現とふりがなを付したもの、上肢障害等により調査票を文字で回答することが困難な場合などのために、電子ファイルによるものを作成した。
- (4) セキュリティについては、個々の調査データは、独立した専用パソコンにより本調査の担当者のみが使用するとともに、専用パソコンは使用時以外は専用ロッカーに施錠し保管すること等により厳重に管理している。また、回答が記入された調査票、その他調査実施に当たって得られた個人情報の記載された書類についても、専用ロッカーに施錠し保管している。

4 調査票の回収結果

障害別の回答者数及び回収率は以下のとおりである（表 2-2）。

表 2-2 障害別の回答者数及び回収率

	回答数（人）	未回答（人）	辞退、不明（人）	発送数（人）	回収率（%）
視覚障害	56	14		70	80.0
聴覚障害	82	23		105	78.1
肢体不自由	123	34	4	161	78.3
内部障害	42	8		50	84.0
知的障害	76	19	5	100	80.0
精神障害	37	8		45	82.2
計	416	106	9	531	79.7

注1) 「辞退、不明」とは調査票発送後、調査協力について辞退の連絡があったものまたは調査票が宛先不明により返送されてきたものであり、未回答に含めていない。

2) 回収率は発送数に対する回答数の比率である。

第3章

第1回後期調査の実施結果

第3章 第1回後期調査の実施結果

基本的に、障害別に調査票の選択肢の項目によって集計を行った。

集計に用いる各調査対象者の障害は、調査票の障害についての質問（問3b）に対する回答により分類を行った。ただし、回答がない場合、複数の回答（重複障害）がある場合、回答が調査前に把握していた障害と異なる場合については、調査票の障害者手帳の取得状況についての質問（問3c）に対する回答及び対象者の紹介を依頼した当事者団体等から判断し、各対象者の障害を特定した。

これらにより調査の回答者の障害を分類して障害別に集計を行い、第3章以降の章においては調査結果について障害別に述べる場合には、単に「○○%」障害△△人と記載している。これらは、「○○%」障害のある労働者が△△人という意味で用いているものである。

なお、第1章第2節の3の調査方法に記載したとおり、調査対象者には障害者手帳を所持していない者も含まれていること、手帳の有無は障害によって障害の判断や施策対象になるか否かなど扱いが異なることから、本報告書において調査結果について記述する場合は「障害者」という表現は用いていない。

おって、他の調査を引用する際に当該調査が「○○%」障害者の表現を用いている場合には当該表現を用いている。

以下、調査票の項目に沿って集計結果と集計表を記載する。

第1節 基本的事項

1 調査対象者の障害別・性別

調査対象者の障害は表3-1に示す6障害となっており、各障害の全体に占める割合は、視覚障害13.5%、聴覚障害19.7%、肢体不自由29.6%、内部障害10.1%、知的障害18.3%、精神障害8.9%となっている。性別の構成比は、全体（障害計（以下同じ））では男性69.7%、女性30.3%と男性が多く、障害別にみると、肢体不自由及び聴覚障害において特に男性がそれぞれ78.0%、76.2%が多い。

表3-1 障害別・男女別の状況

	男性	女性	計	(人(%))	障害別比率(%)
視覚障害	36 (64.3)	20 (35.7)	56 (100.0)		13.5
聴覚障害	51 (62.2)	31 (37.8)	82 (100.0)		19.7
肢体不自由	96 (78.0)	27 (22.0)	123 (100.0)		29.6
内部障害	32 (76.2)	10 (23.8)	42 (100.0)		10.1
知的障害	47 (61.8)	29 (38.2)	76 (100.0)		18.3
精神障害	28 (75.7)	9 (24.3)	37 (100.0)		8.9
計	290 (69.7)	126 (30.3)	416 (100.0)		100.0

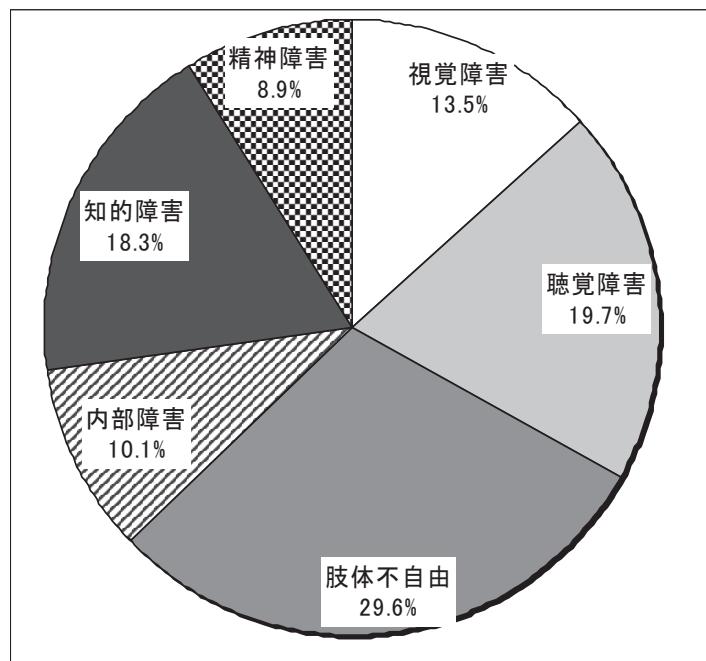


図3-1 調査対象者の障害別比率

【参考1】 男女別障害別常用雇用障害者雇用状況（事業所規模5人以上）
(千人(%))

	男性	女性	不明 無回答	不明、無回答 を除く計
常用雇用 身体障害者	276 (75.2)	91 (24.8)	2	367 (100.0)
常用雇用 知的障害者	76 (67.3)	37 (32.7)	1	113 (100.0)
常用雇用 精神障害者	9 (69.2)	4 (30.8)	0	13 (100.0)
計	361 (73.2)	132 (26.8)	3	493 (100.0)

(資料出所)厚生労働省「平成15年度障害者雇用実態調査」

【参考2】 年齢別障害別常用雇用障害者雇用状況(事業所規模5人以上)

(千人(%))

	総数	19歳 以下	20～ 24歳	25～ 29歳	30～ 34歳	35～ 39歳	39歳以下 合計	40～ 44歳	45～ 49歳	50～ 54歳	55～ 59歳	60～ 64歳	65歳 以上	40歳以上 合計	不明 無回答
常用雇用 身体障害者	369 (74.4)	1 (7.4)	12 (33.3)	21 (57.8)	27 (75.0)	32 (85.7)	93 (54.4)	62 (42.1)	36 (24.4)	62 (42.1)	60 (40.0)	38 (25.7)	14 (9.6)	272 (75.0)	4 (11.1)
常用雇用 知的障害者	114 (23.0)	3 (2.6)	15 (13.2)	27 (23.7)	16 (14.0)	11 (9.6)	72 (42.1)	27 (15.6)	6 (3.5)	5 (2.9)	2 (1.1)	0 (0.0)	— (0.0)	40 (35.1)	0 (0.0)
常用雇用 精神障害者	13 (2.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (3.5)	1 (0.9)	1 (0.9)	6 (3.5)	3 (1.7)	2 (1.1)	2 (1.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	7 (6.1)	0 (0.0)
合計	496 (100.0)						171 (100.0)							319 (100.0)	

(資料出所)参考1と同じ

2 年齢

全体では、対象者の平均年齢は 47.1 歳であり、「40~44 歳」 33.2%、「45~49 歳」 35.8%、「50~54 歳」 25.0% と 5 歳幅で区分した時の年齢範囲の割合に著しい差がみられないことから、調査対象者の年齢分布に著しい偏りがなく、後期調査の対象年齢層にはほぼ当てはまっている。ただし、障害別にみた場合、内部障害では「50~54 歳」の割合が 50.0% と高く、知的障害及び精神障害では「50~54 歳」の割合がそれぞれ 19.7%、8.1% と低く、年齢分布に若干の偏りがみられる。

表 3-2 対象者の平均年齢及び年代分布

(人(%))

	平均年齢 (標準偏差)	40~44歳	45~49歳	50~54歳	55~59歳	60~65歳	計
視覚障害	47.0 (4.1)	16 (28.6)	25 (44.6)	10 (17.9)	5 (8.9)	0 (0.0)	56 (100.0)
聴覚障害	47.4 (4.2)	23 (28.0)	31 (37.8)	25 (30.5)	3 (3.7)	0 (0.0)	82 (100.0)
肢体不自由	47.6 (4.7)	39 (31.7)	42 (34.1)	30 (24.4)	11 (8.9)	1 (0.8)	123 (100.0)
内部障害	49.2 (4.4)	8 (19.0)	9 (21.4)	21 (50.0)	4 (9.5)	0 (0.0)	42 (100.0)
知的障害	45.6 (3.6)	36 (47.4)	25 (32.9)	15 (19.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	76 (100.0)
精神障害	45.5 (3.8)	16 (43.2)	17 (45.9)	3 (8.1)	1 (2.7)	0 (0.0)	37 (100.0)
計	47.1 (4.3)	138 (33.2)	149 (35.8)	104 (25.0)	24 (5.8)	1 (0.2)	416 (100.0)

(注)生年月日の回答より調査時年齢を算出し、集計を行った。

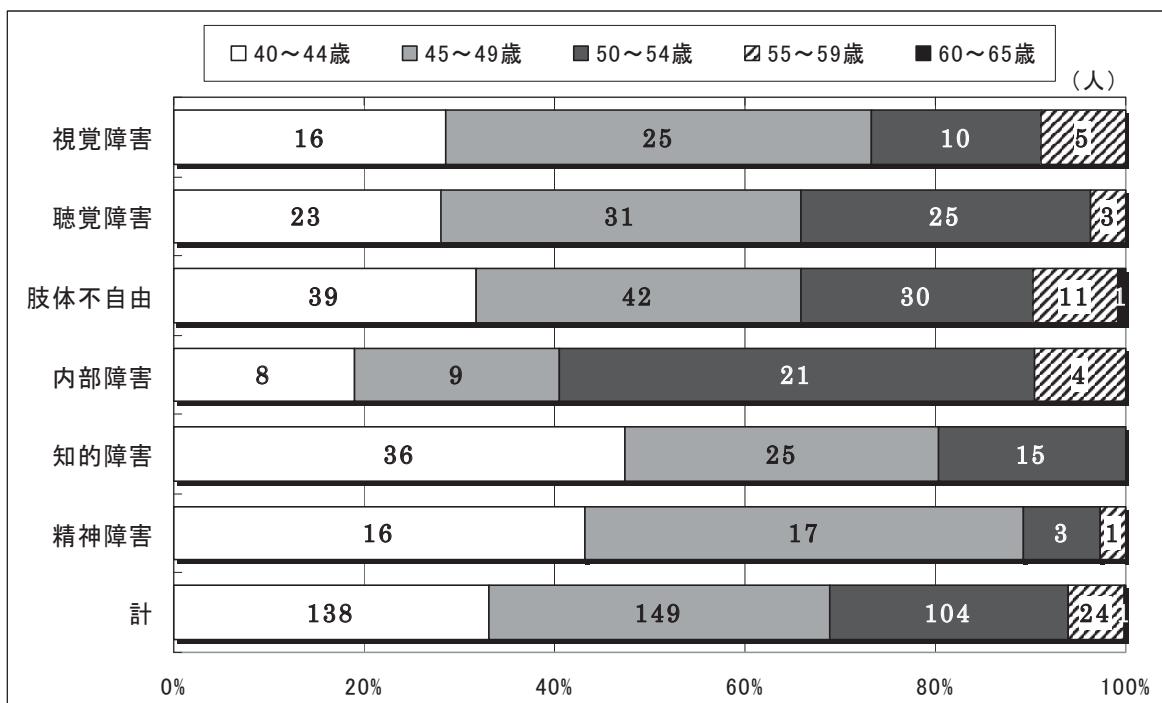


図 3-2 対象者の年代分布

3 障害

(1) 障害の診断年齢

全体では、幼少期（10 歳以下）に障害の診断を受けた者が 40.1% と最も多く、また、障害の診断を受けた時期が、職業生活前期（21~40 歳）であった者は 27.2%、職業生活後期（41 歳～）であった者は 7.0%

となっている。障害別にみると、視覚障害及び聴覚障害は幼少期（10歳以下）に障害の診断を受けた者がそれぞれ60.7%、78.0%と特に多く、肢体不自由、内部障害及び精神障害は職業生活前期（21～40歳）に障害の診断を受けた者がそれぞれ39.0%、57.1%、67.6%と多い。

表3-3 障害の診断年齢の状況

(人(%))

	0～2歳	3～10歳	11～15歳	16～20歳	21～25歳	26～30歳	31～35歳
視覚障害	15 (26.8)	19 (33.9)	1 (1.8)	3 (5.4)	3 (5.4)	1 (1.8)	3 (5.4)
聴覚障害	36 (43.9)	28 (34.1)	1 (1.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.4)
肢体不自由	17 (13.8)	15 (12.2)	6 (4.9)	11 (8.9)	21 (17.1)	12 (9.8)	5 (4.1)
内部障害	0 (0.0)	1 (2.4)	2 (4.8)	7 (16.7)	7 (16.7)	6 (14.3)	7 (16.7)
知的障害	8 (10.5)	28 (36.8)	7 (9.2)	2 (2.6)	0 (0.0)	2 (2.6)	1 (1.3)
精神障害	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (5.4)	4 (10.8)	9 (24.3)	5 (13.5)
計	76 (18.3)	91 (21.9)	17 (4.1)	25 (6.0)	35 (8.4)	30 (7.2)	23 (5.5)

	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	わからない	不明	計
視覚障害	4 (7.1)	2 (3.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (8.9)	0 (0.0)	56 (100.0)
聴覚障害	0 (0.0)	1 (1.2)	1 (1.2)	0 (0.0)	12 (14.6)	1 (1.2)	82 (100.0)
肢体不自由	10 (8.1)	6 (4.9)	5 (4.1)	1 (0.8)	14 (11.4)	0 (0.0)	123 (100.0)
内部障害	4 (9.5)	4 (9.5)	2 (4.8)	0 (0.0)	1 (2.4)	1 (2.4)	42 (100.0)
知的障害	0 (0.0)	2 (2.6)	0 (0.0)	1 (1.3)	21 (27.6)	4 (5.3)	76 (100.0)
精神障害	7 (18.9)	3 (8.1)	1 (2.7)	0 (0.0)	5 (13.5)	1 (2.7)	37 (100.0)
計	25 (6.0)	18 (4.3)	9 (2.2)	2 (0.5)	58 (13.9)	7 (1.7)	416 (100.0)

(2) 障害

全体では、単一障害は91.3%、重複障害は4.8%である。障害別にみると、知的障害及び精神障害において重複障害の割合がそれぞれ11.8%、10.8%と多い。

表3-4 障害の重複の状況

(人(%))

	単一障害	重複障害		計
		該当数(%)	重複障害内容(人数の記載のない場合は該当数1人)	
視覚障害	55 (98.2)	1 (1.8)	内部障害	56 (100.0)
聴覚障害	80 (97.6)	2 (2.4)	肢体不自由2人	82 (100.0)
肢体不自由	120 (97.6)	3 (2.4)	聴覚障害、内部障害、精神障害	123 (100.0)
内部障害	41 (97.6)	1 (2.4)	肢体不自由	42 (100.0)
知的障害	67 (88.2)	9 (11.8)	視覚障害、聴覚障害、内部障害、精神障害5人、身体障害(詳細不明)	76 (100.0)
精神障害	33 (89.2)	4 (10.8)	肢体不自由、身体障害(詳細不明)3人	37 (100.0)
計	396 (95.2)	20 (4.8)		416 (100.0)

(注) 知的障害には自閉症等の発達障害を含む。

精神障害には高次脳機能障害を含む。

重複障害の対象については、当事者団体等からの紹介を受けた時点で把握した障害を主障害とした。

(3) 障害者手帳（身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳）

全体では、手帳なし及び不明の者は計 3.4%であり、96.6%の者が何らかの手帳を所持している。障害別にみると、身体障害として区分される視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害では身体障害者手帳の所持率が 100%、知的障害では療育手帳の所持率が 96.1%と高いのに対し、精神障害では精神障害者保健福祉手帳の所持率が 70.3%と他障害に比べて低い。

表 3-5 障害者手帳の所持の状況

(人(%))

	身体障害者手帳	療育手帳	精神障害者保健福祉手帳	手帳なし	不明	重複所持を除いた計
視覚障害	56 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	56 (100.0)
聴覚障害	82 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	82 (100.0)
肢体不自由	123 (100.0)	0 (0.0)	1 (0.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	123 (100.0)
内部障害	42 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	42 (100.0)
知的障害	2 (2.6)	73 (96.1)	2 (2.6)	1 (1.3)	2 (2.6)	76 (100.0)
精神障害	4 (10.8)	0 (0.0)	26 (70.3)	8 (21.6)	3 (8.1)	37 (100.0)
計	309 (74.3)	73 (17.5)	29 (7.0)	9 (2.2)	5 (1.2)	416 (100.0)

(注) 手帳所持状況は、異なる手帳を重複所持している場合もある

障害者手帳所持の重複状況は、身体障害者手帳と療育手帳を所持している者が 2 人、身体障害者手帳と精神障害者保健福祉手帳を所持している者が 5 人、療育手帳と精神障害者保健福祉手帳を所持している者が 2 人である。

表 3-6 障害者手帳所持の重複状況

(人(%))

	身体障害者手帳と療育手帳	身体障害者手帳と精神障害者保健福祉手帳	療育手帳と精神障害者保健福祉手帳
視覚障害	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
聴覚障害	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
肢体不自由	0 (0.0)	1 (0.8)	0 (0.0)
内部障害	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
知的障害	2 (2.6)	0 (0.0)	2 (2.6)
精神障害	0 (0.0)	4 (10.8)	0 (0.0)
計	2 (0.5)	5 (1.2)	2 (0.5)

手帳種別に障害程度の内訳をみていくと、身体障害者手帳所持者は重度が 75.1%と多いが、療育手帳所持者及び精神障害者保健福祉手帳所持者では中軽度が順に 89.0%、93.1%と多い。

表 3-7 身体障害者手帳所持者の障害程度の内訳

(人(%))

	重度 (1、2級)	中軽度 (3~6級)	無回答	計
視覚障害	41 (73.2)	10 (17.9)	5 (8.9)	56 (100.0)
聴覚障害	68 (82.9)	10 (12.2)	4 (4.9)	82 (100.0)
肢体不自由	84 (68.3)	38 (30.9)	1 (0.8)	123 (100.0)
内部障害	37 (88.1)	4 (9.5)	1 (2.4)	42 (100.0)
知的障害	1 (50.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	2 (100.0)
精神障害	1 (25.0)	3 (75.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
計	232 (75.1)	66 (21.4)	11 (3.6)	309 (100.0)

表 3-8 療育手帳所持者の障害程度の内訳

(人(%))

	重度 (A度、1・2度等)	中軽度 (B度、3度等)	無回答	計
視覚障害	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
聴覚障害	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
肢体不自由	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
内部障害	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
知的障害	2 (2.7)	65 (89.0)	6 (8.2)	73 (100.0)
精神障害	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
計	2 (2.7)	65 (89.0)	6 (8.2)	73 (100.0)

表 3-9 精神障害者保健福祉手帳所持者の障害程度の内訳

(人(%))

	重度 (1級)	中軽度 (2・3級)	無回答	計
視覚障害	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
聴覚障害	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
肢体不自由	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
内部障害	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
知的障害	0 (0.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	2 (100.0)
精神障害	1 (3.8)	25 (96.2)	0 (0.0)	26 (100.0)
計	1 (3.4)	27 (93.1)	1 (3.4)	29 (100.0)

(4) 障害診断時期と学歴（就業に至るまでの経歴）

パネル調査の性質上、調査対象者の基本的な属性の把握の一環として、就業に至るまでの生活歴を把握することは必要不可欠であり、今後の継続調査により明らかとされる「職業サイクル」に対し、調査対象者の生活歴はその説明変数の1つとして用いられることが予測されるため、「障害診断時期（問3a）」、「学歴（問7）」、「初職就職年齢（問8a）」の回答結果を用いて、障害別に障害診断時期と学歴から対象者を分類した。各分類表は障害診断時期を「0～2歳」、「3～15歳」、「16歳～」の3群に分類し、さらに「0～2歳」と「3～15歳」においては、中学、高校のいずれか、もしくは両方で特別支援学校に在学経験があるか否かで2群に分類し、「16歳～」においては、障害診断時期が最初の就職をした時よりも前か後かで2群に分類した。また、表の右側の「特別支援学校専攻科」、「専門学校」、「短大・大学」、「大学院」、「職業能力開発校」の欄の数値は、各対象者の学歴についての回答（複数回答）を集計し該当数を掲載した。

イ 視覚障害

障害診断時期不明5人を除く51人について分類した。特徴的な傾向としては、障害診断時期「0～2歳」及び「3～15歳」において、「中学、高校のいずれか、もしくは両方で特別支援学校に在学あり」の割合が高く、同時に特別支援学校専攻科に在学経験のある者が多い。障害診断時期「16歳～」においては、障害診断時期が「就職前」と「就職後」である者の比率は2人：14人となっており、障害診断時期が就職後である者が多い。また、全体として短大・大学在学経験のある者も27人と多い。

表3-10 障害診断時期別にみた学歴の内容(視覚障害)(複数回答)

障害診断時期		データ数	特別支援学校専攻科	専門学校	短大・大学	大学院	職業能力開発校	(人)
0～2歳	中学、高校のいずれか、もしくは両方で特別支援学校に在学あり	12	4	3	6			
	中学、高校で特別支援学校に在学なし	3	2		1			
3～15歳	中学、高校のいずれか、もしくは両方で特別支援学校に在学あり	12	11	2	4	1		
	中学、高校で特別支援学校に在学なし	8	5	1	4			
16歳～	障害診断時期 就職前： 特別支援学校高等部に在学あり1名含む	2	2	1				
	障害診断時期 就職後：	14	10	3	12		2	

ロ 聴覚障害

障害診断時期不明13人を除く69人について分類した。特徴的な傾向としては、障害診断時期「0～2歳」及び「3～15歳」において、「中学、高校のいずれか、もしくは両方で特別支援学校に在学あり」の者が順に55.5%（36人中20人）、41.4%（29人中12人）と多い。障害診断時期「16歳～」では、該当する対象者が4人と少なく、その全ての障害診断時期が「就職後」である。

表 3-11 障害診断時期別にみた学歴の内容(聴覚障害)(複数回答)

障害診断 時期		データ数	特別支援学校 専攻科	専門学校	短大・大学	大学院	職業能力 開発校	(人)
0～2歳	中学、高校のいずれか、もしくは両方で特別支援学校に在学あり	20	2	1	2			3
	中学、高校で特別支援学校に在学なし	16	4	3	5			2
3～15歳	中学、高校のいずれか、もしくは両方で特別支援学校に在学あり	12	4	1	2			2
	中学、高校で特別支援学校に在学なし	17	4	4	7	1		2
16歳～	障害診断時期 就職前：	0						
	障害診断時期 就職後： 特別支援学校高等部に在学あり1名含む	4			2			1

ハ 肢体不自由

障害診断時期不明 14 人を除く 108 人について分類した。特徴的な傾向としては、障害診断時期「0～2歳」及び「3～15歳」において、「中学、高校のいずれか、もしくは両方で特別支援学校に在学あり」の者がそれぞれ 47.1% (17 人中 8 人)、33.3% (21 人中 7 人) と多い。障害診断時期「16歳～」において、障害診断時期が「就職前」と「就職後」である者の比率は 13 人 : 57 人となっており、障害診断時期が「就職後」である者が多い。また、障害診断時期に関係なく、全体的に職業能力開発校の利用率が高い傾向がみられる (約 30.6%)。

表 3-12 障害診断時期別にみた学歴の内容(肢体不自由)(複数回答)

障害診断 時期		データ数	特別支援学校 専攻科	専門学校	短大・大学	大学院	職業能力 開発校	(人)
0～2歳	中学、高校のいずれか、もしくは両方で特別支援学校に在学あり	8		1	1			4
	中学、高校で特別支援学校に在学なし	9		1	1			4
3～15歳	中学、高校のいずれか、もしくは両方で特別支援学校に在学あり	7			2			1
	中学、高校で特別支援学校に在学なし	14			5	1		4
16歳～	障害診断時期 就職前：	13			10	1		2
	障害診断時期 就職後： 特別支援学校高等部に在学あり1名含む	57		7	16	3		18

ニ 内部障害

障害診断時期不明 2 人を除く 40 人について分類した。特徴的な傾向としては、障害診断時期「16歳～」の割合が 92.5% と高く、障害診断時期「16歳～」において、障害診断時期が「就職前」と「就職後」である者の比率は 5 人 : 32 人 となっており、障害診断時期が「就職後」である者が多い。

表 3-13 障害診断時期別にみた学歴の内容(内部障害)(複数回答)

(人)

障害診断時期		データ数	特別支援学校専攻科	専門学校	短大・大学	大学院	職業能力開発校
0~2歳	中学、高校のいずれか、もしくは両方で特別支援学校に在学あり	0					
	中学、高校で特別支援学校に在学なし	0					
3~15歳	中学、高校のいずれか、もしくは両方で特別支援学校に在学あり	1					1
	中学、高校で特別支援学校に在学なし	2			2		
16歳~	障害診断時期 就職前:	5			2		
	障害診断時期 就職後:	32		2	13	1	2

ホ 知的障害

他の障害に比べて障害診断時期不明の回答が 25 人と多いため、知的障害に関しては不明データ分についても下記のように分類しデータを掲載した。特徴的な傾向としては、障害診断時期に関係なく「中学、高校のいずれか、もしくは両方で特別支援学校に在学あり」の者が多い。

表 3-14 障害診断時期別にみた学歴の内容(知的障害)(複数回答)

(人)

障害診断時期		データ数	特別支援学校専攻科	専門学校	短大・大学	大学院	職業能力開発校
0~2歳	中学、高校のいずれか、もしくは両方で特別支援学校に在学あり	7					
	中学、高校で特別支援学校に在学なし	1					
3~15歳	中学、高校のいずれか、もしくは両方で特別支援学校に在学あり	16					1
	中学、高校で特別支援学校に在学なし	19					5
16歳~	障害診断時期 就職前: 特別支援学校高等部に在学あり1名含む	2					
	障害診断時期 就職後: 特別支援学校高等部に在学あり1名含む	6		1	1		1
不明	中学、高校のいずれか、もしくは両方で特別支援学校に在学あり	11					1
	中学、高校で特別支援学校に在学なし	14					1

ヘ 精神障害

障害診断時期不明、学歴不明等データに不備のあった 7 人を除く 30 人について分類した。特徴的な傾向としては、30 人全てが障害診断時期「16 歳~」であり、障害診断時期が「就職後」である者の割合が多い。また、全体として短大・大学在学経験のある者が 50.0% と多い。

表 3-15 障害診断時期別にみた学歴の内容(精神障害)(複数回答)

障害診断 時期		データ数	特別支援学校 専攻科	専門学校	短大・大学	大学院	(人) 職業能力 開発校
16歳～	障害診断時期 就職前:	4			2		1
	障害診断時期 就職後:	26		7	13	3	4

(5) 中途障害についての分類（障害の診断時期と転職歴の有無から）

診断時期が初職就職前の0～2歳であった者は71人おり、そのうち現在も初職に継続して就業していた者は23人、他の仕事に転職をしていた者は46人である。

診断時期が初職就職前の3歳以降であった者は128人おり、そのうち現在も初職に継続して就業していた者は33人、他の仕事に転職をしていた者は87人である。

診断時期が初職就職前の者は計199人（47.9%）となる。

診断時期が初職就職後であった者は141人（33.9%）おり、そのうち現在も初職に継続して就業していた者は15人、障害診断前に転職をし、現在もその職に継続して就業していた者は16人、障害診断後に他の仕事に転職をしていた者は101人である。

表 3-16 障害診断時期による分類と障害診断時期別の転職歴の状況

障害診断時期

	初職前0～2歳	初職前3歳～	初職後	不明	計
視覚障害	15 (26.8)	21 (37.5)	14 (25.0)	6 (10.7)	56 (100.0)
聴覚障害	32 (39.0)	29 (35.4)	4 (4.9)	17 (20.7)	82 (100.0)
肢体不自由	16 (13.0)	30 (24.4)	58 (47.2)	19 (15.4)	123 (100.0)
内部障害	0 (0.0)	8 (19.0)	32 (76.2)	2 (4.8)	42 (100.0)
知的障害	8 (10.5)	36 (47.4)	7 (9.2)	25 (32.9)	76 (100.0)
精神障害	0 (0.0)	4 (10.8)	26 (70.3)	7 (18.9)	37 (100.0)
計	71 (17.1)	128 (30.8)	141 (33.9)	76 (18.3)	416 (100.0)

「障害診断時期: 初職前(0～2歳)」の転職歴の状況

	初職継続	転職経験あり	不明	計
視覚障害	5 (33.3)	10 (66.7)	0 (0.0)	15 (100.0)
聴覚障害	10 (31.3)	22 (68.8)	0 (0.0)	32 (100.0)
肢体不自由	6 (37.5)	8 (50.0)	2 (12.5)	16 (100.0)
内部障害	0	0	0	0
知的障害	2 (25.0)	6 (75.0)	0 (0.0)	8 (100.0)
精神障害	0	0	0	0
計	23 (32.4)	46 (64.8)	2 (2.8)	71 (100.0)

「障害診断時期: 初職前(3歳～)」の転職歴の状況

	初職継続	転職経験あり	不明	計
視覚障害	7 (33.3)	14 (66.7)	0 (0.0)	21 (100.0)
聴覚障害	10 (34.5)	18 (62.1)	1 (3.4)	29 (100.0)
肢体不自由	11 (36.7)	16 (53.3)	3 (10.0)	30 (100.0)
内部障害	0 (0.0)	7 (87.5)	1 (12.5)	8 (100.0)
知的障害	5 (13.9)	28 (77.8)	3 (8.3)	36 (100.0)
精神障害	0 (0.0)	4 (100.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
計	33 (25.8)	87 (68.0)	8 (6.3)	128 (100.0)

「障害診断時期: 初職後」の転職歴の状況

	初職継続	転職経験あり		不明	計
	初職 →障害診断 →初職継続	初職 →現職 →障害診断	初職 →現職		
視覚障害	0 (0.0)	1 (7.1)	12 (85.7)	1 (7.1)	14 (100.0)
聴覚障害	0 (0.0)	1 (25.0)	3 (75.0)	0 (0.0)	4 (100.0)
肢体不自由	4 (6.9)	3 (5.2)	48 (82.8)	3 (5.2)	58 (100.0)
内部障害	6 (18.8)	7 (21.9)	19 (59.4)	0 (0.0)	32 (100.0)
知的障害	1 (14.3)	1 (14.3)	4 (57.1)	1 (14.3)	7 (100.0)
精神障害	4 (15.4)	3 (11.5)	15 (57.7)	4 (15.4)	26 (100.0)
計	15 (10.6)	16 (11.3)	101 (71.6)	9 (6.4)	141 (100.0)

4 家族構成

全体では、「配偶者あり」の割合は 40.9%（170 人）である。また、そのうちの 67.6%に当たる 115 人は「子供あり」である。障害別にみると「配偶者あり」の割合は聴覚障害及び肢体不自由でそれぞれ 62.2%、55.3%と多く、知的障害及び精神障害でそれぞれ 3.9%、18.9%と少ない。また、配偶者なしの場合、父もしくは母のいずれかがいる者が 80.9%（「配偶者なし」に占める割合）と大多数を占めている。

表 3-17 家族構成の状況

(人(%))

	配偶者あり			配偶者なし					計
	子供なし	子供あり	小計	父母あり	父あり母なし	父なし母あり	父母なし	小計	
視覚障害	4 (7.1)	18 (32.1)	22 (39.3)	16 (28.6)	2 (3.6)	8 (14.3)	8 (14.3)	34 (60.7)	56 (100.0)
聴覚障害	11 (13.4)	40 (48.8)	51 (62.2)	14 (17.1)	1 (1.2)	6 (7.3)	10 (12.2)	31 (37.8)	82 (100.0)
肢体不自由	28 (22.8)	40 (32.5)	68 (55.3)	25 (20.3)	3 (2.4)	17 (13.8)	10 (8.1)	55 (44.7)	123 (100.0)
内部障害	6 (14.3)	13 (31.0)	19 (45.2)	10 (23.8)	3 (7.1)	8 (19.0)	2 (4.8)	23 (54.8)	42 (100.0)
知的障害	3 (3.9)	0 (0.0)	3 (3.9)	35 (46.1)	1 (1.3)	27 (35.5)	10 (13.2)	73 (96.1)	76 (100.0)
精神障害	3 (8.1)	4 (10.8)	7 (18.9)	14 (37.8)	3 (8.1)	6 (16.2)	7 (18.9)	30 (81.1)	37 (100.0)
計	55 (13.2)	115 (27.6)	170 (40.9)	114 (27.4)	13 (3.1)	72 (17.3)	47 (11.3)	246 (59.1)	416 (100.0)

5 住まい

(1) 住まい

全体では、「自分の持家や賃貸住宅」が 59.1%、「家族の持家や賃貸住宅」が 32.0%と大多数を占め、「社員寮等」の 1.7%及び「グループホーム等」の 5.0%は少数である。障害別にみると、知的障害において「自分の持家や賃貸住宅」が 11.8%と少なく、「グループホーム等」が 25.0%と他の障害に比べて多くなっている。

表 3-18 住居環境の状況

(人(%))

	自分の持家、賃貸住宅	家族の持家、賃貸住宅	社員寮等	グループホーム等	無回答	計
視覚障害	39 (69.6)	14 (25.0)	1 (1.8)	1 (1.8)	1 (1.8)	56 (100.0)
聴覚障害	62 (75.6)	17 (20.7)	1 (1.2)	0 (0.0)	2 (2.4)	82 (100.0)
肢体不自由	90 (73.2)	28 (22.8)	2 (1.6)	0 (0.0)	3 (2.4)	123 (100.0)
内部障害	29 (69.0)	11 (26.2)	2 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	42 (100.0)
知的障害	9 (11.8)	46 (60.5)	0 (0.0)	19 (25.0)	2 (2.6)	76 (100.0)
精神障害	17 (45.9)	17 (45.9)	1 (2.7)	1 (2.7)	1 (2.7)	37 (100.0)
計	246 (59.1)	133 (32.0)	7 (1.7)	21 (5.0)	9 (2.2)	416 (100.0)

(2) 同居人の有無

全体では、「一人暮らし」は 15.6%と少なく、「同居人あり」は 79.1%と多い。障害別にみると、視覚障害及び精神障害において「一人暮らし」の比率がそれぞれ 28.6%、29.7%と他の障害に比べて高く、逆に、知的障害においては「一人暮らし」の比率が 3.9%と低い。

表 3-19 住居環境・同居人の有無

(人(%))

	一人暮らし	同居人あり	無回答	計
視覚障害	16 (28.6)	38 (67.9)	2 (3.6)	56 (100.0)
聴覚障害	12 (14.6)	70 (85.4)	0 (0.0)	82 (100.0)
肢体不自由	17 (13.8)	102 (82.9)	4 (3.3)	123 (100.0)
内部障害	6 (14.3)	35 (83.3)	1 (2.4)	42 (100.0)
知的障害	3 (3.9)	60 (78.9)	13 (17.1)	76 (100.0)
精神障害	11 (29.7)	24 (64.9)	2 (5.4)	37 (100.0)
計	65 (15.6)	329 (79.1)	22 (5.3)	416 (100.0)

(3) 同居人

全体では、「配偶者との同居あり」は 37.7%、「配偶者との同居なし」は 41.3%である。また、「配偶者との同居あり」の場合、「父母との同居なし」が 81.5%と多い。

表 3-20 同居人構成の状況

(人(%))

	配偶者との同居あり			配偶者との同居なし							無回答/ 一人暮らし	計
	父母との 同居なし	父母との 同居あり	小計	父母と同居	父と同居	母と同居	父母以外の 親族と同居	友人	グループ ホーム	小計		
視覚障害	17 (30.4)	4 (7.1)	21 (37.5)	9 (16.1)	1 (1.8)	4 (7.1)	2 (3.6)	1 (1.8)	0 (0.0)	17 (30.4)	18 (32.1)	56 (100.0)
聴覚障害	39 (47.6)	11 (13.4)	50 (61.0)	10 (12.2)	0 (0.0)	3 (3.7)	7 (8.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	20 (24.4)	12 (14.6)	82 (100.0)
肢体不自由	49 (39.8)	11 (8.9)	60 (48.8)	19 (15.4)	1 (0.8)	14 (11.4)	5 (4.1)	3 (2.4)	0 (0.0)	42 (34.1)	21 (17.1)	123 (100.0)
内部障害	14 (33.3)	2 (4.8)	16 (38.1)	8 (19.0)	1 (2.4)	6 (14.3)	3 (7.1)	1 (2.4)	0 (0.0)	19 (45.2)	7 (16.7)	42 (100.0)
知的障害	2 (2.6)	1 (1.3)	3 (3.9)	29 (38.2)	1 (1.3)	17 (22.4)	4 (5.3)	2 (2.6)	4 (5.3)	57 (75.0)	16 (21.1)	76 (100.0)
精神障害	7 (18.9)	0 (0.0)	7 (18.9)	11 (29.7)	1 (2.7)	5 (13.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	17 (45.9)	13 (35.1)	37 (100.0)
計	128 (30.8)	29 (7.0)	157 (37.7)	86 (20.7)	5 (1.2)	49 (11.8)	21 (5.0)	7 (1.7)	4 (1.0)	172 (41.3)	87 (20.9)	416 (100.0)

6 資格・免許（自由記述、複数回答）

全体では、「運転免許」取得者が 57.5%と最も多く、「あん摩マッサージ指圧師免許、はり師免許、きゅう師免許」が次いで 10.1%と多い。障害別にみると、視覚障害では「あん摩マッサージ指圧師免許、はり師免許、きゅう師免許」所持者が 73.2%と顕著に多く、肢体不自由においては「情報処理系」、「簿記」、「ビジネス系」資格の所持者がそれぞれ 16.3%、19.5%、17.1%と他の障害に比べて多い傾向にある。

表 3-21 資格・免許の取得状況

(人(%))

	運転免許	情報処理系	簿記	ビジネス系	工業系	危険物取扱
視覚障害	0 (0.0)	3 (5.4)	1 (1.8)	1 (1.8)	0 (0.0)	0 (0.0)
聴覚障害	68 (82.9)	6 (7.3)	4 (4.9)	2 (2.4)	7 (8.5)	5 (6.1)
肢体不自由	102 (82.9)	20 (16.3)	24 (19.5)	21 (17.1)	8 (6.5)	6 (4.9)
内部障害	40 (95.2)	6 (14.3)	9 (21.4)	2 (4.8)	6 (14.3)	3 (7.1)
知的障害	4 (5.3)	0 (0.0)	1 (1.3)	0 (0.0)	1 (1.3)	0 (0.0)
精神障害	25 (67.6)	3 (8.1)	2 (5.4)	4 (10.8)	3 (8.1)	5 (13.5)
計	239 (57.5)	38 (9.1)	41 (9.9)	30 (7.2)	25 (6.0)	19 (4.6)
	医療福祉系	あはき免許	教員免許	英語検定	その他	対象者数
視覚障害	3 (5.4)	41 (73.2)	11 (19.6)	3 (5.4)	5 (8.9)	56 (100.0)
聴覚障害	12 (14.6)	0 (0.0)	3 (3.7)	2 (2.4)	20 (24.4)	82 (100.0)
肢体不自由	10 (8.1)	0 (0.0)	3 (2.4)	6 (4.9)	39 (31.7)	123 (100.0)
内部障害	5 (11.9)	0 (0.0)	5 (11.9)	4 (9.5)	14 (33.3)	42 (100.0)
知的障害	3 (3.9)	1 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.3)	76 (100.0)
精神障害	3 (8.1)	0 (0.0)	2 (5.4)	7 (18.9)	11 (29.7)	37 (100.0)
計	36 (8.7)	42 (10.1)	24 (5.8)	22 (5.3)	90 (21.6)	416 (100.0)

- ※ 「運転免許」は、普通自動車、自動二輪、原動機付き自転車、その他特殊運転免許等が含まれる。
- 「情報処理系」は、情報処理技術者、ワープロ検定、Microsoft Office Specialist 等が含まれる。
- 「ビジネス系」は、秘書検定・医療事務・ビジネスマナー等が含まれる。
- 「工業系」は、熔接・旋盤・電気工事・電子機器組み立て・自動車整備等が含まれる。
- 「危険物取扱」は、危険物取扱、防火管理・消防設備士が含まれる。
- 「医療福祉系」は、社会福祉主事、介護、ホームヘルパー等が含まれる。
- 「あはき免許」は、あん摩マッサージ指圧師免許、はり師免許、きゅう師免許が含まれる。
- 「その他」の主な内容としては、調理師、栄養士、製菓、食物管理、被服、珠算、華道、茶道、書道系等となっている。

7 学歴

(1) 通ったことのある学校（中退を含む）

全体では、「特別支援学校在学なし」は 60.1%、「特別支援学校在学あり」は 37.5%である。障害別にみると、視覚障害、聴覚障害及び知的障害において「特別支援学校在学あり」がそれぞれ 83.9%、59.8%、47.4%と多く、肢体不自由、内部障害及び精神障害において「特別支援学校在学あり」はそれぞれ 18.7%、2.4%、0%と頗著に少ない。

表 3-22 特別支援学校在学別に見た最高学歴と職業能力開発校の利用状況

	特別支援学校在学なし								小計 (人(%))	
最高学歴	大学・短大以上		専門学校		高校		中学校			
職業能力開発校の利用	なし	あり	なし	あり	なし	あり	なし	あり		
視覚障害	4 (7.1)	3 (5.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (14.3)	
聴覚障害	14 (17.1)	0 (0.0)	5 (6.1)	2 (2.4)	9 (11.0)	1 (1.2)	1 (1.2)	0 (0.0)	32 (39.0)	
肢体不自由	29 (23.6)	8 (6.5)	5 (4.1)	2 (1.6)	33 (26.8)	15 (12.2)	0 (0.0)	3 (2.4)	95 (77.2)	
内部障害	18 (42.9)	0 (0.0)	2 (4.8)	0 (0.0)	17 (40.5)	1 (2.4)	2 (4.8)	1 (2.4)	41 (97.6)	
知的障害	0 (0.0)	1 (1.3)	1 (1.3)	0 (0.0)	6 (7.9)	2 (2.6)	24 (31.6)	4 (5.3)	38 (50.0)	
精神障害	13 (35.1)	4 (10.8)	4 (10.8)	0 (0.0)	12 (32.4)	0 (0.0)	2 (5.4)	1 (2.7)	36 (97.3)	
計	78 (18.8)	16 (3.8)	17 (4.1)	4 (1.0)	77 (18.5)	20 (4.8)	29 (7.0)	9 (2.2)	250 (60.1)	

	特別支援学校在学あり						小計 その他 無回答	計		
最高学歴	大学・短大以上		専門学校、高校、特別支援学校高等部/専攻科		中学校、特別支援学校中等部					
職業能力開発校の利用	なし	あり	なし	あり	なし	あり				
視覚障害	21 (37.5)	1 (1.8)	22 (39.3)	2 (3.6)	1 (1.8)	0 (0.0)	47 (83.9)	0 (0.0)		
聴覚障害	3 (3.7)	1 (1.2)	38 (46.3)	6 (7.3)	0 (0.0)	1 (1.2)	49 (59.8)	0 (0.0)		
肢体不自由	2 (1.6)	1 (0.8)	13 (10.6)	5 (4.1)	1 (0.8)	1 (0.8)	23 (18.7)	2 (1.6)		
内部障害	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.4)	0 (0.0)		
知的障害	0 (0.0)	0 (0.0)	28 (36.8)	2 (2.6)	6 (7.9)	0 (0.0)	36 (47.4)	1 (1.3)		
精神障害	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.7)		
計	26 (6.3)	3 (0.7)	101 (24.3)	16 (3.8)	8 (1.9)	2 (0.5)	156 (37.5)	3 (0.7)		
							7 (1.7)	416 (100.0)		

(2) 最後に卒業（中退）した学校及びそのときの年齢

全体では、「高校」及び「特別支援学校高等部」の高校卒業（中退）に該当する学歴がそれぞれ 17.8%、13.2%、合わせて 31.0%と最も多く、「大学・短大」及び「大学院」の大学卒業（中退）以上に該当する学歴がそれぞれ 20.7%、2.4%、合わせて 23.1%、「専門学校」が 6.0%、「職業能力開発校」が 13.2%である。障害別にみると、視覚障害において「特別支援学校専攻科」が 46.4%と顕著に多く、内部障害においては「大学・短大」が多い(40.5%)。肢体不自由では「職業能力開発校」が 25.2%と顕著に多い。

また、最終学歴時の年齢については表 3-24 にまとめた。表 3-23 の最終学歴の内容との対応から年齢の分布を障害別にみると、「特別支援学校専攻科」や「大学・短大」の比率が高い視覚障害においては、最終学歴卒業（中退）時の年齢が 19 歳以降である割合が 91.1%と高く、「中学校」及び「特別支援学校高等部」の比率が高い知的障害においては、最終学歴卒業（中退）時の年齢が 18 歳以前である割合が 67.1%と高い、というように最終学歴の内容と最終学歴卒業（中退）時の年齢は対応したものとなっている。

表 3-23 最終学歴（中退を含む）の状況

(人(%))

	中学校	高校	特別支援学校 中等部	特別支援学校 高等部	特別支援学校 専攻科	専門学校
視覚障害	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.8)	0 (0.0)	26 (46.4)	5 (8.9)
聴覚障害	1 (1.2)	5 (6.1)	0 (0.0)	19 (23.2)	14 (17.1)	7 (8.5)
肢体不自由	0 (0.0)	34 (27.6)	1 (0.8)	10 (8.1)	0 (0.0)	7 (5.7)
内部障害	2 (4.8)	17 (40.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.4)
知的障害	22 (28.9)	5 (6.6)	6 (7.9)	26 (34.2)	0 (0.0)	1 (1.3)
精神障害	2 (5.4)	13 (35.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (10.8)
計	27 (6.5)	74 (17.8)	8 (1.9)	55 (13.2)	40 (9.6)	25 (6.0)

	職業能力 開発校	大学・短大	大学院	その他	無回答	計
視覚障害	5 (8.9)	15 (26.8)	1 (1.8)	0 (0.0)	3 (5.4)	56 (100.0)
聴覚障害	8 (9.8)	13 (15.9)	1 (1.2)	0 (0.0)	14 (17.1)	82 (100.0)
肢体不自由	31 (25.2)	29 (23.6)	5 (4.1)	0 (0.0)	6 (4.9)	123 (100.0)
内部障害	3 (7.1)	17 (40.5)	1 (2.4)	0 (0.0)	1 (2.4)	42 (100.0)
知的障害	5 (6.6)	1 (1.3)	0 (0.0)	1 (1.3)	9 (11.8)	76 (100.0)
精神障害	3 (8.1)	11 (29.7)	2 (5.4)	0 (0.0)	2 (5.4)	37 (100.0)
計	55 (13.2)	86 (20.7)	10 (2.4)	1 (0.2)	35 (8.4)	416 (100.0)

※「その他」回答1名は、盲特別支援学校（中・高・専攻科は不詳）である。

表 3-24 最終学歴卒業（中退）時の年齢
(人(%))

	～18歳	19～22歳	23歳～	無回答	計
視覚障害	0 (0.0)	20 (35.7)	31 (55.4)	5 (8.9)	56 (100.0)
聴覚障害	22 (26.8)	32 (39.0)	15 (18.3)	13 (15.9)	82 (100.0)
肢体不自由	40 (32.5)	37 (30.1)	38 (30.9)	8 (6.5)	123 (100.0)
内部障害	17 (40.5)	15 (35.7)	9 (21.4)	1 (2.4)	42 (100.0)
知的障害	51 (67.1)	13 (17.1)	0 (0.0)	12 (15.8)	76 (100.0)
精神障害	13 (35.1)	9 (24.3)	13 (35.1)	2 (5.4)	37 (100.0)
計	143 (34.4)	126 (30.3)	106 (25.5)	41 (9.9)	416 (100.0)

(3) 現在通っている学校

現在通学中と回答したのは全体で 9 人 (2.2%) である。また、「最初に収入のある仕事についた（以下、「初職」という）年齢（以下「初職就職年齢」という）」と「最終学歴卒業（中退）時の年齢」との比較から、初職以降の通学歴の有無を表 3-26 に示した。初職以降に通学歴のあった者は全体で 15.9% であり、障害別にみると視覚障害、肢体不自由、精神障害においてそれぞれ 30.4%、24.4%、27.0% と他の障害に比べて高い。

表 3-25 現在通っている学校の状況

	高等学校	特別支援学校 専攻科	専門学校	職業能力 開発校	大学／短大	大学院	計
視覚障害	0	0	0	0	1	1	2
聴覚障害	2	1	0	0	0	0	3
肢体不自由	0	0	0	0	0	1	1
内部障害	0	0	0	0	0	0	0
知的障害	0	0	0	0	0	0	0
精神障害	0	0	1	1	1	0	3
計	2	1	1	1	2	2	9

表 3-26 初職以降の通学歴の有無
(人(%))

	初職以降に 通学歴あり	対象者数
視覚障害	17 (30.4)	56 (100.0)
聴覚障害	6 (7.3)	82 (100.0)
肢体不自由	30 (24.4)	123 (100.0)
内部障害	3 (7.1)	42 (100.0)
知的障害	0 (0.0)	76 (100.0)
精神障害	10 (27.0)	37 (100.0)
計	66 (15.9)	416 (100.0)

※最終学歴には能力開発校を含む。

8 職業歴

(1) 最初に収入のある仕事についていたとき（初職）の年齢

全体では、初職就職年齢が20歳以上である割合が53.1%と、19歳以下の割合43.0%に比べて若干高い。障害別にみると、視覚障害において20歳以上が94.7%と顕著に高く、知的障害においては19歳以下の割合が67.1%と顕著に高く、逆の傾向となっている。

表 3-27 初職就職年齢の状況

(人(%))

	～19歳	20～24歳	25歳～	無回答	計
視覚障害	2 (3.6)	45 (80.4)	8 (14.3)	1 (1.8)	56 (100.0)
聴覚障害	32 (39.0)	39 (47.6)	6 (7.3)	5 (6.1)	82 (100.0)
肢体不自由	56 (45.5)	42 (34.1)	20 (16.3)	5 (4.1)	123 (100.0)
内部障害	19 (45.2)	22 (52.4)	1 (2.4)	0 (0.0)	42 (100.0)
知的障害	51 (67.1)	16 (21.1)	5 (6.6)	4 (5.3)	76 (100.0)
精神障害	19 (51.4)	12 (32.4)	5 (13.5)	1 (2.7)	37 (100.0)
計	179 (43.0)	176 (42.3)	45 (10.8)	16 (3.8)	416 (100.0)

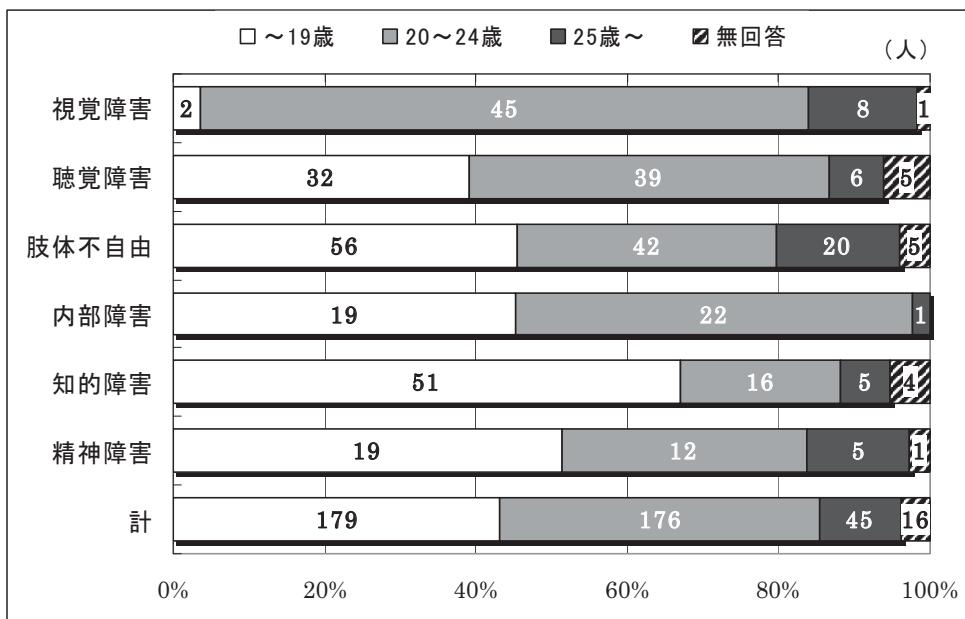


図 3-3 初職就職年齢の状況

初職就職年齢と現在の年齢から、職業生活経過年数を算出し表 3-28 に示した。全体では、職業生活 21～25 年及び 26～30 年の割合が多く（順に 31.3%、33.7%）、次いで 36～40 年が 15.4%、16～20 年が 8.9% となっており、調査対象が「職業生活後期調査」の対象に合致した集団であることがわかる。また、障害別にみると、内部障害において 31～35 年及び 36～40 年の割合がそれぞれ 33.3%、11.9% と他の障害に比べて高い。

表 3-28 初職就職年齢と現在年齢から算出した職業生活経過年数

	0～5年	6～10年	11～15年	16～20年	21～25年	
視覚障害	0 (0.0)	2 (3.6)	0 (0.0)	10 (17.9)	22 (39.3)	
聴覚障害	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (4.9)	29 (35.4)	
肢体不自由	2 (1.6)	1 (0.8)	0 (0.0)	12 (9.8)	35 (28.5)	
内部障害	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (9.5)	8 (19.0)	
知的障害	2 (2.6)	0 (0.0)	1 (1.3)	2 (2.6)	24 (31.6)	
精神障害	1 (2.7)	0 (0.0)	1 (2.7)	5 (13.5)	12 (32.4)	
計	5 (1.2)	3 (0.7)	2 (0.5)	37 (8.9)	130 (31.3)	(人(%))

	26～30年	31～35年	36～40年	40～45年	不明	計
視覚障害	15 (26.8)	5 (8.9)	1 (1.8)	0 (0.0)	1 (1.8)	56 (100.0)
聴覚障害	29 (35.4)	12 (14.6)	3 (3.7)	0 (0.0)	5 (6.1)	82 (100.0)
肢体不自由	43 (35.0)	19 (15.4)	5 (4.1)	1 (0.8)	5 (4.1)	123 (100.0)
内部障害	11 (26.2)	14 (33.3)	5 (11.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	42 (100.0)
知的障害	30 (39.5)	10 (13.2)	3 (3.9)	0 (0.0)	4 (5.3)	76 (100.0)
精神障害	12 (32.4)	4 (10.8)	1 (2.7)	0 (0.0)	1 (2.7)	37 (100.0)
計	140 (33.7)	64 (15.4)	18 (4.3)	1 (0.2)	16 (3.8)	416 (100.0)

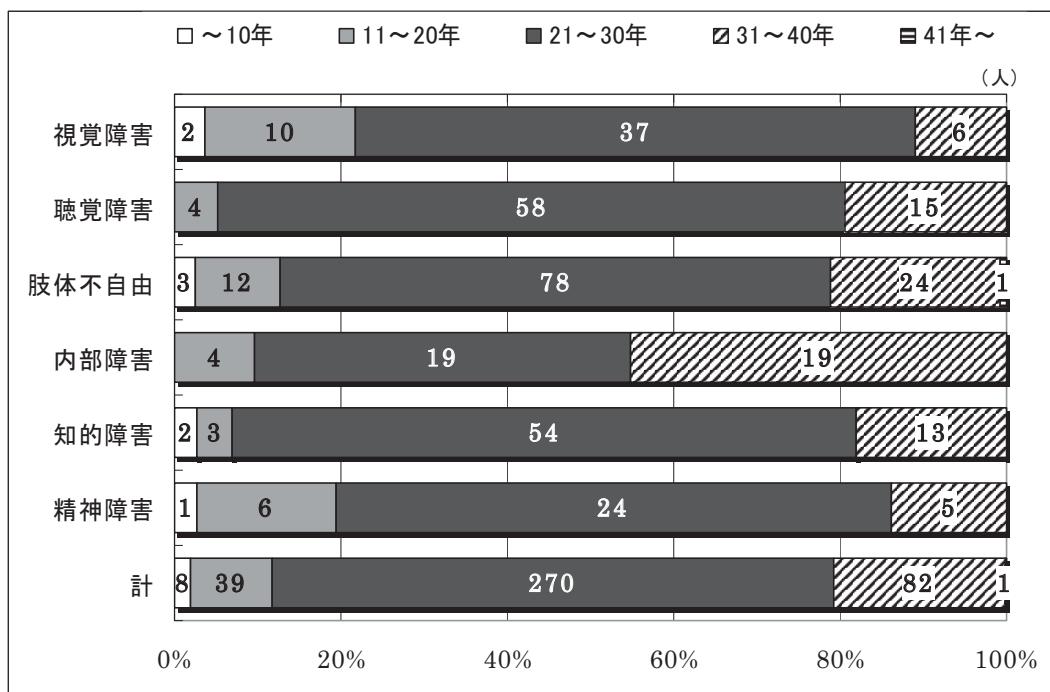


図 3-4 職業生活経過年数の分布

初職就職年齢と障害診断年齢から、初職就職年齢を基準とした診断時期の再分類を行い、表3-29に示した。全体では、診断時期が初職前の割合が47.9%と高い。障害別にみると、聴覚障害において「初職前：診断年齢0～2歳」の割合が39.0%と高く、肢体不自由、内部障害及び精神障害においては「初職後」の割合がそれぞれ47.5%、76.2%、70.3%と高い。

表3-29 初職就職年齢と障害診断年齢からみた障害診断時期分類

	初職前		初職後	不明	(人(%)) 計
	診断年齢 0～2歳	診断年齢 3歳～初職			
視覚障害	15 (26.8)	21 (37.5)	14 (25.0)	6 (10.7)	56 (100.0)
聴覚障害	32 (39.0)	29 (35.4)	4 (4.9)	17 (20.7)	82 (100.0)
肢体不自由	16 (13.0)	30 (24.4)	58 (47.2)	19 (15.4)	123 (100.0)
内部障害	0 (0.0)	8 (19.0)	32 (76.2)	2 (4.8)	42 (100.0)
知的障害	8 (10.5)	36 (47.4)	7 (9.2)	25 (32.9)	76 (100.0)
精神障害	0 (0.0)	4 (10.8)	26 (70.3)	7 (18.9)	37 (100.0)
計	71 (17.1)	128 (30.8)	141 (33.9)	76 (18.3)	416 (100.0)

(2) 初職就職以前の状況

全体では、「学校在学」が79.8%と最も多い。障害別にみると、肢体不自由及び知的障害において「福祉工場や作業所」の割合がそれぞれ8.9%、11.8%と他の障害に比べて高い。

表3-30 初職就職以前の状況

	学校在学	福祉工場 ／作業所	病院	自宅	その他回答			不明／ 無回答	(人(%)) 計
					アルバイト、 家業など	職業訓練	就職活動 など		
視覚障害	53 (94.6)	1 (1.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (3.6)	56 (100.0)
聴覚障害	71 (86.6)	2 (2.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.4)	1 (1.2)	0 (0.0)	6 (7.3)	82 (100.0)
肢体不自由	93 (75.6)	11 (8.9)	3 (2.4)	5 (4.1)	3 (2.4)	1 (0.8)	1 (0.8)	6 (4.9)	123 (100.0)
内部障害	37 (88.1)	0 (0.0)	2 (4.8)	2 (4.8)	1 (2.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	42 (100.0)
知的障害	51 (67.1)	9 (11.8)	0 (0.0)	4 (5.3)	2 (2.6)	1 (1.3)	3 (3.9)	6 (7.9)	76 (100.0)
精神障害	27 (73.0)	1 (2.7)	0 (0.0)	3 (8.1)	1 (2.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (8.1)	37 (100.0)
計	332 (79.8)	24 (5.8)	5 (1.2)	14 (3.4)	9 (2.2)	3 (0.7)	4 (1.0)	23 (5.5)	416 (100.0)

第2節 仕事に関する事項

1 現在の就業状況

全体では、「正社員」の割合が 64.7%と最も多く、次いで「パート・アルバイト」が 25.2%と多い。障害別にみると、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害は正社員の割合が多く（それぞれ 58.9%、72.0%、75.6%、78.6%）、知的障害では同割合は半々である。精神障害では「正社員」の割合が 35.1%と低く、「パート・アルバイト」の割合が 56.8%と高い。また、視覚障害においては「自営」の割合が 25.0%と他の障害に比べて高い。

表 3-31 就業状況及び雇用形態の状況

(人(%))

	正社員	パート／ アルバイト	派遣	自営	福祉・無職	その他	無回答	計
視覚障害	33 (58.9)	7 (12.5)	0 (0.0)	14 (25.0)	2 (3.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	56 (100.0)
聴覚障害	59 (72.0)	20 (24.4)	0 (0.0)	2 (2.4)	1 (1.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	82 (100.0)
肢体不自由	93 (75.6)	15 (12.2)	0 (0.0)	3 (2.4)	10 (8.1)	2 (1.6)	0 (0.0)	123 (100.0)
内部障害	33 (78.6)	5 (11.9)	0 (0.0)	2 (4.8)	1 (2.4)	0 (0.0)	1 (2.4)	42 (100.0)
知的障害	38 (50.0)	37 (48.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.3)	76 (100.0)
精神障害	13 (35.1)	21 (56.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (5.4)	1 (2.7)	0 (0.0)	37 (100.0)
計	269 (64.7)	105 (25.2)	0 (0.0)	21 (5.0)	16 (3.8)	3 (0.7)	2 (0.5)	416 (100.0)

※「その他」回答3名は非就業、「無回答」2名は雇用形態無回答であるが就業である

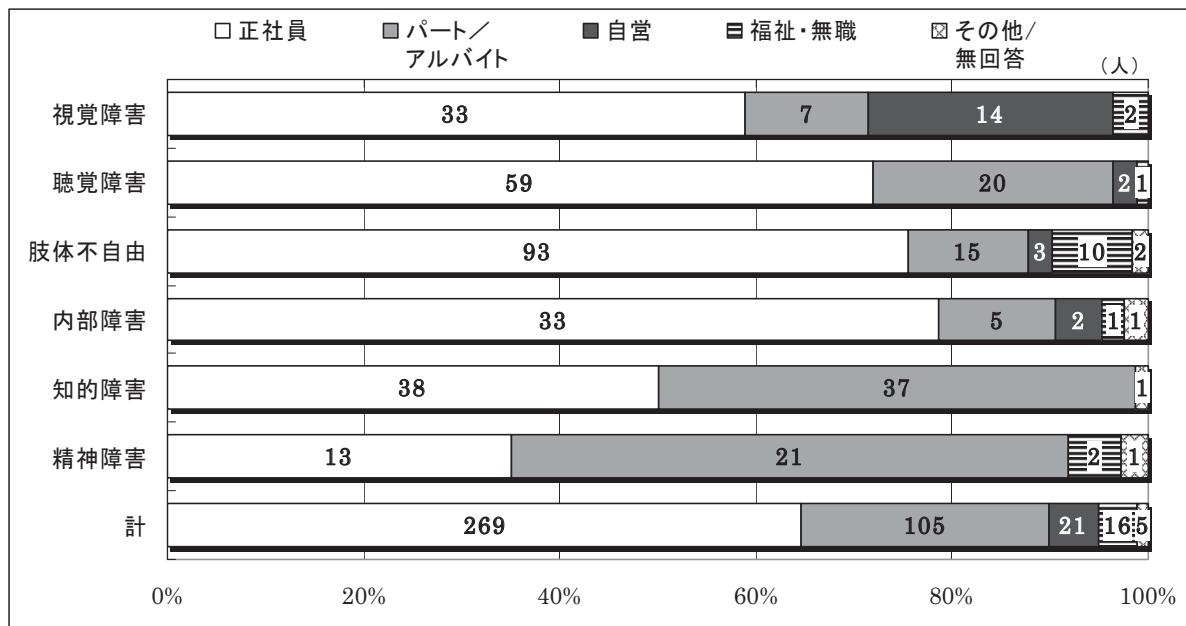


図 3-5 就業状況・雇用形態

これ以降においては、「正社員」「パート・アルバイト」「派遣」「自営」に回答した 379 人（その他の 1 人を含む）を就業群とし、「福祉・無職」に回答した 16 人（その他の 1 人を含む）を非就業群として結果の

集計・分析を行っている。また、非就業群の回答結果（調査票：問19、問20）については、少數であるため、資料1【調査結果補足】（P141）として掲載した。

【参考3】就業形態別就業者数の割合

(人(%))

障害	就業者計	就業形態										無回答
		常用雇用	常用雇用以外	自営	家族従業者	会社、団体の役員	臨時・日雇	内職	授産施設	作業所等	その他	
身体障害	100.0	48.4	47.1	16.7	4.4	9.9	3.2	1.7	3.5	3.0	4.7	4.5
知的障害	100.0	18.8	80.0	0.9	2.8	-	10.8	-	32.2	26.9	6.4	1.1
精神障害	100.0	32.5	59.7	3.1	4.8	5.3	2.6	0.9	8.8	28.9	5.3	7.9

(資料出所)厚生労働省「身体障害者、知的障害者及び精神障害者就業実態調査」(平成18年7月)

注)常用雇用:一週間あたりの労働時間が20時間以上で、期間の定めなく雇用される者。ただし、期間が定められている場合であっても、1年以上雇用されると見込まれる者。

2 仕事内容

仕事内容の回答については、調査票に選択肢としてあげた7項目以外に、その他の回答の記述内容から「スーパー等のバックヤード」、「技術職」を分類カテゴリに加えた。全体では、「ものを作る仕事」が29.0%と最も高く、次いで「事務の仕事」が27.0%と高い。障害別にみると、視覚障害において「医療、福祉に関わる仕事」が63.0%、聴覚障害においては「ものを作る仕事」が53.1%、肢体不自由では「事務の仕事」が44.1%、知的障害において「清掃、クリーニングなどのサービスの仕事」が53.9%が多い。

表3-32 仕事内容

	ものを作る仕事	もの売る仕事	事務の仕事	ものを教える仕事	医療、福祉に関わる仕事	(人(%))	
視覚障害	1 (1.9)	1 (1.9)	5 (9.3)	8 (14.8)	34 (63.0)		
聴覚障害	43 (53.1)	0 (0.0)	24 (29.6)	2 (2.5)	5 (6.2)		
肢体不自由	36 (32.4)	3 (2.7)	49 (44.1)	1 (0.9)	4 (3.6)		
内部障害	6 (14.6)	1 (2.4)	20 (48.8)	1 (2.4)	2 (4.9)		
知的障害	20 (26.3)	4 (5.3)	1 (1.3)	0 (0.0)	1 (1.3)		
精神障害	9 (26.5)	1 (2.9)	8 (23.5)	0 (0.0)	1 (2.9)		
計	115 (29.0)	10 (2.5)	107 (27.0)	12 (3.0)	47 (11.8)		

	人を相手にするサービスの仕事	清掃、クリーニングなどのサービスの仕事	スーパー等のバックヤード	技術職	その他	不明／無回答	計
視覚障害	4 (7.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	54 (100.0)
聴覚障害	1 (1.2)	2 (2.5)	1 (1.2)	2 (2.5)	1 (1.2)	0 (0.0)	81 (100.0)
肢体不自由	9 (8.1)	3 (2.7)	0 (0.0)	2 (1.8)	3 (2.7)	1 (0.9)	111 (100.0)
内部障害	2 (4.9)	3 (7.3)	1 (2.4)	1 (2.4)	2 (4.9)	2 (4.9)	41 (100.0)
知的障害	3 (3.9)	41 (53.9)	3 (3.9)	0 (0.0)	1 (1.3)	2 (2.6)	76 (100.0)
精神障害	2 (5.9)	9 (26.5)	4 (11.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	34 (100.0)
計	21 (5.3)	58 (14.6)	9 (2.3)	6 (1.5)	7 (1.8)	5 (1.3)	397 (100.0)

3 労働状況

労働状況に関する設問は、平成 21 年 6 月の状況について回答を求めた。

(1) 1 週間当たりの労働時間

全体では「30 時間以上」が 76.3%と最も多い。障害別にみると、内部障害、知的障害及び精神障害において「20 時間以上 30 時間未満」がそれぞれ 22.0%、23.7%、47.1%と他の障害に比べて多く、また知的障害においては「20 時間未満」も 15.8%と他の障害に比べて多い。

表 3-33 1 週間当たり労働時間の状況（平成 21 年 6 月期）

(人(%))

	20時間 未満	20時間以上 30時間未満	30時間以上	無回答	計
視覚障害	0 (0.0)	1 (1.9)	53 (98.1)	0 (0.0)	54 (100.0)
聴覚障害	7 (8.6)	9 (11.1)	63 (77.8)	2 (2.5)	81 (100.0)
肢体不自由	2 (1.8)	5 (4.5)	101 (91.0)	3 (2.7)	111 (100.0)
内部障害	1 (2.4)	9 (22.0)	31 (75.6)	0 (0.0)	41 (100.0)
知的障害	12 (15.8)	18 (23.7)	40 (52.6)	6 (7.9)	76 (100.0)
精神障害	3 (8.8)	16 (47.1)	15 (44.1)	0 (0.0)	34 (100.0)
計	25 (6.3)	58 (14.6)	303 (76.3)	11 (2.8)	397 (100.0)

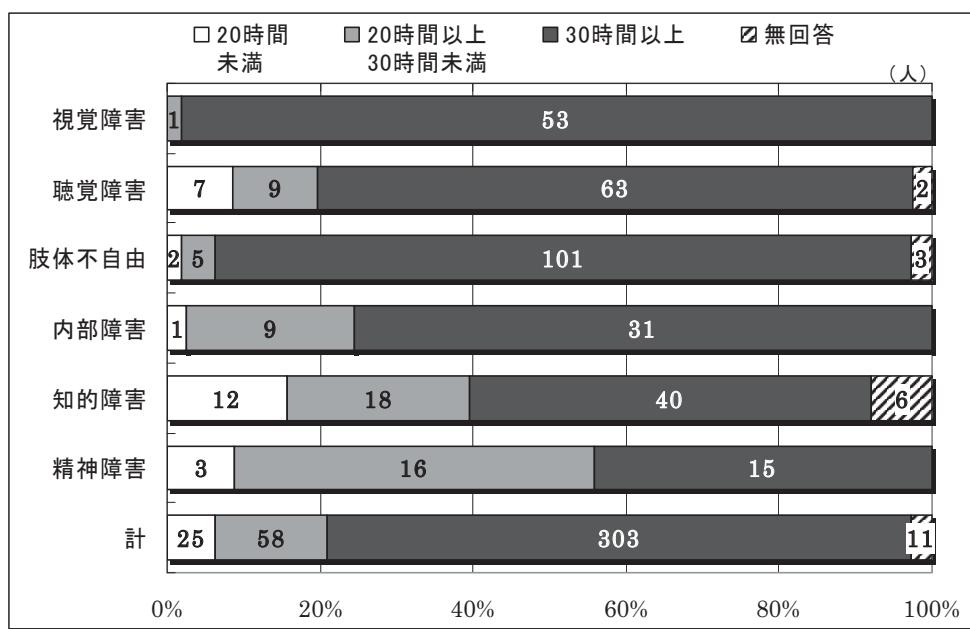


図 3-6 1 週間当たり労働時間の状況

(2) 1週間当たりの休日の日数

全体では、「2日」の回答が70.5%と最も多い。障害別にみると、視覚障害において「1日」の回答が22.2%と他の障害に比べて多い。

表3-34 1週間当たり休日数の状況（平成21年6月期）

(人(%))

	1日	2日	3日	4日	不定期	無回答	計
視覚障害	12 (22.2)	31 (57.4)	0 (0.0)	9 (16.7)	2 (3.7)	0 (0.0)	54 (100.0)
聴覚障害	5 (6.2)	54 (66.7)	6 (7.4)	14 (17.3)	2 (2.5)	0 (0.0)	81 (100.0)
肢体不自由	4 (3.6)	84 (75.7)	6 (5.4)	12 (10.8)	4 (3.6)	1 (0.9)	111 (100.0)
内部障害	2 (4.9)	29 (70.7)	2 (4.9)	3 (7.3)	3 (7.3)	2 (4.9)	41 (100.0)
知的障害	4 (5.3)	55 (72.4)	5 (6.6)	9 (11.8)	0 (0.0)	3 (3.9)	76 (100.0)
精神障害	0 (0.0)	27 (79.4)	3 (8.8)	3 (8.8)	1 (2.9)	0 (0.0)	34 (100.0)
計	27 (6.8)	280 (70.5)	22 (5.5)	50 (12.6)	12 (3.0)	6 (1.5)	397 (100.0)

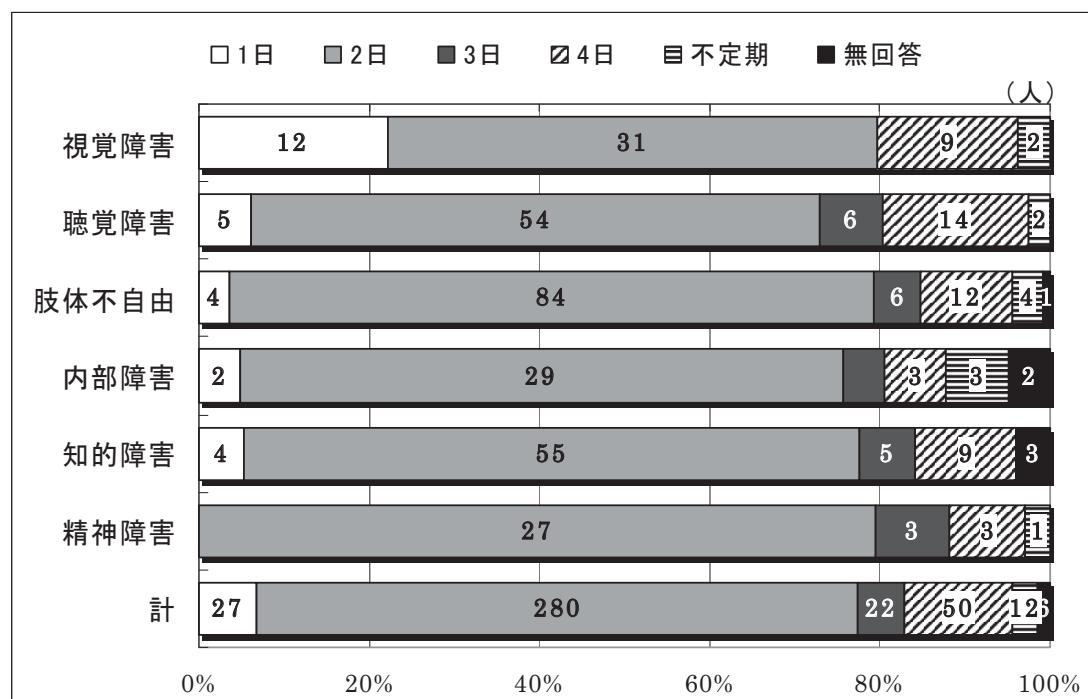


図3-7 1週間当たり休日数の状況

(3) 1ヶ月当たりの給与額（手取り金額：ボーナスを除く）

全体では、「13~25万円」が36.0%と最も多く、次いで「7~13万円」が29.5%と多い。「26万円以上」は22%となっている。障害別にみると、視覚障害及び内部障害において「26~39万円」がそれぞれ31.5%、26.8%と他の障害に比べて多い。また、知的障害及び精神障害では「7~13万円」がそれぞれ69.7%、47.1%と多く、「7万円未満」もそれぞれ17.1%、14.7%と他の障害に比べて多い。

表3-35 1ヶ月当たりの給与額の状況（平成21年6月期）

(人(%))

	7万円未満	7~13万円	13~25万円	26~39万円	40万円以上	無回答	計
視覚障害	3 (5.6)	6 (11.1)	22 (40.7)	17 (31.5)	5 (9.3)	1 (1.9)	54 (100.0)
聴覚障害	6 (7.4)	16 (19.8)	36 (44.4)	13 (16.0)	4 (4.9)	6 (7.4)	81 (100.0)
肢体不自由	7 (6.3)	18 (16.2)	53 (47.7)	24 (21.6)	7 (6.3)	2 (1.8)	111 (100.0)
内部障害	0 (0.0)	8 (19.5)	17 (41.5)	11 (26.8)	4 (9.8)	1 (2.4)	41 (100.0)
知的障害	13 (17.1)	53 (69.7)	8 (10.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (2.6)	76 (100.0)
精神障害	5 (14.7)	16 (47.1)	7 (20.6)	2 (5.9)	2 (5.9)	2 (5.9)	34 (100.0)
計	34 (8.6)	117 (29.5)	143 (36.0)	67 (16.9)	22 (5.5)	14 (3.5)	397 (100.0)

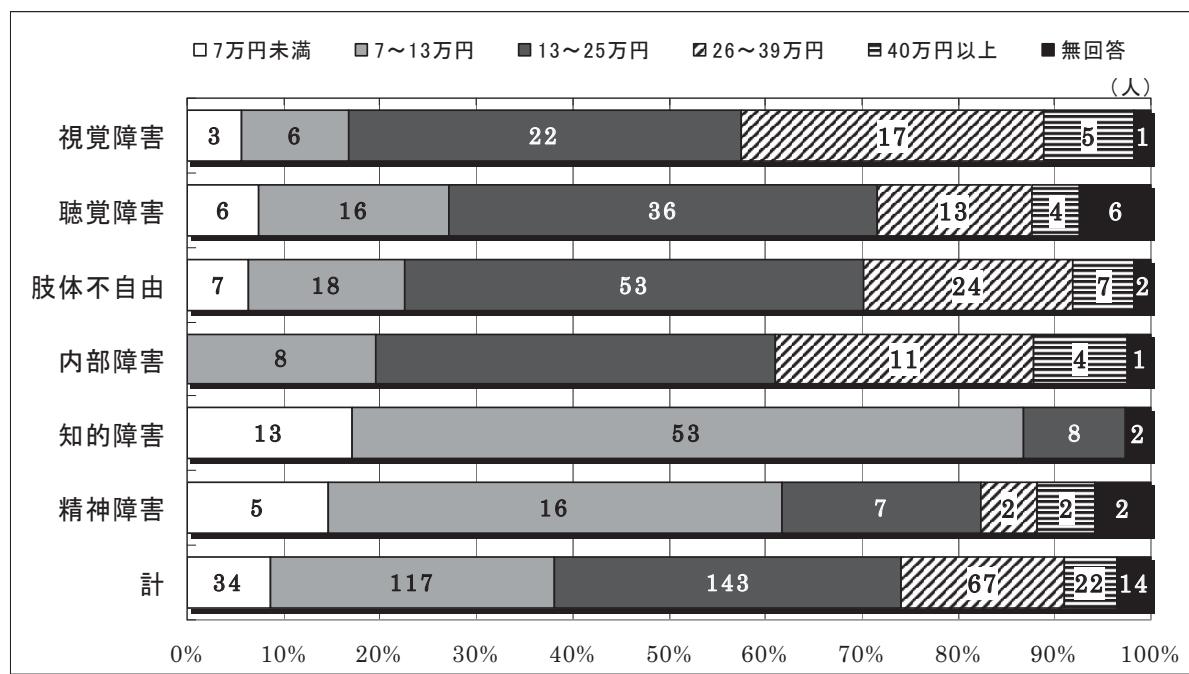


図3-8 1ヶ月当たり給与額の状況

4 通勤

(1) 通勤手段

通勤の際に利用している交通手段に関して複数回答方式により回答を求める、その回答内容から主な交通手段を1つ特定する形式で集計し、表3-36に示した。全体では、「公共交通機関」が43.6%と最も多く、次いで「自動車」が38.3%が多い。障害別にみると、聴覚障害及び肢体不自由、内部障害において「自動車」がそれぞれ50.6%、64.0%、63.4%が多い。また、その他の回答のうち11人が、在宅勤務や自営のため交通手段の利用なしという内容であった。

表3-36 通勤手段の状況

(人(%))

	徒歩	自転車	原付/ バイク	自動車	自動車 (他者運転)	公共交通 機関	その他	無回答	計
視覚障害	9 (16.7)	2 (3.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.9)	35 (64.8)	7 (13.0)	0 (0.0)	54 (100.0)
聴覚障害	1 (1.2)	6 (7.4)	5 (6.2)	41 (50.6)	4 (4.9)	24 (29.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	81 (100.0)
肢体不自由	2 (1.8)	5 (4.5)	0 (0.0)	71 (64.0)	3 (2.7)	25 (22.5)	4 (3.6)	1 (0.9)	111 (100.0)
内部障害	1 (2.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	26 (63.4)	0 (0.0)	13 (31.7)	1 (2.4)	0 (0.0)	41 (100.0)
知的障害	7 (9.2)	7 (9.2)	0 (0.0)	2 (2.6)	2 (2.6)	57 (75.0)	0 (0.0)	1 (1.3)	76 (100.0)
精神障害	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (8.8)	12 (35.3)	0 (0.0)	19 (55.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	34 (100.0)
計	20 (5.0)	20 (5.0)	8 (2.0)	152 (38.3)	10 (2.5)	173 (43.6)	12 (3.0)	2 (0.5)	397 (100.0)

※「その他」回答は、在宅勤務4名、自宅自営7名、電動車椅子1名である

(2) 通勤所要時間（片道）

全体では「30分未満」が41.3%と最も多く、次いで「30分～1時間未満」が35.5%が多い。障害別にみても回答の傾向に大きな差はみられない。

表3-37 通勤所要時間の状況（片道）

(人(%))

	30分未満	30分～ 1時間	1時間～ 1時間30分	1時間30分～ 2時間	2時間以上	通勤なし	無回答	計
視覚障害	18 (33.3)	15 (27.8)	9 (16.7)	4 (7.4)	1 (1.9)	7 (13.0)	0 (0.0)	54 (100.0)
聴覚障害	43 (53.1)	23 (28.4)	13 (16.0)	2 (2.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	81 (100.0)
肢体不自由	52 (46.8)	39 (35.1)	13 (11.7)	3 (2.7)	0 (0.0)	3 (2.7)	1 (0.9)	111 (100.0)
内部障害	19 (46.3)	13 (31.7)	7 (17.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.4)	1 (2.4)	41 (100.0)
知的障害	19 (25.0)	36 (47.4)	12 (15.8)	4 (5.3)	2 (2.6)	0 (0.0)	3 (3.9)	76 (100.0)
精神障害	13 (38.2)	15 (44.1)	6 (17.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	34 (100.0)
計	164 (41.3)	141 (35.5)	60 (15.1)	13 (3.3)	3 (0.8)	11 (2.8)	5 (1.3)	397 (100.0)

※「通勤なし」回答は、在宅勤務、自宅自営の者である

5 会社（自営、内職を含む）の従業員数

全体では「50人～299人」が29.5%と最も多く、次いで「10人～49人」が27.7%が多い。障害別にみると、視覚障害において「1～9人」が37.0%と多く、聴覚障害においては「1000人以上」が25.9%が多い。また、知的障害においては「1～9人」及び「10～49人」がそれぞれ23.7%、40.8%が多い。

表 3-38 会社の従業員数

(人(%))

	1～9人	～49人	～299人	～999人	1000人以上	わからない	無回答	計
視覚障害	20 (37.0)	8 (14.8)	13 (24.1)	4 (7.4)	9 (16.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	54 (100.0)
聴覚障害	7 (8.6)	20 (24.7)	20 (24.7)	12 (14.8)	21 (25.9)	1 (1.2)	0 (0.0)	81 (100.0)
肢体不自由	5 (4.5)	36 (32.4)	41 (36.9)	9 (8.1)	19 (17.1)	1 (0.9)	0 (0.0)	111 (100.0)
内部障害	8 (19.5)	6 (14.6)	12 (29.3)	8 (19.5)	7 (17.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	41 (100.0)
知的障害	18 (23.7)	31 (40.8)	17 (22.4)	3 (3.9)	0 (0.0)	6 (7.9)	1 (1.3)	76 (100.0)
精神障害	1 (2.9)	9 (26.5)	14 (41.2)	1 (2.9)	5 (14.7)	4 (11.8)	0 (0.0)	34 (100.0)
計	59 (14.9)	110 (27.7)	117 (29.5)	37 (9.3)	61 (15.4)	12 (3.0)	1 (0.3)	397 (100.0)

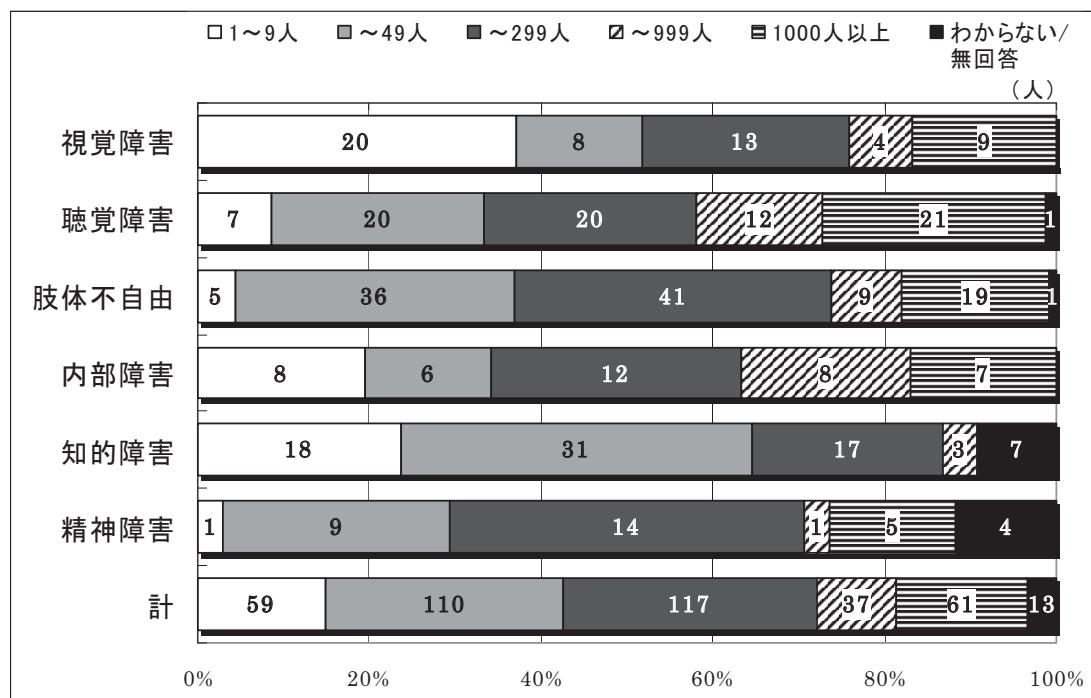


図 3-9 会社の従業員数

6 現在の会社（自営を含む）で仕事をし始めた年齢

全体では各年代間で大きな差はみられない。障害別にみると、視覚障害において「21～25歳」が25.9%と多く、「15～20歳」が3.7%と少ない。また、精神障害においては「41～45歳」及び「36～40歳」がそれぞれ29.4%、23.5%が多い。

表 3-39 現職就職時年齢の状況

(人(%))

	15～20歳	21～25歳	26～30歳	31～35歳	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	無回答	計
視覚障害	2 (3.7)	14 (25.9)	7 (13.0)	8 (14.8)	10 (18.5)	9 (16.7)	1 (1.9)	3 (5.6)	0 (0.0)	54 (100.0)
聴覚障害	18 (22.2)	10 (12.3)	9 (11.1)	11 (13.6)	7 (8.6)	16 (19.8)	8 (9.9)	2 (2.5)	0 (0.0)	81 (100.0)
肢体不自由	9 (8.1)	17 (15.3)	22 (19.8)	15 (13.5)	12 (10.8)	20 (18.0)	12 (10.8)	3 (2.7)	1 (0.9)	111 (100.0)
内部障害	5 (12.2)	6 (14.6)	4 (9.8)	5 (12.2)	5 (12.2)	5 (12.2)	8 (19.5)	3 (7.3)	0 (0.0)	41 (100.0)
知的障害	12 (15.8)	6 (7.9)	5 (6.6)	9 (11.8)	14 (18.4)	11 (14.5)	8 (10.5)	2 (2.6)	9 (11.8)	76 (100.0)
精神障害	3 (8.8)	3 (8.8)	1 (2.9)	1 (2.9)	8 (23.5)	10 (29.4)	6 (17.6)	1 (2.9)	1 (2.9)	34 (100.0)
計	49 (12.3)	56 (14.1)	48 (12.1)	49 (12.3)	56 (14.1)	71 (17.9)	43 (10.8)	14 (3.5)	11 (2.8)	397 (100.0)

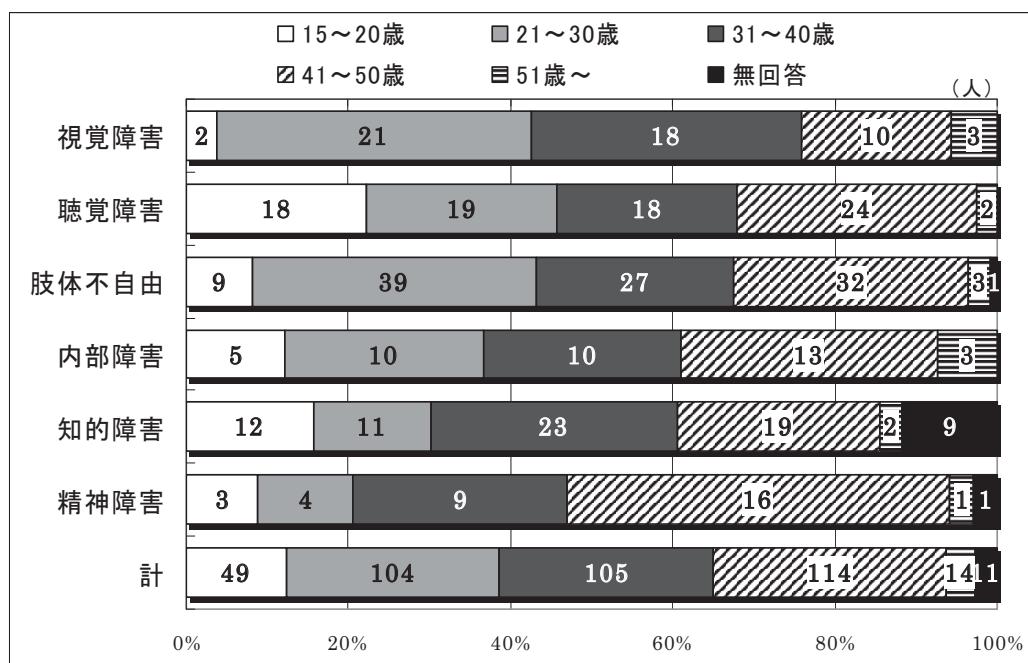


図 3-10 現職就職年齢の分布

7 障害の内容（症状、服薬、休憩等）についての会社への説明

全体では「ほとんどの人に説明」が 59.5%と最も多く、次いで「一部の人に説明」が 27.7%が多い。障害別にみると、精神障害において「ほとんどの人に説明」が 35.3%と少なく、「一部の人に説明」が 58.8%が多い。

表 3-40 障害についての会社への説明の状況

(人(%))

	ほとんどの 人に説明	一部の人 に説明	説明して いない	わからない	無回答	計
視覚障害	37 (68.5)	9 (16.7)	1 (1.9)	1 (1.9)	6 (11.1)	54 (100.0)
聴覚障害	55 (67.9)	20 (24.7)	4 (4.9)	0 (0.0)	2 (2.5)	81 (100.0)
肢体不自由	63 (56.8)	38 (34.2)	7 (6.3)	0 (0.0)	3 (2.7)	111 (100.0)
内部障害	30 (73.2)	11 (26.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	41 (100.0)
知的障害	41 (53.9)	12 (15.8)	11 (14.5)	4 (5.3)	8 (10.5)	76 (100.0)
精神障害	12 (35.3)	20 (58.8)	0 (0.0)	1 (2.9)	1 (2.9)	34 (100.0)
計	238 (59.9)	110 (27.7)	23 (5.8)	6 (1.5)	20 (5.0)	397 (100.0)

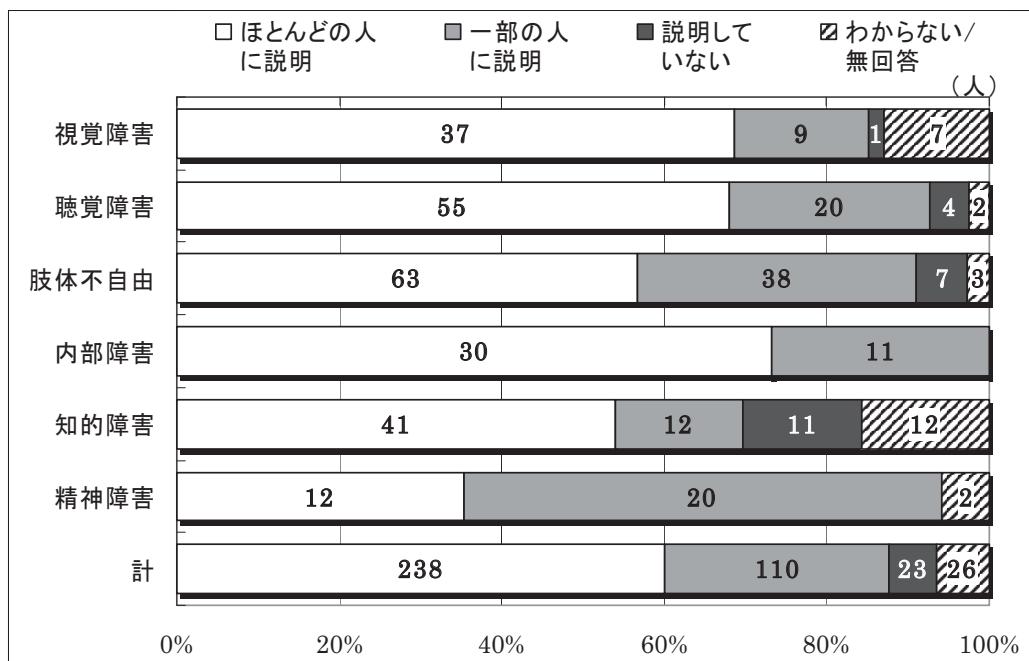


図 3-11 障害についての会社への説明の状況

8 現在の仕事についての満足度

障害ごとの各設問に対する回答の単純集計を表3-41に示した。また、満足度の大まかな傾向をみるため、「満足」と「どちらかといえば満足」を合算し、「不満足」と「どちらかといえば不満足」を合算してグラフ化したものを図3-12に示した。

全体ではいずれの項目においても「満足」及び「どちらかといえば満足」の回答が多い。「満足」と「どちらかといえば満足」を合算した数値は、いずれの項目も50%を超え、「仕事の内容」70.8%、「給与や待遇」52.1%、「職場の人間関係」60.7%、「職場の環境」65.2%となっている。障害別にみると、聴覚障害において満足度の低い傾向がみられ、「満足」と「どちらかといえば満足」を合算した数値は、「仕事の内容」58.0%、「給与や待遇」33.3%、「職場の人間関係」43.2%、「職場の環境」では43.2%となっている。逆に、知的障害においては満足度の高い傾向がみられ、「満足」と「どちらかといえば満足」を合算した数値は、「仕事の内容」78.9%、「給与や待遇」72.4%、「職場の人間関係」73.7%、「職場の環境」では68.4%となっている。

表 3-41 現在の仕事についての満足度

(人(%))

		満足	どちらかといえども満足	左2欄の合計	どちらともいえない	どちらかといえども不満足	不満足	無回答	計
視覚障害	仕事の内容	20 (37.0)	22 (40.7)	42 (77.8)	8 (14.8)	2 (3.7)	2 (3.7)	0 (0.0)	54 (100.0)
	給料や待遇	9 (16.7)	21 (38.9)	30 (55.6)	13 (24.1)	8 (14.8)	3 (5.6)	0 (0.0)	54 (100.0)
	職場の人間関係	16 (29.6)	21 (38.9)	37 (68.5)	8 (14.8)	4 (7.4)	0 (0.0)	5 (9.3)	54 (100.0)
	職場の環境	21 (38.9)	18 (33.3)	39 (72.2)	11 (20.4)	3 (5.6)	1 (1.9)	0 (0.0)	54 (100.0)
聴覚障害	仕事の内容	14 (17.3)	33 (40.7)	47 (58.0)	27 (33.3)	5 (6.2)	2 (2.5)	0 (0.0)	81 (100.0)
	給料や待遇	4 (4.9)	23 (28.4)	27 (33.3)	27 (33.3)	22 (27.2)	5 (6.2)	0 (0.0)	81 (100.0)
	職場の人間関係	6 (7.4)	29 (35.8)	35 (43.2)	29 (35.8)	14 (17.3)	2 (2.5)	1 (1.2)	81 (100.0)
	職場の環境	7 (8.6)	28 (34.6)	35 (43.2)	35 (43.2)	9 (11.1)	2 (2.5)	0 (0.0)	81 (100.0)
肢体不自由	仕事の内容	34 (30.6)	39 (35.1)	73 (65.8)	28 (25.2)	5 (4.5)	3 (2.7)	2 (1.8)	111 (100.0)
	給料や待遇	24 (21.6)	25 (22.5)	49 (44.1)	30 (27.0)	14 (12.6)	12 (10.8)	6 (5.4)	111 (100.0)
	職場の人間関係	26 (23.4)	38 (34.2)	64 (57.7)	27 (24.3)	9 (8.1)	7 (6.3)	4 (3.6)	111 (100.0)
	職場の環境	41 (36.9)	39 (35.1)	80 (72.1)	15 (13.5)	7 (6.3)	4 (3.6)	5 (4.5)	111 (100.0)
内部障害	仕事の内容	15 (36.6)	19 (46.3)	34 (82.9)	5 (12.2)	0 (0.0)	2 (4.9)	0 (0.0)	41 (100.0)
	給料や待遇	8 (19.5)	18 (43.9)	26 (63.4)	6 (14.6)	7 (17.1)	2 (4.9)	0 (0.0)	41 (100.0)
	職場の人間関係	10 (24.4)	17 (41.5)	27 (65.9)	9 (22.0)	4 (9.8)	1 (2.4)	0 (0.0)	41 (100.0)
	職場の環境	12 (29.3)	14 (34.1)	26 (63.4)	9 (22.0)	3 (7.3)	2 (4.9)	1 (2.4)	41 (100.0)
知的障害	仕事の内容	39 (51.3)	21 (27.6)	60 (78.9)	5 (6.6)	5 (6.6)	2 (2.6)	4 (5.3)	76 (100.0)
	給料や待遇	33 (43.4)	22 (28.9)	55 (72.4)	6 (7.9)	4 (5.3)	3 (3.9)	8 (10.5)	76 (100.0)
	職場の人間関係	33 (43.4)	23 (30.3)	56 (73.7)	9 (11.8)	3 (3.9)	2 (2.6)	6 (7.9)	76 (100.0)
	職場の環境	33 (43.4)	19 (25.0)	52 (68.4)	10 (13.2)	4 (5.3)	2 (2.6)	8 (10.5)	76 (100.0)
精神障害	仕事の内容	10 (29.4)	15 (44.1)	25 (73.5)	4 (11.8)	4 (11.8)	0 (0.0)	1 (2.9)	34 (100.0)
	給料や待遇	8 (23.5)	12 (35.3)	20 (58.8)	3 (8.8)	6 (17.6)	3 (8.8)	2 (5.9)	34 (100.0)
	職場の人間関係	7 (20.6)	15 (44.1)	22 (64.7)	7 (20.6)	3 (8.8)	0 (0.0)	2 (5.9)	34 (100.0)
	職場の環境	12 (35.3)	15 (44.1)	27 (79.4)	4 (11.8)	1 (2.9)	0 (0.0)	2 (5.9)	34 (100.0)
計	仕事の内容	132 (33.2)	149 (37.5)	281 (70.8)	77 (19.4)	21 (5.3)	11 (2.8)	7 (1.8)	397 (100.0)
	給料や待遇	86 (21.7)	121 (30.5)	207 (52.1)	85 (21.4)	61 (15.4)	28 (7.1)	16 (4.0)	397 (100.0)
	職場の人間関係	98 (24.7)	143 (36.0)	241 (60.7)	89 (22.4)	37 (9.3)	12 (3.0)	18 (4.5)	397 (100.0)
	職場の環境	126 (31.7)	133 (33.5)	259 (65.2)	84 (21.2)	27 (6.8)	11 (2.8)	16 (4.0)	397 (100.0)

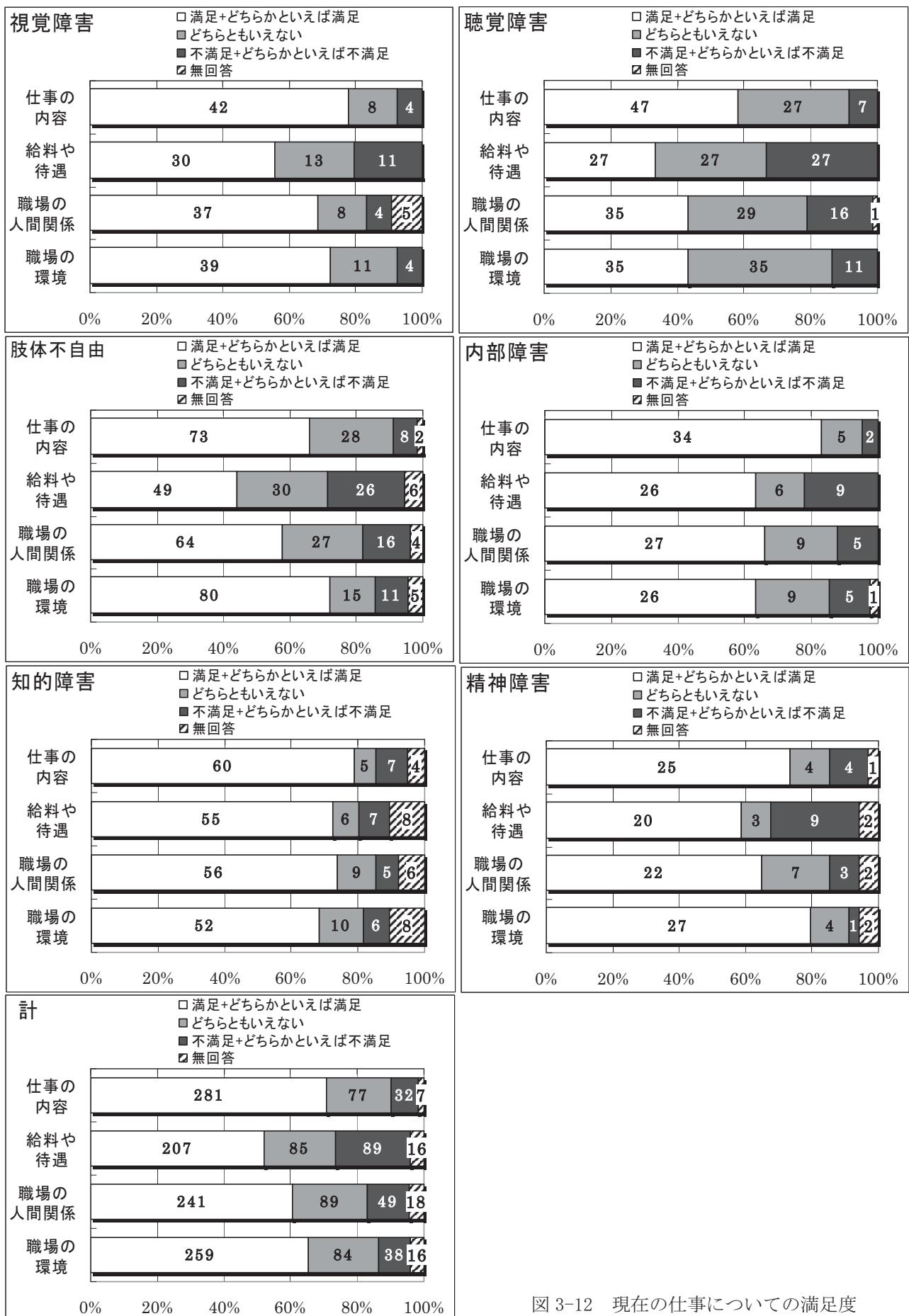


図 3-12 現在の仕事についての満足度

9 仕事に対する今後の考え方

(1) 現在の職場における定年制度等の有無

「あなたの会社では何歳まで働くか決まっていますか」の問を設け、「決まっている」、「決まっていない（わからない、自営業等の場合を含む）」の選択式により回答を求めた。

全体では「働く年齢が決まっている」が 66.0%と多い。障害別にみると、視覚障害、知的障害及び精神障害において「働く年齢が決まっている」はそれぞれ 59.3%、50.0%、38.2%と他障害に比べて少ない傾向にある。

表 3-42 現在の職場で働く年齢が決まっているか

(人(%))

	働く年齢が決まっている	働く年齢が決まっていない	無回答	計
視覚障害	32 (59.3)	22 (40.7)	0 (0.0)	54 (100.0)
聴覚障害	59 (72.8)	21 (25.9)	1 (1.2)	81 (100.0)
肢体不自由	89 (80.2)	21 (18.9)	1 (0.9)	111 (100.0)
内部障害	31 (75.6)	10 (24.4)	0 (0.0)	41 (100.0)
知的障害	38 (50.0)	34 (44.7)	4 (5.3)	76 (100.0)
精神障害	13 (38.2)	20 (58.8)	1 (2.9)	34 (100.0)
計	262 (66.0)	128 (32.2)	7 (1.8)	397 (100.0)

イ 「働く年齢が決まっている」と回答した者の仕事の継続に関する考え方

「働く年齢が決まっている」と回答した 262 人に対しては、その年齢（定年後の再雇用などで働く場合はもっとも高い年齢）についても質問をし、さらにその年齢を基準にどの年齢まで仕事を続けたいかを質問した。その集計結果を表 3-43、表 3-44 に示した。

現在の会社で働く年齢についての集計に際しては、定年制度の年齢で一般的に多い「60 歳」及び「65 歳」はその年齢のみで単一の分類とし、他の年齢は「59 歳以下」、「61～64 歳」、「66 歳以上」で分類した。全体では、「60 歳」が 54.2%と最も多く、次いで「65 歳」が 30.2%と多い。障害別にみると、知的障害において「65 歳」の割合が 18.4%と他の障害に比べて少ない。

表 3-43 現在の職場における働く年齢

(人(%))

	～59歳	60歳	61～64歳	65歳	66歳～	無回答	計
視覚障害	0 (0.0)	15 (46.9)	5 (15.6)	11 (34.4)	0 (0.0)	1 (3.1)	32 (100.0)
聴覚障害	1 (1.7)	40 (67.8)	3 (5.1)	14 (23.7)	0 (0.0)	1 (1.7)	59 (100.0)
肢体不自由	1 (1.1)	46 (51.7)	7 (7.9)	29 (32.6)	5 (5.6)	1 (1.1)	89 (100.0)
内部障害	0 (0.0)	13 (41.9)	5 (16.1)	13 (41.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	31 (100.0)
知的障害	3 (7.9)	23 (60.5)	1 (2.6)	7 (18.4)	2 (5.3)	2 (5.3)	38 (100.0)
精神障害	0 (0.0)	5 (38.5)	2 (15.4)	5 (38.5)	1 (7.7)	0 (0.0)	13 (100.0)
計	5 (1.9)	142 (54.2)	23 (8.8)	79 (30.2)	8 (3.1)	5 (1.9)	262 (100.0)

どの年齢まで仕事を続けたいかに関して、全体では、「決まっている年齢まで働きたい」の回答が 37.0% と最も多く、次いで「決まっているより年齢よりも前に仕事をやめたい」が 24.0%、「決まっている年齢以降も働きたい」が 21.8% である。障害別にみると、視覚障害において「決まっているより前に仕事をやめたい」が 46.9% と多く、逆に、知的障害及び精神障害においては「決まっているより年齢よりも前に仕事をやめたい」がそれぞれ 5.3%、7.7% と少ない。

表 3-44 仕事を続けたい年齢（会社で決まっている年齢を基準として）

(人 (%))

	決まっている年齢 よりも前に仕事を やめたい	決まっている年齢 まで働きたい	決まっている年齢 以降も働きたい	その他	無回答	計
視覚障害	15 (46.9)	8 (25.0)	9 (28.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	32 (100.0)
聴覚障害	10 (16.9)	25 (42.4)	14 (23.7)	2 (3.4)	8 (13.6)	59 (100.0)
肢体不自由	27 (30.3)	30 (33.7)	16 (18.0)	4 (4.5)	12 (13.5)	89 (100.0)
内部障害	8 (25.8)	14 (45.2)	4 (12.9)	2 (6.5)	3 (9.7)	31 (100.0)
知的障害	2 (5.3)	13 (34.2)	11 (28.9)	2 (5.3)	10 (26.3)	38 (100.0)
精神障害	1 (7.7)	7 (53.8)	3 (23.1)	0 (0.0)	2 (15.4)	13 (100.0)
計	63 (24.0)	97 (37.0)	57 (21.8)	10 (3.8)	35 (13.4)	262 (100.0)

*その他回答には、「わからない」、「年齢は関係なく体力の続くまで」といった内容が含まれる

□ 「働ける年齢が決まっていない」と回答した対象者の仕事の継続に関する考え方

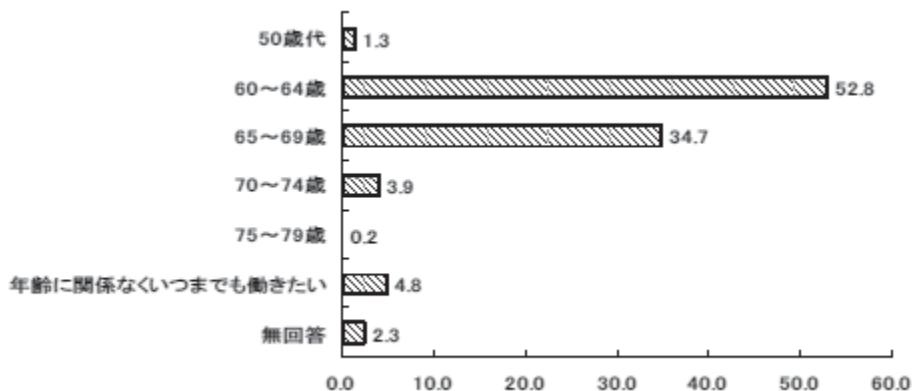
「働ける年齢が決まっていない」と回答した 128 人に対しては、何歳まで仕事を続けたいかを質問（自由記述形式）をした。全体では、一般的な定年退職年齢である「60～65 歳」が 64.1% と最も多く、「～59 歳」は 11.7% と少ない。障害別にみると、視覚障害において「66 歳以上」が 45.5% と他の障害に比べて多い。

表 3-45 仕事を続けたい年齢（「働く年齢が決まっていない」対象者の回答）

(人(%))

	～59歳	60～65歳	66歳以上	わからない	働くまで	無回答	計
視覚障害	1 (4.5)	8 (36.4)	10 (45.5)	1 (4.5)	1 (4.5)	1 (4.5)	22 (100.0)
聴覚障害	5 (23.8)	12 (57.1)	2 (9.5)	1 (4.8)	0 (0.0)	1 (4.8)	21 (100.0)
肢体不自由	3 (14.3)	16 (76.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (9.5)	0 (0.0)	21 (100.0)
内部障害	1 (10.0)	7 (70.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	1 (10.0)	0 (0.0)	10 (100.0)
知的障害	3 (8.8)	22 (64.7)	6 (17.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (8.8)	34 (100.0)
精神障害	2 (10.0)	17 (85.0)	1 (5.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	20 (100.0)
計	15 (11.7)	82 (64.1)	20 (15.6)	2 (1.6)	4 (3.1)	5 (3.9)	128 (100.0)

【参考 4】 収入のある仕事から引退しようと考えている年齢 (n=2,671、単位%)



(資料出所) (独) 労働政策研究・研修機構「60歳以降の継続雇用と職業生活に関する調査」

(平成 19 年 2 月)

57～59 歳の正社員アンケート調査

(2) 現在の仕事の継続意思

全体では「今の仕事を続けたい」が 63.0% と最も多く、「別の仕事をしたい」は 13% と少ない。障害別にみると、視覚障害及び知的障害において「今の仕事を続けたい」がそれぞれ 74.1%、68.4% と多く、聴覚障害においては「別の仕事をしたい」が他障害に比べて 24.7% 多い。

表 3-46 現在の仕事の継続意思

(人(%))

	今の仕事を続けたい	別の仕事をしたい	わからない	無回答	計
視覚障害	40 (74.1)	4 (7.4)	7 (13.0)	3 (5.6)	54 (100.0)
聴覚障害	45 (55.6)	20 (24.7)	10 (12.3)	6 (7.4)	81 (100.0)
肢体力不自由	69 (62.2)	15 (13.5)	16 (14.4)	11 (9.9)	111 (100.0)
内部障害	24 (58.5)	5 (12.2)	7 (17.1)	5 (12.2)	41 (100.0)
知的障害	52 (68.4)	3 (3.9)	6 (7.9)	15 (19.7)	76 (100.0)
精神障害	20 (58.8)	5 (14.7)	7 (20.6)	2 (5.9)	34 (100.0)
計	250 (63.0)	52 (13.1)	53 (13.4)	42 (10.6)	397 (100.0)

10 仕事の掛け持ち

全体では、「仕事の掛け持ちをしていない」が 90.2%と大多数を占める。障害別にみても回答の傾向に大きな差はなく、「仕事の掛け持ちをしていない」が大多数を占める。

表 3-47 仕事の掛け持ちの状況

(人(%))

	掛け持ち している	掛け持ち していない	無回答	計
視覚障害	7 (13.0)	46 (85.2)	1 (1.9)	54 (100.0)
聴覚障害	8 (9.9)	69 (85.2)	4 (4.9)	81 (100.0)
肢体不自由	6 (5.4)	104 (93.7)	1 (0.9)	111 (100.0)
内部障害	1 (2.4)	40 (97.6)	0 (0.0)	41 (100.0)
知的障害	1 (1.3)	68 (89.5)	7 (9.2)	76 (100.0)
精神障害	0 (0.0)	31 (91.2)	3 (8.8)	34 (100.0)
計	23 (5.8)	358 (90.2)	16 (4.0)	397 (100.0)

第3節 生活に関する事項

1 過去2年間の仕事に関して困ったときの相談・利用先(複数回答)

全体では「上司・同僚」が37.0%と最も多く、次いで「配偶者」が20.9%、「母親」が19.7%、「知人・友人」が19.5%と多い。公的機関では「ハローワーク」及び「就業・生活支援センター」が共に8.9%と最も多いが、前述の上司・同僚等と比較すると利用率は低い。障害別にみると、聴覚障害において「配偶者」及び「知人・友人」、「ハローワーク」がそれぞれ34.1%、30.5%、14.6%と他の障害に比べて多い。知的障害においては「父親」及び「母親」、「就業・生活支援センター」が19.7%、34.2%、27.6%と他の障害に比べて多い。また、精神障害においては「就業・生活支援センター」及び「病院・診療所」が32.4%、40.5%と他の障害に比べて多い。

表3-48 仕事に関して困ったときの相談・利用先(複数回答)

	配偶者	子ども	父親	母親	兄弟姉妹	上司 同僚	知人 友人	障害者 相談員	
視覚障害	10 (17.9)	3 (5.4)	2 (3.6)	5 (8.9)	1 (1.8)	20 (35.7)	15 (26.8)	0 (0.0)	
聴覚障害	28 (34.1)	1 (1.2)	6 (7.3)	13 (15.9)	5 (6.1)	35 (42.7)	25 (30.5)	2 (2.4)	
肢体不自由	31 (25.2)	5 (4.1)	10 (8.1)	21 (17.1)	5 (4.1)	53 (43.1)	25 (20.3)	2 (1.6)	
内部障害	11 (26.2)	1 (2.4)	4 (9.5)	4 (9.5)	2 (4.8)	15 (35.7)	7 (16.7)	0 (0.0)	
知的障害	2 (2.6)	0 (0.0)	15 (19.7)	26 (34.2)	5 (6.6)	15 (19.7)	5 (6.6)	10 (13.2)	
精神障害	5 (13.5)	1 (2.7)	7 (18.9)	13 (35.1)	5 (13.5)	16 (43.2)	4 (10.8)	5 (13.5)	
計	87 (20.9)	11 (2.6)	44 (10.6)	82 (19.7)	23 (5.5)	154 (37.0)	81 (19.5)	19 (4.6)	(人(%))

	ハロー ワーク	地域障害者 職業 センター	就業・ 生活支援 センター	相談支援 事業者	病院 診療所	保健所 福祉事務所	その他	相談利用 なし	対象者数
視覚障害	2 (3.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.8)	1 (1.8)	0 (0.0)	1 (1.8)	20 (35.7)	56 (100.0)
聴覚障害	12 (14.6)	1 (1.2)	1 (1.2)	0 (0.0)	3 (3.7)	2 (2.4)	4 (4.9)	17 (20.7)	82 (100.0)
肢体不自由	8 (6.5)	2 (1.6)	3 (2.4)	0 (0.0)	11 (8.9)	1 (0.8)	0 (0.0)	35 (28.5)	123 (100.0)
内部障害	3 (7.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	12 (28.6)	42 (100.0)
知的障害	8 (10.5)	6 (7.9)	21 (27.6)	4 (5.3)	3 (3.9)	1 (1.3)	3 (3.9)	14 (18.4)	76 (100.0)
精神障害	4 (10.8)	15 (40.5)	12 (32.4)	2 (5.4)	15 (40.5)	1 (2.7)	2 (5.4)	2 (5.4)	37 (100.0)
計	37 (8.9)	24 (5.8)	37 (8.9)	7 (1.7)	35 (8.4)	5 (1.2)	10 (2.4)	100 (24.0)	416 (100.0)

※「その他」回答の内容：

- 視覚障害 「当事者組織」
- 聴覚障害 「手話通訳者」、「当事者組織」
- 知的障害 「グループホーム職員」、「成年後見人」
- 精神障害 「社会復帰保護観察官」、「親族」

2 障害に関する年金の受給

全体では障害年金を「受給している」が 76.2%と多い。障害別にみると、聴覚障害において「受給している」が 92.7%と他の障害に比べて多く、精神障害においては「受給していない」が 45.9%と多い。

表 3-49 障害に関する年金の受給状況

(人(%))

	受給している	受給していない	わからない	無回答	計
視覚障害	42 (75.0)	13 (23.2)	0 (0.0)	1 (1.8)	56 (100.0)
聴覚障害	76 (92.7)	5 (6.1)	0 (0.0)	1 (1.2)	82 (100.0)
肢体不自由	91 (74.0)	30 (24.4)	0 (0.0)	2 (1.6)	123 (100.0)
内部障害	29 (69.0)	13 (31.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	42 (100.0)
知的障害	59 (77.6)	13 (17.1)	2 (2.6)	2 (2.6)	76 (100.0)
精神障害	20 (54.1)	17 (45.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	37 (100.0)
計	317 (76.2)	91 (21.9)	2 (0.5)	6 (1.4)	416 (100.0)

3 生活のための収入源

全体では「「年金」と「働いて得る収入」を合わせて生活している」が 47.8%と最も多い。障害別にみると、内部障害において「「働いて得る収入」だけ」が 31.0%と他の障害に比べて多く、聴覚障害においては「「年金」と「働いて得る収入」」が 67.1%と多い。

表 3-50 生活のための収入源の状況

(人(%))

	「年金」だけ	「家族などの支援」だけ	「働いて得る収入」だけ	「年金」と「家族などの支援」	「年金」と「働いて得る収入」	
視覚障害	1 (1.8)	0 (0.0)	12 (21.4)	2 (3.6)	32 (57.1)	
聴覚障害	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (11.0)	2 (2.4)	55 (67.1)	
肢体不自由	1 (0.8)	0 (0.0)	26 (21.1)	6 (4.9)	50 (40.7)	
内部障害	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (31.0)	1 (2.4)	18 (42.9)	
知的障害	0 (0.0)	3 (3.9)	14 (18.4)	0 (0.0)	35 (46.1)	
精神障害	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (24.3)	2 (5.4)	9 (24.3)	
計	2 (0.5)	3 (0.7)	83 (20.0)	13 (3.1)	199 (47.8)	
	「家族などの支援」と「働いて得る収入」	「年金」と「家族などの支援」と「働いて得る収入」	その他(非就業)	わからない	無回答	計
視覚障害	3 (5.4)	6 (10.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	56 (100.0)
聴覚障害	2 (2.4)	11 (13.4)	0 (0.0)	2 (2.4)	1 (1.2)	82 (100.0)
肢体不自由	11 (8.9)	22 (17.9)	3 (2.4)	0 (0.0)	4 (3.3)	123 (100.0)
内部障害	2 (4.8)	6 (14.3)	1 (2.4)	0 (0.0)	1 (2.4)	42 (100.0)
知的障害	6 (7.9)	13 (17.1)	2 (2.6)	0 (0.0)	3 (3.9)	76 (100.0)
精神障害	6 (16.2)	7 (18.9)	4 (10.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	37 (100.0)
計	30 (7.2)	65 (15.6)	10 (2.4)	2 (0.5)	9 (2.2)	416 (100.0)

4 過去2年間の経済的に困ったときの相談・利用先

全体では、「相談利用なし」が50.7%と最も多く、次いで「母親」が18.5%、「配偶者」が15.1%が多い。公的機関の利用率は全般的に低く、公的機関の中で最も利用率の高い「就業・生活支援センター」でも3.1%と低い数値であった。障害別にみると、聴覚障害においては「配偶者」が32.9%と多く、精神障害においては「母親」及び「兄弟姉妹」、「就業・生活支援センター」がそれぞれ27.0%、21.6%、13.5%と他の障害に比べて多い。

表3-51 経済的に困ったときの相談・利用先（複数回答）

	配偶者	子ども	父親	母親	兄弟姉妹	上司 同僚	知人 友人	障害者 相談員
視覚障害	8 (14.3)	1 (1.8)	2 (3.6)	4 (7.1)	1 (1.8)	1 (1.8)	2 (3.6)	0 (0.0)
聴覚障害	27 (32.9)	1 (1.2)	7 (8.5)	14 (17.1)	6 (7.3)	6 (7.3)	11 (13.4)	2 (2.4)
肢体不自由	17 (13.8)	3 (2.4)	7 (5.7)	15 (12.2)	7 (5.7)	5 (4.1)	5 (4.1)	0 (0.0)
内部障害	7 (16.7)	0 (0.0)	4 (9.5)	8 (19.0)	2 (4.8)	1 (2.4)	3 (7.1)	0 (0.0)
知的障害	2 (2.6)	0 (0.0)	14 (18.4)	26 (34.2)	6 (7.9)	3 (3.9)	3 (3.9)	8 (10.5)
精神障害	2 (5.4)	1 (2.7)	6 (16.2)	10 (27.0)	8 (21.6)	1 (2.7)	4 (10.8)	1 (2.7)
計	63 (15.1)	6 (1.4)	40 (9.6)	77 (18.5)	30 (7.2)	17 (4.1)	28 (6.7)	11 (2.6) (人(%))

	ハロー ワーク	地域障害者 職業 センター	就業・ 生活支援 センター	相談支援 事業者	病院 診療所	保健所 福祉事務所	その他	相談利用 なし	対象者数
視覚障害	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.8)	39 (69.6)	56 (100.0)
聴覚障害	4 (4.9)	1 (1.2)	1 (1.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (1.2)	1 (1.2)	35 (42.7)	82 (100.0)
肢体不自由	3 (2.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.8)	2 (1.6)	0 (0.0)	2 (1.6)	79 (64.2)	123 (100.0)
内部障害	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.4)	1 (2.4)	25 (59.5)	42 (100.0)
知的障害	1 (1.3)	1 (1.3)	7 (9.2)	4 (5.3)	2 (2.6)	2 (2.6)	6 (7.9)	20 (26.3)	76 (100.0)
精神障害	2 (5.4)	2 (5.4)	5 (13.5)	1 (2.7)	4 (10.8)	2 (5.4)	1 (2.7)	13 (35.1)	37 (100.0)
計	10 (2.4)	4 (1.0)	13 (3.1)	6 (1.4)	8 (1.9)	6 (1.4)	12 (2.9)	211 (50.7)	416 (100.0)

※「その他」回答の内容：

- 視覚障害 「消費者センター」
- 聴覚障害 「当事者組織」
- 肢体不自由 「親族」、「年金センター」
- 内部障害 「生命保険会社」
- 知的障害 「グループホーム職員」、「成年後み人」
- 精神障害 「社会復帰保護観察官」

第4節 仕事や生活に対する意識に関する事項

1 仕事をする上で重要なこと

全体では、いずれの項目においても「重要」及び「どちらかといえば重要」の回答が多い。「重要」と「どちらかといえば重要」を合算した数値は、いずれの項目も80%を超え、「賃金や給与」90.1%、「自分の能力・経験」84.4%、「仕事の内容」82.9%、「職場の環境整備」83.2%、「勤務時間や休日」81.7%、「仕事仲間との人間関係」83.2%となっている。

表 3-52 仕事をする上で重要なこと

(人(%))

		重要	どちらかといえれば重要	左2欄の合計	どちらともいえない	どちらかといえれば重要でない	重要でない	無回答	計
視覚障害	賃金や給料	39 (69.6)	13 (23.2)	52 (92.9)	1 (1.8)	0 (0.0)	2 (3.6)	1 (1.8)	56 (100.0)
	自分の能力・経験	44 (78.6)	10 (17.9)	54 (96.4)	1 (1.8)	0 (0.0)	1 (1.8)	0 (0.0)	56 (100.0)
	仕事の内容	49 (87.5)	5 (8.9)	54 (96.4)	1 (1.8)	0 (0.0)	1 (1.8)	0 (0.0)	56 (100.0)
	職場の環境整備	27 (48.2)	25 (44.6)	52 (92.9)	2 (3.6)	0 (0.0)	1 (1.8)	1 (1.8)	56 (100.0)
	勤務時間や休日	26 (46.4)	19 (33.9)	45 (80.4)	7 (12.5)	1 (1.8)	2 (3.6)	1 (1.8)	56 (100.0)
	職場仲間との人間関係	33 (58.9)	15 (26.8)	48 (85.7)	4 (7.1)	0 (0.0)	1 (1.8)	3 (5.4)	56 (100.0)
聴覚障害	賃金や給料	48 (58.5)	22 (26.8)	70 (85.4)	8 (9.8)	2 (2.4)	0 (0.0)	2 (2.4)	82 (100.0)
	自分の能力・経験	44 (53.7)	24 (29.3)	68 (82.9)	11 (13.4)	1 (1.2)	0 (0.0)	2 (2.4)	82 (100.0)
	仕事の内容	36 (43.9)	33 (40.2)	69 (84.1)	9 (11.0)	2 (2.4)	0 (0.0)	2 (2.4)	82 (100.0)
	職場の環境整備	36 (43.9)	24 (29.3)	60 (73.2)	18 (22.0)	2 (2.4)	0 (0.0)	2 (2.4)	82 (100.0)
	勤務時間や休日	42 (51.2)	20 (24.4)	62 (75.6)	16 (19.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (4.9)	82 (100.0)
	職場仲間との人間関係	35 (42.7)	30 (36.6)	65 (79.3)	10 (12.2)	4 (4.9)	0 (0.0)	3 (3.7)	82 (100.0)
肢体不自由	賃金や給料	85 (69.1)	28 (22.8)	113 (91.9)	7 (5.7)	1 (0.8)	1 (0.8)	1 (0.8)	123 (100.0)
	自分の能力・経験	65 (52.8)	39 (31.7)	104 (84.6)	17 (13.8)	0 (0.0)	2 (1.6)	0 (0.0)	123 (100.0)
	仕事の内容	64 (52.0)	34 (27.6)	98 (79.7)	22 (17.9)	1 (0.8)	2 (1.6)	0 (0.0)	123 (100.0)
	職場の環境整備	67 (54.5)	36 (29.3)	103 (83.7)	15 (12.2)	4 (3.3)	1 (0.8)	0 (0.0)	123 (100.0)
	勤務時間や休日	63 (51.2)	41 (33.3)	104 (84.6)	13 (10.6)	4 (3.3)	2 (1.6)	0 (0.0)	123 (100.0)
	職場仲間との人間関係	67 (54.5)	37 (30.1)	104 (84.6)	13 (10.6)	0 (0.0)	4 (3.3)	2 (1.6)	123 (100.0)
内部障害	賃金や給料	23 (54.8)	15 (35.7)	38 (90.5)	4 (9.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	42 (100.0)
	自分の能力・経験	19 (45.2)	16 (38.1)	35 (83.3)	5 (11.9)	1 (2.4)	1 (2.4)	0 (0.0)	42 (100.0)
	仕事の内容	18 (42.9)	16 (38.1)	34 (81.0)	5 (11.9)	2 (4.8)	1 (2.4)	0 (0.0)	42 (100.0)
	職場の環境整備	12 (28.6)	22 (52.4)	34 (81.0)	7 (16.7)	1 (2.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	42 (100.0)
	勤務時間や休日	15 (35.7)	19 (45.2)	34 (81.0)	7 (16.7)	1 (2.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	42 (100.0)
	職場仲間との人間関係	19 (45.2)	17 (40.5)	36 (85.7)	5 (11.9)	1 (2.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	42 (100.0)
知的障害	賃金や給料	61 (80.3)	7 (9.2)	68 (89.5)	2 (2.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	6 (7.9)	76 (100.0)
	自分の能力・経験	50 (65.8)	12 (15.8)	62 (81.6)	4 (5.3)	0 (0.0)	1 (1.3)	9 (11.8)	76 (100.0)
	仕事の内容	48 (63.2)	13 (17.1)	61 (80.3)	5 (6.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	10 (13.2)	76 (100.0)
	職場の環境整備	51 (67.1)	13 (17.1)	64 (84.2)	4 (5.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	8 (10.5)	76 (100.0)
	勤務時間や休日	52 (68.4)	11 (14.5)	63 (82.9)	4 (5.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	9 (11.8)	76 (100.0)
	職場仲間との人間関係	49 (64.5)	9 (11.8)	58 (76.3)	6 (7.9)	1 (1.3)	0 (0.0)	11 (14.5)	76 (100.0)
精神障害	賃金や給料	27 (73.0)	7 (18.9)	34 (91.9)	1 (2.7)	1 (2.7)	0 (0.0)	1 (2.7)	37 (100.0)
	自分の能力・経験	17 (45.9)	11 (29.7)	28 (75.7)	5 (13.5)	2 (5.4)	1 (2.7)	1 (2.7)	37 (100.0)
	仕事の内容	16 (43.2)	13 (35.1)	29 (78.4)	7 (18.9)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.7)	37 (100.0)
	職場の環境整備	18 (48.6)	15 (40.5)	33 (89.2)	2 (5.4)	1 (2.7)	0 (0.0)	1 (2.7)	37 (100.0)
	勤務時間や休日	23 (62.2)	9 (24.3)	32 (86.5)	3 (8.1)	1 (2.7)	0 (0.0)	1 (2.7)	37 (100.0)
	職場仲間との人間関係	24 (64.9)	11 (29.7)	35 (94.6)	1 (2.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.7)	37 (100.0)
計	賃金や給料	283 (68.0)	92 (22.1)	375 (90.1)	23 (5.5)	4 (1.0)	3 (0.7)	11 (2.6)	416 (100.0)
	自分の能力・経験	239 (57.5)	112 (26.9)	351 (84.4)	43 (10.3)	4 (1.0)	6 (1.4)	12 (2.9)	416 (100.0)
	仕事の内容	231 (55.5)	114 (27.4)	345 (82.9)	49 (11.8)	5 (1.2)	4 (1.0)	13 (3.1)	416 (100.0)
	職場の環境整備	211 (50.7)	135 (32.5)	346 (83.2)	48 (11.5)	8 (1.9)	2 (0.5)	12 (2.9)	416 (100.0)
	勤務時間や休日	221 (53.1)	119 (28.6)	340 (81.7)	50 (12.0)	7 (1.7)	4 (1.0)	15 (3.6)	416 (100.0)
	職場仲間との人間関係	227 (54.6)	119 (28.6)	346 (83.2)	39 (9.4)	6 (1.4)	5 (1.2)	20 (4.8)	416 (100.0)

2 働きつづけるための会社や会社の人への配慮して欲しいこと

(1) 自分が仕事をする上で必要なこと（複数回答）

全体では「まわりに仕事やコミュニケーションを援助してくれる人を配置すること」が 43.5%と最も多く、次いで「作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること」が 39.9%、「体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること」が 32.2%、「作業のスピードや仕事の量を障害に合わせること」が 31.0%となっている。障害別にみると、聴覚障害において「まわりに仕事やコミュニケーションを援助してくれる人を配置すること」が 69.5%と多く、内部障害及び精神障害においては「体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること」がそれぞれ 59.5%、45.9%が多い。また、知的障害においては「作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること」が 60.5%、「まわりに仕事やコミュニケーションを援助してくれる人を配置すること」が 55.3%が多い。

表 3-53 自分が仕事をする上で必要なこと（複数回答）

(人(%))

	くし作 すた業 る手 こと仕 事を をか やり りや やす すく	量作 業の 害ス にピ 一わド せや る仕 事との 事と の	設作 業を 障の 害ス にピ 一わド せや る仕 事との 事と の	通勤 の便 宜を 図る こと	れケ ま ー シ リ に 仕 事 を 援 助 す る こ と と の く ニ	る勤 体 力と 時 間 や 休 み を 合 わ せ て 、 調 整 す 、	配安 全を や す く 健 康 管 理 に 特 別 の	対象者数
視覚障害	20 (35.7)	15 (26.8)	21 (37.5)	8 (14.3)	20 (35.7)	14 (25.0)	15 (26.8)	56 (100.0)
聴覚障害	29 (35.4)	11 (13.4)	24 (29.3)	0 (0.0)	57 (69.5)	18 (22.0)	15 (18.3)	82 (100.0)
肢体不自由	45 (36.6)	44 (35.8)	37 (30.1)	23 (18.7)	33 (26.8)	49 (39.8)	41 (33.3)	123 (100.0)
内部障害	7 (16.7)	6 (14.3)	6 (14.3)	6 (14.3)	9 (21.4)	25 (59.5)	12 (28.6)	42 (100.0)
知的障害	46 (60.5)	37 (48.7)	10 (13.2)	7 (9.2)	42 (55.3)	11 (14.5)	15 (19.7)	76 (100.0)
精神障害	19 (51.4)	16 (43.2)	7 (18.9)	5 (13.5)	20 (54.1)	17 (45.9)	13 (35.1)	37 (100.0)
計	166 (39.9)	129 (31.0)	105 (25.2)	49 (11.8)	181 (43.5)	134 (32.2)	111 (26.7)	416 (100.0)

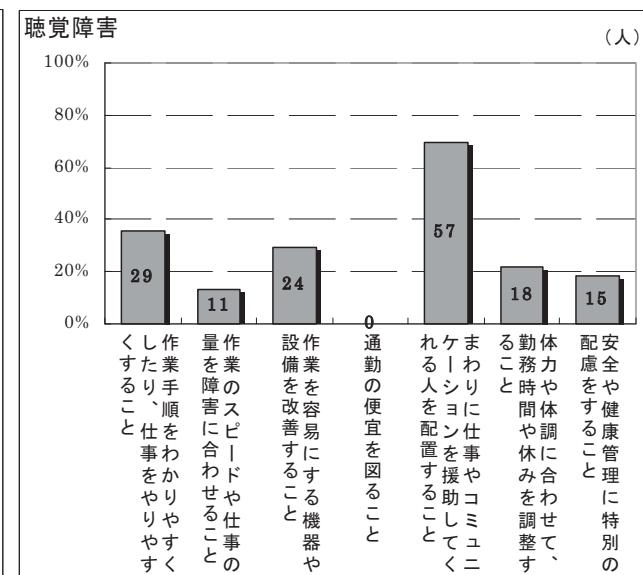
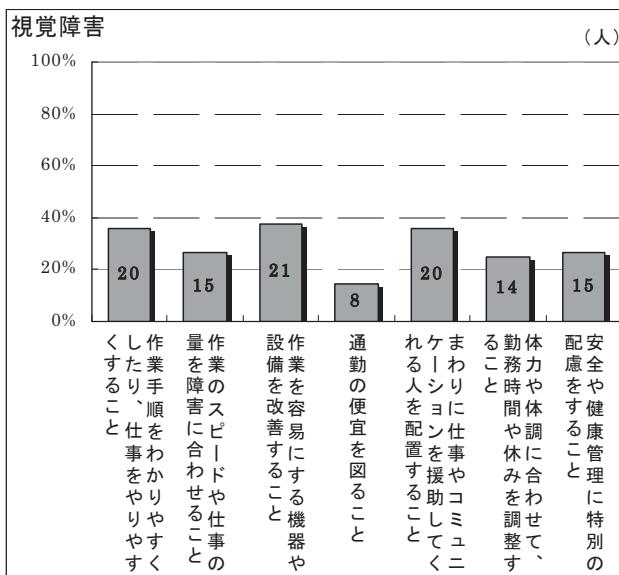


図 3-13 自分が仕事をする上で必要なこと

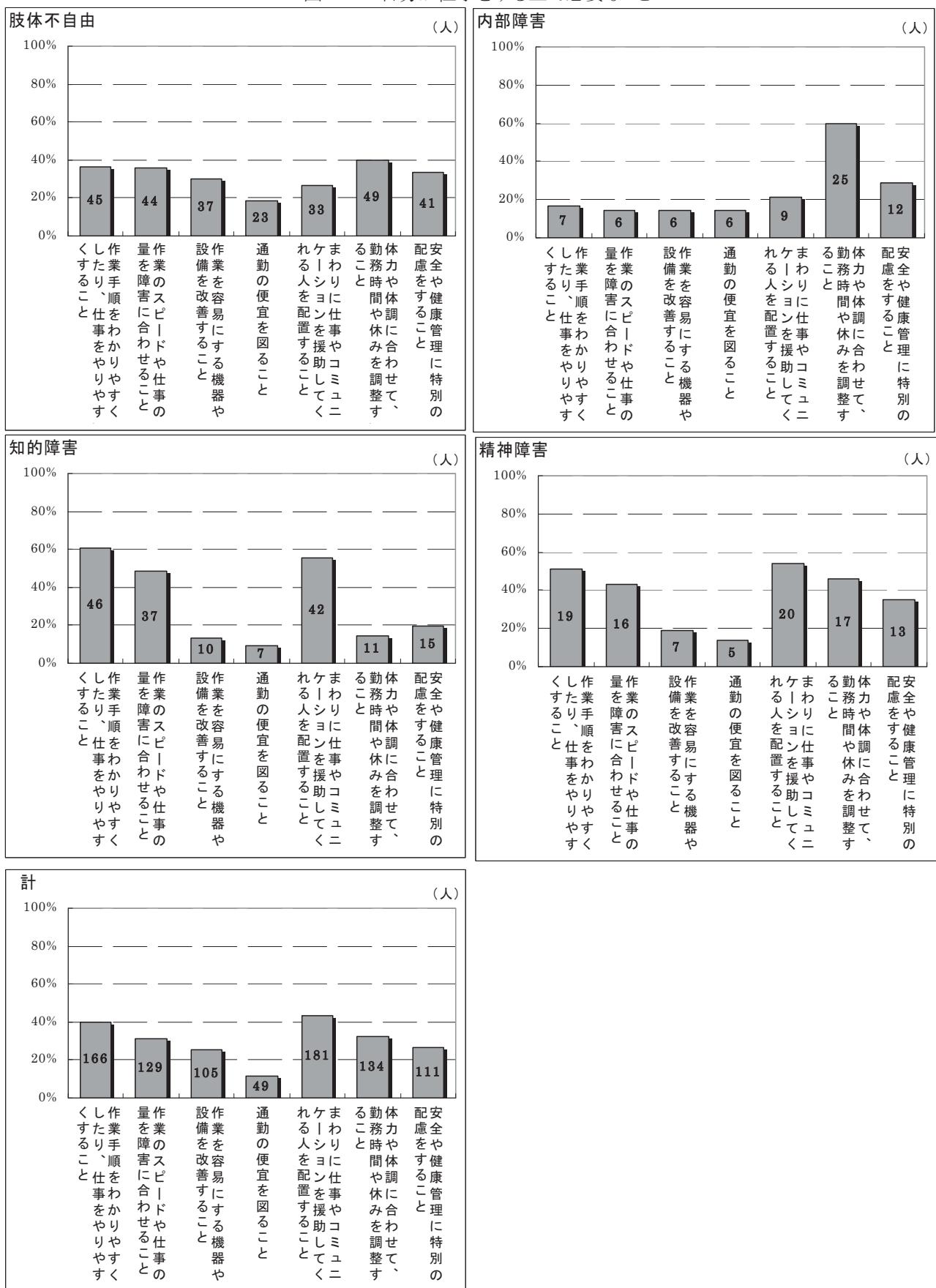


図 3-13 自分が仕事をする上で必要なこと(続き)

(2) 仕事をする上で会社や会社の人に特にお願いしたいこと（複数回答）

全体では、「障害や障害者を理解してほしい」が 48.8%と最も多く、次いで「ずっと働き続けることができるようにしてほしい」が 40.6%、「給与面を改善してほしい」が 38.9%、「能力に応じた評価や、昇進・昇格をしてほしい」が 33.7%となっている。

障害別では、知的障害において「ずっと働き続けることができるようにしてほしい」及び「職場の中で困ったことの相談ができるようにしてほしい」がそれぞれ 61.8%、40.8%と多く、精神障害においては「ずっと働き続けることができるようにしてほしい」及び「職場の中で困ったことの相談ができるようにしてほしい」、「体力や障害に合わせた労働時間や休日の設定をしてほしい」がそれぞれ 59.5%、45.9%、32.4%と多い。また、視覚障害、聴覚障害及び精神障害において「障害や障害者を理解してほしい」が多い（それぞれ 57.1%、63.4%、59.5%）。

表 3-54 仕事をする上で会社や会社の人に特にお願いしたいこと（複数回答） (人(%))

障害してほしい者や障害者のことを理	く職場に障害者の仲間を多	でずっと働き続けるほしが	給与面を改善してほし	て働く時間や休日に合った労	進能力に応じた評価や、昇	て研修や教育訓練を充実し	い健康管理を充実してほし	ほ相職場の中で困ったよ	対象者数	
視覚障害	32 (57.1)	4 (7.1)	20 (35.7)	19 (33.9)	9 (16.1)	16 (28.6)	15 (26.8)	5 (8.9)	11 (19.6)	56 (100.0)
聴覚障害	52 (63.4)	15 (18.3)	29 (35.4)	31 (37.8)	8 (9.8)	38 (46.3)	23 (28.0)	20 (24.4)	25 (30.5)	82 (100.0)
肢体不自由	49 (39.8)	9 (7.3)	38 (30.9)	48 (39.0)	25 (20.3)	41 (33.3)	22 (17.9)	19 (15.4)	29 (23.6)	123 (100.0)
内部障害	14 (33.3)	3 (7.1)	13 (31.0)	16 (38.1)	12 (28.6)	15 (35.7)	6 (14.3)	5 (11.9)	4 (9.5)	42 (100.0)
知的障害	34 (44.7)	13 (17.1)	47 (61.8)	29 (38.2)	7 (9.2)	13 (17.1)	6 (7.9)	8 (10.5)	31 (40.8)	76 (100.0)
精神障害	22 (59.5)	3 (8.1)	22 (59.5)	19 (51.4)	12 (32.4)	17 (45.9)	11 (29.7)	8 (21.6)	17 (45.9)	37 (100.0)
計	203 (48.8)	47 (11.3)	169 (40.6)	162 (38.9)	73 (17.5)	140 (33.7)	83 (20.0)	65 (15.6)	117 (28.1)	416 (100.0)

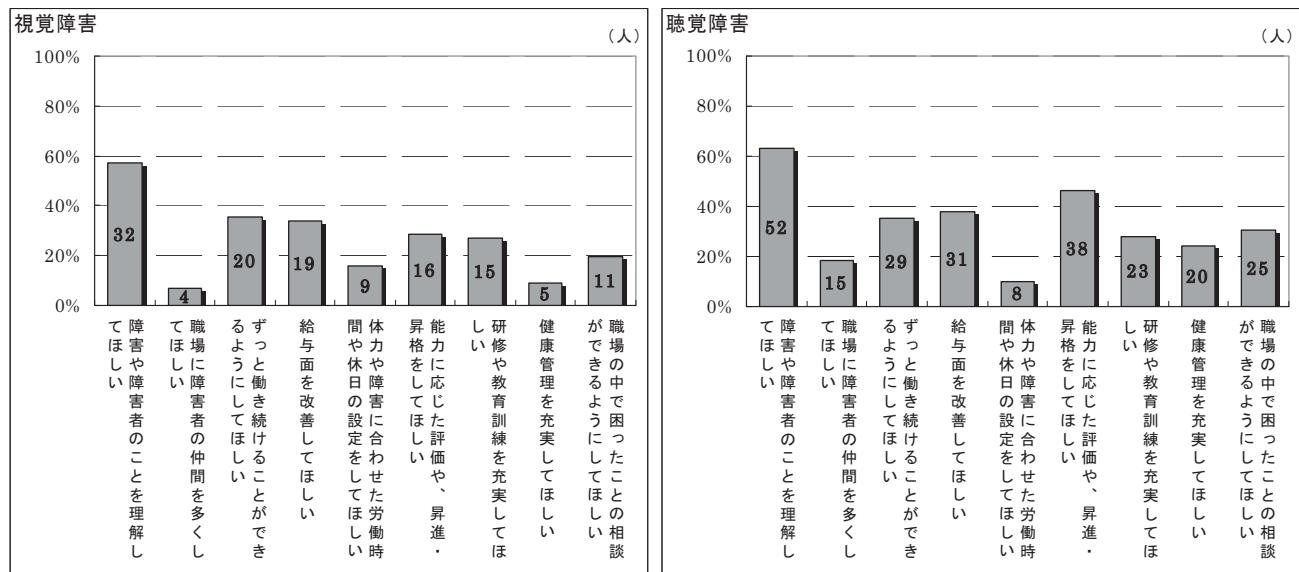


図 3-14 仕事をする上で会社や会社の人に特にお願いしたいこと

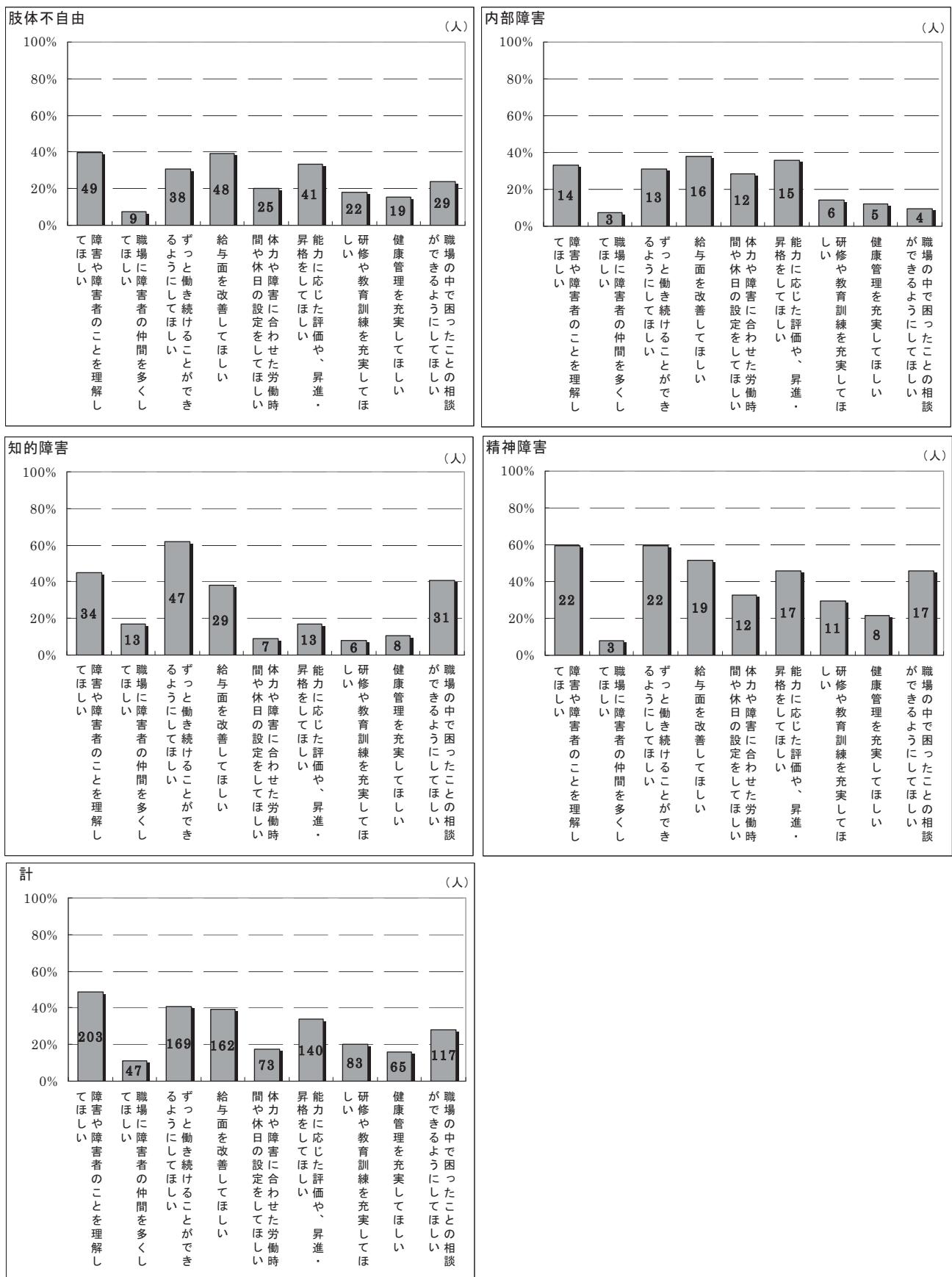


図 3-14 仕事をする上で会社や会社の人に特にお願いしたいこと（続き）

3 普段の生活での一番の楽しみ（自由記述回答）

各自由記述回答の内容について分類を行い、表3-55に示した。なお、内容が多岐にわたる回答に関しては、1つの回答に対して複数の分類を行っている。全体では、「家族・友人との交流」が31.0%と最も多く、次いで「PC、ゲーム、テレビ」が10.1%、「食事・料理」が9.9%、「スポーツ」が9.9%が多い。障害別にみると、視覚障害において「家族・友人との交流」が46.4%と他障害に比べて多いものの、障害別にみた場合の回答の傾向に大きな差はみられない。

表3-55 普段の生活で一番の楽しみ（自由記述回答）

	家族、友人との交流	PC、ゲーム、テレビ	食事、料理	音楽	スポーツ(観戦)	旅行	映画DVD	買い物	(人(%))
視覚障害	26 (46.4)	7 (12.5)	9 (16.1)	3 (5.4)	7 (12.5)	9 (16.1)	2 (3.6)	4 (7.1)	
聴覚障害	28 (34.1)	5 (6.1)	9 (11.0)	0 (0.0)	9 (11.0)	14 (17.1)	4 (4.9)	5 (6.1)	
肢体不自由	31 (25.2)	9 (7.3)	3 (2.4)	6 (4.9)	7 (5.7)	12 (9.8)	4 (3.3)	3 (2.4)	
内部障害	15 (35.7)	2 (4.8)	7 (16.7)	4 (9.5)	4 (9.5)	3 (7.1)	1 (2.4)	2 (4.8)	
知的障害	19 (25.0)	16 (21.1)	7 (9.2)	5 (6.6)	10 (13.2)	5 (6.6)	11 (14.5)	9 (11.8)	
精神障害	10 (27.0)	3 (8.1)	6 (16.2)	6 (16.2)	4 (10.8)	1 (2.7)	3 (8.1)	5 (13.5)	
計	129 (31.0)	42 (10.1)	41 (9.9)	24 (5.8)	41 (9.9)	44 (10.6)	25 (6.0)	28 (6.7)	
	読書	休日/仕事後の時間	ドライブ/ツーリング	睡眠/休養	仕事	子供の成長	その他趣味	対象者数	
視覚障害	5 (8.9)	3 (5.4)	0 (0.0)	2 (3.6)	1 (1.8)	1 (1.8)	3 (5.4)	56 (100.0)	
聴覚障害	6 (7.3)	1 (1.2)	6 (7.3)	3 (3.7)	2 (2.4)	2 (2.4)	18 (22.0)	82 (100.0)	
肢体不自由	5 (4.1)	6 (4.9)	4 (3.3)	4 (3.3)	3 (2.4)	9 (7.3)	21 (17.1)	123 (100.0)	
内部障害	1 (2.4)	3 (7.1)	4 (9.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (4.8)	4 (9.5)	42 (100.0)	
知的障害	1 (1.3)	1 (1.3)	1 (1.3)	2 (2.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	13 (17.1)	76 (100.0)	
精神障害	1 (2.7)	1 (2.7)	3 (8.1)	2 (5.4)	1 (2.7)	0 (0.0)	4 (10.8)	37 (100.0)	
計	19 (4.6)	15 (3.6)	18 (4.3)	13 (3.1)	7 (1.7)	14 (3.4)	63 (15.1)	416 (100.0)	

「その他趣味」の主なもの（具体的なものを記載）

- 視覚障害：「気分転換」「外出」
- 聴覚障害：「電機やインテリア」「パチンコ」「カントリー風なものの手作り」「猫」「写真」「ステンドグラス」など
- 肢体不自由：「ペットと遊ぶ」「健康で生活できること」「障害者当事者の自立」「アマチュア無線」「パチンコ」「囲碁」など
- 内部障害：「釣り」「畑」「写真」「パチンコ」「カラオケ」
- 知的障害：「カラオケ」「生花」「お祭り」「プラモデル作り」「民謡と太鼓」「将棋の指し手の研究」「編み物」など
- 精神障害：「ペットとのコミュニケーション」「三味線を弾くこと」「祭りに参加すること」「手話サークル」

4 近い将来（5年くらい後まで）に実現したいこと（自由記述回答）

各自由記述回答の内容について分類を行い、表3-53に示した。なお、内容が多岐にわたる回答に関しては、1つの回答に対して複数の分類を行っている。全体では、「趣味充実（スポーツ大会等での入賞等）」が14.7%と最も多く、次いで「職業面向上（昇進、昇給等）」が12.5%、「結婚・出産、家庭、恋人」が10.1%が多い。障害別にみると、視覚障害及び精神障害において「職業面向上」がそれぞれ30.4%、27.0%と多く、聴覚障害においては「趣味充実」が28.0%と多い。

表3-56 近い将来（5年くらいまで）に実現したいこと（自由記述回答分類）
(人(%))

	結婚・出産、家庭、恋人	職業面向上（昇進、昇給等）	趣味充実（スポーツ等大会での入賞等）	自立（経済的自立、一人暮らし等）	免許資格取得、留学、勉強	家、車等購入	健康面
視覚障害	8 (14.3)	17 (30.4)	4 (7.1)	0 (0.0)	3 (5.4)	3 (5.4)	0 (0.0)
聴覚障害	4 (4.9)	5 (6.1)	23 (28.0)	1 (1.2)	6 (7.3)	4 (4.9)	2 (2.4)
肢体不自由	10 (8.1)	13 (10.6)	12 (9.8)	5 (4.1)	10 (8.1)	7 (5.7)	7 (5.7)
内部障害	4 (9.5)	5 (11.9)	5 (11.9)	0 (0.0)	3 (7.1)	1 (2.4)	1 (2.4)
知的障害	9 (11.8)	2 (2.6)	11 (14.5)	4 (5.3)	2 (2.6)	0 (0.0)	0 (0.0)
精神障害	7 (18.9)	10 (27.0)	6 (16.2)	1 (2.7)	7 (18.9)	3 (8.1)	4 (10.8)
計	42 (10.1)	52 (12.5)	61 (14.7)	11 (2.6)	31 (7.5)	18 (4.3)	14 (3.4)

	金銭（貯金、借金返済等）	ボランティア、啓発活動、障害者支援等	現状維持	仕事引退後の生活充実	子どもの成長・自立（結婚・一人暮らし・進学等）	その他	対象者数
視覚障害	1 (1.8)	2 (3.6)	0 (0.0)	1 (1.8)	1 (1.8)	2 (3.6)	56 (100.0)
聴覚障害	2 (2.4)	7 (8.5)	6 (7.3)	3 (3.7)	3 (3.7)	5 (6.1)	82 (100.0)
肢体不自由	2 (1.6)	8 (6.5)	5 (4.1)	6 (4.9)	3 (2.4)	1 (0.8)	123 (100.0)
内部障害	0 (0.0)	2 (4.8)	3 (7.1)	2 (4.8)	1 (2.4)	1 (2.4)	42 (100.0)
知的障害	1 (1.3)	0 (0.0)	6 (7.9)	1 (1.3)	0 (0.0)	2 (2.6)	76 (100.0)
精神障害	3 (8.1)	1 (2.7)	2 (5.4)	0 (0.0)	1 (2.7)	0 (0.0)	37 (100.0)
計	9 (2.2)	20 (4.8)	22 (5.3)	13 (3.1)	9 (2.2)	11 (2.6)	416 (100.0)

(注) 「その他」回答の主な記述内容は以下のとおり。

- ・ 障害があって、保育士になりたくても出来ないですが、同じ障害の子どもたち対応なら実現してみたい
- ・ 手話で会話ができるようになりたい
- ・ 自分の生活を安定させて生きがいを持ちたい
- ・ 弟を結婚させて家族を増やすこと
- ・ もう少し交通の便利の良いところに引っ越したい
- ・ いろんな人と交流がしたい

5 生活についての満足度

「満足」と「どちらかといえば満足」を加えてみると、全体の平均では「家族との人間関係」が 82.1%、「友人・知人との人間関係」が 74.9%、「自分の体力や健康」が 54.2%、「収入や経済生活」が 46.5% となっている。知的障害は全般的に平均より高く、精神障害が平均を下回っている。

知的障害以外の障害については、「自分の体力や健康」及び「収入や経済生活」の満足度が低い。

全体的な傾向として、「家族との人間関係」及び「友人・知人との人間関係」の項目において「満足」もしくは「どちらかといえば満足」の回答が多い。「満足」と「どちらかといえば満足」を合算した数値は、「家族との人間関係」が 76.0%、「友人・知人との人間関係」が 70.4%、「自分の体力や健康」が 40.9%、「収入や経済生活」が 41.1% となっている。障害別にみると、知的障害のすべての項目において満足度が高い傾向がみられる。

表 3-57 生活についての満足度

(人(%))

		満足	どちらかといえれば満足	左2欄の合計	どちらともいえない	どちらかといえれば不満足	不満足	無回答	計
視覚障害	家族との人間関係	24 (42.9)	21 (37.5)	45 (80.4)	7 (12.5)	1 (1.8)	0 (0.0)	3 (5.4)	56 (100.0)
	友人・知人との人間関係	23 (41.1)	22 (39.3)	45 (80.4)	8 (14.3)	2 (3.6)	0 (0.0)	1 (1.8)	56 (100.0)
	自分の体力や健康	9 (16.1)	16 (28.6)	25 (44.6)	17 (30.4)	9 (16.1)	4 (7.1)	1 (1.8)	56 (100.0)
	収入や経済生活	6 (10.7)	16 (28.6)	22 (39.3)	17 (30.4)	8 (14.3)	8 (14.3)	1 (1.8)	56 (100.0)
聴覚障害	家族との人間関係	28 (34.1)	29 (35.4)	57 (69.5)	22 (26.8)	2 (2.4)	0 (0.0)	1 (1.2)	82 (100.0)
	友人・知人との人間関係	16 (19.5)	42 (51.2)	58 (70.7)	23 (28.0)	1 (1.2)	0 (0.0)	0 (0.0)	82 (100.0)
	自分の体力や健康	14 (17.1)	23 (28.0)	37 (45.1)	34 (41.5)	10 (12.2)	1 (1.2)	0 (0.0)	82 (100.0)
	収入や経済生活	6 (7.3)	19 (23.2)	25 (30.5)	35 (42.7)	17 (20.7)	5 (6.1)	0 (0.0)	82 (100.0)
肢体不自由	家族との人間関係	58 (47.2)	34 (27.6)	92 (74.8)	24 (19.5)	3 (2.4)	3 (2.4)	1 (0.8)	123 (100.0)
	友人・知人との人間関係	40 (32.5)	42 (34.1)	82 (66.7)	34 (27.6)	3 (2.4)	3 (2.4)	1 (0.8)	123 (100.0)
	自分の体力や健康	13 (10.6)	23 (18.7)	36 (29.3)	32 (26.0)	32 (26.0)	22 (17.9)	1 (0.8)	123 (100.0)
	収入や経済生活	17 (13.8)	18 (14.6)	35 (28.5)	43 (35.0)	26 (21.1)	19 (15.4)	0 (0.0)	123 (100.0)
内部障害	家族との人間関係	17 (40.5)	22 (52.4)	39 (92.9)	1 (2.4)	0 (0.0)	1 (2.4)	1 (2.4)	42 (100.0)
	友人・知人との人間関係	12 (28.6)	25 (59.5)	37 (88.1)	4 (9.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.4)	42 (100.0)
	自分の体力や健康	2 (4.8)	9 (21.4)	11 (26.2)	14 (33.3)	12 (28.6)	4 (9.5)	1 (2.4)	42 (100.0)
	収入や経済生活	5 (11.9)	13 (31.0)	18 (42.9)	9 (21.4)	8 (19.0)	6 (14.3)	1 (2.4)	42 (100.0)
知的障害	家族との人間関係	42 (55.3)	16 (21.1)	58 (76.3)	5 (6.6)	4 (5.3)	1 (1.3)	8 (10.5)	76 (100.0)
	友人・知人との人間関係	35 (46.1)	15 (19.7)	50 (65.8)	17 (22.4)	3 (3.9)	1 (1.3)	5 (6.6)	76 (100.0)
	自分の体力や健康	29 (38.2)	21 (27.6)	50 (65.8)	17 (22.4)	4 (5.3)	2 (2.6)	3 (3.9)	76 (100.0)
	収入や経済生活	32 (42.1)	25 (32.9)	57 (75.0)	7 (9.2)	5 (6.6)	2 (2.6)	5 (6.6)	76 (100.0)
精神障害	家族との人間関係	15 (40.5)	10 (27.0)	25 (67.6)	7 (18.9)	3 (8.1)	1 (2.7)	1 (2.7)	37 (100.0)
	友人・知人との人間関係	8 (21.6)	13 (35.1)	21 (56.8)	11 (29.7)	2 (5.4)	2 (5.4)	1 (2.7)	37 (100.0)
	自分の体力や健康	3 (8.1)	8 (21.6)	11 (29.7)	12 (32.4)	9 (24.3)	4 (10.8)	1 (2.7)	37 (100.0)
	収入や経済生活	2 (5.4)	12 (32.4)	14 (37.8)	11 (29.7)	6 (16.2)	6 (16.2)	0 (0.0)	37 (100.0)
計	家族との人間関係	184 (44.2)	132 (31.7)	316 (76.0)	66 (15.9)	13 (3.1)	6 (1.4)	15 (3.6)	416 (100.0)
	友人・知人との人間関係	134 (32.2)	159 (38.2)	293 (70.4)	97 (23.3)	11 (2.6)	6 (1.4)	9 (2.2)	416 (100.0)
	自分の体力や健康	70 (16.8)	100 (24.0)	170 (40.9)	126 (30.3)	76 (18.3)	37 (8.9)	7 (1.7)	416 (100.0)
	収入や経済生活	68 (16.3)	103 (24.8)	171 (41.1)	122 (29.3)	70 (16.8)	46 (11.1)	7 (1.7)	416 (100.0)

6 調査についての意見・要望（自由記述）

資料 1 [調査結果補足] (P143) として掲載した。

第4章

第1回後期調査の結果分析

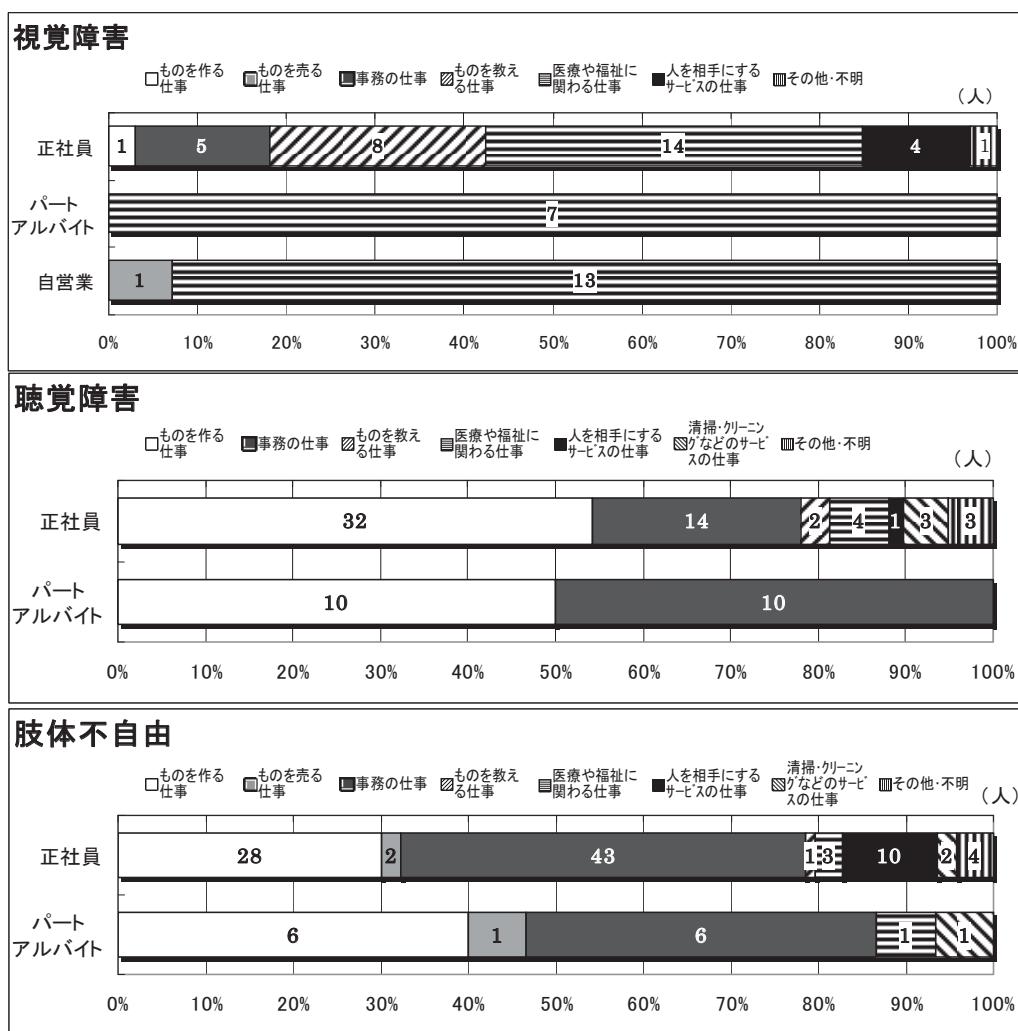
第4章 第1回後期調査の結果分析

第1節 就業形態別の就業状況

就業形態（正社員・パート・アルバイトの別）が仕事の状況等に関連がある場合が考えられるため、各障害について分析を行った。また、以下の分析では、該当者数が少ない自営業等（全体の 5.0%）を除外し、正社員及びパート・アルバイトのみを分析の対象とした。ただし、視覚障害に関しては自営業等の割合が多いため、自営業等も分析の対象とした。

1 就業形態別の仕事内容

就業形態の回答（問9）と仕事内容についての回答（問10）とのクロス集計から、両者の対応をみた。全体では、正社員、パート・アルバイトとともに「ものを作る仕事」の割合がそれぞれ 30.5%、28.6%と多く、また、正社員においては「事務の仕事」が 32.7%と多く、パート・アルバイトにおいては「清掃、クリーニングなどのサービスの仕事」が 28.6%と多い。障害別にみると、視覚障害ではパート・アルバイト、自営業において「医療福祉に関わる仕事」の割合がそれぞれ 100%、92.9%と正社員に比較して多い。精神障害では正社員において「事務の仕事」が 53.8%とパート・アルバイトに比較して多い。



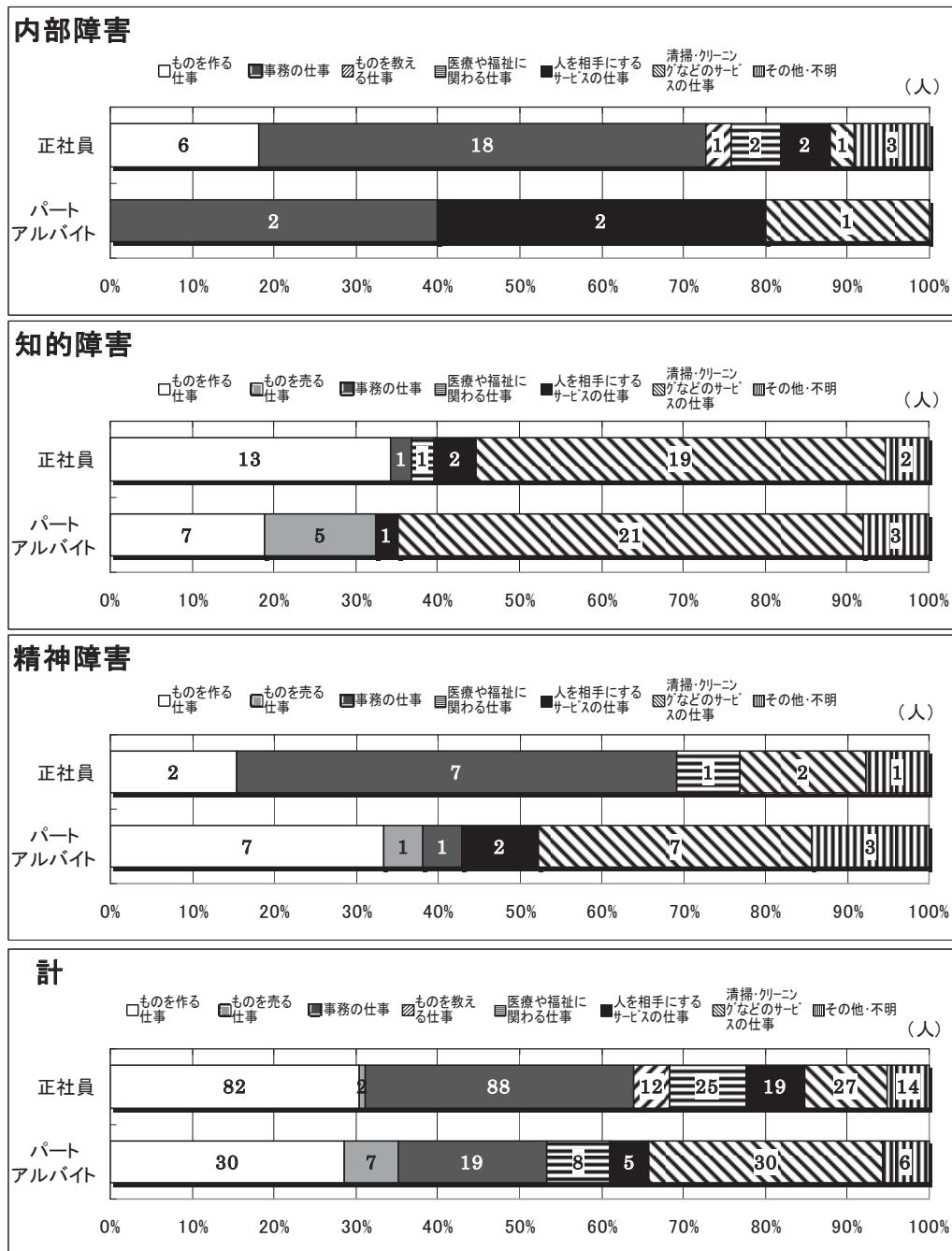


図 4-1 就業形態別仕事内容(続き)

2 就業形態別の労働時間

就業形態の回答（問 9）と週当たりの労働時間についての回答（問 11）とのクロス集計から、両者の対応をみた。全体では、正社員において労働時間「30 時間以上」の割合が 88.1%と多く、パート・アルバイトにおいては「30 時間以上」と「20~30 時間」の割合がそれぞれ 46.7%、40.0%とほぼ同じ程度となつた。障害別にみると、視覚障害のすべての就業形態において「30 時間以上」の回答がそれぞれ 100%、85.7%、100%と多く、精神障害者のパート・アルバイトにおいて「20~30 時間」の割合が 66.7%と他の障害に比べて多い。

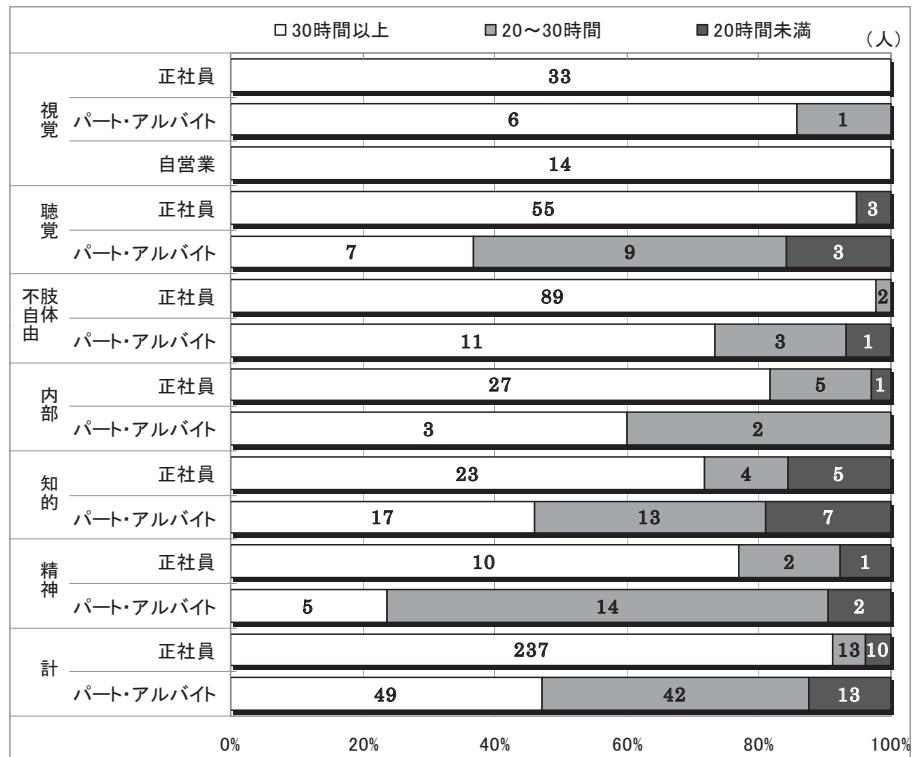


図 4-2 就業形態別労働時間（「無回答」は除外）

3 就業形態別の休日数

就業形態の回答（問 9）と週当たりの休日数についての回答（問 11）とのクロス集計から、両者の対応をみた。障害別にみると、視覚障害の自営業において「1 日」の割合が 78.6%と多く、肢体不自由のパート・アルバイトにおいて他の障害に比べて、「2 日」の割合が 53.3%と少なく「3 日」の割合が 26.7%と多い。

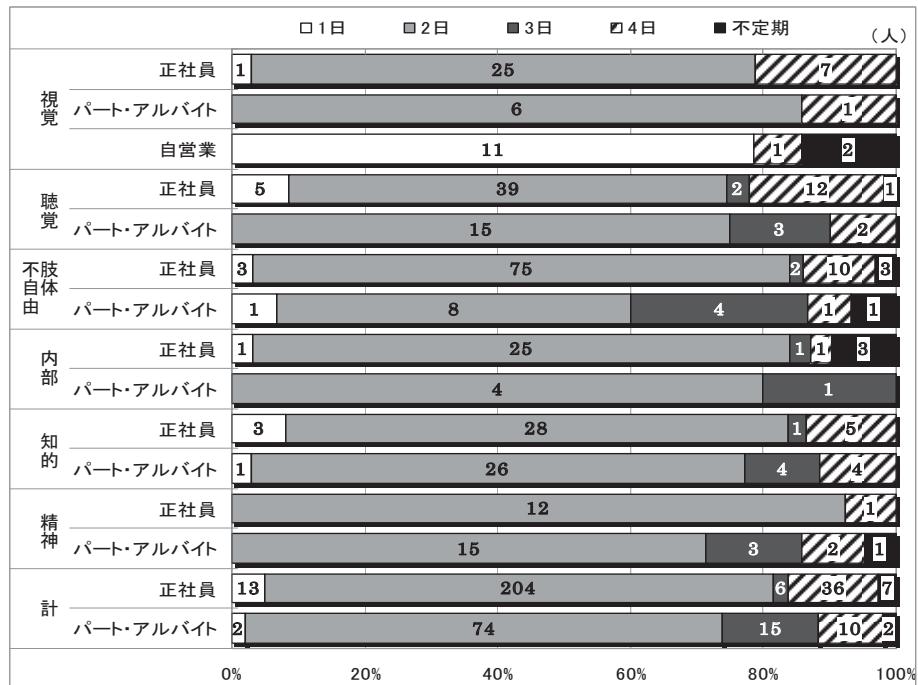


図 4-3 就業形態別週当たり休日数（「無回答」は除外）

4 就業形態別の給与額

給与に関する回答（問 11）を、「月額 13 万円未満」と「月額 13 万円以上」の 2 群に再分類し、就業形態との対応をみた。2 群の分割基準については、回答者全体の回答において、13 万円未満に該当する者が 151 名（38.0%）、13 万円以上に該当する者が 232 名（58.4%）と概ね半数ずつに分かれるため、給与所得の上位群と下位群の分割基準とした。

全体では、正社員においては「13 万円以上」の割合が 76.8% と多く、パート・アルバイトにおいては「13 万円未満」の割合が 78.8% と多い。障害別にみると、視覚障害においては正社員とパート・アルバイトとともに、「13 万円以上」の割合がそれぞれ 96.9%、85.7% と多く、知的障害においては正社員とパート・アルバイトとともに、「13 万円未満」の割合がそれぞれ 81.6%、97.1% と多い。

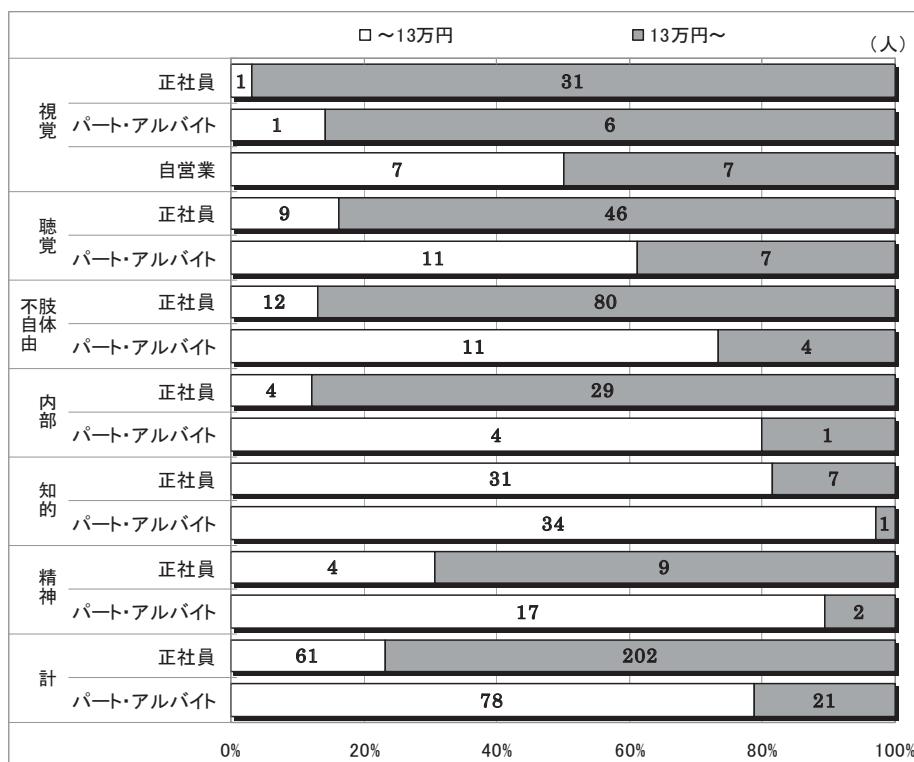


図 4-4 就業形態別月額給与（「無回答」は除外）

5 就業形態別の仕事満足度

就業形態の回答（問 9）と仕事についての満足度（問 16）とのクロス集計から、両者の対応をみた。集計に際し、仕事についての満足度の回答は、「満足」と「どちらかといえば満足」を合算し、「不満足」と「どちらかといえば不満足」を合算し、無回答は除外した（図 4-5）。

仕事の満足度に関して、正社員及びパート・アルバイトのいずれにおいても全体的に満足の傾向が高いが、両者の比較においては大きな差はみられない。障害別にみると、視覚障害において「給与や待遇」の正社員の満足度が高く、「職場の環境」の自営業の満足度が高い。また、内部障害において「仕事内容」、「給与や待遇」の正社員の満足度が高く、「職場の人間関係」、「職場の環境」のパート・アルバイトの満足度が高い。

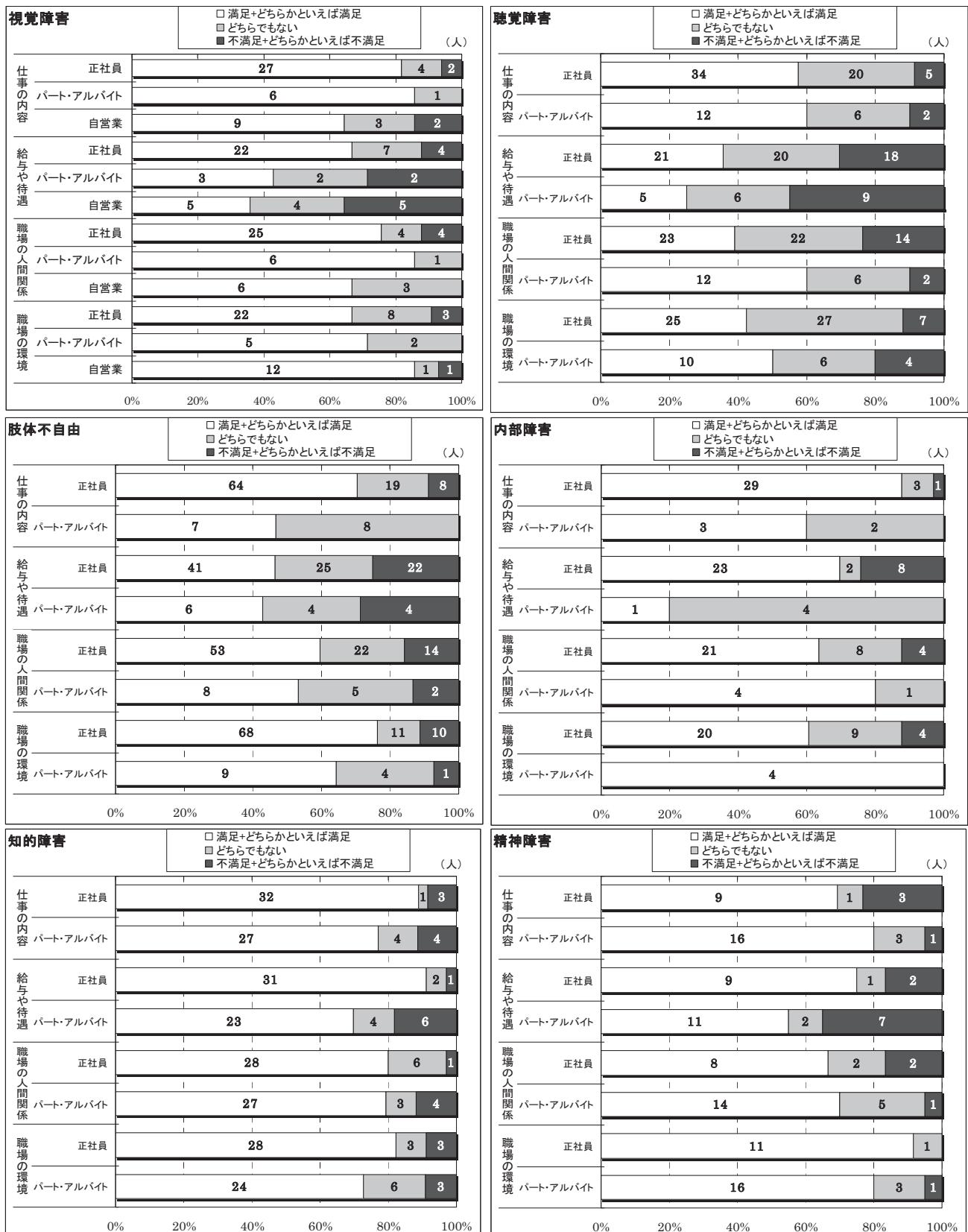


図 4-5 就業形態別仕事満足度

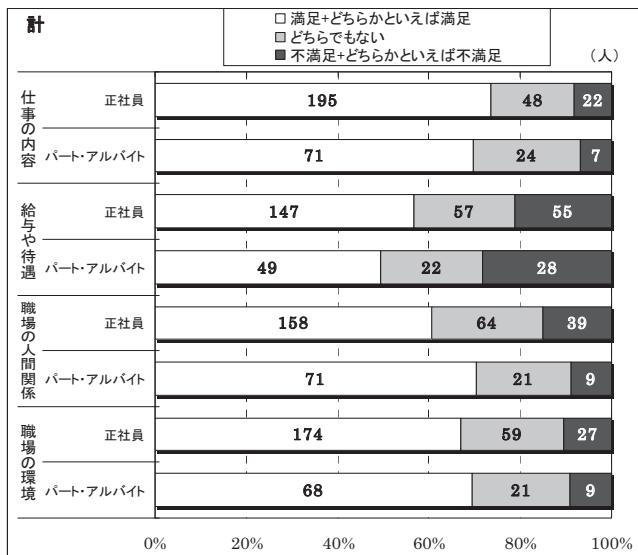


図 4-5 就業形態別仕事満足度(続き)

6 就業形態別の経済的自立度

生活の収入源の回答(問23)を経済的自立度という視点から

- 【3. 「働いて得る収入」だけ】、【5. 「年金」と「働いて得る収入】 → 経済的自立度 高
- 【1. 「年金」だけ】、【6. 「働いて得る収入」と「家族などの支援】、【7. 「年金」と「働いて得る収入」と「家族などの支援】 → 経済的自立度 中
- 【2. 「家族などの支援」だけ】、【4. 「年金」と「家族などの支援】 → 経済的自立度 低

と再分類し、就業形態との対応をみた。

まず、経済的自立度についての全回答者の傾向は、「経済的自立度 高」の比率が 68.0%と高く、逆に「経済的自立度 低」の比率は 3.8%と低い。また、障害別にみると、精神障害において「経済的自立度 高」の比率が顕著に低い(48.6%)。

表 4-1 経済的自立度 (人(%))

	経済的自立度				計
	高	中	低	不明	
視覚障害	44 (78.6)	10 (17.9)	2 (3.6)	(0.0)	56 (100.0)
聴覚障害	64 (78.0)	13 (15.9)	2 (2.4)	3 (3.7)	82 (100.0)
肢体不自由	76 (61.8)	34 (27.6)	6 (4.9)	7 (5.7)	123 (100.0)
内部障害	32 (76.2)	8 (19.0)	1 (2.4)	1 (2.4)	42 (100.0)
知的障害	49 (64.5)	19 (25.0)	3 (3.9)	5 (6.6)	76 (100.0)
精神障害	18 (48.6)	13 (35.1)	2 (5.4)	4 (10.8)	37 (100.0)
計	283 (68.0)	97 (23.3)	16 (3.8)	20 (4.8)	416 (100.0)

就業形態と経済的自立度の関係について、就業形態別に比較してみると、全体的な傾向として正社員の方が「経済的自立度 高」の割合が多い(77.0%)。障害別にみると、肢体不自由及び精神障害においては、全体的な傾向と同様にパート・アルバイトの「経済的自立度 高」の割合が少ない(順に 33.3%、42.9%)が、視覚障害、聴覚障害、内部障害、知的障害においては、正社員とパート・アルバイトとで経済的な自立度に大きな差はみられない。

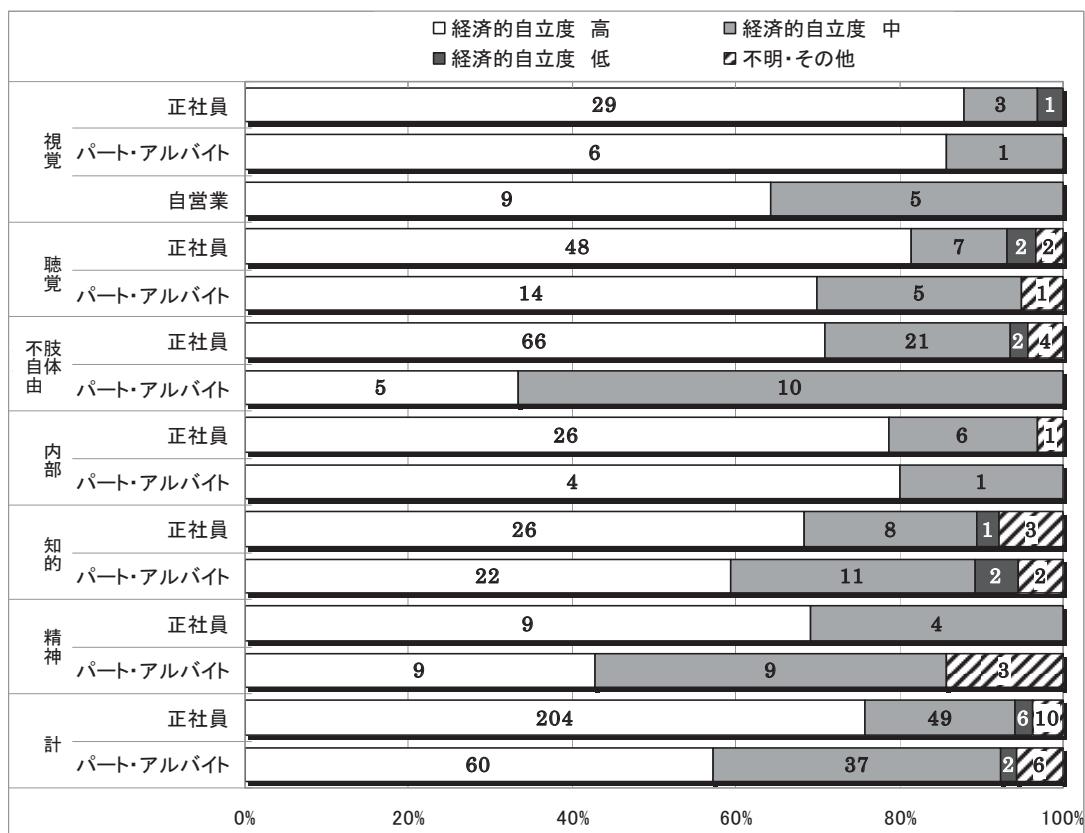


図 4-6 就業形態別経済的自立度

第2節 仕事内容別の給与等

仕事内容については第1節において就業形態との関係をみたが、仕事内容は職業生活に当たって重要な要因であるので、他の設問項目との関連の分析を行った。

なお、以下の分析では、仕事内容の回答に当たって該当者数が少ない「その他」、「無回答」は除いた。

1 仕事内容別の給与額

給与に関する回答（問11）を、「月額13万円未満」と「月額13万円以上」の2群に再分類し、仕事内容との対応をみた。

全体では、「ものを教える仕事」、「事務の仕事」で「13万円以上」がそれぞれ100.0%、86.8%と多く、「清掃・クリーニングなどのサービスの仕事」、「ものを売る仕事」がそれぞれ12.3%、22.2%と少ない。

また、障害別にみると、「13万円以上」の割合が、視覚障害では「医療や福祉に関わる仕事」で75.8%、聴覚障害では「事務の仕事」で73.9%、「ものを作る仕事」で68.4%、肢体不自由、内部障害及び精神障害では「事務の仕事」がそれぞれ89.8%、90.0%、87.5%と、それぞれの障害において他の仕事内容に比べて「13万円未満」の割合より大きい。

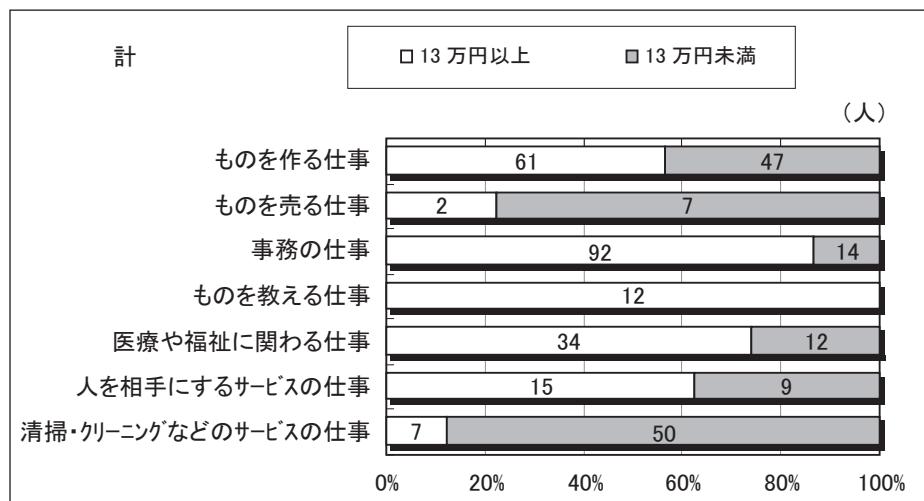


図 4-7 仕事内容別の給与額

表 4-2 仕事内容別の給与額 (障害別)

(人)

	仕事内容 給与	ものを作る 仕事	ものを売る 仕事	事務の仕事	ものを教える 仕事	医療や福祉 に関わる 仕事	人を相手にす るサービスの 仕事	清掃・クリーニ ングなどのサービ スの仕事	計
視覚障害	13万円以上	1		5	8	25	4	0	43
	13万円未満		1			8			9
	計	1	1	5	8	33	4		52
聴覚障害	13万円以上	26	0	17	2	4	1	1	51
	13万円未満	12		6		1		2	21
	計	38		23	2	5	1	3	72
肢体不自由	13万円以上	22	2	44	1	3	9	1	82
	13万円未満	13	1	5		1	1	2	23
	計	35	3	49	1	4	10	3	105
内部障害	13万円以上	4	0	18	1	2	1	2	28
	13万円未満	2		2			3	1	8
	計	6		20	1	2	4	3	36
知的障害	13万円以上	5		1	0			2	8
	13万円未満	15	4			1	3	38	61
	計	20	4	1		1	3	40	69
精神障害	13万円以上	3		7	0			1	11
	13万円未満	5	1	1		1	2	7	17
	計	8	1	8		1	2	8	28

2 仕事内容別の初職継続・転職

仕事内容と初職継続・転職の関係を分析した。「初職継続」と「転職あり」の把握については後述の第7節に掲載した。

全体では、仕事内容合計では「転職あり」が75.8%と多いが、その中でも「人を相手にするサービスの仕事」87.5%、「清掃・クリーニングなどのサービスの仕事」82.0%が多い。

障害別にみると、「転職あり」の割合が、視覚障害では「医療や福祉に関わる仕事」で78.8%、聴覚障害では「事務の仕事」で79.2%、肢体不自由では「ものを作る仕事」で80.6%、内部障害では「事務の仕事」で80.0%、知的障害では「清掃・クリーニングなどのサービスの仕事」で78.8%とそれぞれの障害において他の仕事内容に比べて多い。

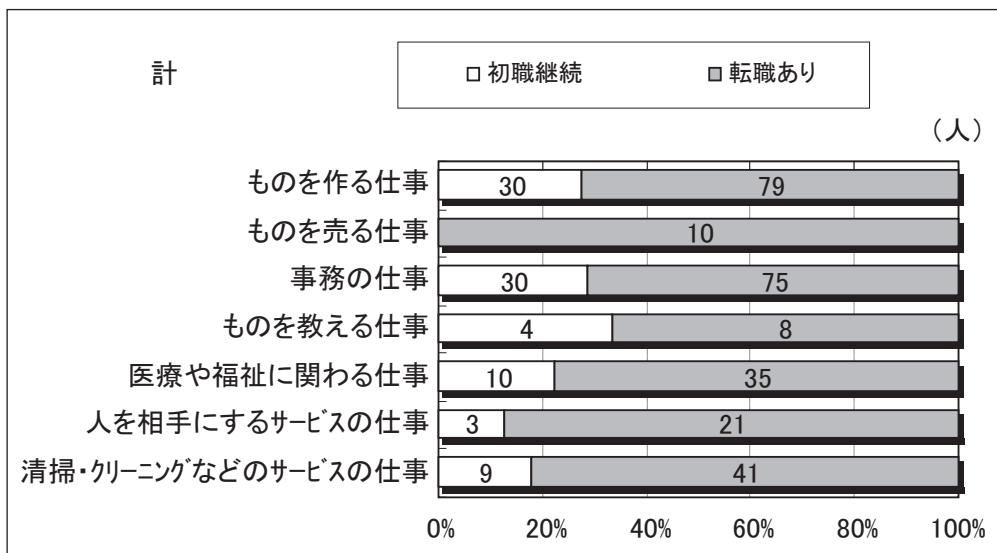


図 4-8 仕事内容別の初職継続・転職

表 4-3 仕事内容別の初職継続・転職（障害別）

	仕事内容 初職・転職	ものを 作る仕事	ものを 売る仕事	事務の 仕事	ものを 教える仕事	医療や福祉 に関わる仕 事	人を相手に するサービス の仕事	清掃・クリー ニングなどの サービスの仕 事	(人) 計
視覚障害	初職継続			2	3	7	2		14
	転職あり	1	1	3	5	26	2		38
	計	1	1	5	8	33	4		52
聴覚障害	初職継続	17		5	1	1			24
	転職あり	22		19	1	4	1	2	49
	計	39		24	2	5	1	2	73
肢体不自由	初職継続	7		13		2			22
	転職あり	29	3	34	1	2	10	3	82
	計	36	3	47	1	4	10	3	104
内部障害	初職継続	1		4				1	6
	転職あり	5	1	16	1	2	4	2	31
	計	6	1	20	1	2	4	3	37
知的障害	初職継続	5		1			1	7	14
	転職あり	14	4			1	2	26	47
	計	19	4	1		1	3	33	61
精神障害	初職継続			5				1	6
	転職あり	8	1	3			2	8	22
	計	8	1	8			2	9	28

3 仕事内容別の仕事満足度

仕事内容と仕事についての満足度（問16）とのクロス集計から、両者の対応をみた。集計に際し、仕事についての満足度の回答は、「満足」と「どちらかといえば満足」を合算し、「不満足」と「どちらかといえば不満足」を合算し、無回答は除外した。

全体では、いずれの仕事内容も満足度が6～8割と高いが、この中でも「ものを教える仕事」、「医療や福祉に関わる仕事」及び「ものを売る仕事」がそれぞれ83.3%、80.9%、80.0%と他の仕事内容に比べて多い。

障害別にみて、一定数以上の回答があるものについてみると、満足度は、視覚障害では「医療や福祉に関わる仕事」が79.4%、聴覚障害では「事務の仕事」で66.7%、肢体不自由及び内部障害では「事務の仕事」がそれぞれ79.2%、90.0%、知的障害では「清掃・クリーニングなどのサービスの仕事」で84.2%とそれぞれの障害においてその他の仕事内容に比べて高くなっている。

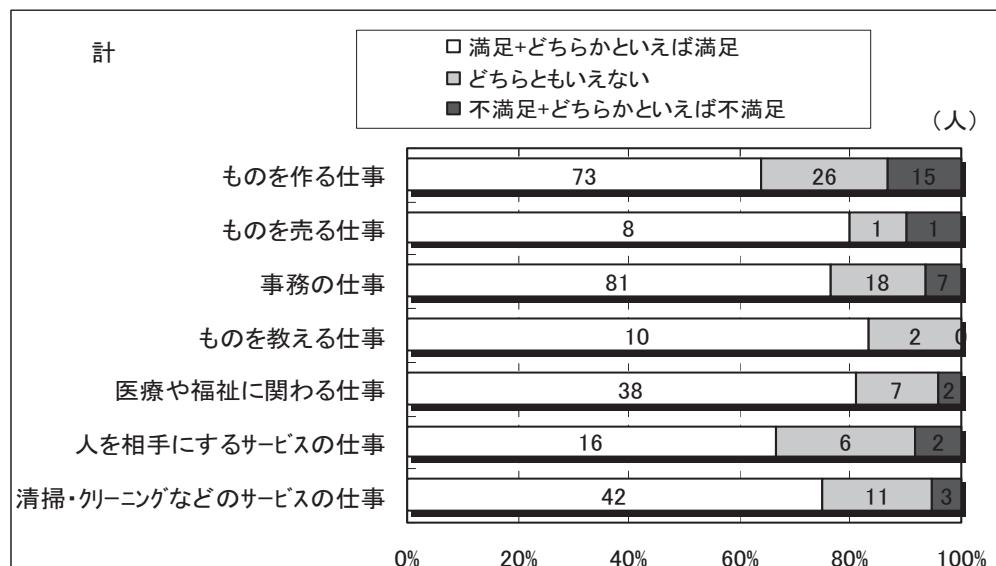


図4-9 仕事内容別の満足度

表 4-4 仕事内容別の満足度（障害別）

(人)

	満足度:仕事内容	仕事内容	ものを作る仕事	ものを売る仕事	事務の仕事	ものを教える仕事	医療や福祉に関わる仕事	人を相手にするサービスの仕事	清掃・クリーニングなどのサービスの仕事	計
視覚障害	満足+どちらかといえば満足	0	1	3	7	27	3	0	0	41
	どちらともいえない	1	0	1	1	5	0	0	0	8
	不満足+どちらかといえば不満足	0	0	1	0	2	1	0	0	4
	計	1	1	5	8	34	4	0	0	53
聴覚障害	満足+どちらかといえば満足	23	0	16	2	4	1	1	1	47
	どちらともいえない	13		8		1		2	2	24
	不満足+どちらかといえば不満足	7	0	0	0	0	0	0	0	7
	計	43	0	24	2	5	1	3	3	78
肢体不自由	満足+どちらかといえば満足	22	2	38	0	3	6	0	0	71
	どちらともいえない	9	1	8	1	1	3	3	3	26
	不満足+どちらかといえば不満足	5	0	2	0	0	1	0	0	8
	計	36	3	48	1	4	10	3	3	105
内部障害	満足+どちらかといえば満足	5	0	18	1	2	2	2	2	30
	どちらともいえない	1	0	1	0	0	2	1	1	5
	不満足+どちらかといえば不満足	0	1	1	0	0	0	0	0	2
	計	6	1	20	1	2	4	3	3	37
知的障害	満足+どちらかといえば満足	17	4	1	0	1	2	2	32	57
	どちらともいえない	1	0	0	0	0	1	3	3	5
	不満足+どちらかといえば不満足	2	0	0	0	0	0	0	3	5
	計	20	4	1	0	1	3	3	38	67
精神障害	満足+どちらかといえば満足	6	1	5	0	1	2	7	2	22
	どちらともいえない	1	0	0	0	0	0	2	2	3
	不満足+どちらかといえば不満足	1	0	3	0	0	0	0	0	4
	計	8	1	8	0	1	2	9	29	

第3節 住居環境別の就業形態等

住居環境の回答（問5.a～c）をもとに、回答者の住居環境を「一人暮らし」、「配偶者を含む家族との同居」、「配偶者を含まない家族との同居」、「福祉ホーム、グループホーム」に分類し、就業形態や経済的自立度等とのクロス集計を行った。

全体的な傾向として、「配偶者を含まない家族との同居」及び「配偶者を含む家族との同居」が多い（順に38.5%、37.7%）。障害別にみると、聴覚障害において「配偶者を含む家族との同居」が顕著に多く(61.0%)、知的障害においては「一人暮らし」及び「配偶者を含む家族との同居」の割合が少なく（共に3.9%）、「福祉ホーム、グループホーム」の割合が多い(23.7%)。

表4-5 住居環境

(人(%))

	一人暮らし	配偶者を含む 家族との同居	配偶者を含まない 家族との同居	福祉ホーム グループホーム	その他・不明	計
視覚障害	16 (28.6)	21 (37.5)	16 (28.6)	1 (1.8)	2 (3.6)	56 (100.0)
聴覚障害	12 (14.6)	50 (61.0)	20 (24.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	82 (100.0)
肢体不自由	17 (13.8)	60 (48.8)	39 (31.7)	0 (0.0)	7 (5.7)	123 (100.0)
内部障害	6 (14.3)	16 (38.1)	18 (42.9)	0 (0.0)	2 (4.8)	42 (100.0)
知的障害	3 (3.9)	3 (3.9)	50 (65.8)	18 (23.7)	2 (2.6)	76 (100.0)
精神障害	11 (29.7)	7 (18.9)	17 (45.9)	1 (2.7)	1 (2.7)	37 (100.0)
計	65 (15.6)	157 (37.7)	160 (38.5)	20 (4.8)	14 (3.4)	416 (100.0)

1 住居環境別の就業形態

住居環境と就業形態の関係について、全体的な傾向として「配偶者を含む家族との同居」の正社員の割合が多い。障害別にみた場合、その傾向に大きな差はみられない。

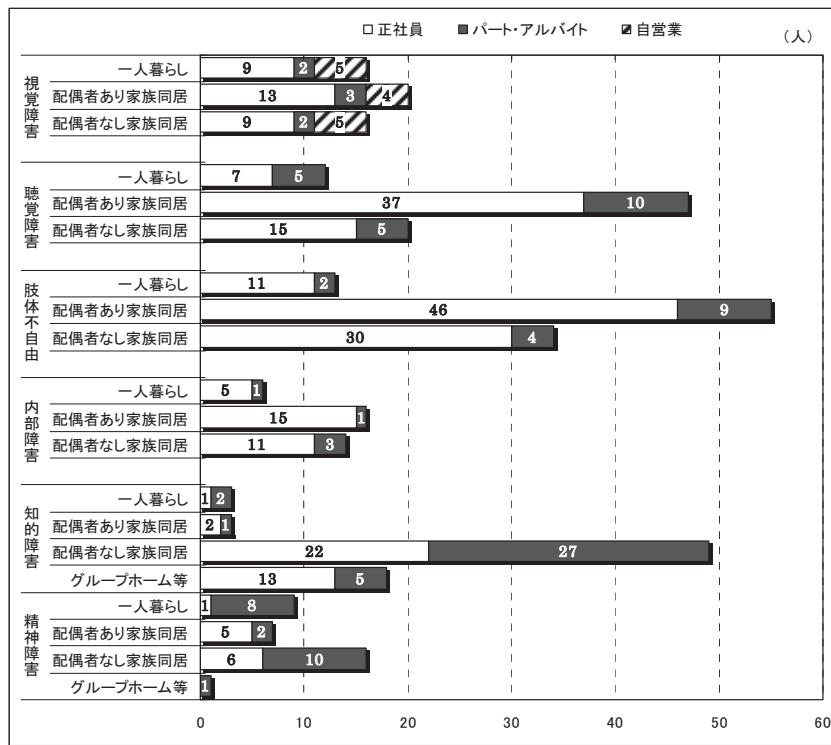


図 4-10 住居環境別就業形態

2 住居環境別の経済的自立度

住居環境と経済的自立度（問 23 回答より算出：前述）の関係について、全体的な傾向として「一人暮らし」において経済的自立度が高く、「配偶者を含まない家族との同居」及び「配偶者を含む家族との同居」において経済的自立度がやや低い傾向がみられる。

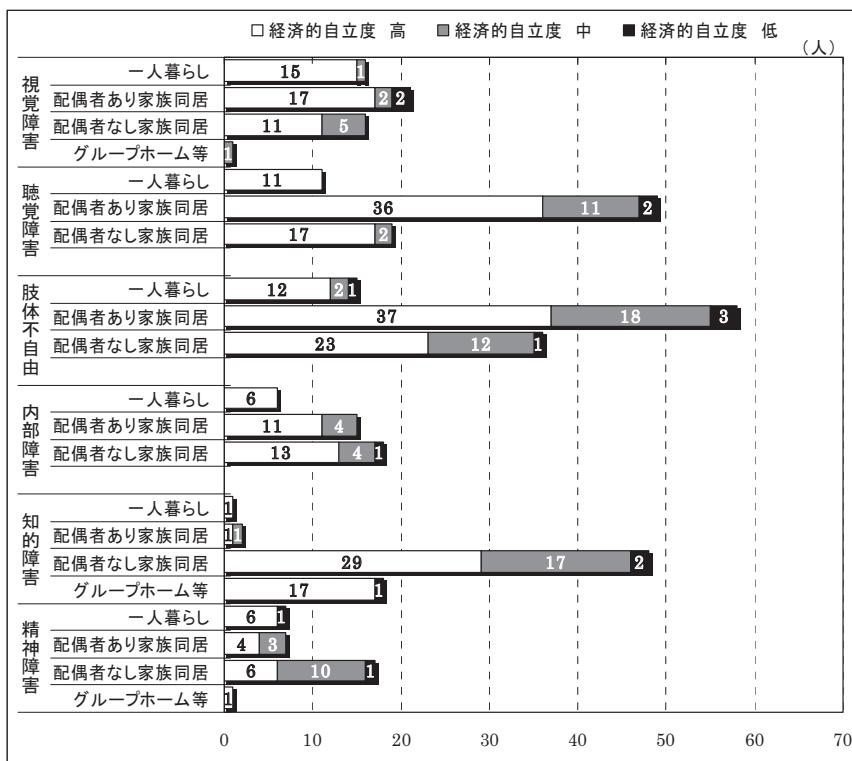


図 4-11 住居環境別経済的自立度

また、「配偶者を含まない家族との同居」、「福祉ホーム、グループホーム」及びその他に分類された対象者について、「近い将来実現したいこと」(問 28) の自由記述回答のうち「自立」に関する記述があったものをカウントし、自立生活への意識との対応をみた。全体的な傾向として、「自立」に関する記述は全体の 4.1%にみられたが、障害別の大きな傾向差はみられない。現在、親元やグループホームで生活している者であっても、自立に対するニーズは高くないことがうかがえる。

表 4-6 「近い将来実現したいこと」(自由記述回答)における「自立」に関する記述の状況
(人(%))

	自立に関する記述		計
	あり	なし	
視覚障害	0 (0.0)	19 (100.0)	19 (100.0)
聴覚障害	1 (5.0)	19 (95.0)	20 (100.0)
肢体不自由	2 (4.3)	44 (95.7)	46 (100.0)
内部障害	0 (0.0)	20 (100.0)	20 (100.0)
知的障害	4 (5.7)	66 (94.3)	70 (100.0)
精神障害	1 (5.3)	18 (94.7)	19 (100.0)
計	8 (4.1)	186 (95.9)	194 (100.0)

※ 「自立」に関する記述には、
「一人暮らしをしたい」
「家を出たい」
「自立したい」
「グループホームに入りたい」
などの記述が含まれる。

3 住居環境別の仕事関係相談先

住居環境と仕事関係相談先との対応について検討するに当たり、まず、「仕事に関して困ったときの相談先」の回答（問21）を以下のように分類し、相談利用の状況を障害別に再分類した。

- 配偶者、子ども、父親、母親、兄弟 → 「親族」として分類
- 会社の上司や同僚、友人 → 「上司・知人」として分類
- 障害者相談員、ハローワーク、地域障害者職業センター、就業・生活支援センター、相談支援事業者、病院診療所、保健所 → 「相談支援機関等」として分類

回答者の回答は、各カテゴリに分類された選択肢のいずれか1つ以上に回答があった場合、そのカテゴリに対する回答ありとして処理し集計を行った。

全体的な傾向として、親族や上司・知人に相談する傾向が高いが、障害別にみると精神障害において、相談支援機関に相談する割合が高い傾向がみられる。

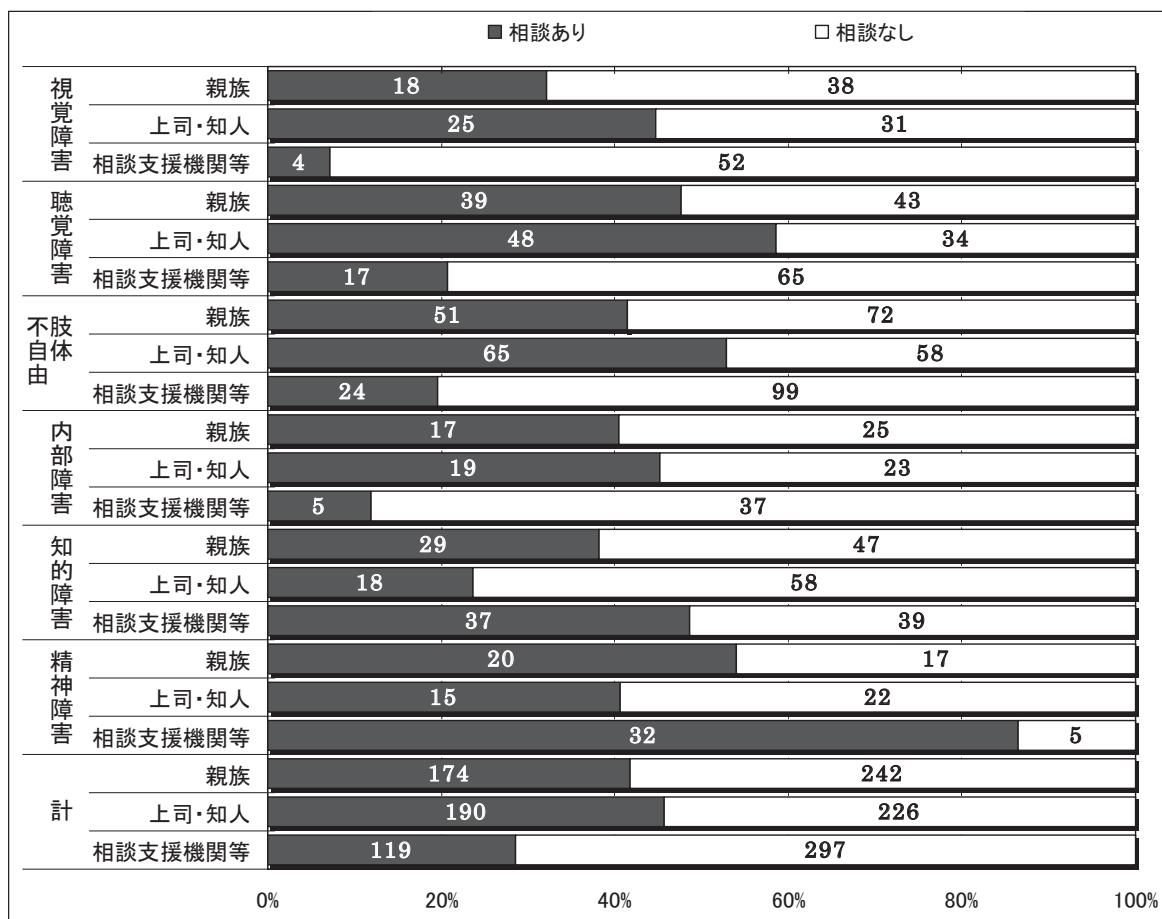


図 4-12 仕事関係相談先別利用状況

さらに、住居環境と仕事関係相談先の関係について、上記の「親族」、「上司・知人」、「相談支援機関等」のカテゴリごとに相談・利用の程度との対応をみた。

住居環境と仕事関係の相談先に関して、特徴的な傾向はみられない。すなわち、仕事関係の相談に関しては、一人暮らしや家族との同居といった住居環境にかかわらず、「上司・知人」及び「親族」に相談する傾向が高く、精神障害においては相談支援機関などの利用率も高い。

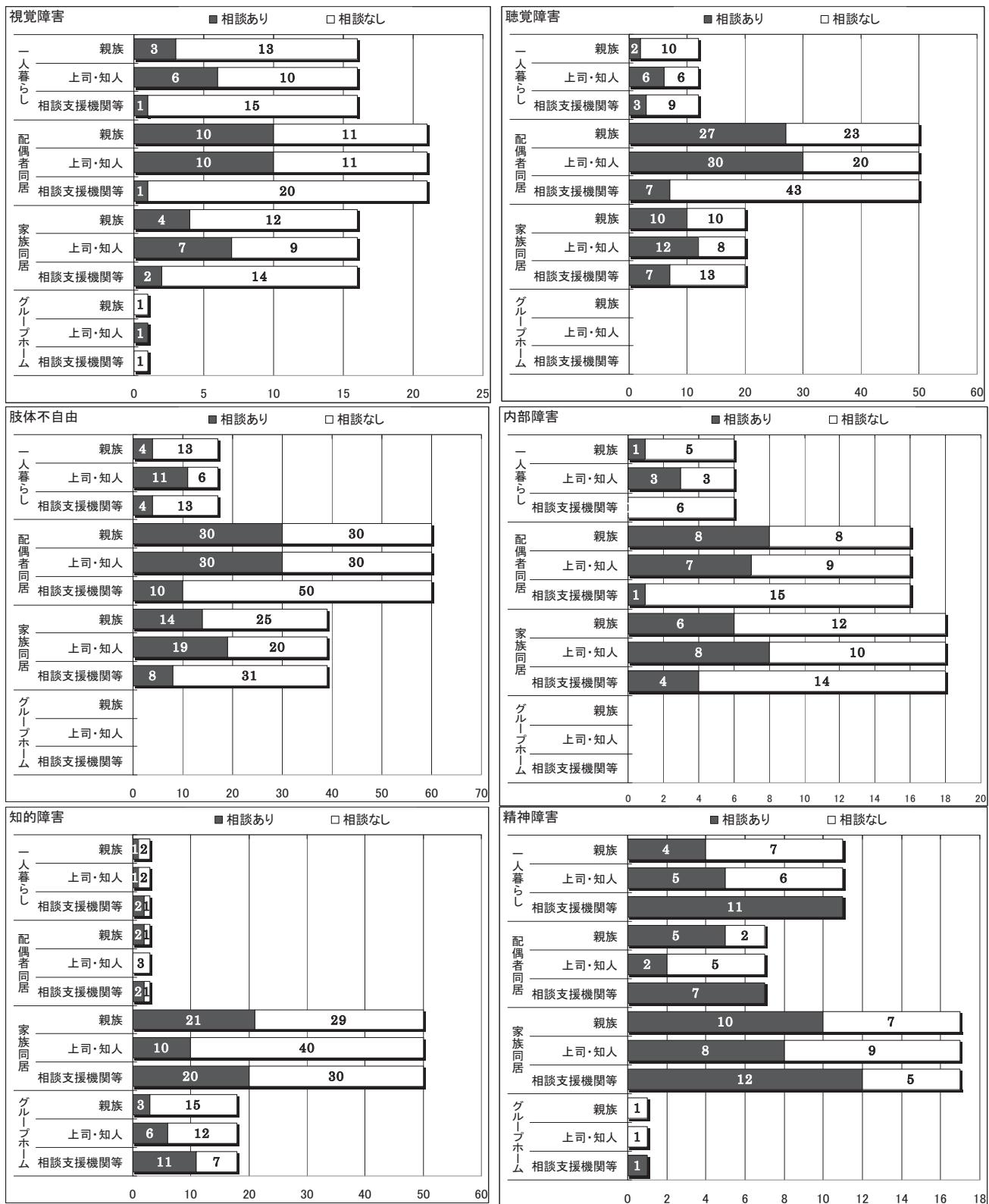


図 4-13 住居環境別仕事関係相談先の利用状況

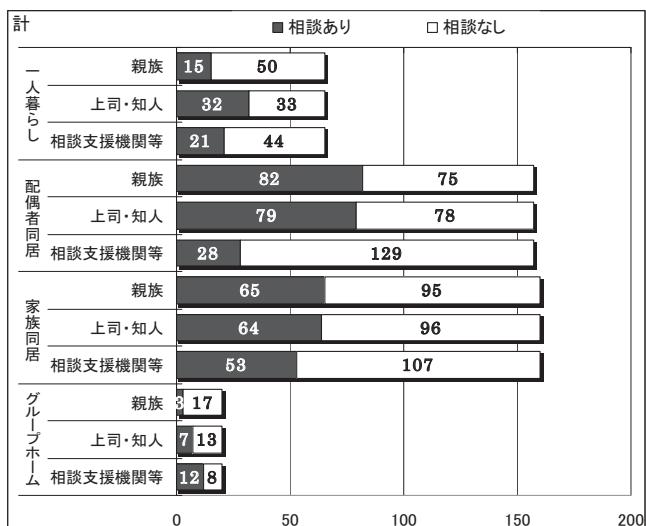


図 4-10 住居環境別仕事関係相談先の利用状況(続き)

4 住居環境別の経済面相談先

住居環境と経済面相談先との対応を検討するに当たり、まず、「経済的に困ったときの相談先」の回答(問24)を以下のように分類し、相談利用の状況を再分類した。

- 配偶者、子ども、父親、母親、兄弟 → 「親族」としてカテゴリ化
- 会社の上司や同僚、友人 → 「上司・知人」としてカテゴリ化
- 障害者相談員、ハローワーク、地域障害者職業センター、就業・生活支援センター、相談支援事業者、病院診療所、保健所 → 「相談支援機関等」としてカテゴリ化

回答者の回答は、各カテゴリに分類された選択肢のいずれか1つ以上に回答があった場合、そのカテゴリに対する回答ありとして処理し集計を行った。

全体的な傾向として、相談先としては「親族」が最も多い。他障害に比べて知的障害及び精神障害において、「相談支援機関等」という回答も多い。

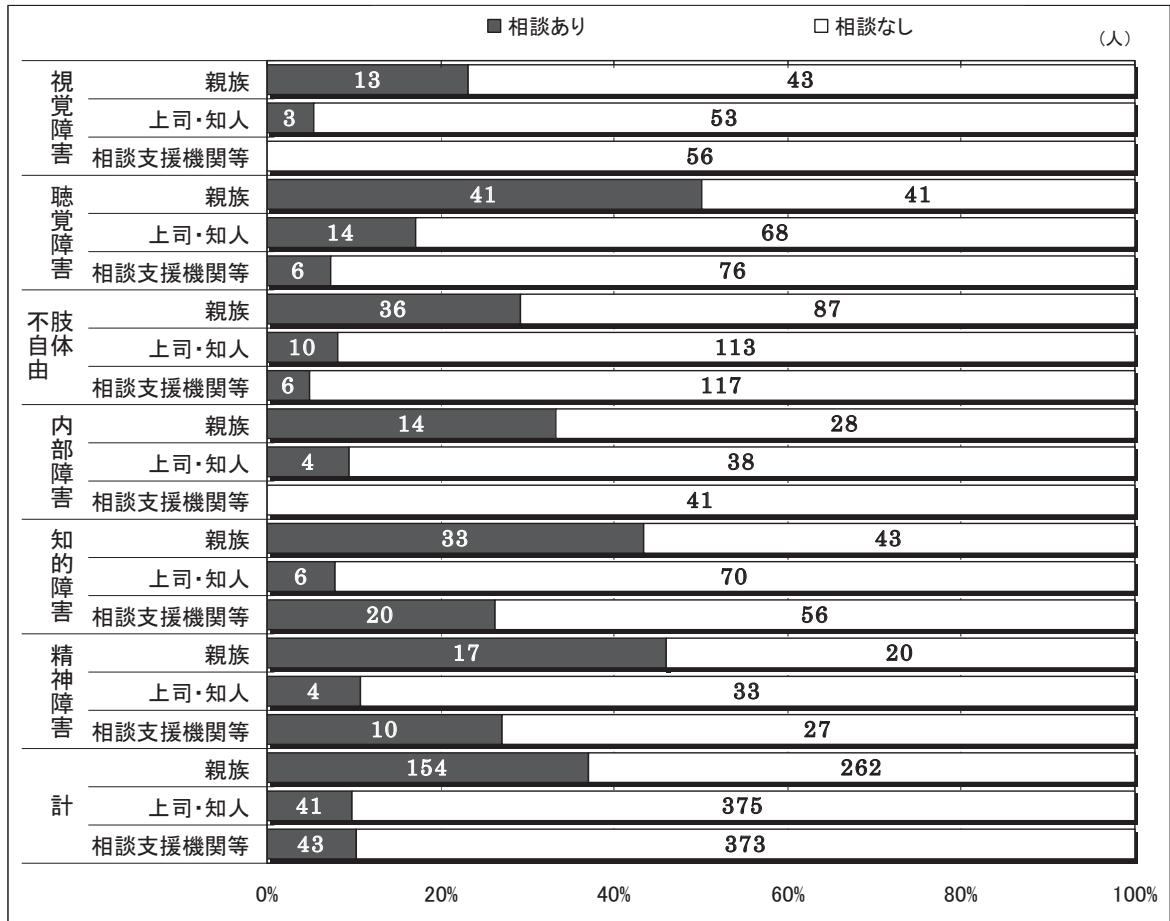


図 4-14 経済面相談先別利用状況

さらに、住居環境と経済面相談先の関係について、上記の「親族」、「上司・知人」、「相談支援機関等」のカテゴリごとに相談・利用の程度との対応をみた。住居環境と経済面相談先に関して、特徴的な傾向はみられない。すなわち、経済面の相談に関しては、一人暮らしや家族との同居といった住居環境にかかわらず、「親族」に相談する傾向が高く、精神障害においては相談支援機関などの利用率も高い。

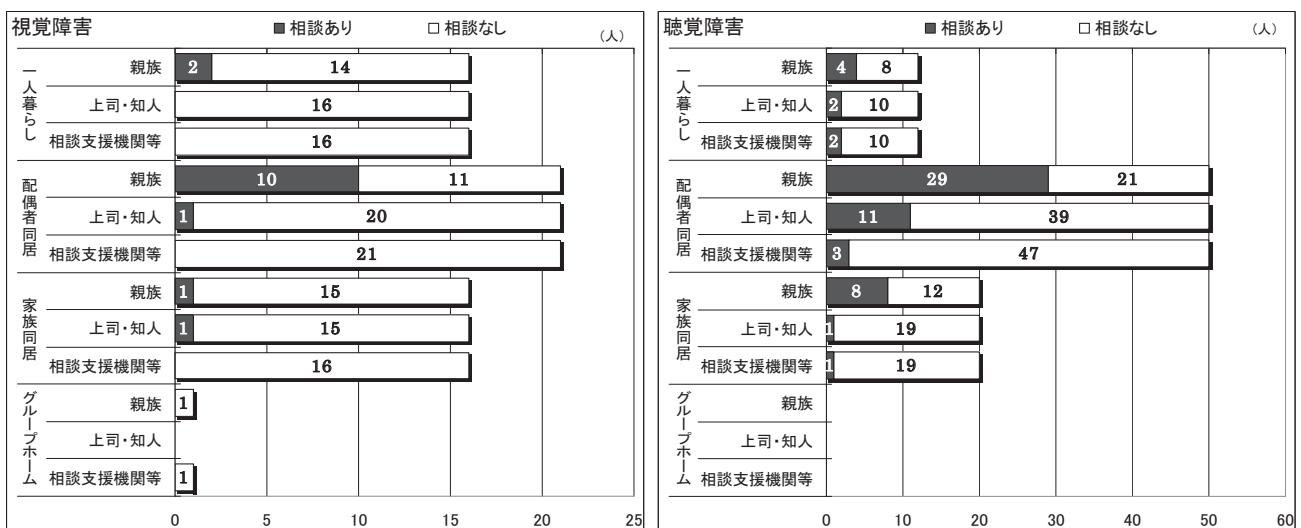


図 4-15 住居環境別経済面相談先の利用状況

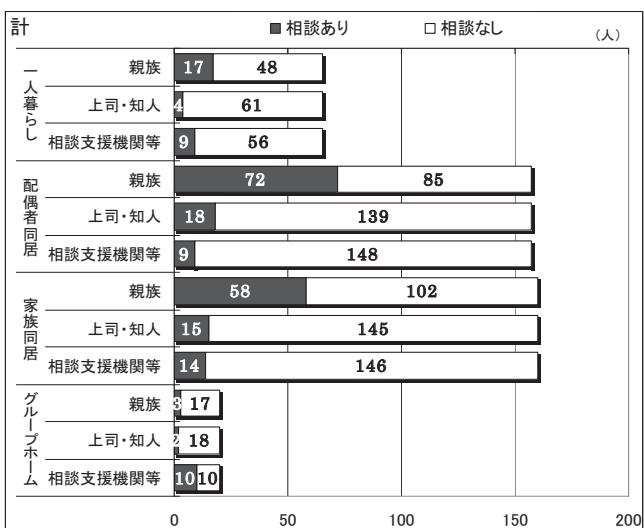
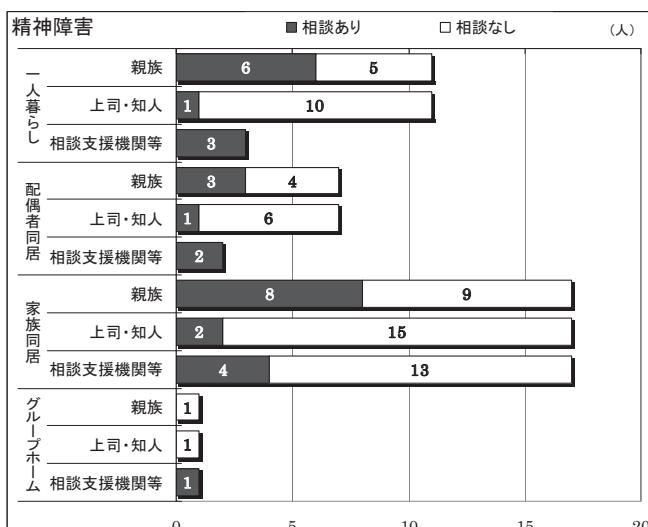
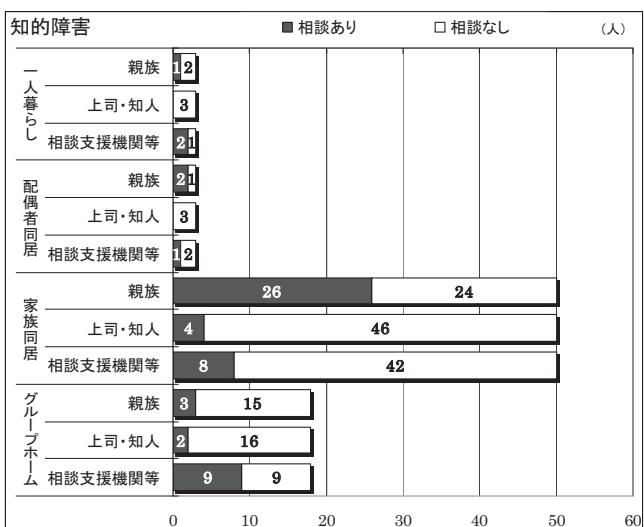
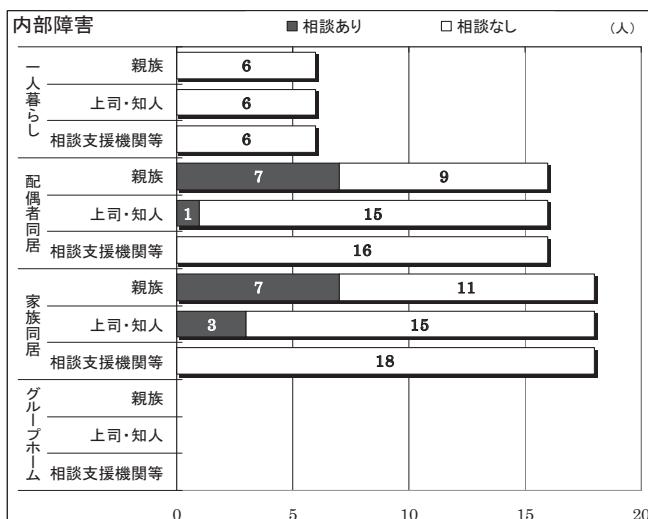
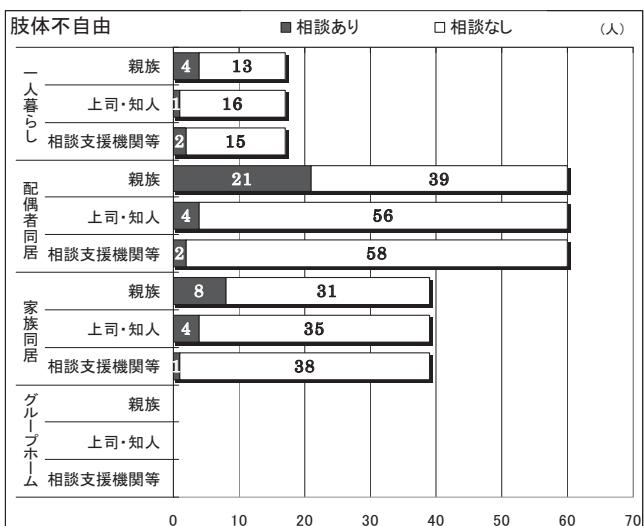


図 4-15 住居環境別経済面相談先の利用状況(続き)

第4節 取得免許・資格別の就業形態・給与

免許・資格についての回答（問6）の集計結果を元に、取得者の多い免許の種別として「あん摩マッサージ指圧師免許・はり師免許・きゅう師免許」、「普通自動車運転免許」、「簿記」、「パソコン・情報処理系」の4つを取り上げ、その取得状況と就業形態及び給与額とのクロス集計を行い、それぞれの対応をみた。

※取得者の多い免許の選択基準は、調査対象者全体からみて取得率10%以上のものとした。ただし「あん摩マッサージ指圧師免許・はり師免許・きゅう師免許」に関しては、調査対象者全体の取得率は10%未満であるが、視覚障害者において取得者の多い特徴的な免許であるためクロス集計のカテゴリとして採用した。

1 取得免許・資格別の就業形態

各免許・資格の取得状況と就業形態（正社員、パート・アルバイト）との対応をみた。

視覚障害における、あん摩マッサージ指圧師免許・はり師免許・きゅう師免許の取得状況との対応に関して、正社員とパート・アルバイトの比較においては大きな差はみられないが、自営業については14名全てが免許取得者となっている。それ以外の資格・免許の取得状況と就業形態の対応については、大きな差はみられない。

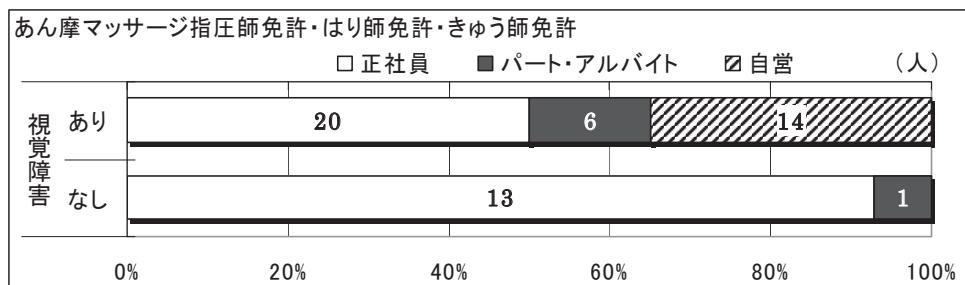


図4-16 視覚障害におけるあん摩マッサージ指圧師免許・はり師免許・きゅう師免許取得別就業形態

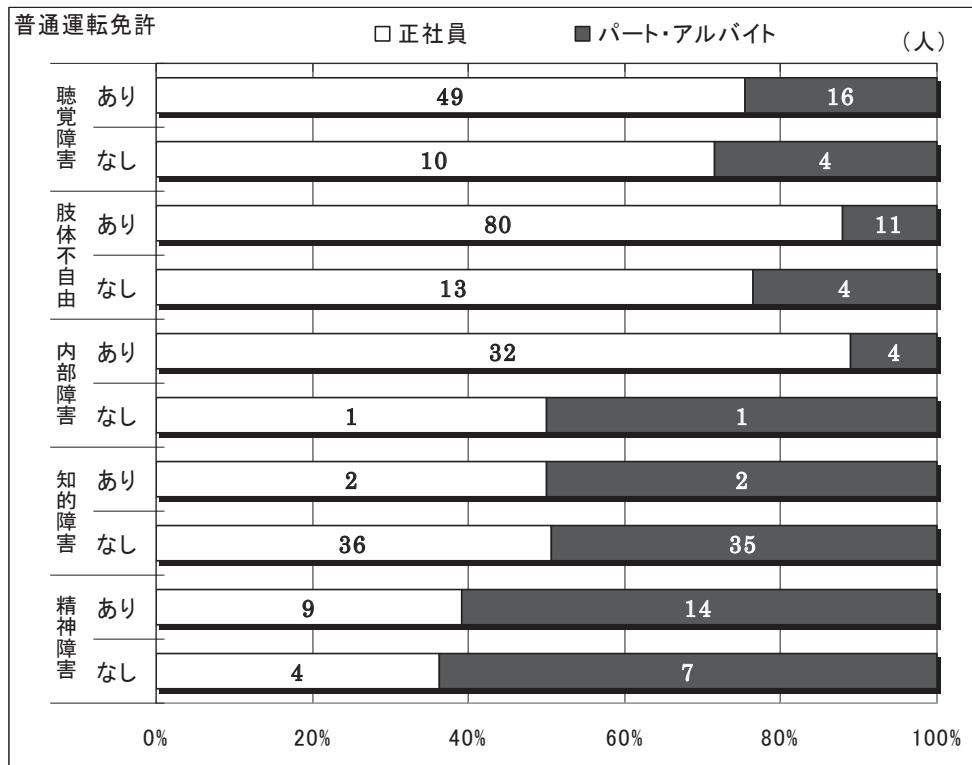


図 4-17 普通運転免許取得別就業形態

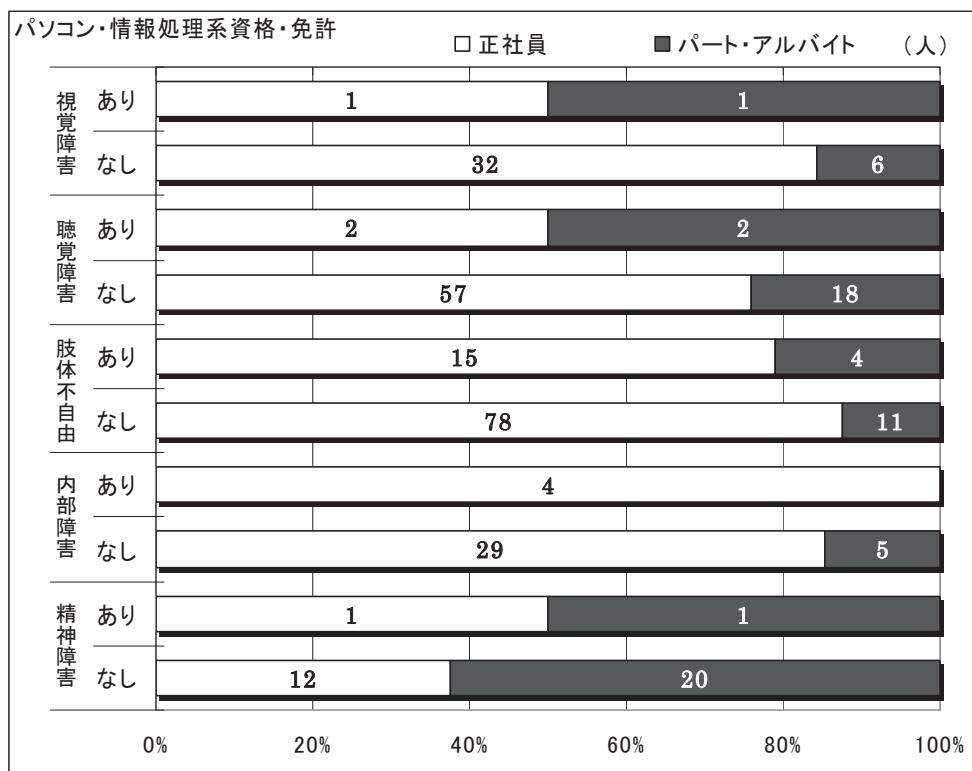


図 4-18 簿記資格取得別就業形態

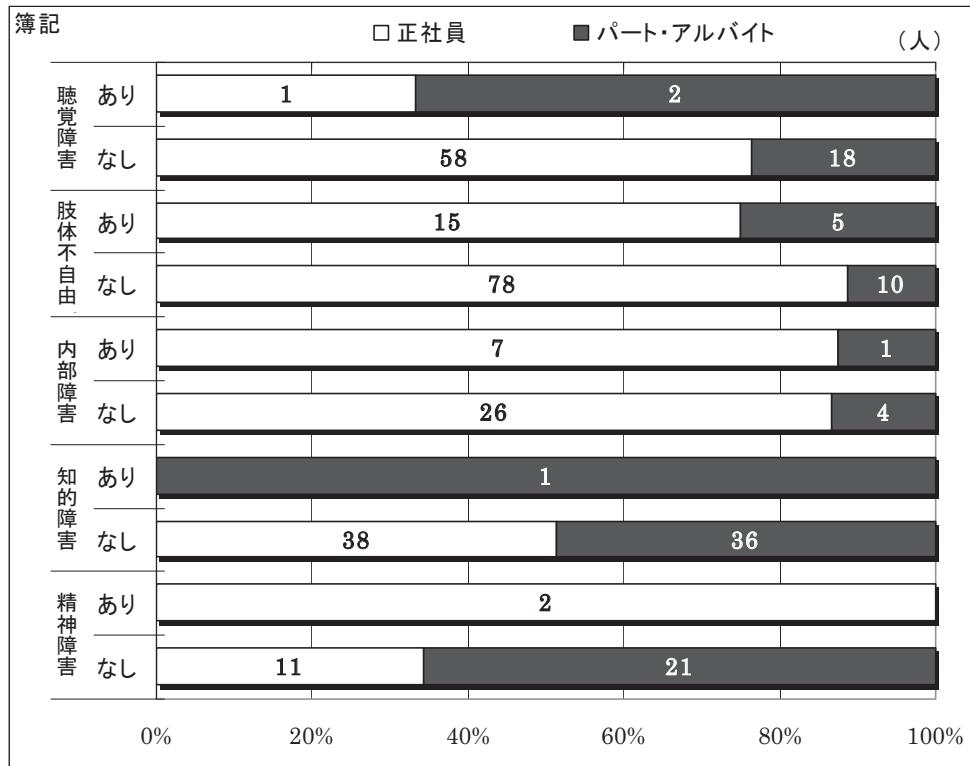


図 4-19 パソコン・情報処理系資格取得別就業形態

2 取得免許・資格別の給与額

各免許・資格の取得状況と給与額（13万円未満、13万円以上）との対応をみた。全体的な傾向として、資格・免許取得者の給与が高い傾向はみられるが、あん摩マッサージ指圧師免許・はり師、きゅう師（視覚障害）やパソコン・情報処理系資格における視覚障害及び聴覚障害、肢体不自由では逆の傾向もしくは差がみられないため、一概に免許・資格の取得が高収入につながっているとはいえない。

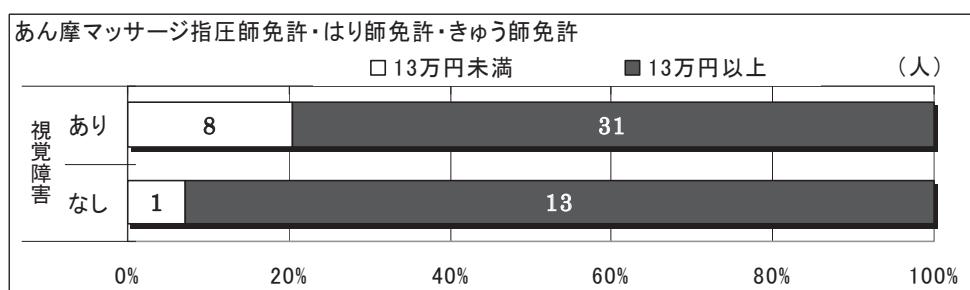


図 4-20 視覚障害におけるあん摩マッサージ指圧師免許・はり師、きゅう師免許取得別給与額

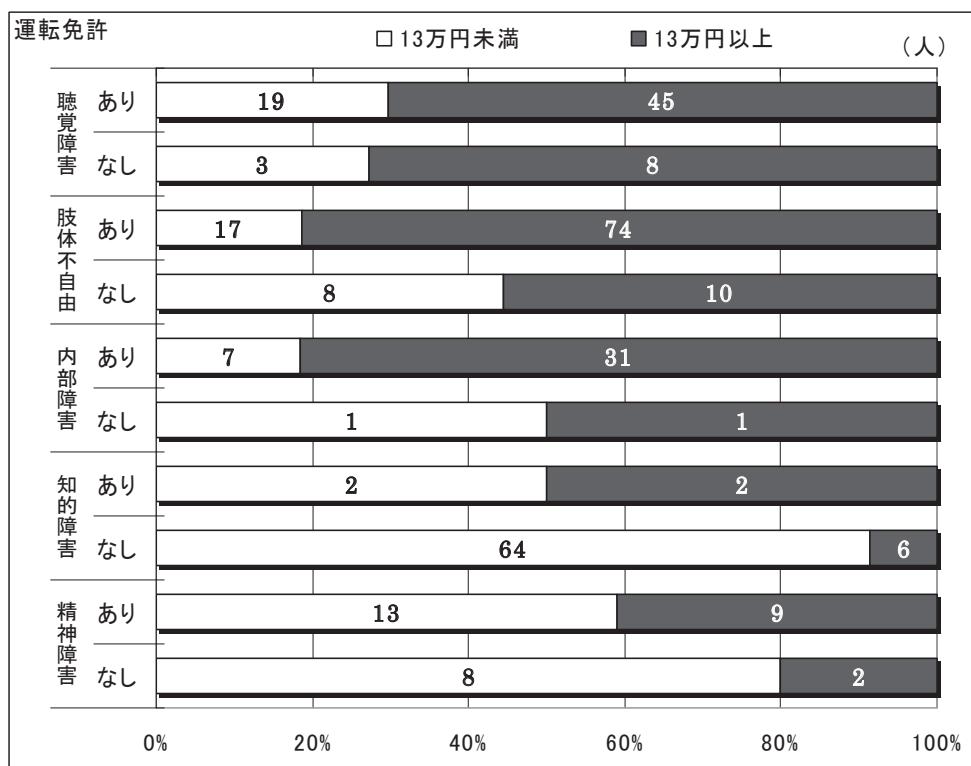


図 4-21 普通運転免許取得別給与額

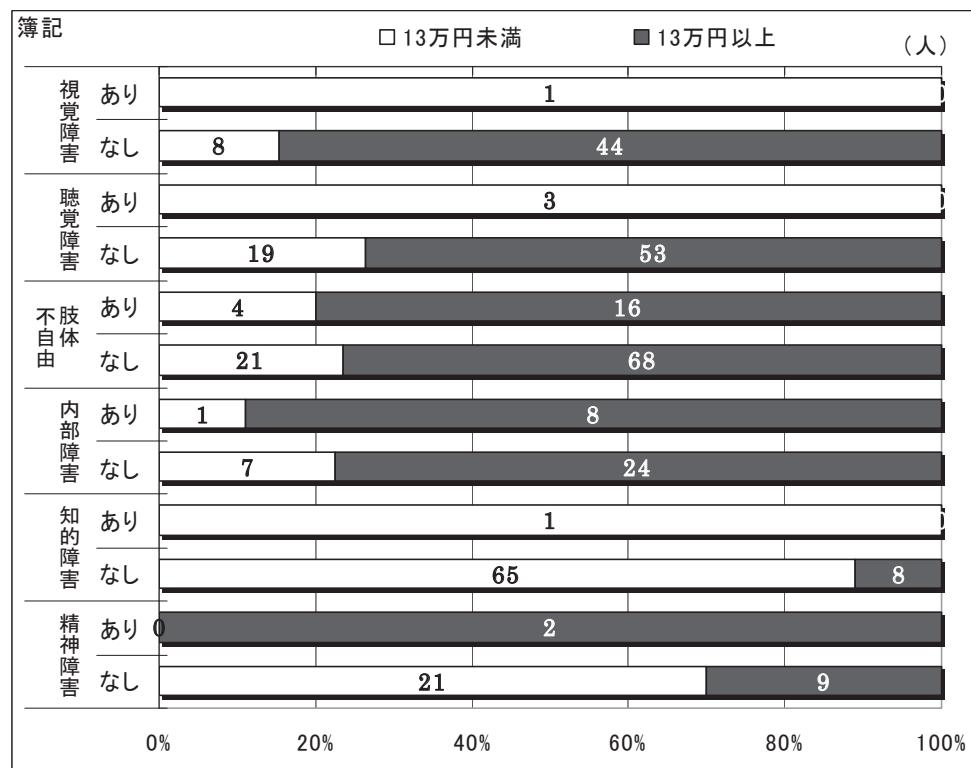


図 4-22 簿記資格取得別給与額

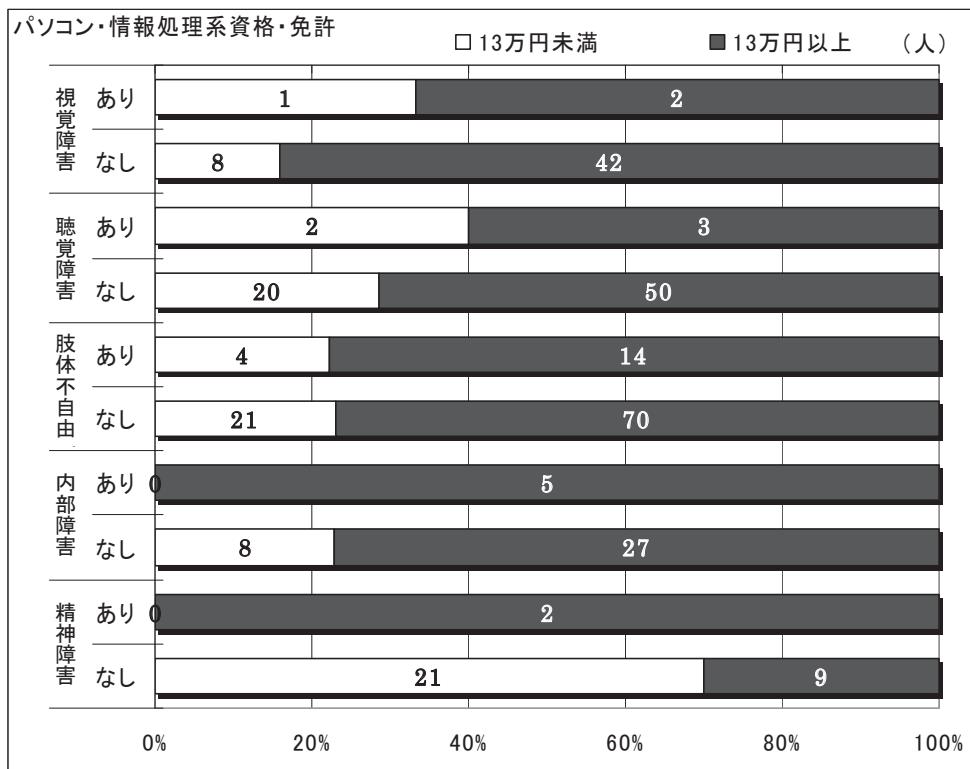


図 4-23 パソコン・情報処理系資格取得別給与額

第5節 環境整備及び配慮事項の分類による障害別の状況

環境整備（自分が仕事をする上で必要なこと）（問 26a）及び配慮事項（仕事をする上で会社や会社の人にお願いしたいこと）（問 26b）については障害別に違いがあることが考えられるので、選択肢を以下のように再分類した。

a. : 環境整備

- 「1. 作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること」、「2. 作業のスピードや仕事の量を障害にあわせること」、「3. 作業を容易にする機器や設備を改善すること」
→「作業上の配慮」
- 「4. 通勤の便宜を図ること」、「5. まわりに仕事やコミュニケーションを援助してくれる人を配置すること」
→「通勤、コミュニケーション」
- 「6. 体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること」、「7. 安全や健康管理に特別の配慮をすること」
→「健康管理」

b. : 配慮事項

- 「1. 障害や障害者ことを理解してほしい」、「2. 職場に障害者の仲間を多くしてほしい」
→「障害理解」
- 「3. ずっと働き続けることができるようにしてほしい」、「4. 給与面を改善してほしい」、「5. 体力や障害に合わせた労働時間や休日の設定をしてほしい」、「6. 能力に応じた評価や昇進・昇格をしてほしい」
→「雇用条件」
- 「7. 研修や教育訓練を充実してほしい」、「8. 健康管理を充実してほしい」、「9. 職場の中で困ったとの相談ができるようにしてほしい」
→「環境整備」

回答者の回答は、各カテゴリに分類された選択肢のいずれか1つ以上に回答があった場合、そのカテゴリに対する回答ありとして処理し集計を行った。

環境整備に関しては、全体的な傾向として「作業上の配慮」に対する事項が最も多く、次いで「通勤、コミュニケーション」、「健康管理」となった。障害別にみると、聴覚障害では「通勤、コミュニケーション」に対する要望が顕著に多く、肢体不自由及び内部障害においては「健康管理」に対する事項が顕著に多い傾向がみられる。

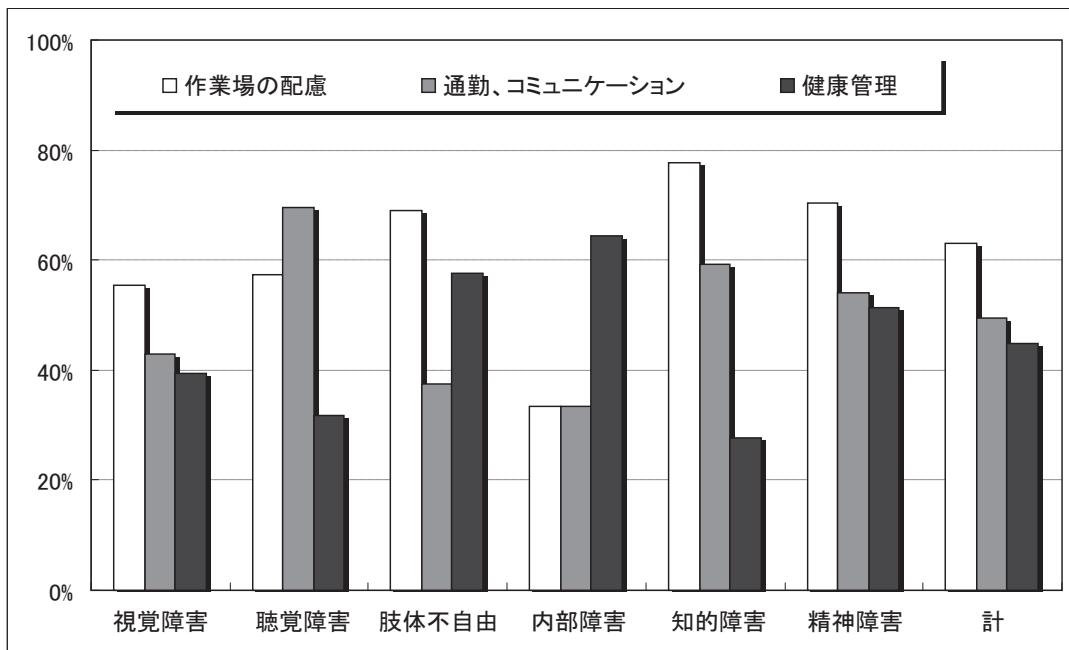


図4-24 職場環境整備に対する要望

配慮事項に関しては、全体的な傾向として「雇用条件」に対する要望が最も多く、次いで「障害理解」、「環境整備」となった。障害別にみると、聴覚障害で「障害理解」に対する要望が「雇用条件」と同程度に多い傾向がみられる。

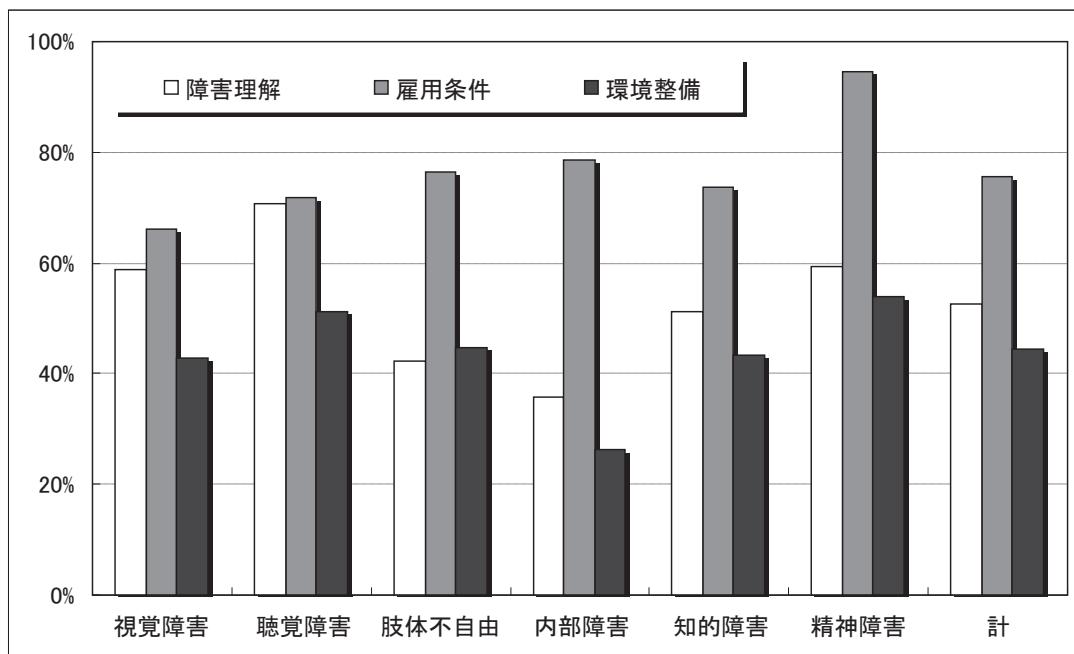


図4-25 配慮事項に対する要望

次に、上記の環境整備及び配慮事項に関する再分類に対し就業形態との対応をみた。

職場環境整備及び配慮事項とともに、全体的な傾向として、正社員とパート・アルバイトとで、内容に大きな差はみられない。障害別にみると、精神障害のパート・アルバイトで「健康管理」への要望が多く、正社員においては「通勤、コミュニケーション」への要望が多い。また、視覚障害のパート・アルバイトで「雇用条件」に対する要望が多い。

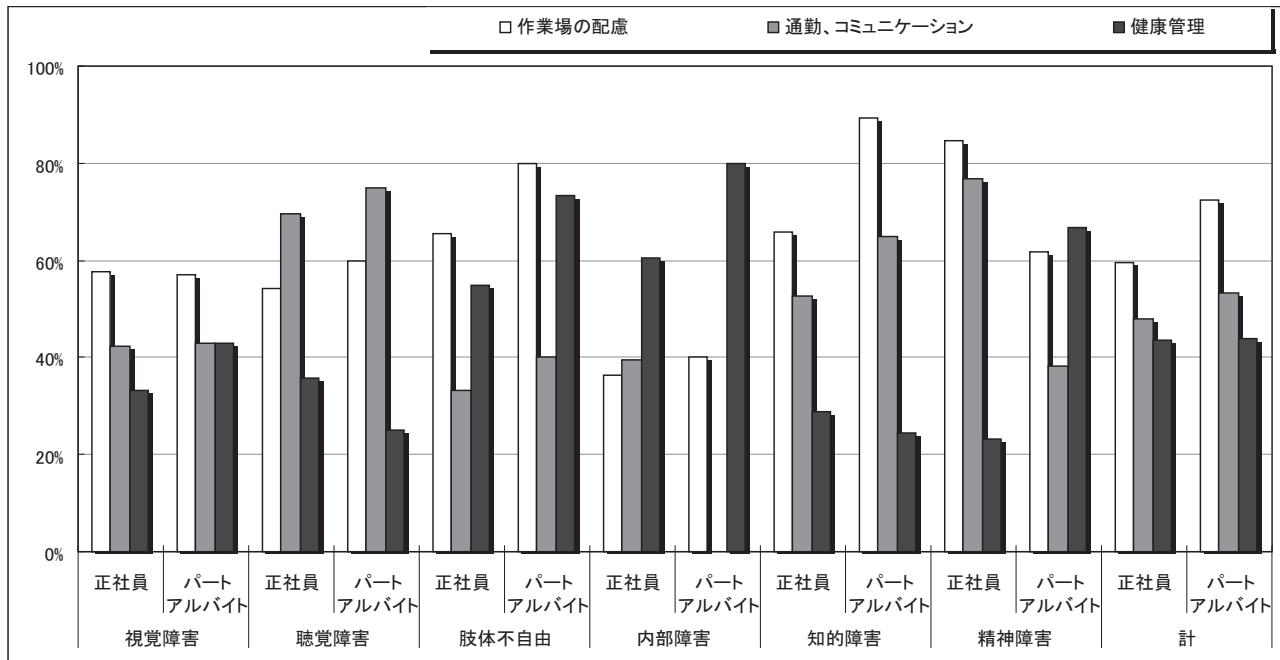


図 4-26 就業形態別環境整備に対する要望

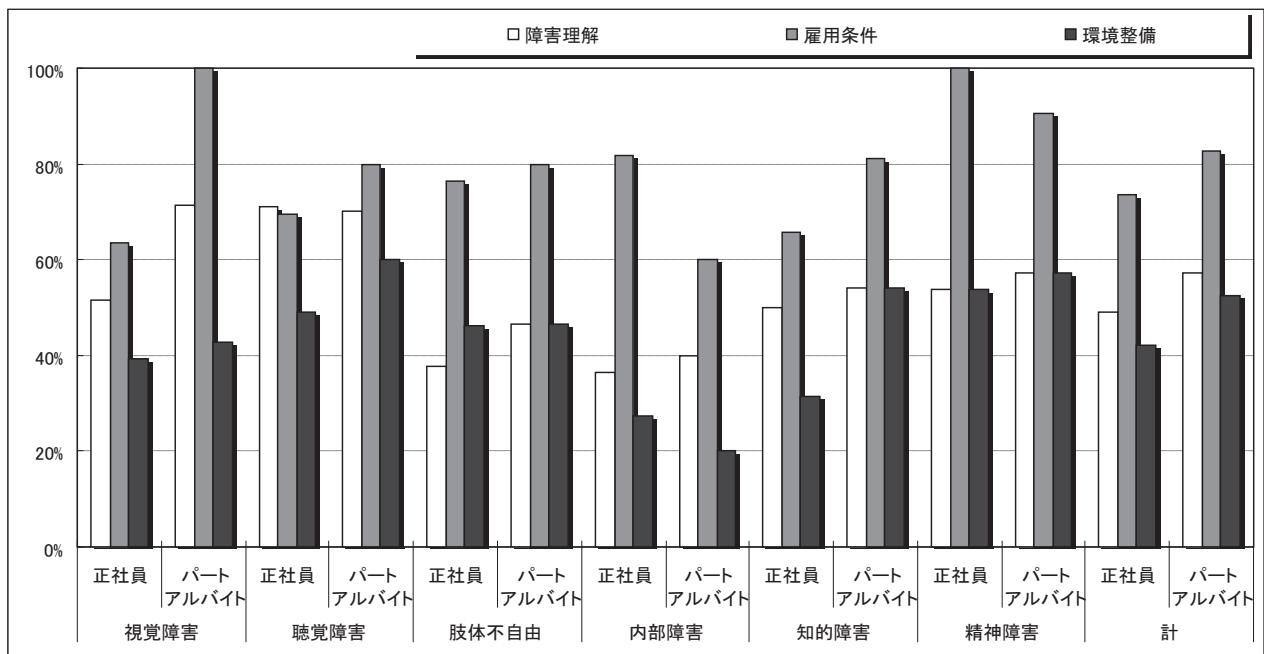


図 4-27 就業形態別配慮事項に対する要望

第6節 男女別の就業形態・仕事満足度

男女別に違いが生じることが考えられる事項について分析を行った。

1 性別と就業形態

正社員とパート・アルバイトの就業者数を全体としたとき（視覚障害は自営も含む）、このうち正社員の占める割合は、男性 74.9%、女性 65.2%であり、男性の方が高い。障害別にみると、肢体不自由においては正社員の占める割合は男女で差ではなく、知的障害、精神障害においては女性の方が正社員の比率が高い傾向がみられる。

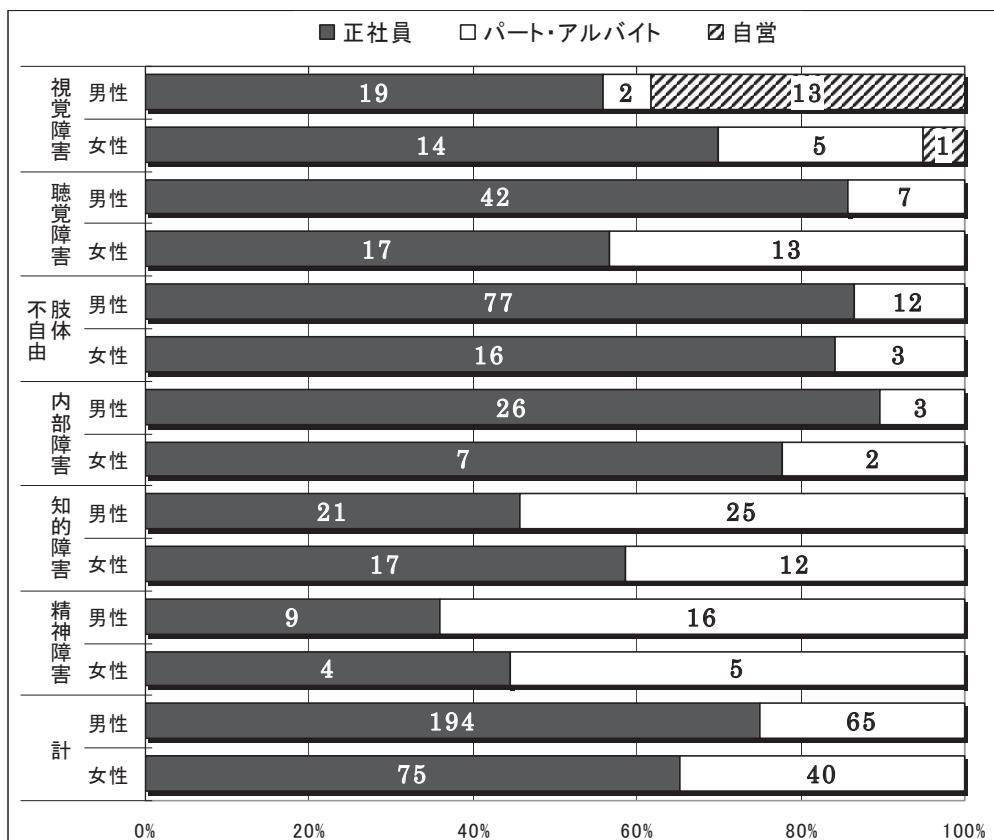


図 4-28 男女別就業形態

2 性別と仕事満足度

性別と仕事についての満足度（問 16）とのクロス集計から、両者の対応をみた。集計に際し、仕事についての満足度の回答は、「満足」と「どちらかといえば満足」を合算し、「不満足」と「どちらかといえば不満足」を合算し、無回答は除外した。

全体的な傾向として、男性及び女性のいずれにおいても全体的に満足の傾向が高いが、両者の比較においてはその傾向に大きな差はみられない。障害別にみると、視覚障害において女性の満足度が高い傾向がみられ、聴覚障害においては「職場の人間関係」及び「職場の環境」で女性の満足度が高い傾向がみられる。

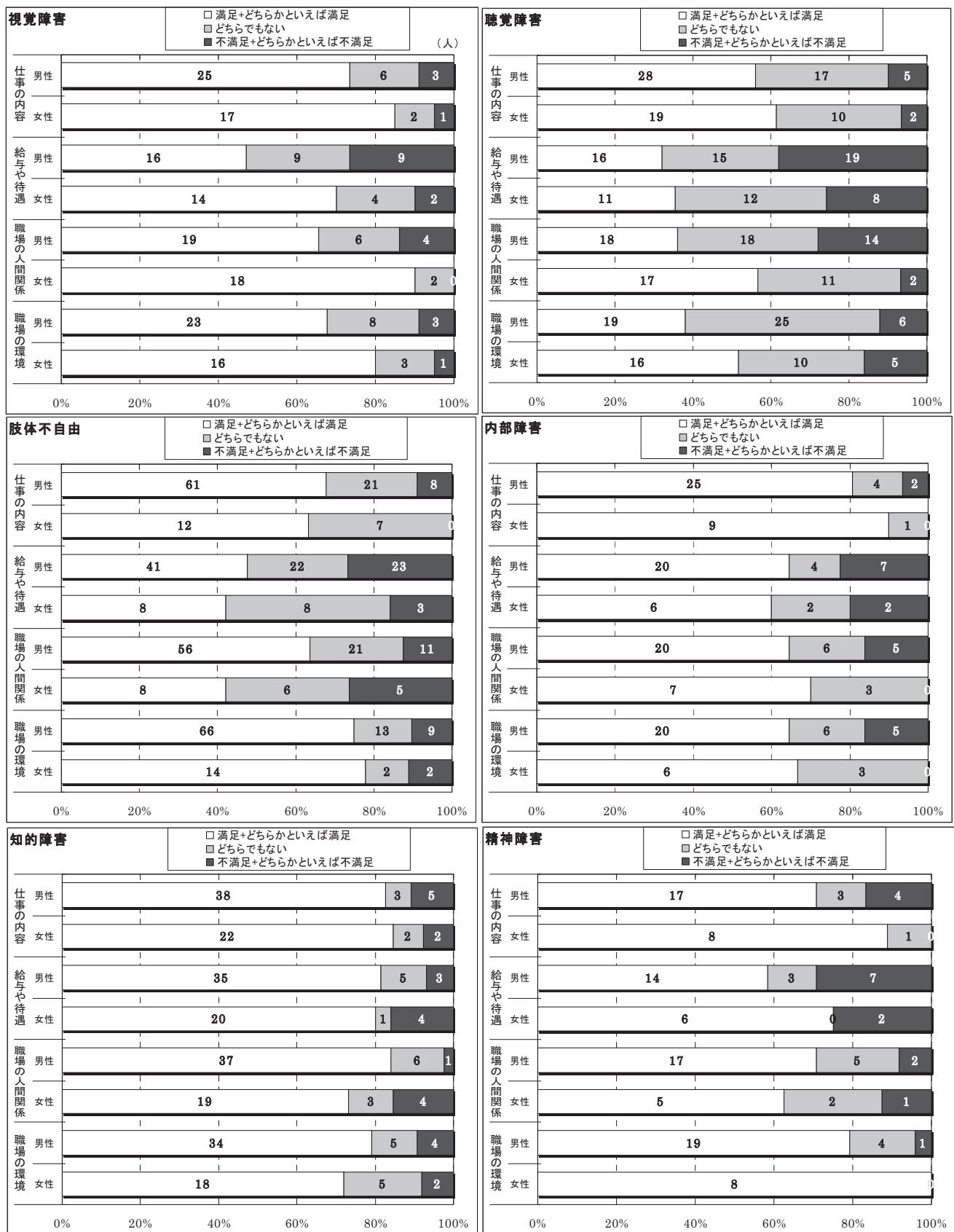


図 4-29 男女別仕事満足度

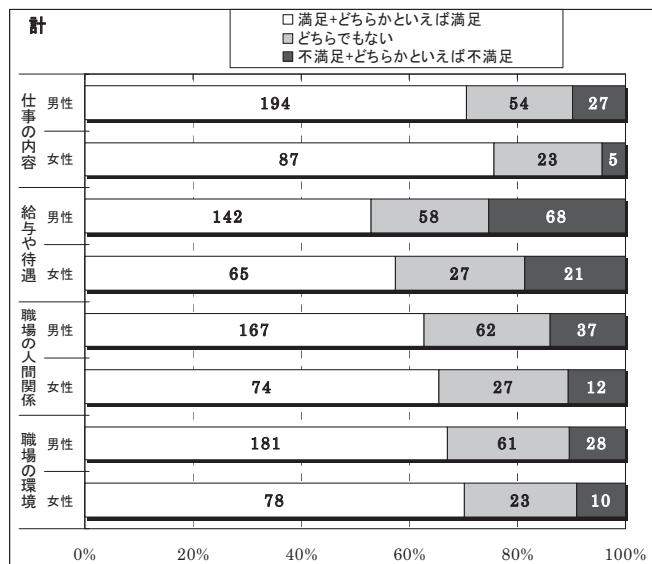


図 4-29 男女別仕事満足度(続き)

第7節 初職と転職別の勤続年数

現在（調査時点）まで、初職を継続しているか、または、転職しているかについて、「対象者の年齢」、「初職についたときの年齢」（以下「初職就職年齢」という）、「現在の会社（自営を含む）で仕事をし始めた年齢」（以下「現職就職年齢」という）から再分類し、勤続年数及び障害診断時期との関係をみた。

「初職就職年齢」と「現職就職年齢」が一致する場合は初職が現在まで継続していると考え、「初職継続者」とし、「現職就職年齢」が「初職就職年齢」より大きい場合は初職を辞めて転職していると考え、「転職者」とした。全対象者のうち「初職継続者」は90人（21.6%）、「転職者」は285人（68.5%）となり、転職経験の方が多い傾向がみられた。

また、「対象者の年齢」と「現職就職年齢」から勤続年数を算出してみると、全体では、勤続年数11年以上の者が165人（39.7%）と最も多く、3年以内の者は81人（19.5%）、4年以上10年以内の者は83人（20.0%）となっている。転職経験の有無との関係からみると、「初職継続者」のうち勤続年数11年以上の者が68人（75.6%）と最も多く、3年以内の者及び4年以上10年以内の者は順に0人、3人（3.3%）と少ない。一方、「転職者」においては、勤続年数の構成比に大きな差はなく、それぞれ勤続年数11年以上の者が92人（32.3%）、4年以上10年以内の者は79人（27.7%）、3年以内の者は79人（27.7%）となっている。

表 4-7 初職継続者数及び転職者数とその勤続年数

現職勤続年数	初職継続者	転職者	不明	(人(%))
				計
~3年	0 (0.0)	79 (27.7)	2 (4.9)	81 (19.5)
4~10年	3 (3.3)	79 (27.7)	1 (2.4)	83 (20.0)
11年~	68 (75.6)	92 (32.3)	5 (12.2)	165 (39.7)
不明	19 (21.1)	35 (12.3)	33 (80.5)	87 (20.9)
計	90 (100.0)	285 (100.0)	41 (100.0)	416 (100.0)
計の構成比	21.6%	68.5%	9.9%	100.0%

- 注 1. 初職継続者は「初職就職年齢」と「現職就職年齢」が一致する者である。
 2. 転職者は「現職就職年齢」が「初職就職年齢」より大きい者である。
 3. 勤続年数は「対象者の年齢」から「初職就職年齢」または「現職就職年齢」を引いたものである。
 4. データ不備の者を除いている。

さらに「初職継続者」について、初職就職年齢と障害の診断時期の関係をみると、初職就職前に障害診断があった者が 56 人 (62.2%) と多く、初職就職後に障害診断があった者は 15 人 (16.7%) であった。

表 4-8 障害別にみた初職継続者の障害診断時期 (人)

	障害診断時期			計
	現職(初職)前	現職(初職)後	不明	
視覚障害	12	0	2	14
聴覚障害	20	0	5	25
肢体不自由	17	4	3	24
内部障害	0	6	1	7
知的障害	7	1	6	14
精神障害	0	4	2	6
計	56	15	19	90

注) 現職就職年齢と初職就職年齢が一致している者を初職継続者とした。

一方「転職者」については、「障害の診断の後に初職就職があり、その後現職に就職した者」が 133 人 (46.7%) と最も多く、次いで「初職就職後に障害の診断があり、その後現職に就職した者」が 101 人 (35.4%) であった。「転職後に障害の診断がある者」は 16 人 (5.6%) であった。

表 4-9 障害別にみた転職者の障害診断時期 (人)

	障害診断時期				計
	障害診断 →初職 →現職	初職 →障害診断 →現職	初職 →現職 →障害診断	障害診断時期 不明	
視覚障害	24	12	1	2	39
聴覚障害	40	3	1	7	51
肢体不自由	24	48	3	9	84
内部障害	7	19	7	1	34
知的障害	34	4	1	12	51
精神障害	4	15	3	4	26
計	133	101	16	35	285

注) 現職就職年齢と初職就職年齢が不一致の者を転職者とした。

第8節 障害診断時期別の学歴等

後期調査の対象者の障害診断時期は第3章第1節の3において集計結果を示したとおりであるが、本節では診断時期を「35歳以降」と「34歳以前」に分類し、関連があると思われる回答項目とクロス集計を行った。

本調査は障害のある労働者の職業生活全体を前半と後半に分けて調査をしていく設計上、後期調査対象の中途障害者について診断時期の一部は前期調査群の年齢範囲を超えており、その集団は職業生活後半に受障した者であり前半に受障した者と質的に異なると考えられる。例えば、扶養家族がいる、受障以前の職業経験が長い、本人をとりまく社会資源が異なるなどが推測される。これらは本研究での職業サイクルに対する主要な説明変数であるため丁寧に分析していく必要がある。仕事の状況や意識についても、他の集団と分けて特記していく必要がある。このように、今後の経年変化では、この群を分けて把握していく必要性も考えられるため、まずこの集団の特性を分析しておくという目的で以下に障害・程度別、学歴、仕事内容、給料を集計する。

一方で、本調査設計の理由のためだけでなく、一般的に障害のある労働者の問題として、中途障害の診断時期によって職業サイクルに違いがあるのかどうかなど今後把握していくことが考えられる。

1 障害別、程度別の状況

(1) 障害別

障害診断時期が「わからない」及び無回答を除き、全体では診断時期が「35歳以降」とする者は64人であり、18.2%を占めている。障害別にみると精神障害では41.9%、内部障害では35.0%と他の障害に比べて構成比が大きい。実数としては肢体不自由が23人と最も多い。

表4-10 障害別の障害診断時期

障害 診断時期	視覚障害	聴覚障害	肢体不自由	内部障害	知的障害	精神障害	(人(%))
34歳以前	44 (86.3)	66 (95.7)	86 (78.9)	26 (65.0)	47 (92.2)	18 (58.1)	287 (81.8)
35歳以降	7 (13.7)	3 (4.3)	23 (21.1)	14 (35.0)	4 (7.8)	13 (41.9)	64 (18.2)
計	51 (100.0)	69 (100.0)	109 (100.0)	40 (100.0)	51 (100.0)	31 (100.0)	351 (100.0)

(2) 障害の程度別

障害診断時期が35歳以降の者について、手帳所持者であって障害程度の回答があった者についてみると、身体障害では29人が重度であり64.4%を占め、知的障害及び精神障害ではそれぞれ3人、6人全員が中軽度である。

表4-11 障害程度別の障害診断時期35歳以降の者の状況

(人(%))

障害	重度 (1, 2級)	中軽度 (3~6級)	計
肢体不自由	12 (54.5)	10 (45.5)	22 (100.0)
視覚障害	6 (85.7)	1 (14.3)	7 (100.0)
聴覚障害	2 (66.7)	1 (33.3)	3 (100.0)
内部障害	9 (69.2)	4 (30.8)	13 (100.0)
計	29 (64.4)	16 (35.6)	45 (100.0)

障害	重度 (A度、1・2度等)	中軽度 (B度、3度等)	計
知的障害	0	3	3

障害	重度 (1級)	中軽度 (2, 3級)	計
精神障害	0	6	6

2 障害診断時期別の最終学歴（中退含む）

全体では、診断時期が「35歳以降」では最終学歴が「大学・短大」の43.1%が最も多く、これは「34歳以前」の「大学・短大」20.5%を大きく上回っている。次に構成比が大きいのは診断時期が「35歳以降」、「34歳以前」のいずれにおいても「高校」でありそれぞれ24.1%、18.3%、次に「35歳以降」では「職業能力開発校」が16.7%、「34歳以前」では「特別支援学校高等部」15.7%となっている。

なお、「35歳以降」では「特別支援学校中等部」、「同高等部」は0人、「同専攻科」は2人である。

表4-12 障害診断時期別の最終学歴（中退含む）

(人(%))

障害	視覚障害		聴覚障害		肢体不自由		内部障害		知的障害		精神障害		計	
診断時期 最終学歴	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降		
中学校			1 (1.8)				2 (8.0)		15 (34.1)	1 (33.3)	2 (12.5)		20 (7.5)	1 (1.7)
高校			5 (8.8)		26 (31.3)	4 (19.0)	9 (36.0)	7 (50.0)	3 (6.8)		6 (37.5)	3 (23.1)	49 (18.3)	14 (24.1)
特別支援学校 中等部	1 (2.3)								4 (9.1)				5 (1.9)	
特別支援学校 高等部			16 (28.1)		7 (8.4)				19 (43.2)				42 (15.7)	
特別支援学校 専攻科	21 (48.8)	2 (40.0)	11 (19.3)										32 (11.9)	2 (3.4)
専門学校	5 (11.6)		5 (8.8)		5 (6.0)	1 (4.8)	1 (4.0)			1 (33.3)	3 (18.8)	1 (7.7)	19 (7.1)	3 (5.2)
職業能力 開発校	4 (9.3)	1 (20.0)	7 (12.3)		22 (26.5)	7 (33.3)	2 (8.0)	1 (7.1)	3 (6.8)		1 (6.3)	2 (15.4)	39 (14.6)	11 (19.0)
大学・短大	12 (27.9)	2 (40.0)	11 (19.3)	2 (100.0)	19 (22.9)	8 (38.1)	11 (44.0)	5 (35.7)		1 (33.3)	2 (12.5)	7 (53.8)	55 (20.5)	25 (43.1)
大学院			1 (1.8)		4 (4.8)	1 (4.8)			1 (7.1)			2 (12.5)	7 (2.6)	2 (3.4)
計	43 (100.0)	5 (100.0)	57 (100.0)	2 (100.0)	83 (100.0)	21 (100.0)	25 (100.0)	14 (100.0)	44 (100.0)	3 (100.0)	16 (100.0)	13 (100.0)	268 (100.0)	58 (100.0)

3 障害診断時期別の仕事内容

全体では、診断時期が「35歳以降」で「事務の仕事」が49.1%と最も多く、続いで「ものを作る仕事」が14.0%、「人を相手にするサービスの仕事」及び「医療や福祉に関わる仕事」12.3%となっている。診断時期が「34歳以前」では「ものを作る仕事」が33.2%と最も多く、次いで「事務の仕事」26.6%となっている。

表 4-13 障害診断時期別の仕事内容

障害	視覚障害		聴覚障害		肢体不自由		内部障害		知的障害		精神障害		(人(%))	
	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降
診断時期 仕事内容	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降
ものを 作る仕事	1 (2.4)		31 (49.2)	2 (66.7)	30 (40.5)	1 (4.8)	4 (18.2)	2 (15.4)	14 (32.6)		6 (40.0)	3 (33.3)	86 (33.2)	8 (14.0)
ものを 売る仕事	1 (2.4)				3 (4.1)		1 (4.5)		3 (7.0)				8 (3.1)	
事務の 仕事	3 (7.1)	1 (14.3)	21 (33.3)	1 (33.3)	32 (43.2)	13 (61.9)	11 (50.0)	9 (69.2)			2 (13.3)	4 (44.4)	69 (26.6)	28 (49.1)
ものを 教える仕事	7 (16.7)	1 (14.3)	2 (3.2)		1 (1.4)		1 (4.5)						11 (4.2)	1 (1.8)
医療や福祉に關 わる仕事	26 (61.9)	5 (71.4)	5 (7.9)		2 (2.7)	2 (9.5)	2 (9.1)				1 (6.7)		36 (13.9)	7 (12.3)
人を相手にする サービスの仕事	4 (9.5)		1 (1.6)		4 (5.4)	5 (23.8)	2 (9.1)	1 (7.7)	3 (7.0)		1 (6.7)	1 (11.1)	15 (5.8)	7 (12.3)
清掃・クリーニングなどのサービスの仕事			3 (4.8)		2 (2.7)		1 (4.5)	1 (7.7)	23 (53.5)	4 (100.0)	5 (33.3)	1 (11.1)	34 (13.1)	6 (10.5)
計	42 (100.0)	7 (100.0)	63 (100.0)	3 (100.0)	74 (100.0)	21 (100.0)	22 (100.0)	13 (100.0)	43 (100.0)	4 (100.0)	15 (100.0)	9 (100.0)	259 (100.0)	57 (100.0)

4 障害診断時期別の給与額

全体では、診断時期が「35歳以降」で月額給与「13万円以上」が76.3%と、「34歳以前」の61.0%よりも多い。

表 4-14 障害診断時期別の給与額（月額）

障害	視覚障害		聴覚障害		肢体不自由		内部障害		知的障害		精神障害		(人(%))	
	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降
診断時期 給与(月額)	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降	34歳以前	35歳以降
13万円以上	35 (83.3)	7 (100.0)	44 (71.0)	1 (50.0)	57 (74.0)	18 (85.7)	4 (8.5)	1 (25.0)	19 (79.2)	12 (85.7)	4 (26.7)	6 (54.5)	163 (61.0)	45 (76.3)
13万円未満	7 (16.7)		18 (29.0)	1 (50.0)	20 (26.0)	3 (14.3)	43 (91.5)	3 (75.0)	5 (20.8)	2 (14.3)	11 (73.3)	5 (45.5)	104 (39.0)	14 (23.7)
計	42 (100.0)	7 (100.0)	62 (100.0)	2 (100.0)	77 (100.0)	21 (100.0)	47 (100.0)	4 (100.0)	24 (100.0)	14 (100.0)	15 (100.0)	11 (100.0)	267 (100.0)	59 (100.0)

第9節 仕事満足度の影響要因

仕事満足度と他の質問項目回答との関係については、既に「第1節 5就業形態別の仕事満足度」及び「第5節 2性別と仕事満足度」において就業形態及び性別との関連をみているが、仕事に対する対象者の意識をみる上で「仕事満足度」は重要な指標の一つとして挙げられるため、より多くの項目との関係を明らかにしておく必要がある。そこで本節では仕事満足度を中心として、その影響要因を就業形態及び性別以外の質問項目回答とのクロス集計から検討を行った。

1 仕事満足度と年代の関係

全体的な傾向として、仕事の満足度に関して年代による差はみられない。障害別にみた場合、各年代カテゴリで回答傾向にばらつきがみられるところが複数みられるが、高年齢になるほど満足度が高くなるまたは低くなるといった一貫した傾向はみられない。

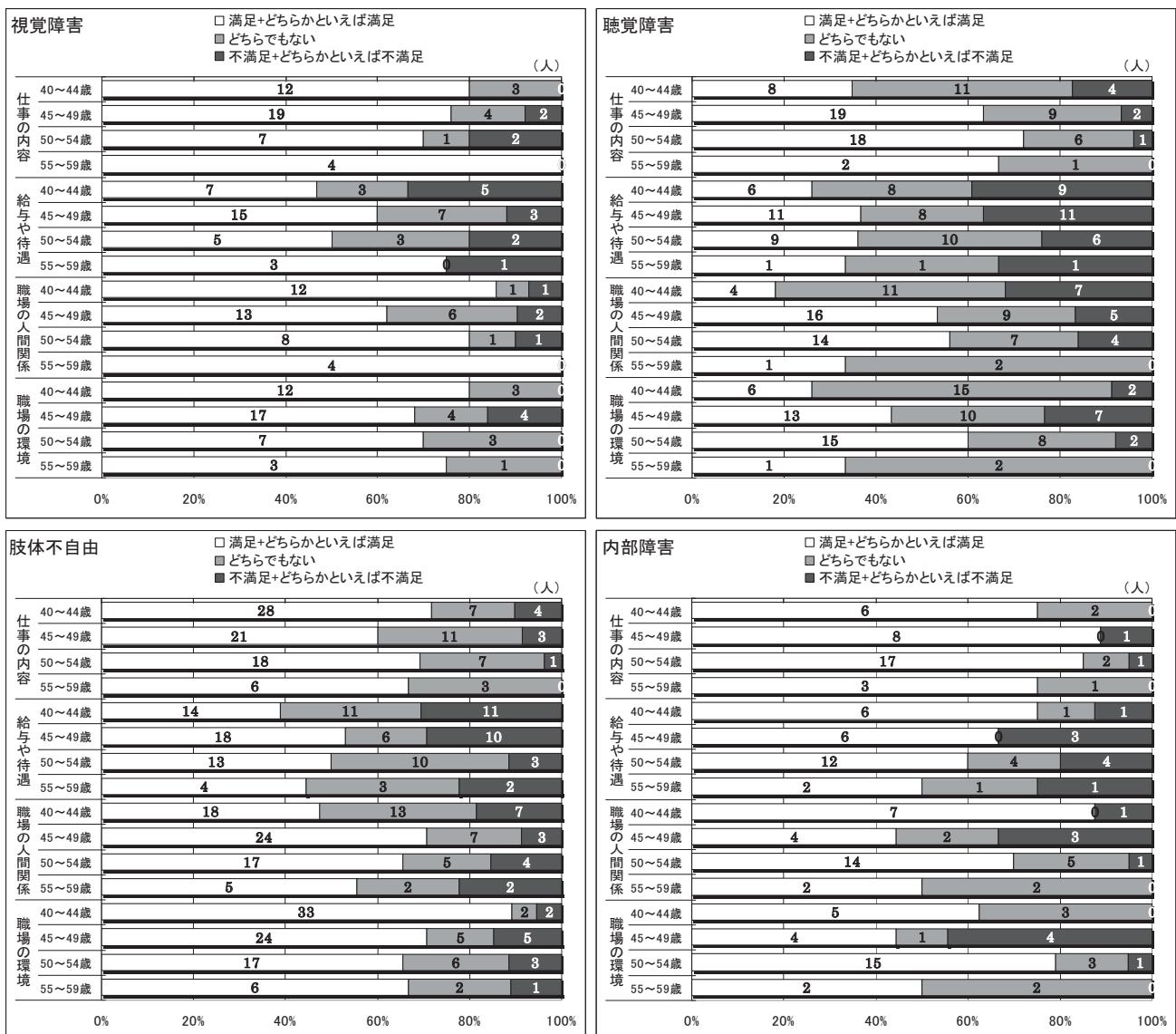


図 4-30 年代別仕事満足度

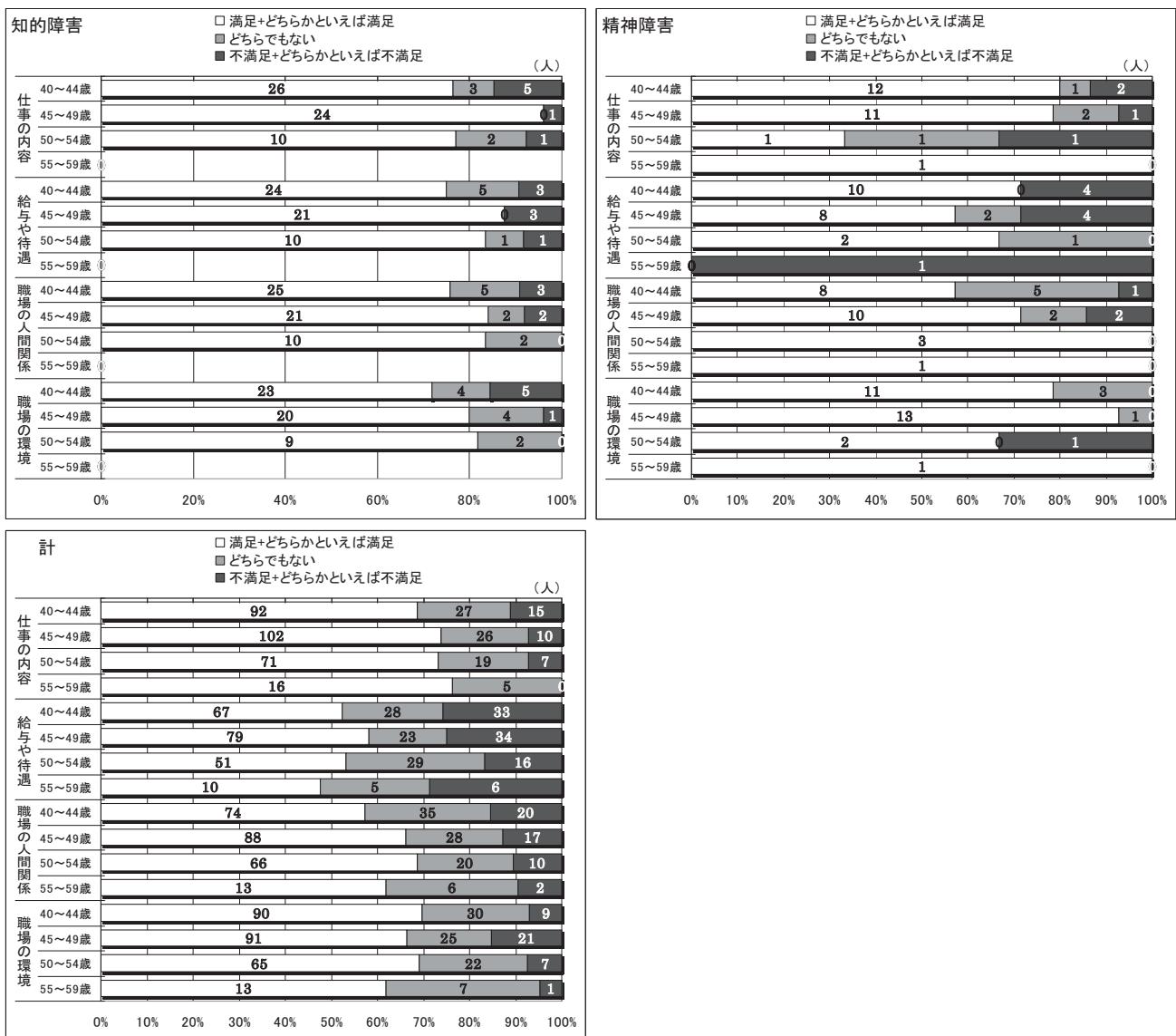


図 4-30 年代別仕事満足度(続き)

2 仕事満足度と障害年金受給状況の関係

全体的な傾向として、「障害年金受給なし」において仕事満足度が高い傾向がみられる。障害別にみると、視覚障害及び聴覚障害においてその傾向はより顕著にみられ、逆に肢体不自由及び知的障害においては障害年金受給の有無で仕事満足度に大きな差はみられない。

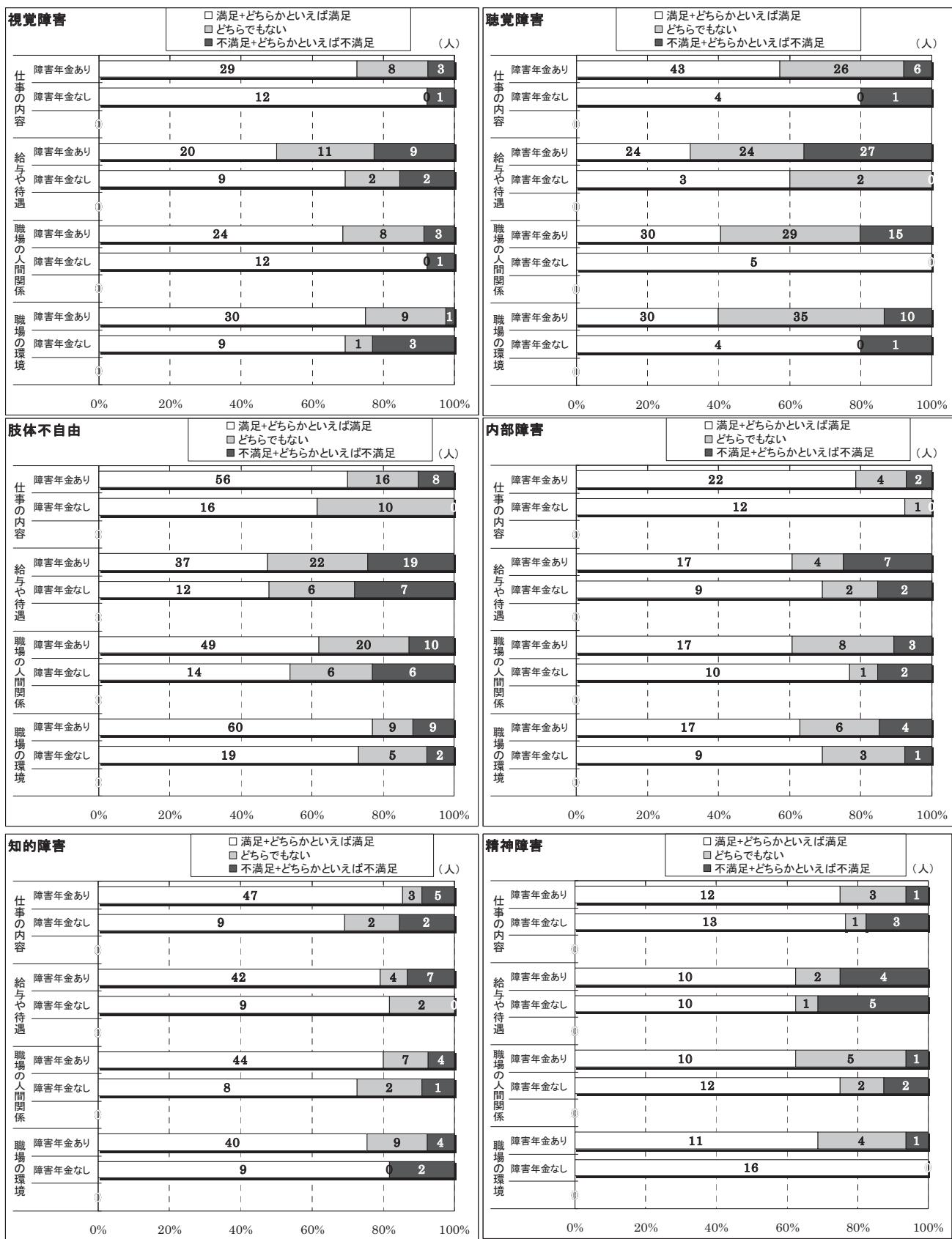


図 4-31 障害年金受給状況別仕事満足度

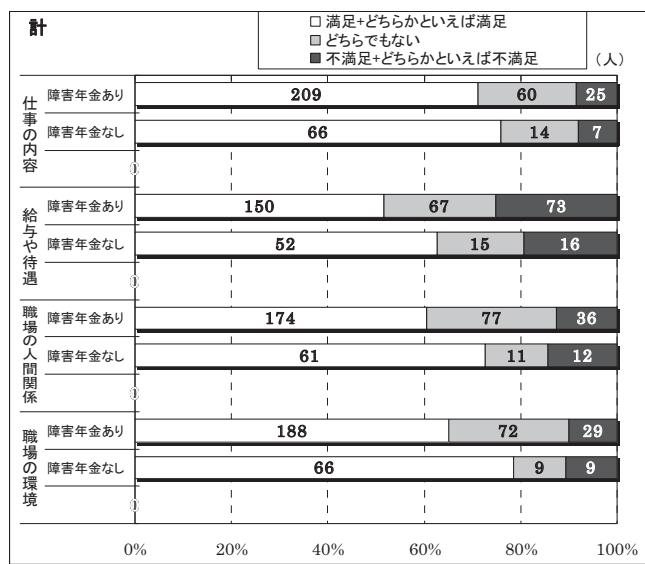


図 4-31 障害年金受給状況別仕事満足度(続き)

上述の分析において「障害年金受給なし」において仕事満足度が高い傾向がみられたが、「障害年金の受給がない」人は給与額が高いために障害年金を受給していない可能性もあるので、以下に参考として障害年金受給状況と給与額のクロス集計結果を示す。

全体的な傾向として、障害年金の受給なしの方が給与額が高い（給与額 13 万円以上の割合が多い）。障害別にみると、視覚障害及び精神障害において同傾向は顕著にみられる。

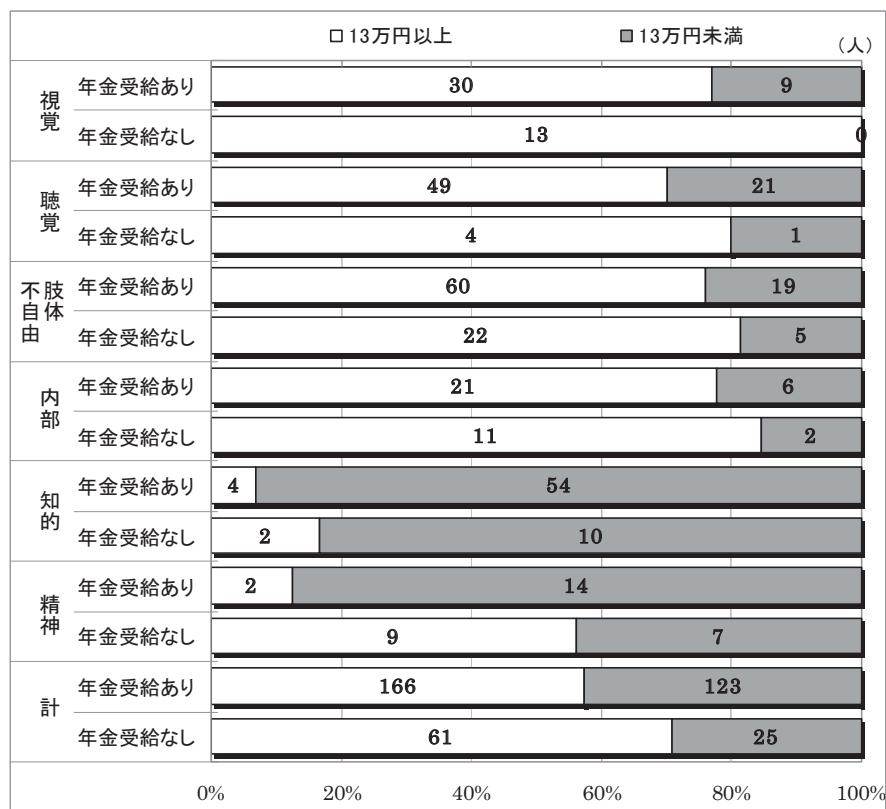


図 4-32 障害年金受給状況と給与額の関係

3 仕事満足度と給与額の関係

第1節「4 就業形態別の給与額」と同様に、給与に関する回答（問11）を、「月額13万円未満」と「月額13万円以上」の2群に再分類し、仕事満足度との対応をみた。

全体的な傾向として、給与額による仕事満足度の差はみられないが、障害別にみると、視覚障害及び聴覚障害、内部障害の「月額13万円未満」において「給与や待遇」の満足度が低い傾向がみられる。

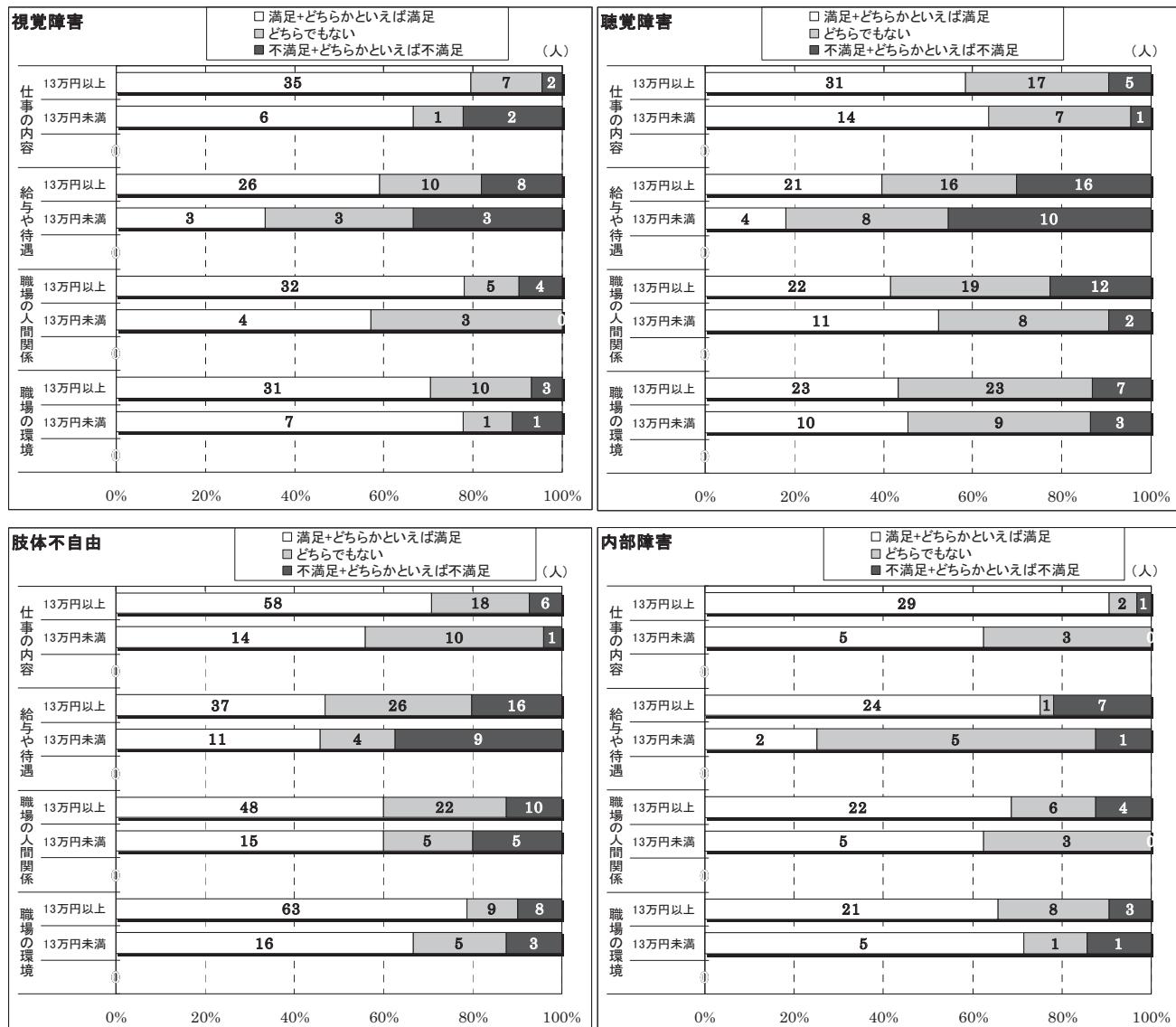


図4-33 給与額別仕事満足度

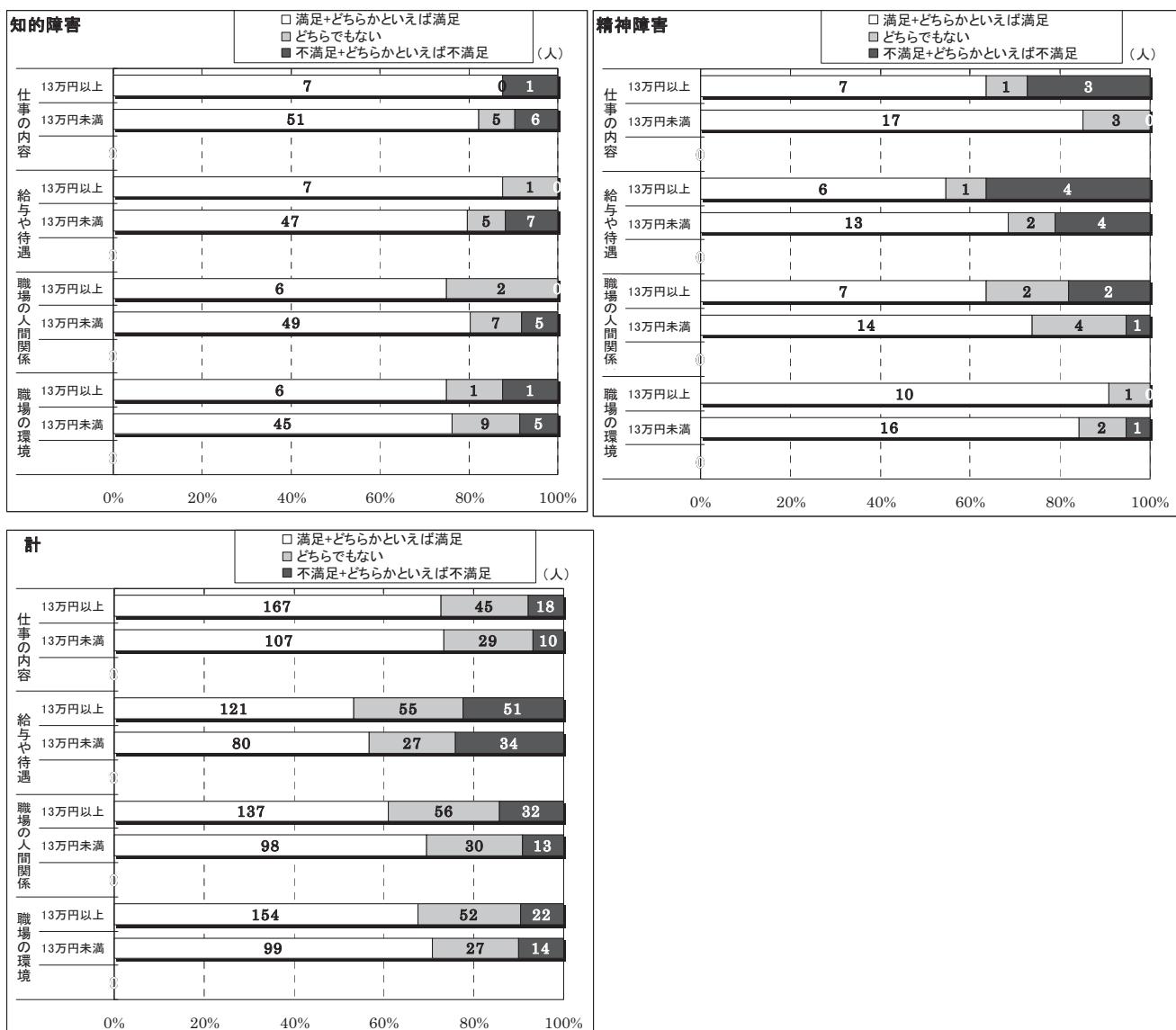


図 4-33 給与額別仕事満足度(続き)

4 仕事満足度と転職経験の関係

全体的な傾向として、「転職経験あり」において「給与や待遇」の満足度が低い傾向がみられ、他の項目では大きな差はみられない。障害別にみると、視覚障害及び肢体不自由、内部障害で、全般的に「転職経験あり」の満足度が低い傾向がみられる。逆に聴覚障害においては「転職経験あり」の満足度が高い傾向がみられる。また、知的障害においては転職経験の有無による仕事満足度の差はみられない。

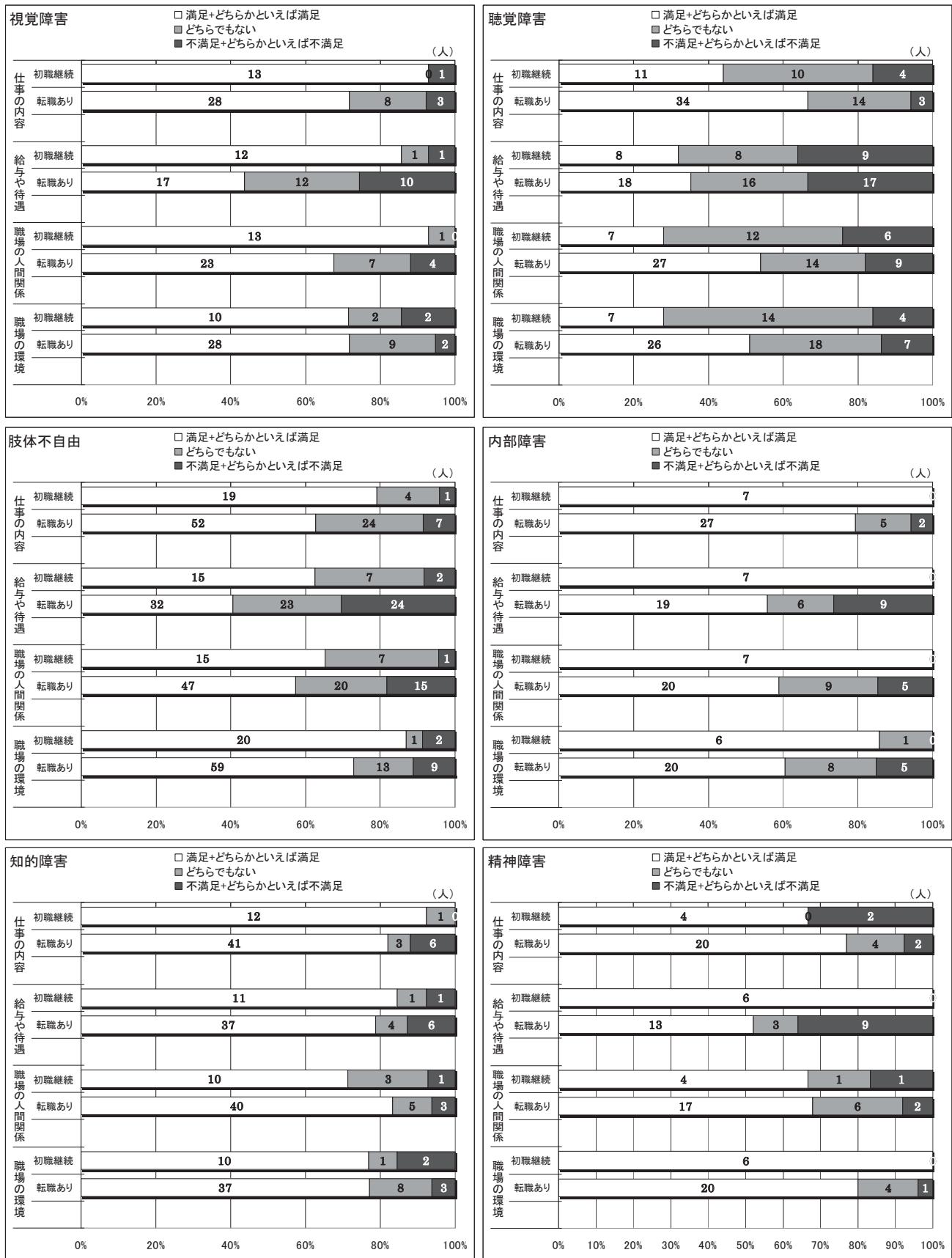
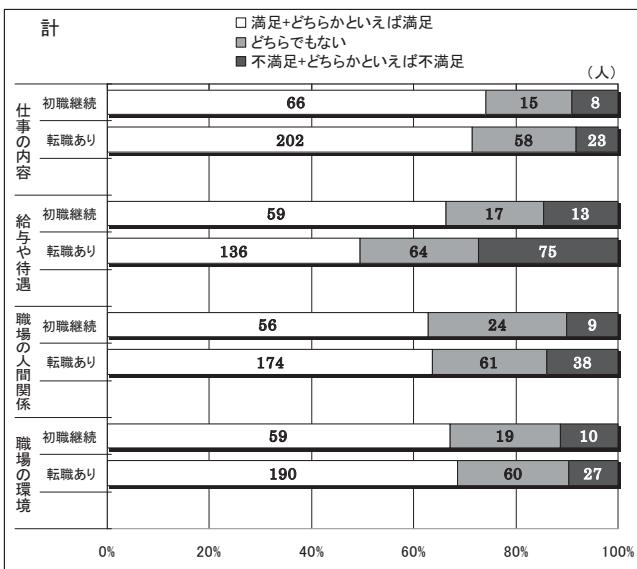


図 4-34 転職経験別仕事満足度



5 仕事満足度と現職勤続年数の関係

全体的な傾向として、現職勤続年数による仕事満足度の差はみられないが、障害別にみると、視覚障害及び肢体不自由、内部障害の「給与や待遇」において、勤続年数が長くなると満足度が高くなる傾向がみられる。

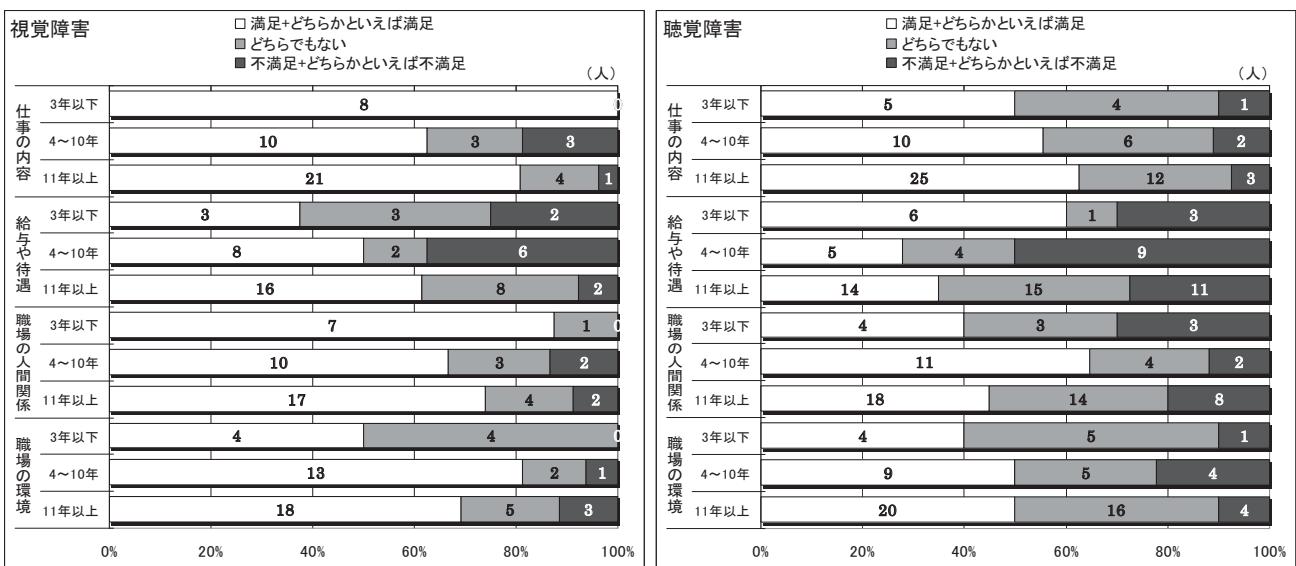


図 4-35 現職勤続年数別仕事満足度

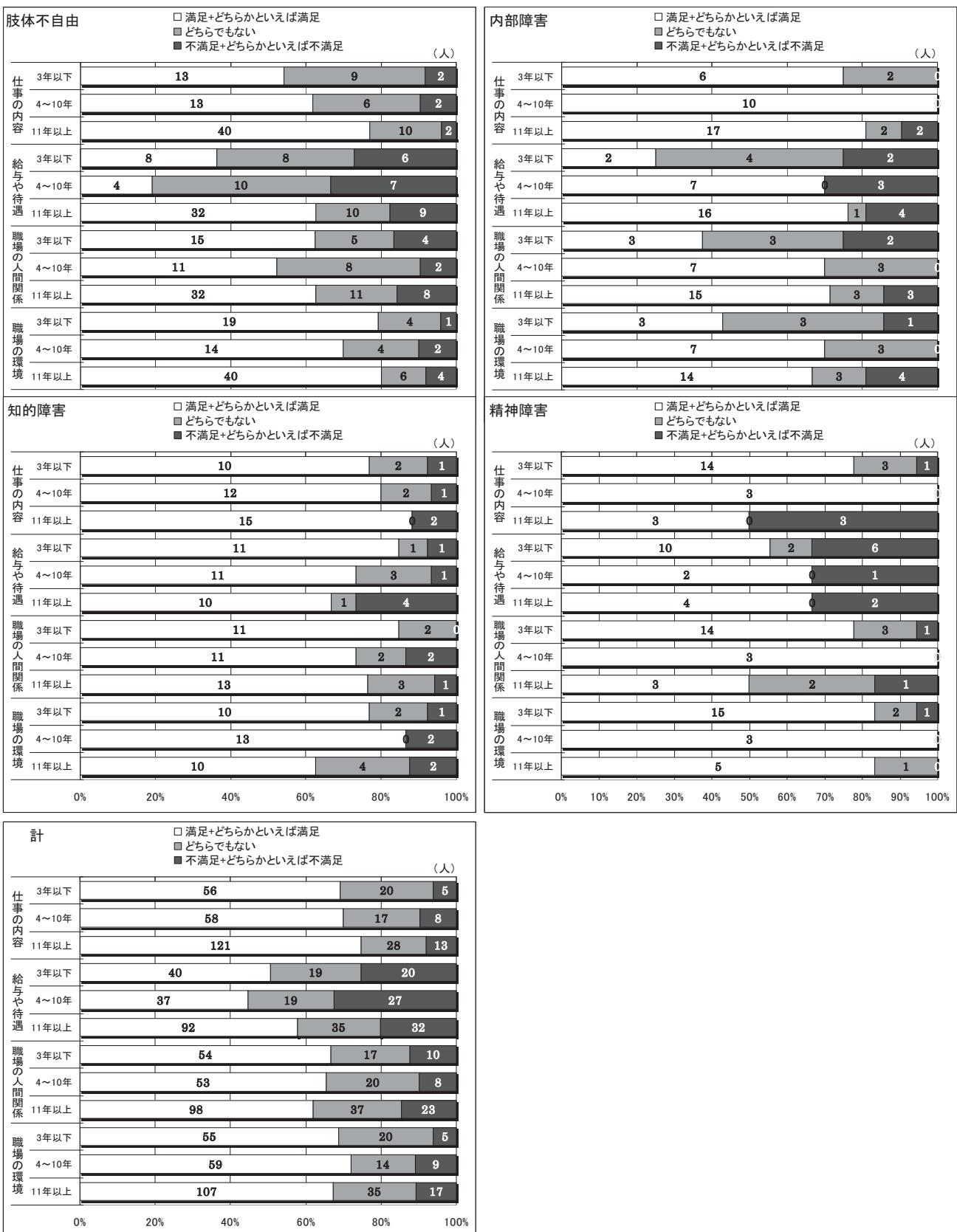


図 4-35 現職勤続年数別仕事満足度(続き)

6 仕事満足度と重要度との関連

第3章第2節の8において、現在の仕事についての満足度を見た結果、全体では「満足」と「どちらかといふと満足」の回答が多かったが、この要因は仕事を得たこと自体によるものか、それとも仕事内容や給与など具体的なことからなのか検討しておく必要がある。これについて、仕事をする上で重要と考えることとの関連から分析を試みた。

具体的には、仕事の内容、賃金や給料等の項目について同様の内容に関して、仕事の重要度の設問（問25）の回答と仕事満足度の回答のクロス集計を行った。無回答は除いた。

その結果、以下のように、満足度が高い事項について重要度も高い状況がみられるが、今後、継続して調査を実施していく中で、離職、転職の状況など仕事上の出来事とのかかわりなども含めて検討していく。

「仕事の内容」の満足度が「満足」と「どちらかといふと満足」を合わせると、このうち、働く上で「仕事の内容」が「重要」60.8%、「どちらかといふと重要」28.9%となっている。

表 4-15 「仕事の内容」の満足度と「仕事の内容」の重要度

		仕事の満足度							項目:仕事の内容		(人(%))	
		満足	どちらかといふと満足	左2欄の合計		どちらともいえない	どちらかといふと不満足	不満足		計		
仕事をする上で の重要度	重要	97 (76.4)	69 (47.3)	166 (60.8)	32 (42.7)	13 (61.9)	7 (63.6)	218 (57.4)				
	どちらかといふと重要	20 (15.7)	59 (40.4)	79 (28.9)	25 (33.3)	2 (9.5)	3 (27.3)	109 (28.7)				
	どちらともいえない	6 (4.7)	18 (12.3)	24 (8.8)	16 (21.3)	5 (23.8)	0 (0.0)	45 (11.8)				
	どちらかといふと重要でない	1 (0.8)	0 (0.0)	1 (0.4)	1 (1.3)	1 (4.8)	1 (9.1)	4 (1.1)				
項目:仕事の内 容	重要でない	3 (2.4)	0 (0.0)	3 (1.1)	1 (1.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (1.1)				
	計	127 (100.0)	146 (100.0)	273 (100.0)	75 (100.0)	21 (100.0)	11 (100.0)	380 (100.0)				

「給料や待遇」についての満足度が「満足」と「どちらかといふと満足」を合わせると、このうち働く上で「賃金や給料」が「重要」73.3%、「どちらかといふと重要」21.8%となっている。

表 4-16 「給料や待遇」の満足度と「賃金や給料」の重要度

		仕事の満足度							項目:給料や待遇		(人(%))	
		満足	どちらかといふと 満足	左2欄の合計		どちらともいえない	どちらかといふと 不満足	不満足		計		
仕事をする上で の重要度	重要	69 (80.2)	79 (68.1)	148 (73.3)	56 (66.7)	38 (63.3)	20 (71.4)	262 (70.1)				
	どちらかといふと重要	12 (14.0)	32 (27.6)	44 (21.8)	19 (22.6)	16 (26.7)	6 (21.4)	85 (22.7)				
	どちらともいえない	2 (2.3)	5 (4.3)	7 (3.5)	9 (10.7)	3 (5.0)	2 (7.1)	21 (5.6)				
	どちらかといふと重要でない	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (5.0)	0 (0.0)	3 (0.8)				
項目:賃金や給 料	重要でない	3 (3.5)	0 (0.0)	3 (1.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (0.8)				
	計	86 (100.0)	116 (100.0)	202 (100.0)	84 (100.0)	60 (100.0)	28 (100.0)	374 (100.0)				

「給料や待遇」についての満足度が「満足」と「どちらかといふと満足」を合わせると、このうち働く上で「勤務時間や休日」が「重要」64.6%、「どちらかといふと重要」26.3%となっている。

表 4-17 「給料や待遇」の満足度と「勤務時間や休日」の重要度

(人(%))

		仕事の満足度 項目:給料や待遇													
		満足		どちらかといえば満足		左 2 棚の合計		どちらともいえない		どちらかといえば不満足		不満足		計	
仕事をする上で の重要度	重要	55	(67.1)	73	(62.9)	128	(64.6)	41	(48.8)	23	(39.0)	15	(53.6)	207	(56.1)
	どちらかといえば重要	19	(23.2)	33	(28.4)	52	(26.3)	25	(29.8)	23	(39.0)	9	(32.1)	109	(29.5)
	どちらともいえない	3	(3.7)	8	(6.9)	11	(5.6)	17	(20.2)	11	(18.6)	4	(14.3)	43	(11.7)
項目:勤務時間 や休日	どちらかといえば重要でない	1	(1.2)	2	(1.7)	3	(1.5)	1	(1.2)	2	(3.4)	0	(0.0)	6	(1.6)
	重要でない	4	(4.9)	0	(0.0)	4	(2.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	4	(1.1)
計		82	(100.0)	116	(100.0)	198	(100.0)	84	(100.0)	59	(100.0)	28	(100.0)	369	(100.0)

「職場の人間関係」についての満足度が「満足」と「どちらかというと満足」を合わせると、このうち働く上で「仕事仲間との人間関係」が「重要」65.5%、「どちらかというと重要」28.0%となっている。

表 4-18 「職場の人間関係」の満足度と「仕事仲間との人間関係」の重要度

(人(%))

		仕事の満足度 項目:職場の人間関係													
		満足		どちらかといえば満足		左 2 棚の合計		どちらともいえない		どちらかといえば不満足		不満足		計	
仕事をする上で の重要度	重要	79	(84.0)	73	(52.9)	152	(65.5)	33	(37.9)	15	(44.1)	8	(72.7)	208	(57.1)
	どちらかといえば重要	11	(11.7)	54	(39.1)	65	(28.0)	30	(34.5)	12	(35.3)	2	(18.2)	109	(29.9)
	どちらともいえない	2	(2.1)	11	(8.0)	13	(5.6)	23	(26.4)	2	(5.9)	0	(0.0)	38	(10.4)
項目:仕事仲間と の人間関係	どちらかといえば重要でない	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(1.1)	4	(11.8)	0	(0.0)	5	(1.4)
	重要でない	2	(2.1)	0	(0.0)	2	(0.9)	0	(0.0)	1	(2.9)	1	(9.1)	4	(1.1)
計		94	(100.0)	138	(100.0)	232	(100.0)	87	(100.0)	34	(100.0)	11	(100.0)	364	(100.0)

「職場の環境」についての満足度が「満足」と「どちらかというと満足」を合わせると、このうち働く上で「職場の環境整備」が「重要」55.7%、「どちらかというと重要」32.0%となっている。

表 4-19 「職場の環境」の満足度と「職場環境整備」の重要度

(人(%))

		仕事の満足度 項目:職場の環境													
		満足		どちらかといえば満足		左 2 棚の合計		どちらともいえない		どちらかといえば不満足		不満足		計	
仕事をする上で の重要度	重要	81	(65.9)	60	(46.2)	141	(55.7)	27	(33.3)	16	(59.3)	5	(45.5)	189	(50.8)
	どちらかといえば重要	30	(24.4)	51	(39.2)	81	(32.0)	34	(42.0)	7	(25.9)	5	(45.5)	127	(34.1)
	どちらともいえない	8	(6.5)	17	(13.1)	25	(9.9)	18	(22.2)	3	(11.1)	1	(9.1)	47	(12.6)
項目:職場の環 境整備	どちらかといえば重要でない	2	(1.6)	2	(1.5)	4	(1.6)	2	(2.5)	1	(3.7)	0	(0.0)	7	(1.9)
	重要でない	2	(1.6)	0	(0.0)	2	(0.8)	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)	2	(0.5)
計		123	(100.0)	130	(100.0)	253	(100.0)	81	(100.0)	27	(100.0)	11	(100.0)	372	(100.0)

第10節 仕事に関する今後の考え方と就業状況等

調査対象者の思う職業生活の引退時期と就業状況等との関係について検討した。「仕事に対する今後の考え方」(問17)の回答内容から、「働く年齢が決まっている」と回答した者(262人)について、「その決まっている年齢を基準にいつまで仕事を続けたいか」(問17c)の回答と就業状況等とのクロス集計を行った。(「働く年齢が決まっている」対象者の具体的な働く年齢は、「60~65歳」の回答が93.1%(262人中244人)であった。)

1 仕事に関する今後の考え方と決まっている年齢(働く年齢)

全体では、「決まっている年齢より前にやめたい」、「決まっている年齢まで働きたい」、「決まっている年齢以降も働きたい」の順に、働く年齢「60歳以下」の割合が増加し、「61歳以上」の割合が減少する傾向がみられる。

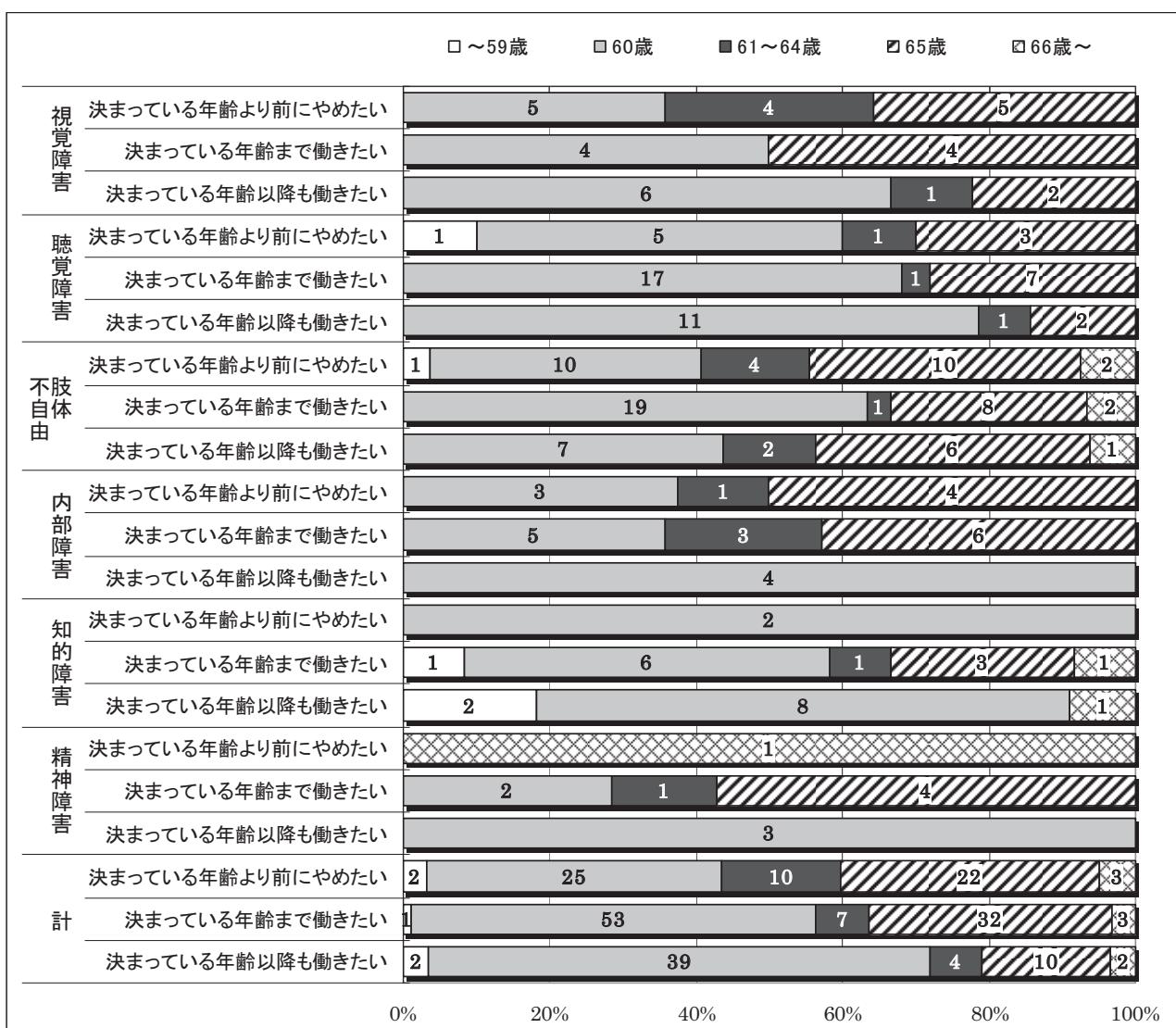


図4-36 「いつまで働きたいか」回答ごとの働く年齢(「働く年齢が決まっている」対象者のみ)

2 仕事に関する今後の考え方と年代

全体では、「55～59歳」において「決まっている年齢以降も働きたい」の割合が多い。障害別にみると、若干のバラつきはあるものの、年代による大きな差はみられない。

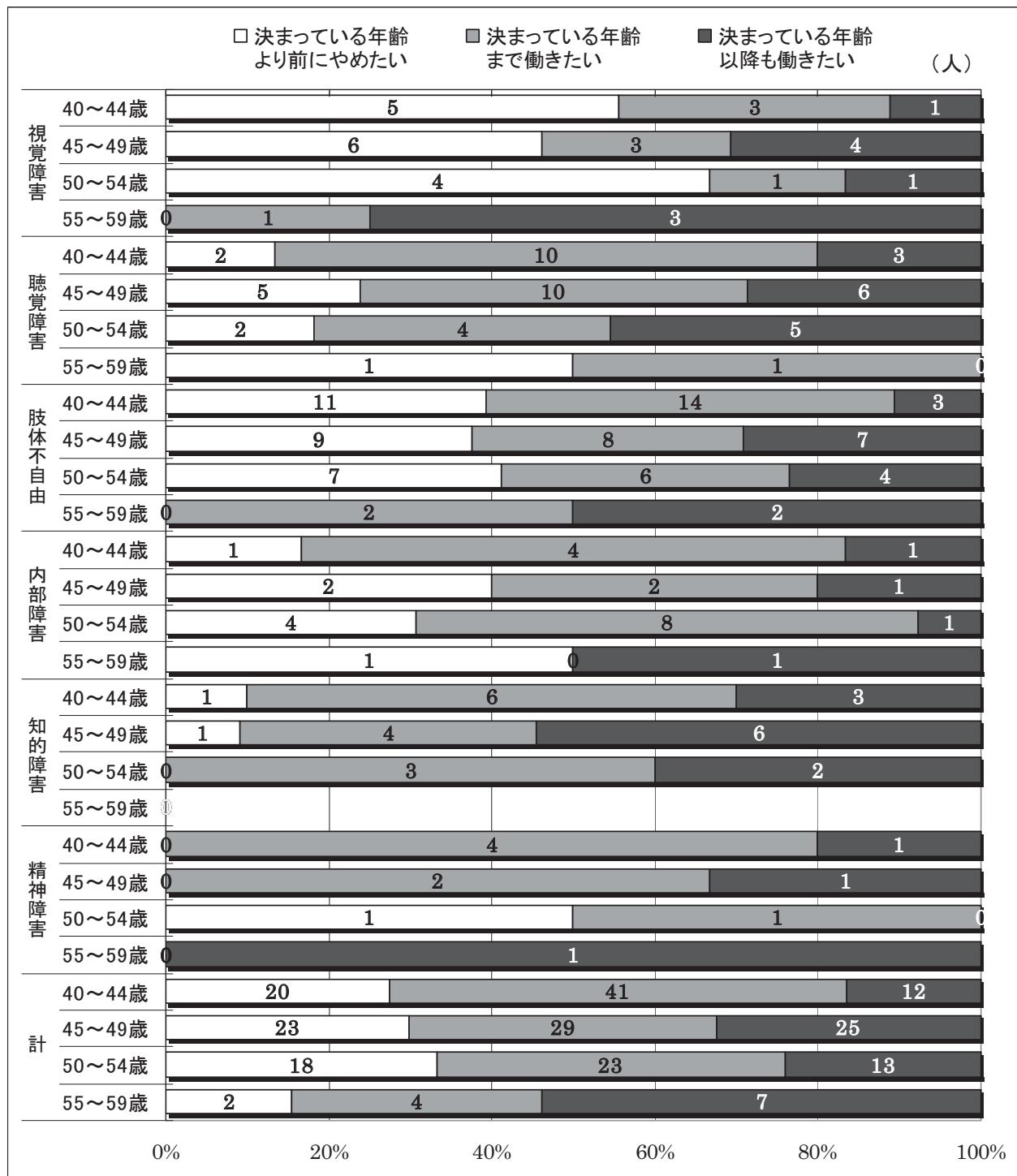


図 4-37 年代別の「いつまで働きたいか」回答結果(「働ける年齢が決まっている」対象者のみ)

3 仕事に関する今後の考え方と就業形態

全体では、調査対象者が想定する職業生活の引退時期は就業形態によって差はみられない。障害別にみると、若干のバラつきはみられるものの、就業形態による大きな差はみられない。

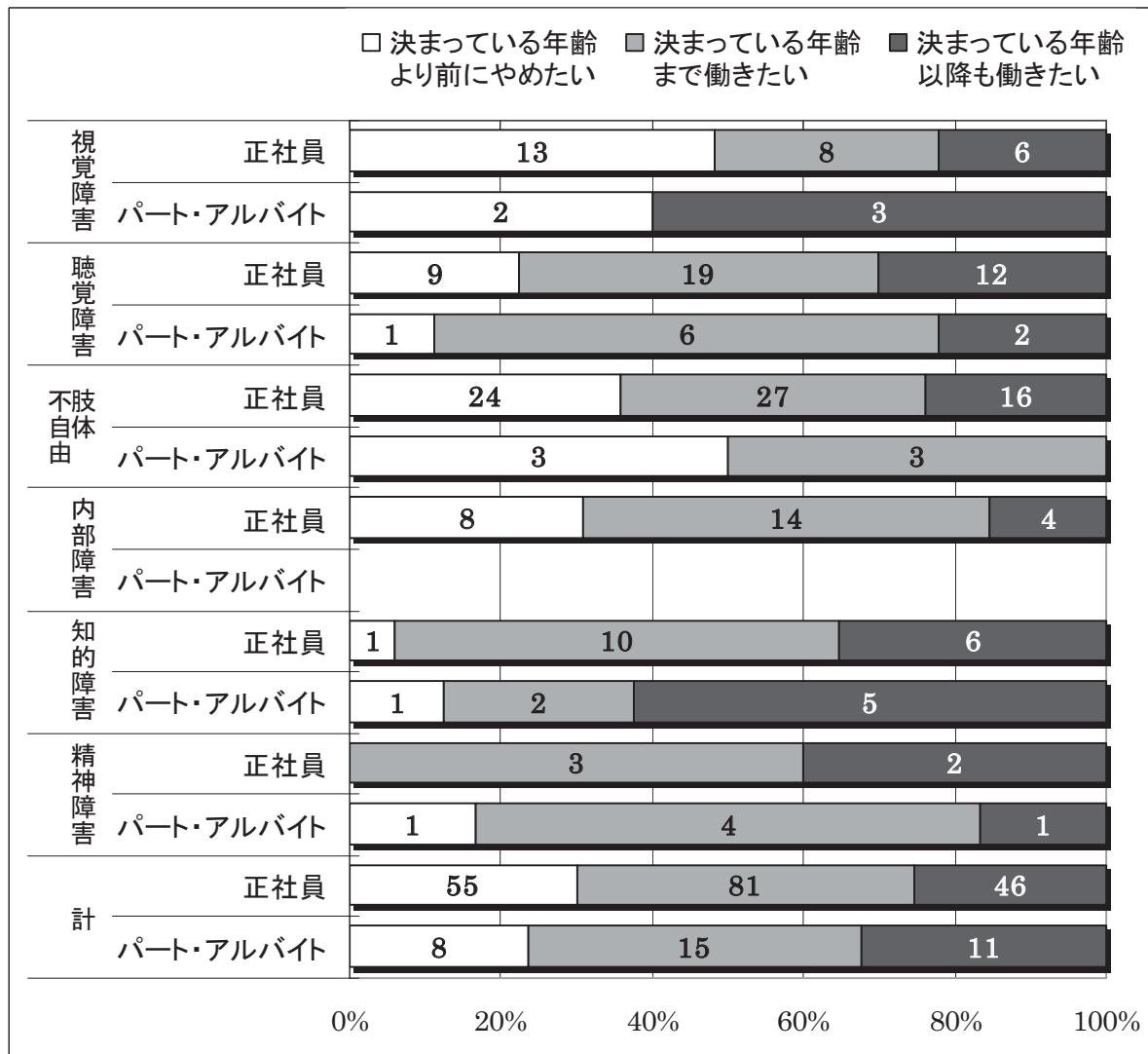


図 4-38 就業形態別の「いつまで働きたいか」回答結果（「働く年齢が決まっている」対象者のみ）

4 仕事に関する今後の考え方と勤続年数

全体では、勤続年数が長いほど、決められた年齢よりも前に仕事をやめたいという回答が多い。障害別にみると、同傾向は、肢体不自由及び内部障害において顕著にみられる。

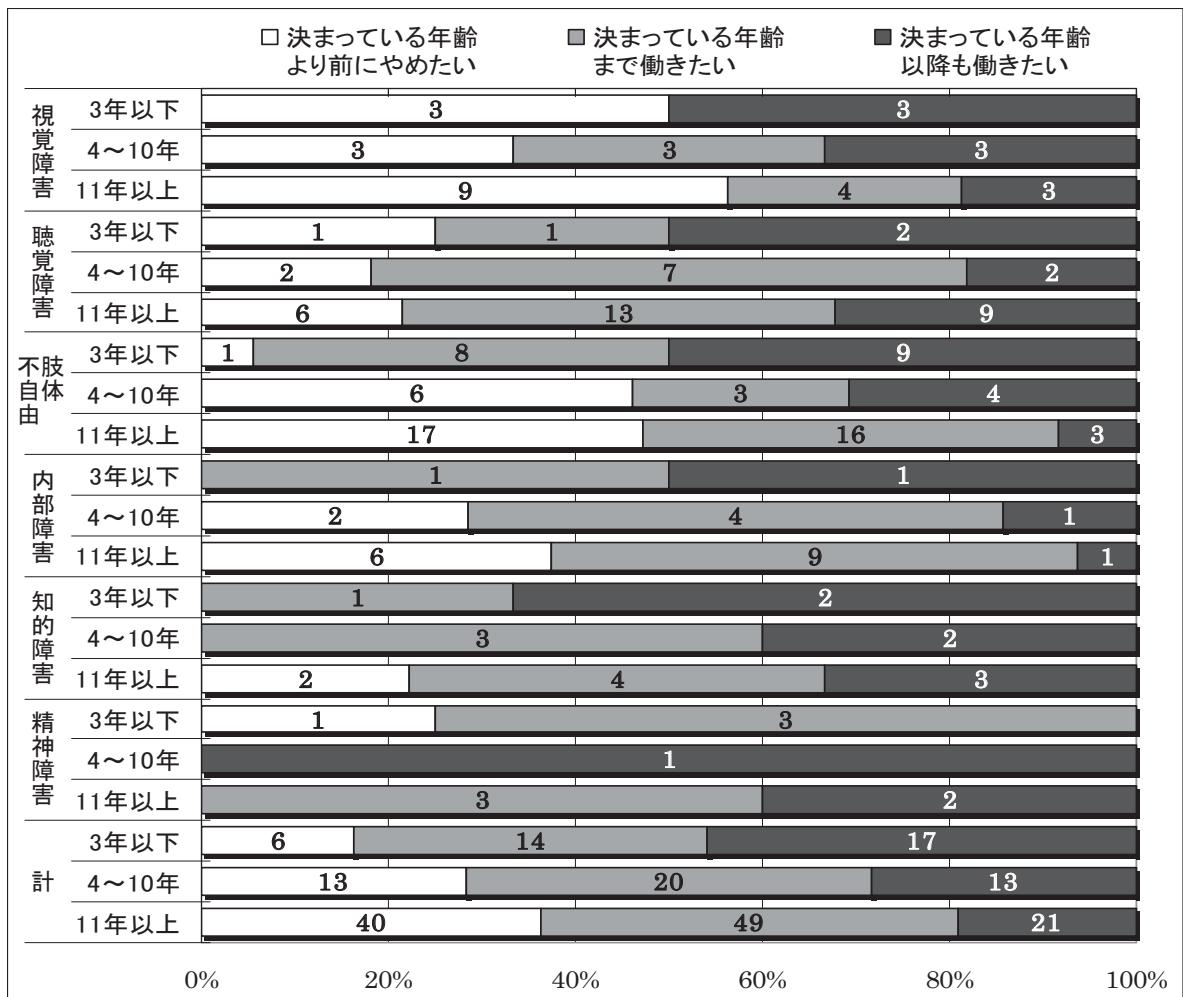


図 4-39 勤続年数別の「いつまで働きたいか」回答結果（「働く年齢が決まっている」対象者のみ）

第11節 前期調査との比較

本研究の目的は同一の調査対象者の職業生活全体の職業サイクルを把握、分析していくことである。本来同一対象者、同一集団の継続的な変化を把握していくものであるが、第1回目の前期調査を実施したので、これと比較してみる。

調査対象集団については、回答者数はほぼ同じであり（前期調査402人、後期調査416人）であり、調査の趣旨から前期調査は平均年齢29.3歳、後期調査は47.1歳である。これらが以下に述べる違いの主な要因になっていると考えられる。また、障害別でみると前期調査は知的障害が29%を占め最もウェイトが大きいが、後期調査は肢体不自由が30%と多いので、これも考慮に入れる必要がある。

以下、主な調査項目について、後期調査を主体として前期調査と比較して述べる。

(1) 基本的事項

- イ 障害の診断時期が、就職(初職)後の割合が比較的多い。
- ロ 手帳所持者の割合は障害全体では差がない。
- ハ 配偶者あり、住まいが自宅、一人暮らしの割合が多い。
- 二 最終学歴（中退含む）は、専門学校・能開校、特別支援学校在学ありの割合が小さく、短大以上が大きい。

(2) 仕事に関する事項

- イ 現在の仕事の雇用形態は正社員の割合が大きい。
- ロ 仕事の内容は事務の占める割合が小さい。
- ハ 就業時間「週30時間以上」の割合は差がない。
- 二 給与は「7～13万円」及び「13～25万円」の割合が小さく、「26万円以上」の割合が大きい。
- ホ 障害についての会社への説明は、「ほとんどの人に説明」または「一部の人に説明」とした割合に差がない。
- ヘ 仕事の満足度はほとんど差がない。

(3) 経済状況

- イ 障害年金の受給者の割合は差がない。
- ロ 生活の収入源は「年金と労働収入」、「労働収入のみ」の割合が大きい。

(4) 仕事や生活に関する意識

- イ 仕事をする上で重要度はほとんど差がない。
- ロ 仕事をする上で必要な事項は前期調査では「作業手順をわかりやすく」が57%で最も多いが、後期調査では「周りに援助者を配置」が44%で最も多い。しかし、各事項とも後期調査の方が割合が小さい。
- ハ 会社へ望む事項は前期調査では「ずっと働き続けること」が54%で最も多く、後期調査では「障害の理解」が49%が最も多い。

表4-20 前期調査と後期調査の比較

	前期調査	後期調査
回答者数	402人 視覚45 聴覚82 肢体83 内部31 知的117 精神44	416人 視覚56 聴覚82 肢体123 内部42 知的76 精神37
(1) 基本的事項		
①男女比	男68% 女32%	男70% 女30%
②平均年齢	29.3歳	47.1歳
③障害の診断時期	就職(初職)前69%、就職(初職)後14%、不明18%	就職(初職)前48%、就職(初職)後34%、不明18%
④手帳所持者	全体97%。身体98%、知的97%、精神89%	全体97%。身体100%、知的96%、精神70%
⑤家族構成、住まい	配偶者あり13% 自宅(賃貸含む) 31% 一人暮らし13%	配偶者あり41% 自宅(賃貸含む) 59% 一人暮らし16%
⑥最終学歴(中退含む)	中学3%、高校36%、専門学校・能開校31%、短大以上15%。 特別支援学校在学あるいは44%	中学8%、高校31%、専門学校・能開校19%、短大以上23%。 特別支援学校在学あり38%
(2) 仕事に関する事項		
①現在の仕事	正社員54%、パート・アルバイト38%	正社員65%、パート・アルバイト25%
②仕事内容	事務35%、ものづくり25%。清掃・クリーニング12%、医療・福祉9%	ものづくり29%、事務27%、清掃・クリーニング15%、医療・福祉12%
③就業時間	週30時間以上74%	週30時間以上76%
④給与	13~25万円42%、7~13万円39%、26万円以上5%	13~25万円36%、7~13万円30%、26万円以上22%
⑤障害についての会社への説明	ほとんどの人に説明が61%、一部の人に説明が32%	ほとんどの人に説明が60%、一部の人に説明が28%
⑥仕事の満足度(「満足」と「どちらかといえば満足」)	「仕事内容」が72%で最も多く、順に「人間関係」64%、「職場環境」63%、「給与待遇」56%	「仕事内容」が71%で最も多く、順に「職場環境」65%、「人間関係」が61%、「給与待遇」52%。
(3) 経済状況		
①障害年金	受給76%、受給していない21%	受給76%、受給していない22%
②生活の収入源	「年金と労働収入」40%、「労働収入のみ」17%	「年金と労働収入」が48%、「労働収入のみ」20%

(4)仕事や生活に関する意識		
①仕事をする上で重要な度 (「重要」と「どちらかといえれば重要」)	「賃金給料」が92%で最も多く、順に、「職場の人間関係」89%、「仕事内容」88%、「自分の能力・経験」87%、「勤務時間・休日」84%、「環境整備」が82%	「賃金給料」が90%で最も多く、順に、「自分の能力・経験」84%、「環境整備」83%、「職場の人間関係」83%、「仕事内容」83%、「勤務時間・休日」82%
②仕事をする上で必要な事項	「作業手順をわかりやすく」が57%で最も多く、順に「周りに援助者を配置」44%、「作業スピード・量の調整」42%、「勤務時間・休みの調整」33%	「周りに援助者を配置」が43%で最も多く、順に「作業手順をわかりやすく」39%、「勤務時間・休みの調整」31%、「作業スピード・量の調整」30%
③会社へ望む事項	「ずっと働き続けること」が54%で最も多く、順に「障害の理解」49%、「給与面の改善」37%、「能力評価」33%	「障害の理解」が49%で最も多く、順に「ずっと働き続けること」41%、「給与面の改善」39%、「能力評価」33%。

第5章

考察

第5章 考察

1回目の調査は、対象者の基本的な状況、現在の仕事に関する状況、調査開始時点までの学歴、初職、現在の職業等のキャリア、家族・住まい等生活についてのデータの基礎部分を把握して、今後、継続して調査を行う対象者の調査時点までのキャリアの状況、調査時点における就業の状況を把握していくものである。

また、後期調査は職業生活の後半において、その維持向上等の状況を明らかにすることが目的である。

これらの点について、第3章第1回後期調査の実施結果及び第4章第1回後期調査の分析結果において一般的な状況を述べたが、長期間にわたり継続して特定の個人を調査対象としていくことなどから、総合的に考えられる点、留意すべき点等について以下考察として述べる。

第1節 調査対象集団の特性及び調査時点までのキャリア

本調査は、各当事者団体や企業を通じて、当事者から長期にわたるアンケート調査の協力について同意を得られた者を対象としている。また、対象者選定時点で週20時間以上(精神障害15時間以上)働いている(作業所や福祉工場を除く)ことを条件としている。

このため、調査対象者となった集団はどのような特性があるか、一般的な障害者の就労実態と同様なのか、異なっているかどうかを検討しておく必要がある。

1 年齢等の構成

(1) 年齢構成

後期調査の趣旨目的は、中高年期を中心とする、職業生活の維持向上、職業生活からの引退等の過程を明らかにすることであることから、年齢が40歳から概ね55歳までの者を対象とした。この結果、調査回答者は「40~44歳」の者33%、「45~49歳」の者36%、「50~54歳」の者25%（表3-2、P33）となった。また、初職就職年齢からの経過が「21~25年」の者が31%、「25~30年」の者34%であり、「21年以上」の者は85%を占めた（表3-28、P49）。このため、職業生活の後半部分において、偏りなく分布しており、調査の趣旨にかなう年齢構成の集団であるといえる。今後15年間にわたって、調査対象者の職業生活の変遷を継続的に把握していくことが十分に可能であると考えられる。

(2) 男女別の状況

第1回前期調査の結果を男女別にみると、男性70%、女性30%であり（表3-1、P31）、男性が大きく上回っている。本調査の諸条件と一致する男女別のデータはないが、「平成15年度障害者雇用実態調査」（厚生労働省）（以下「平成15年度雇用実態調査」（注1）のデータにより、常用雇用の身体障害者、知的障害者及び精神障害者計により男女別の比率をみると、男性73%、女性27%となっている（参考1、P32）。これは常用雇用についてのデータであり本調査と雇用形態としては類似しており、調査対象者の条件に違いはあるが、本調査対象者の集団が男性に偏っているとはいえないものと思われる。

また、調査項目によって、男女差が要因となっていることが予想される場合には今後その分析を行っていくことが適当であると考える。

(注1) ①従業員規模5人以上の民営事業所及びその常時雇用されている個人（身体障害者（原則手帳所持者）、知的障害者（判定機関により判定された者）、精神障害者（手帳交付者または医師による診断を受けた者）を対象とした調査。平成15年11月実施。本稿で用いたデータは事業所調査によるもの。

②常用雇用の定義は「期間の定めのないもの、期間（日々雇用も含む）を定めてあっても反復更新され同様の状態にあるもの、パートタイムで雇用保険被保険者となるものなど（記入要領より執筆者要約）」

（3）障害別

第1回後期調査で就業していると回答した者の障害別の状況をみると、身体障害（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、内部障害を含む）70%、知的障害18%、精神障害9%（表3-1、P31）であり、身体障害が多くを占めている。

「平成15年度雇用実態調査」により、40歳以上の年齢区分でみると、常用雇用の身体障害者85%、知的障害者13%、精神障害者2%であり（参考2、P32）、第1回後期調査の回答者の障害別の状況を「平成15年度雇用実態調査」と比較すると、身体障害者の比率が小さく、知的障害者及び精神障害者の比率が大きい。後期調査の障害別の対象者は調査結果の分析のため一定数のデータ数が必要であることから各障害100人を計画していたことから、全体の雇用状況より、知的障害、精神障害者の割合が大きくなつたものと考えられる。このため、障害計で集計結果をみるととき及び前期調査と比較してみるとにはこの点に留意する必要がある。

（4）手帳所持及び障害の程度別の状況

障害者手帳所持の状況及び障害の程度についての調査項目は、仕事に関する事項との関連を検討するために設けたが、ほとんどの者（97%）が手帳を所持していること、障害の程度（身体障害者手帳所持者）については視覚障害、聴覚障害及び内部障害では重度障害が7割以上を占め、知的障害（療育手帳所持者）及び精神障害（精神障害者保健福祉手帳所持者）では8～9割以上が中軽度障害となっている（表3-7～9、P36）。このため、障害者手帳の有無別及び障害の程度別により仕事の状況の違いを見るのではなく、今後の職業生活の推移を分析していくに当たって、これらがどのような影響を与えていくか、あるいは調査結果の説明理由としていくこととしたい。

2 初職前までの状況

（1）障害の診断時期と学歴

障害のある人が生涯どのような職業生活を過ごしていくのかをみていくためには、初職に至るまでにどのような経過を経てきたのかをみておく必要がある。第1回前期調査で把握できるものとして、障害の診断時期、学歴、初職があるので、今回はこれらによりいくつかのパターンに分けておき、職業生活後半の推移を分析していくたい。以下、比較的多くみられるパターンを障害別に述べる。

イ 視覚障害（障害診断時期不明を除く51人）

障害診断時期が「0～2歳」で「特別支援学校に在学あり」の者が多く（12人）、そのうち専門学校（3人）や短大・大学（6人）に進学している者が多い。ついで、障害診断時期が「3～15歳」で「特別支援学校に在学あり」の者が多く（12人）、そのうちほとんどの者が「同専攻科に在学あり」となっている（11

人) (表 3-10、P37)。

障害診断時期が「16 歳以上」の場合についても「特別支援学校専攻科に在学あり」の者が多い (16 人中 10 人)。

□ 聴覚障害 (障害診断時期不明を除く 69 人)

障害診断時期にかかわらず、特別支援学校在学の有無、その後の進路は多様であり、特定のパターンはみられない (表 3-11、P38)。

△ 肢体不自由 (障害診断時期不明を除く 108 人)

「0~2 歳」(17 人) 及び「3~15 歳」(21 人)において、「特別支援学校在学あり」の者と「同なし」の者の人数はほぼ半々となっている。また、障害診断時期「16 歳~」においての障害診断時期が「就職後」である者の人数が多い (57 人)。障害診断時期に関係なく、全体的に職業能力開発校の利用率が高い傾向がみられる (46%) (表 3-12、P38)。

二 内部障害 (障害診断時期不明を除く 40 人)

16 歳以降に障害を診断された者が多い (37 人)。また、障害診断時期「16 歳~」において障害診断時期が「就職後」の者が多い (32 人) (表 3-13、P39)。

△ 知的障害 (障害診断時期不明を含む 76 人)

障害診断時期「3~15 歳」で「特別支援学校在学なし」の者が最も多く (19 人)、また、障害診断時期「不明」の者についても、「特別支援学校に在学なし」の者が多い (14 人) (表 3-14、P39)。

△ 精神障害 (障害診断時期不明、学歴不明等を除く 30 人)

全員が 16 歳以降に障害を診断され、障害診断時期が初職後である (表 3-15、P40)。

(2) 障害診断時期と初職－中途障害の状況－

障害のある人が職業を得る場合、就職前に障害がある場合 (就職前障害) と、就職後に受障し離職して再就職、または離職せず継続就業する場合、いわゆる「中途障害」がある。

初職就職年齢、現職就職年齢、障害診断年齢から分析すると、障害診断時期が初職前であった者は 199 人であり、そのうち現在も初職に継続して就業している者は 56 人である。転職している者は 133 人である。

また、中途障害者 (障害診断時期が初職後であったもの) は 141 人であり、初職を継続している者は 15 人、初職に就職した後転職しその後に障害診断時期がありその転職先で就業継続している者は 16 人、初職後に障害診断時期があり、その後転職している者は 101 人である (表 3-16、P41)。

なお、上記には各年齢がいずれか一つ以上不明の場合を除いている。

(3) 初職前の状況

学校卒業後から初職につくまでの間のキャリアはどのような状況かみると、80%の者が学校に在学しており、多くが卒業と同時に就職している。このほか、福祉工場や作業所で働いていた者 6% (肢体不自由や知的障害など)、自宅で休んでいた者 3% (肢体不自由、内部障害など)、アルバイト・家業がある (表 3-30、P50)。

(4) 障害診断時期が中高年齢以降である調査対象者

本調査は障害のある労働者の職業生活全体を前半と後半に分けて調査をしていく設計上、後期調査対象の中途障害者について診断時期の一部は前期調査群の年齢範囲を超えており、その集団は職業生活後半に受障した者であり前半に受障した者と質的に異なると考えられる。例えば、扶養家族がいる、受障以前の職業経験が長い、本人をとりまく社会資源が異なるなどが推測される。このため、今後の経年変化では、この群を分けて把握していく必要性も考えられるため、まずこの集団の特性を分析しておくという目的で障害診断時期を35歳以降と34歳以前に分けて障害・程度別、学歴、仕事内容、給料の状況をみた。

その結果、全体では診断時期が「35歳以降」とする者は64人であり、18.2%を占めており、第4章でみたとおり、学歴、仕事内容及び給与の状況に違いがみられた。

このため、今後の継続調査に当たってこの集団の分析を継続していく必要がある。

3 現在の仕事の状況

以上のように、障害診断時期、学歴、初職前の状況、初職の経過を経て、現在の仕事に至るまでの状況をみてきた。次に、現在の仕事の状況がどのようにになっているか検討する。

厚生労働省「平成18年度身体障害者、知的障害者及び精神障害者就業実態調査」(注2)(以下「平成18年度就業実態調査」という)と比較検討し、目安として今回の調査対象者の位置づけを考察する。

(注2) ①全国の身体障害者、知的障害者及び精神障害者(15歳以上64歳以下)であって、身体、療育または精神障害者保健福祉手帳を所持者及びその世帯を対象として、国勢調査の調査区を100分の1の割合で無作為抽出して実施。平成18年7月実施。

②常用雇用の定義は「1週間当たりの労働時間が20時間以上で期間の定めなし、または定めがあっても1年以上雇用及びその見込みよりも含む」とされている。

第1回後期調査では、雇用形態をみると、「正社員」65%、「パート・アルバイト」25%であり、視覚障害、聴覚障害、肢体不自由及び内部障害は「正社員」が多く(59~79%)、知的障害は「正社員」と「パート・アルバイト」が半々、精神障害は「パート・アルバイト」が多い(75%)（表3-31、P51）。

また、1週間当たりの労働時間(平成21年6月)をみると、「週30時間以上」が76%、「20時間以上30時間未満」15%であり、精神障害では後者が比較的多い(47%)。

「平成18年度就業実態調査」では、障害別に就業形態別の就業状況について報告されており、その結果は、身体障害者は常用雇用48%、常用雇用以外47%、知的障害者は常用雇用19%、常用雇用以外80%、精神障害者は常用雇用33%、常用雇用以外60%(いずれも無回答あり)となっている(参考3、P52)。この常用雇用は週20時間以上の労働時間の者とされており、就業者全体としては週20時間未満の労働時間の者が多い。

「平成18年度就業実態調査」を踏まえると、後期調査の対象者は、その条件(精神障害を除き週労働時間20時間以上)からみて、基本的には雇用保険被保険者となり、常用労働者となるので、就業している障害者全体の中では安定的な方の就業環境にあると考えられる。

また、給与額(「13万円以上」58%(表3-35、P55))、勤務している会社の従業員規模(「50人以上」が54%(表3-38、P57))、障害についての会社への説明(「会社へ説明している」88%(表3-40、P59))、障害者手帳所持(「手帳あり」97%(表3-5、P35))の状況からみても同様なことがいえよう。

なお、一般的な雇用状況(雇用形態別雇用者数、従業員規模別雇用者数、年齢階級別賃金額)を資料2(P146)として掲載した。

第2節 職業生活の維持・向上等の状況

職業生活の維持・向上等の状況については、今後のパネル調査で同一対象者の変化を把握・分析していくこととしているが、その際の視点については、後期調査と前期調査との比較から以下に述べることとする。

前期調査における調査対象者の平均年齢は29.3歳、後期調査は47.1歳、その差が17.8歳であり、職業生活の状況も約18年の差が反映しているものと考えられる。

また、差がみられる場合においても単に勤続年数の影響だけでなく、第4章第10節で記述したとおり、前期調査と後期調査の対象者は障害、学歴、障害診断時期（中途障害か否か）などに違いがあるので留意する必要がある。

1 初職・転職と勤続年数

まず、これまでのキャリアの状況を初職・転職と勤続年数の違いからみておく。

調査結果から「初職就職年齢」、「現職就職年齢」及び「対象者の年齢」が明らかであり、これらから初職・転職、勤続年数をみる（表4-7、P108）。

前期調査では初職継続者が57%（212人）、転職者が43%（162人）であり、初職継続者が半数を超えていが、後期調査では初職継続者は24%（90人）と少なく、転職者が76%（285人）と大きな割合を占めている。年齢層からみて当然とも考えられるが、転職理由は不明であるものの長期の職業生活の中で転職する者も多くなっている。

とりわけ中途障害の多い肢体不自由では、職業能力開発校の利用が多い（表3-12、P38）。また、視覚障害、肢体不自由、精神障害で30%近くの者が（前期調査では11%）初職以降に通学の経験がある（表3-26、P47）。

転職者の勤続年数をみると、前期調査では勤続3年以内の者が61%、4年以上10年以内の者が29%であるのに対し、後期調査では3年以内の者が32%、4年以上の10年以内の者が32%、11年以上の者も36%となっている。これらの状況をみると初職継続者は当然であるが、転職者においても後期調査対象者は勤続年数が長期となっている。

なお、初職就職年齢は25歳未満の者の割合が85%であり（表3-27、P48）、初職就職以前の状況は学校在学が80%である（表3-30、P50）ので、長期の職業経験を有する者が多い。

このように初職継続や転職、勤続年数はキャリア形成の状況をみていく視点として重要な点であることから、今後の調査において把握・分析していくこととする。

2 現在の仕事の状況

（1）労働条件

後期調査では、雇用形態をみると、「正社員」の割合が大きく（後期調査65%、前期調査54%）、「パート・アルバイト」の割合が小さい（後期調査25%、前期調査38%）。また労働時間については「週30時間以上」の割合はほぼ同じ（後期調査76%、前期調査74%）だが、給与（月額）は「26万円以上」の割合が大きい（後期調査22%、前期調査5%）。これらの労働条件の変化を今後の調査において把握・分析して

いくこととする。(表 4-20、P128)

(2) 仕事の内容

仕事内容は、後期調査では事務の割合が小さく（後期調査 28%、前期調査 35%）、ものづくりの割合はわずかに大きい（後期調査 28%、前期調査 25%）。

障害別にみてこの差が大きいのは、聴覚障害（事務：後期調査 30%、前期調査 42%、ものづくり：後期調査 53%、前期調査 41%）、肢体不自由（事務：後期調査 44%、前期調査 72%、ものづくり：後期調査 32%、前期調査 17%）である。

また、視覚障害については医療福祉の仕事の割合が大きいが、前期調査に比較してややこの割合は大きく、一方事務の仕事の割合が小さい（医療福祉：後期調査 63%、前期調査 52%、事務：後期調査 9%、前期調査 27%）。(表 4-20、P128)

これは、この 10 数年での IT 化の動向を反映して、パソコンを使用した事務の仕事が増加したことからと考えられる。また、当障害者職業総合センター調査研究報告書 No91「視覚障害者の雇用の拡大のための支援策に関する研究」2009 によると、視覚障害の職域の拡大傾向が窺われる。IT 化に伴うパソコンとその周辺機器の発達により、支援機器の整備がなされたことによって、あん摩、はり、きゅうの職種のほか事務職などに職種の幅が広がっていったといわれている。

今後、仕事の内容はどのように変化していくか把握・分析していくこととする。

3 経済的状況

職業生活後半では、年齢層からみて当然であるが、前期調査と比較すると「配偶者あり」の割合、「子供あり」の割合、「父母なし」の割合が大きく（表 3-17、P42、表 4-20、P128）、住まいも「自宅（賃貸含む）」の割合が大きく（表 3-18、P42、表 4-20、P128）なってくる。これを支える経済的な自立状況をみる。

障害年金受給は 76%で前期調査と（表 4-20、P128）同じであるが、生活の収入源についてみると「年金と労働収入」が 48%、「労働収入のみ」が 20%であり、前期調査の同 40%、17%より大きい（表 4-20、P128）。このような経済的状況の変化について、今後の調査において把握・分析していくこととする。

4 仕事をする上での必要事項と希望事項

(1) 仕事をする上で必要な事項

「まわりに援助者を配置」（後期調査 44%、前期調査 44%）及び「勤務時間・休みの調整」（後期調査 32%、前期調査 33%）はほぼ同じであり、「作業手順をわかりやすく」（後期調査 40%、前期調査 57%）、「作業スピード・量の調整」（後期調査 31%、前期調査 42%）はより小さい割合である（表 4-20、P129）。

(2) 仕事をする上での希望事項

「障害の理解」（後期調査 49%、前期調査 49%）、「給与面の改善」（後期調査 39%、前期調査 37%）、「能力評価」（後期調査 34%、前期調査 33%）はほぼ同じであるが、「ずっと働き続けること」（後期調査 41%、前期調査 54%）は小さい割合である（表 4-20、P129）。

以上のように、仕事をする上で必要な事項や希望事項は職業経験を積むことにより変化するものとそうでないものがあることが考えられるので、今後の調査においてよく把握・分析していくこととする。

5 現在の仕事の満足度及び現職継続意思

選択肢の各項目について「満足」と「どちらかといえば満足」と回答した者の割合を加えてみると、「仕事の内容」(後期調査 71%、前期調査 72%)、「給料や待遇」(後期調査 52%、前期調査 56%)、「職場の人間関係」(後期調査 61%、前期調査 64%)、「職場の環境」(後期調査 65%、前期調査 63%) であり、満足度の割合は 5 割から 7 割と高い(表 4-20、P129)。

また、現在の仕事の継続意思についても、「今の仕事を続けたい」と回答した者(後期調査 63%、前期調査 64%)、「別の仕事をしたい」と回答した者(後期調査 13%、前期調査 15%)ともほとんど差がみられない。(表 3-46、P65)

後期調査においては、仕事満足度の要因を検討するため、就業形態、性、年代(40 歳以上の 5 歳幅)、給与額、現職勤続年数、年金受給の有無、転職経験の有無との関連を分析した(第 4 章第 1 節、第 5 節及び第 7 節)。

職業経験を重ねることによって仕事の満足度や現在の仕事の継続意思に変化があるのかどうか、仕事の満足度の変化や要因はどのようなものか、同一対象者の回答の動向を把握・分析していくこととする。

6 仕事に対する今後の考え方

現在の職場において働く年齢が「決まっている」と回答した 262 人のうち、その「決まっている年齢」は「60 歳」が 142 人(54%)と最も多く、次いで「65 歳」が 79 人(30%)であり、60 歳から 65 歳までが 9 割以上を占める(244 人(93%))。また、いつまで仕事を続けたいかの問い合わせについては、「決まっている年齢まで働きたい」の回答が 97 人(37%)と最も多く、次いで「決まっている年齢より前に仕事をやめたい」が 63 人(24%)、「決まっている年齢以降も働きたい」が 57 人(22%)であった(表 3-43、P63、表 3-44、P64)。

これらについては就業形態別に差はないものの、勤続年数が長いほど「決まっている年齢より前に仕事をやめたい」という回答が多い(図 4-38、P125、図 4-39、P126)。

また、働く年齢が「決まっていない」と回答した 128 人のうち働きたい年齢を 60~65 歳までと回答した者が 82 人(64%)と最も多い。一方、59 歳以下とした者が 15 人(12%)である(表 3-45、P64)。

現在は、多くの企業が、65 歳までの継続雇用制度を設けているあるいは段階的に延長しているとともに、また、長く働きたいと考えている人が一般的に多いと考えられるが、65 歳以前や決まっている年齢より前に職業生活からの引退を希望している者が少なくない。

前述したように、今の仕事を続けたいとの継続意思を持つ人が 63% を占め、仕事への満足度も比較的高い傾向にあって、リタイアを早めに考えている人がいる。今後、この理由や実際の退職年齢の状況を把握・分析していくこととする。

第 3 節 2 回目以降の調査

1 2 回目以降の調査で把握していく事項

(1) 2 年に 1 回、今後 7 回(合計 8 回)、15 年にわたって調査を継続していくなかで、2 回目以降の調査

では、基本的には1回目と同様の調査項目として、仕事の状況、生活の状況、意識等について、第2章で記述した各項目について、職業生活後半については、経年と加齢とともに、どのように変化していくか、どのような課題が生じていくのか把握していくこととする。

また、子どもの成長、親の高齢化などの家族の状況や自身の障害や健康の状況などの中高年以降の変化によって、仕事の状況等がどう変わっていくのか。今後家庭生活と職業生活はどのように変化していくのだろう。

さらに、後半の職業生活を継続していくなかで、配置転換（部署の異動）、昇進、給料の変化、休職、転職、倒産など仕事上のさまざまな出来事が予測される。また、これらの中で会社へ望む配慮事項がどのように変化していくかについても検討していきたい。例えば、後期調査では転職者が多いことがわかったが、2年後の調査では離職や転職が生ずるだろうか、そうであればどのような理由からか、この間支援機関との相談はあったのかなど分析していくことができる。

第2節では主に職業生活の維持・向上の観点から前期調査との比較をみた。同一の対象者ではないことから厳密な変化とはいえないが、今後パネル調査として変化を見していく際の視点のヒントとなると考えられる。

また、現時点では職業生活から引退年齢に至っている対象者はいないが、引退に向けての状況、課題について把握していくことも目的の一つである。今般、調査の設問に当たっては、会社で働く年齢や、仕事を継続したい年齢、離職理由の選択肢として「定年」などの項目を設けた。これらを今後継続して把握していく。また、前期調査とは調査対象者が異なっているので、同一対象者の変化として把握していく。

以上のほか、第2章に述べた各調査項目の趣旨・目的の観点から、全調査期間における各調査項目について、基礎的集計、障害別、キャリアパターン別、15年間の経年変化等の視点から、多面的に分析・検討を行い、さまざまな職業場面での課題、支援ニーズ等を把握していくこととする。

また、10数年に及ぶ調査期間においては、今後の経済情勢の変化、障害者支援に関わる制度の改正や充実等の変化も生じるだろう。これらの中で、障害のある労働者の職業生活の変化、意識の変化などについても詳細な分析、検討をしていくこととする。

（2）制度等の変化

パネル調査で同一の対象者の回答の変化の分析に当たっては、この間に生じた障害者にかかる支援や制度の変化、社会的な変化によるものかどうかを考察において取り上げる必要がある。このため、次回以降の研究報告においてはこれらの制度的な変化等を総括しておくこととする。また、自由記述にこれらの制度的な変化が現れる場合もあるので分析に活用することが考えられる。

2年ごとの回答の変化と制度的な変化等を継続して把握していくことによって10数年に及ぶ長期的な変化を把握し、これらを分析に当たって考慮していく必要がある。

（3）少数対象者の経過の把握

全体的な状況とともに少数の対象者の状況についてもみていきたい。具体的には、あらかじめ調査協力を依頼した時点で、就労している人を対象としていたが、回答返送時点では仕事をしていないあるいは福祉施設の利用となっている人が16人いた。その方々の就労意思を前提として今後の経過を把握していく必要がある。あるいは、障害者手帳のない人が、前期調査で7人、後期調査で9人いる。今後手帳を取得するのか否か、また職業生活においてどういった経過をたどっていくのかなども把握していくこととする。

2 対象者への支援等

この調査は、通常の無記名の1回限りのアンケート調査とは異なり、個人を特定して15年間計8回の調査に回答協力をいただいて実施していくものである。このため、本調査研究においては、調査対象者に調査研究の趣旨に理解をいただき、協力を得ていくことが重要である。

調査対象者の方々に調査への協力を継続していただくための取組の一つとして、当センターから対象者宛にニュースレターを定期的に送付し、調査結果の概要や調査についての問い合わせに対する回答等を情報提供していくこととしている。また、このニュースレターには、調査期間中に職場内で適応できなくなったり、離職したり、再就職が円滑に進むまなかった場合に、就労支援を受けたり、最寄りの相談支援機関の紹介を受けられるよう、全国の地域障害者職業センターの連絡先一覧を掲載することとしている。

調査時点で就業していない人も数は少ないが若干名いるところである。個別の支援は各地域の専門機関の役割であるが、調査の実施のみでなく、調査対象者の方々に対する各種情報の提供等ていねいな対応を行っていくことが調査協力の継続に繋がっていくと考えられるので、最大限努力していくこととしている。

資料

資料1 【調査結果補足】

◆仕事についていない人（非就業群）の就業関連の質問（問19及び問20）への回答結果

1 過去2年間の仕事の経験について

問9の回答より、非就業と分類された対象は19人おり、その障害種別の内訳は、視覚障害2人、聴覚障害1人、肢体不自由12人、内部障害1人、精神障害3人であった。

この19人に対して、過去2年間の就業状況に関して問うたところ、就業経験ありが17人、就業経験なしが2人であった。また、「就業経験あり」17人の前職の退職理由は、「自分の都合」が8人と最も多く、次いで「事業主の都合」が6人と多かった。さらに、「自分の都合」の詳細に関しては「職場の雰囲気・人間関係」が6人と最も多く、次いで「体調不良」が3人と多かった（複数回答）。

表1 非就業群の過去2年間の就業経験及び退職時の状況

a.過去2年間の就業状況

	就業経験 あり	就業経験 なし	計
視覚障害	2		2
聴覚障害	1		1
肢体不自由	11	1	12
内部障害		1	1
精神障害	3		3
計	17	2	19

b.前職退職理由

	事業主 の都合	定年後の 再雇用期間 満了	契約期間 満了	自分の都合	その他	無回答	計
視覚障害	1			1			2
聴覚障害				1			1
肢体不自由	4	1	1	5		1	12
内部障害	1						1
精神障害	1			1	1		3
計	7	1	1	8	1	1	19

c.退職理由「自分の都合」の詳細（複数回答）

	仕事内容が 合わなかつた	職場の 雰囲気・ 人間関係	体調不良	体力的に きつくなつた	家庭の事情	その他
視覚障害		1	1	1		
聴覚障害						1
肢体不自由	1	4	2	1	2	1
内部障害						
精神障害	1	1				
計	2	6	3	2	2	2

2 就職活動について

問20のaの回答より、就職に対する意識を問うたところ、「すぐに仕事につきたい」が9人、「すぐというわけではないが、仕事につきたい」が5人、「時間をかけて自分に合った仕事を探したい」が5人であった。「仕事にはつきたくない」の回答はなく、内容の違いはあるものの、19人全てが就業意思ありという回答であった。

表2 就職に対する意識

	すぐに仕事につきたい	すぐというわけではないが仕事につきたい	時間をかけて自分に合った仕事を探したい	計	(人)
視覚障害	1		1	2	
聴覚障害	1			1	
肢体不自由	4	5	3	12	
内部障害	1			1	
精神障害	2		1	3	
計	9	5	5	19	

さらに、就職活動時に相談及び利用する（した）人や機関について問うた（問20のb：複数回答）ところ、「ハローワーク」が15人と最も多く、次いで「友人・知人」が5人と多かった。また、「相談利用なし」も5人と多く見られた。

表3 就職活動時の相談先（複数回答）

	配偶者	子ども	父親	母親	兄弟姉妹	上司 同僚	知人 友人	障害者 相談員	(人)
視覚障害	1								
聴覚障害							1		
肢体不自由	2		1	1	2	1	3	1	
内部障害									
精神障害				1	1		1		
計	3		1	2	3	1	5	1	

	ハロー ワーク	地域障害 者職業 センター	就業・ 生活支援 センター	相談支援 事業者	病院 診療所	保健所 福祉事務 所	相談利用 なし
視覚障害	1						
聴覚障害	1						
肢体不自由	10	2	1				4
内部障害	1						
精神障害	2	1		1	1	1	1
計	15	3	1	1	1	1	5

◆ 「調査についての意見・要望(問30)」自由記述の内容について

1 記載の有無について

調査についての意見・要望に関して記載のあったのは165人(39.7%)であった(表4)。

表4 記載の有無		(人)	
記載あり	記載なし	計	
165	39.7%	251	60.3%
		416	100.0%

2 記載ありの内容について

記載の内容により、類似の項目を検討し、下表表側のとおり分類を行った(表5)。

1から3については、調査結果について、4から7については調査の方法、調査項目の内容、量、難易、回答の方法や手続きについて、8は個人の現在の仕事に関する意見や施策についての意見・要望である。9以降はその他調査に関する感想など、連絡事項、調査協力についての意見などである。また、「特になし」との記述がある。文意の理解が困難なものを「その他」とした。

表5 回答ありの内訳 (一部重複分類あり)

	人	%		
1施策に反映することを望む	11	6.5%		
2調査結果がどういかされるのか	12	7.1%	30	17.8%
3調査結果を知りたい	7	4.1%		
4調査方法についての意見	11	6.5%		
5調査項目の内容、量についての意見	23	13.6%	49	29.0%
6調査項目の難易等についての意見	7	4.1%		
7回答の方法や手続きについての意見	8	4.7%		
8個人の現在の仕事に関する意見や施策について意見・要望	25	14.8%		
9その他調査に関する感想など	13	7.7%		
10回答に当たっての連絡事項	2	1.2%		
11調査への協力についての意見	4	2.4%		
12特になし	43	25.4%		
13その他	3	1.8%		
計	169	100.0%		

3 具体的内容(表5の4~9)(主なものを要約して記載)

(1)調査方法についての意見

- ・弱視向けの文字に感謝
- ・番号の選択がわかりにくいところあり
- ・記入した情報の管理は厳密にされたい(6人)
- ・調査期間が長過ぎる
- ・障害の症状が回復している場合このアンケートの対象者として適切か

(2)調査項目の内容・量についての意見

- ・自営業者、経営者の場合回答に苦慮(5人)
- ・個人的なことを詳しく質問しそうと思う
- ・社会的な活動や人間関係のあり方について、もう少し深く質問してもよいのでは
- ・実際に仕事をする現場にもう少し近い内容にされたい

- ・相談先の質問(問 20)に次いでさらに「満足のいく相談ができたか」、「問題を解決できたか」の質問も必要
- ・質問内容が少し抽象的で回答しにくいものあり（社会全体に対してなのか、それとも現在働いている会社に対してなのかという意味で）
- ・仕事に困ったとき相談できる機関が、ハローワーク以外にもいくつもあることを問 21 で知った
- ・問 3a について「疾患」と「障害」は違うと思う 先天性疾患で、ある年齢まで障害は無く、その後に障害の認定を受ける場合がある
- ・就業時間帯での設問で、一日のトータル時間なのか休憩を省く実労時間なのかが少し迷ったので、細部への補足説明があればよい
- ・身体障害には、設問内容が今一つ
- ・設問を効率的にされたい 問 4、問 5 で同居家族を 2 度聞いたり、問 7 で最終学歴を知りたいのかわからないなど、回答するのに時間がかかる、わかりやすい短文で作成されたい
- ・この調査票は、ハンディを持つ労働者は軽作業や低所得あるいは責任ある地位にないという前提で作られている
- ・ジョブコーチが働く環境等を整えているのだから、問 26A のような質問は愚問
- ・程度の軽い障害者の労働条件・生活環境を把握していただきたい
- ・よむのが大変なので、母に読んでもらった
- ・問 28 の例のように「恋愛はしたい」が「結婚はしたくない」にあてはまる回答例が少ない
- ・予定では最終が「平成 35 年」となっているが、60 歳を過ぎてしまう方もいると思うので、注釈が必要ではないか
- ・抽象的な質問が多かったように思う もう少し具体的な事例について質問しても良いと感じた
- ・聴覚障害者に対して高等教育機関で専攻したい科目、つきたい職業についてアンケートを取って、聴覚障害者が法律等の制限なしに好きな分野で働く環境整備に役立つ資料を作ってほしい

(3) 調査項目の難易等について

- ・難しい（4 人）
- ・わかりづらい
- ・わかりやすい内容なのでよい 2 回目は質問がむずかしくなるけどこのことを学びたい

(4) 回答方法や手続きについて

- ・送られてくる封筒にどちらからのものが分かるように点字を印字していただきたい
- ・アンケートを E-mail で配信・回答できるとよい（4 人）
- ・設問での番号をパソコンが読まない箇所がある 次回からは改善されたい
- ・テキストデータ質問紙としてのレイアウトが全くパソコン音声ユーザーの使いやすい形式になつておらず、非常に回答しづらい

(5) 個人の現在の仕事に関する意見や施策について意見・要望など

- ・障害者が働く社会に
- ・手話の普及、聴覚障害者に対するコミュニケーションの理解、配慮を（6人）
- ・1年前に退職後、会社に沢山就職応募したら、全て見送りばかりでした 今だに無職です
障害者と中年者と伴って就職するのは厚い壁だと思っています 何とかしてほしいものです
- ・団体があるので、行事、交流会などへ参加、手話サークルの指導をしている
- ・社長が夢です
- ・障害者の生活を楽にしてください
- ・障害者に対しての理解が進むよう要望
- ・職業訓練を受け、資格取得をしたかったのですが、障害年金がもらえなくなったのに不満
このままでは生活するのに困難
- ・障害者といつても健常者と変わらない能力を持っている人もいる 障害者というだけで健常
者の70%の給料、ボーナスしかもらえない 改善してほしい
- ・障害があることは悪いことではない 誰でも、突然障害を持つこともありえるのだから、も
っと普通であってほしい 障害は個性だと考えられれば良いが、まだまだ 意識改革を社会
的に進めていってほしい
- ・障害者ひとくくりになりがちであるが、いろいろな方々がいると言う事をもっと理解してほ
しい だからその一人として声をあげていきたい
- ・障害者がもっと就職しやすい環境を作つて欲しい
- ・同じ障害者で同じ内部障害でもいろいろ人がいるのであまりあてはまらない所がある 日
常の生活が規制される人とそうでない人がいると思う
- ・腎移植により元気な体を取り戻すことができた 全国にはいろいろつらい目にあっておられる
方がたくさんいらっしゃると思う これから障害者も健常者も分け隔てなく平等に生活で
きる安心した社会になって欲しいと願っている
- ・人とつきあうのがあまりうまくないため、人の目をきにして、仕事もしつぱいするとまた
おこられるのではと思って、仕事が手につかない時があり、おちこむときがある
- ・自分に障害があると考えていなかった 周りの人とは普通に
- ・私の現在は働いている会社は障害のある人たちの職場なので、働きやすい
- ・自分はポリテクセンターへ行って、資格取得を目指して勉強している 障害の人は人の3倍
努力する必要があります！
- ・あまり障害を意識したことがないので、この調査にどの程度貢献できるかが疑問

(6) その他アンケートに対する感想など

- ・アンケートは自分自身の現在の状況を見つめ直す良い機会となった
- ・こういう機関があることがわかり、少し、安心した
- ・疲れました
- ・始めてこの調査に参加したのでまだよくわかりませんが、これからもいろんなことを考えて
行きたい
- ・アンケートがとどくのがたのしみです

資料2 【参考資料】

一般的な雇用状況（雇用形態別雇用者数、従業員規模別雇用者数、年齢階級別賃金額）

1 雇用形態別雇用者数

男女計	役員を除く雇用者	正規の職員・従業員	非正規の職員・従業員	パート・アルバイト	労働者派遣事業所の派遣社員	契約社員・嘱託	その他
実数(万人)	5159	3399	1760	1152	140	320	148
割合 (%)	-	65.9	34.1	22.3	2.7	6.2	2.9

男							
実数(万人)	2917	2358	559	248	55	179	77
割合 (%)	-	80.8	19.2	8.5	1.9	6.1	2.6

女							
実数(万人)	2242	1040	1202	904	85	142	71
割合 (%)	-	46.4	53.6	40.3	3.8	6.3	3.2

注) 1. 非正規の職員・従業員の内訳は、勤め先での呼称によるものである。

2. 割合は、内訳の合計に占める割合を示す。

(資料出所) 総務省「労働力調査」(平成20年)

2 従業員規模雇用者数

男女計	企業の従業者規模				
		1~29人	30~499人	30~99人	100~499人
		500人以上			
実数(万人)	5478	1644	1878	869	1009
割合 (%)	-	30.0	34.3	15.9	18.4
					25.9

(資料出所) 総務省「労働力調査」(平成20年)

3 年齢階級別賃金額

年齢階級	男	女
	賃金 (千円)	賃金 (千円)
年齢計	333.7	226.1
20~24歳	204.4	190.7
25~29	242.8	214.9
30~34	286.5	230.7
35~39	333.9	244.2
40~44	384.9	251.7
45~49	414.2	243.7
50~54	421.6	240.4
55~59	394.8	229.1
60~64	288.1	198.7
65~69	254.8	193.3
平均年齢(歳)	41.7	39.1
勤続年数(年)	13.1	8.6

注) 1. 年齢計には、上掲の年齢階級に限らず、すべての年齢の者を含む。

2. 事業所規模5人以上。

(資料出所) 厚生労働省「賃金構造基本統計調査」(平成20年)

資料3 【対象者周知文書】

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」に関するアンケート調査実施の概要

1 アンケート調査研究の名稱

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」

- 万が一仕事を辞められても、そのあと的生活状況などについて調査を続けていくこととしておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。
- 8回のアンケート調査のスケジュールは次ページの表のようになります（A調査とB調査で見る表が違います。自分の生年月日から、どちらの表を見るかを確かめてからご参照ください）。

A調査用（39歳以下、昭和43年4月2日以降にお生まれの方）

2 アンケート調査の目的

- この調査では、障害のある方々の職業サイクル（職業生活上の様々な変化）を把握し、年齢や生活上の出来事（結婚、出産、入院等）に応じた的確な雇用対策を検討することを目的としています。

3 アンケート調査の方法

- この調査では、10歳代から50歳代までの広い年齢層の、身体障害、知的障害、精神障害のある方々を対象（平成20年4月1日現在で、39歳以下の方はA調査、40歳以上の方はB調査）としてアンケート調査を実施します。
- 調査の期間は平成20年から平成35年までとし、A調査、B調査それぞれ2年に1回のペースで計8回の調査を実施します。
- アンケート調査票は原則として郵送でお届けいたします。
- 特別な事情により継続が難しいなども含め、いつでも電話等で相談いただけけるような窓口を設けておりますので、お気軽にご相談ください。
- アンケート調査票は紙に印刷したものをお付けいたしますが、点字・wordファイル・TETEXTファイルでのご希望がある場合には、同意書にご記入いたくか、本冊子の最後のページに記載されている連絡先までご連絡ください。

4 アンケート調査の内容

- この調査では、職業生活に聞いて次のようないを聞きします。
 - ① あなた自身の基本的なことについて（障害・家族・住まい・学歴等）
 - ② 仕事について「ついている人」「いない人」に分けて（現在または過去の仕事について等）
 - ③ 仕事や生活の現状について（仕事等の相談・生活上の収入等）
 - ④ 仕事や生活に対する考え方について（満足度・働く上で重要なこと・配慮の必要性等）

5 アンケート調査のスケジュール

- 2年に1回のペースで計8回「障害のある労働者の職業サイクルに関するアンケート調査票」を送付させていただきます。

日程	実施内容
平成20年 10月以降	◆ 同意書の送付および返信*1 (この書類のことです。)
平成20年 12月以降	◆ ID番号の通知*1 ◆ 第1回アンケート調査票の送付・返送
	● 調査協力に同意された方には 「ID番号のお知らせ」と、「アンケート調査票」をお届けします。このID番号は、個人名の 代わりに用いられるものです。 ● 送付されたアンケート調査票に 回答を記入後、同封の返信用封筒にて返信願います。
平成22年 6～7月ごろ	◆ 第2回アンケート調査票の送付・返送
平成24年 6～7月ごろ	◆ 第3回アンケート調査票の送付・返送
平成26年 6～7月ごろ	◆ 第4回アンケート調査票の送付・返送
平成28年 6～7月ごろ	◆ 第5回アンケート調査票の送付・返送
平成30年 6～7月ごろ	◆ 第6回アンケート調査票の送付・返送
平成32年 6～7月ごろ	◆ 第7回アンケート調査票の送付・返送
平成34年 6～7月ごろ	◆ 第8回アンケート調査票の送付・返送
	● 調査終了

*1 「同意書の送付・返信」、「ID番号の通知」は最初のみで、それ以降は2年に1回調査票の送付と返送をするだけとなります。

B調査用 (40歳以上、昭和43年4月1日以前にお生まれの方)

6 アンケート調査にご協力いただいた方には…

- 職業を中心とした生活に役立つ情報・ニュースレターなどをお届けします（3ヶ月に1回くらいのペースを予定しています）。
- 本アンケート調査にご回答いただいた方に 대해서は、心ばかりのおれの品を贈呈させていただきます（調査票をご返送いただいたから、2～3ヶ月後くらいにお届けする予定です）。

日程	実施内容
平成20年 10月以降	◆同意書の送付および返信*1 (この書類のことです)
平成21年 6～7月ごろ	◆ID番号の通知*1 ◆第1回アンケート調査票の送付・返送
	●調査協力に同意された方には「ID番号のお知らせ」と、「アンケート調査票」をお届けします。このID番号は、個人名の代わりに用いられるものです。
	●送付されたアンケート調査票に回答を記入後、同封の返信用封筒にて返信願います。
平成23年 6～7月ごろ	◆第2回アンケート調査票の送付・返送
平成25年 6～7月ごろ	◆第3回アンケート調査票の送付・返送
平成27年 6～7月ごろ	◆第4回アンケート調査票の送付・返送
平成29年 6～7月ごろ	◆第5回アンケート調査票の送付・返送
平成31年 6～7月ごろ	◆第6回アンケート調査票の送付・返送
平成33年 6～7月ごろ	◆第7回アンケート調査票の送付・返送
平成35年 6～7月ごろ	◆第8回アンケート調査票の送付・返送
	◆調査終了

*1 「同意書の送付・返信」、「ID番号の通知」は最初のみで、それ以降は2年に1回調査票の送付と返送をするだけとなります。

〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉3-1-3
障害者職業総合センター 研究部門（社会的支援部門）

担当：石黒・田村

電話：043-297-9025
(月～金曜日 10:00～17:00)
FAX：043-297-9057
E-mail : cyclesav@jeed.or.jp

お問い合わせ・各種連絡先

〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉3-1-3

※第2回以降のアンケート調査に関しては、実施の都合上スケジュールが変更されることもありますので、ご了承ください。

資料4 【調査協力同意書】

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」に関するアンケート調査協力同意書

アンケート調査協力同意書

「障害のある労働者の職業サイクルに関するアンケート」調査の
協力に同意します。

アガナ [お名前] _____ 男・女 (○をつけください)

[生年月日] 昭和 _____ 年 _____ 月 _____ 日生まれ

[ご住所] 〒 _____ -

_____ 都・道・府・県 _____ 郡・市 _____

アパート名 _____

〔電話（またはFAX）〕 - - -
（ご記入いただいたに住所あてアンケート調査票を送付いたします。）

独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構
障害者職業総合センター
研究主幹 上村俊一 あて
平成 年 月 日

本同意書を受け取られてから、1週間以内に返信用封筒でご返送をお願いいたします。

○調査票は紙に印刷したものをお送りする予定です。紙に書けない場合など、点字や
パソコンのファイルが必要な場合、下記に○をつけてください。
() 点字 () wordファイル () textファイル
→パソコンのファイルが必要な場合の送付メディア
() フロッピーディスク () CDディスク

資料5 【アンケート調査ID番号通知書】

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」に関する調査研究におけるアンケートID番号のお知らせ

〇〇△△様

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」に関する調査研究

アンケート調査ID番号のお知らせ

アンケート調査実施の際に使用するID番号をお知らせいたします。
あなたのID番号は
[] 00000

です。

- このID番号は、調査対象者全員に対して異なる番号を割り当てています。
- 番号の割り当てについては、個人情報（お名前、性別、住所、電話番号等）とは無関係の数字を割り当てていますので、この番号から、みなさまの個人情報が特定されるということはありません。
- このID番号は、8回の調査で毎回同じ番号を使用します。毎回、調査票に表示されるID番号と、このIDを確認することができますので、このお知らせは調査が終了するまで大切に保存しておくようにお願いいたします。
- 不明な点や気になる点などございましたら、下記の連絡先までお問合せください。

問合せ先

〒261-0014 千葉市美浜区若葉 3-1-3
障害者職業総合センター研究部門
(社会的支援部門)
担当 石黒・田村

電話：043-297-9025
(月～金曜日 10:00～17:00)
FAX：043-297-9057
E-mail：cyclesav@jeed.or.jp

資料6 「アンケート調査票」

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」アンケート調査票

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」アンケート調査票

平成21年7月 (独) 高齢・障害者雇用支援機構

障害者職業総合センター 研究部門

- この調査は、独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構が、国の障害者雇用対策の基礎資料とするため、障害のある労働者の方の職業生活について調査するものです。
- 調査結果の公表に関しては、統計的に処理された集計結果のみを使用し、個人が特定されるような形式で公表されることはありません。
- 回答については、**7月1日現在**の状況についてご記入願います。
- 回答の終わった調査票は、**8月25日**までに必要でござ返送願います。
- なお、ご回答はご本人の記入が原則ですが、記入にあたって支援が必要な方は、ご家族等に手伝っていただいて結構です。
- その他、記入の要領は、同封の「アンケート調査票記入の手引き」をご覧ください。

I あなた自身の基本的なことについておうかがいします

問1 あなたの性別は男性ですか、女性ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 男性 2. 女性

問2 あなたの生年月日はいつですか。昭和／平成に○をつけて、□の中に数字を記入してください。

昭和 年 月 日生まれ
平成

- 問3 あなたの障害の種類、程度などについておうかがいします。
a. ご自分に障害があると医師等から最初に診断を受けたのは何歳のときですか。□の中に数字を記入してください。
 およそ 歳のとき / わからぬ

b. あなたの障害の種類は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

視覚障害	聴覚障害	肢体不自由	内部障害	知的障害	精神障害	その他
1	2	3	4	5	6	()

- c. あなたは障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳)を持つていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
 ものすべてに○をつけてください。また、持っている場合は右に手帳に書いてある障害の程度と交付年月を記入してください。

身体障害者手帳	1	→	年	月
持つている	2	→	年	月
精神障害者保健福祉手帳	3	→	年	月
その他(名称:)	4	→	年	月
持っていない	5		※級・重など	

問4 あなたの家族構成についておうかがいします。次の中であなたのご家族として(同居している、していないにかかわらず)、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 配偶者 2. 子ども 3. あなたの父親 4. あなたの母親
5. 配偶者の父親 6. 配偶者の母親 7. 兄弟姉妹 8. 祖父
9. 祖母 10. 子どもの配偶者 11. 孫
12. その他()

問5 あなたのお住まいについて、おうかがいします。

- a. あなたの現在のお住まいはどれですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。
 自分もしくは配偶者の、持ち家や賃貸住宅(一戸建て、マンション、アパートなど)
 1. 家族(両親、兄弟、子ども、子どもの配偶者等)の、持ち家や賃貸住宅(一戸建て、マンションなど)
 2. 会社の社員寮や会社が従業員のために用意してくれるアパート・マンション
 3. 福祉施設や地域の団体等が運営する援護寮、福祉ホームやグループホーム等
 4. その他()

「1、2、3のいずれかに回答された方に○をつけてください。」

問6 あなたは現在一人暮らしですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. (はい)
● 2. いいえ

「2. いいえに回答された方は、どちらですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。」

- c. あなたと同居している人は、どちらですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
 1. 配偶者 2. 子ども 3. あなたの父親 4. あなたの母親
 5. 配偶者の父親 6. 配偶者の母親 7. 兄弟姉妹 8. 祖父
 9. 祖母 10. 子どもの配偶者 11. 孫
 12. その他()

問6 あなたは取得している資格や免許がありますか。その内容を具体的に記入してください。
(原付免許、英検2級など)

問7 あなたの学歴についておうかがいします。

- a. あなたの通ったことのある学校(中退された学校および現在通っている学校を含みます)はどこですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
1. 中学校
 2. 高等学校
 3. 盲・ろう・養護学校(特別支援学校)中学部
 4. 盲・ろう・養護学校(特別支援学校)高等部
 5. 盲・ろう・養護学校(特別支援学校)専攻科
 6. 専修・各種学校(具体的に)
 7. 職業能力開発校(職業訓練校)
 8. 大学・短期大学
 9. 大学院
 10. その他 ()

Ⅱ あなたのお仕事についておうかがいします

- 問9 現在、あなたは収入のある仕事についていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。
※福祉工場や作業所で働いている場合はここでいう「収入のある仕事」には含まれませんので、6に○をつけてください。
※複数の仕事をされている場合(アルバイトを2つしているなど)、これ以降の設問は、主な仕事1つについてご回答ください。

1. 会社やその他の機関で、正社員または正職員として働いている
2. 会社やその他の機関で、パートやアルバイト、嘱託、契約社員として働いている
3. 会社やその他の機関で、派遣社員として働いている
4. 自営業又は家族従業者として働いている
5. 内職で働いている
6. 上記のいずれにも該当しない(福祉工場や作業所で働いている「仕事をしていない」など)
7. その他 ()

問7 あなたの職業についておうかがいします。

- a. あなたが最初に収入のある仕事についたのは何歳のときですか。□の中に数字を記入してください。
- 最後に卒業(中退)した学校は それは 歳のとき
- b. ① ある場合は、その学校の種別としてあてはまるものを、aの番号を①の□の中に記入してください。
- c. 現在通っている学校はありますか。ある場合は、□の中に記入してください。
(通信制の学校やさまざまな施設等で就労に向けた訓練に通っている場合なども含みます)

問8 あなたの職業についておうかがいします。

- a. あなたが最初に収入のある仕事についたのは何歳のときですか。□の中に数字を記入してください。(ここでいう「仕事」とは、福祉工場や作業所での仕事は含まれません。また、主として大学や高校に通しながらのアルバイト等も含みません。)
- 歳のとき
- b. aで回答をいただいた仕事をする以前は何をしていましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 学校に通っていた
2. 福祉工場や作業所で働いた
3. 病院に通院・入院していた
4. 家で休んでいた
5. その他 ()

ⅡA 「仕事についている」方にとうかがいします

4 ページの問9で、1~5のいずれかに回答された方のみご回答ください。

問10 あなたが担当している仕事は、主にどんな内容ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(複数の仕事をされている場合、主な仕事1つについてご回答ください。)

1. ものを作る仕事
2. ものを売る仕事
3. 事務の仕事
4. ものを教える仕事(教師、塾講師、スポーツクラブ指導員など)
5. 医療や福祉に関する仕事(あんま・鍼灸の仕事を含む)
6. 人を相手にするサービスの仕事(「4. ものを教える仕事」、「5. 医療や福祉に関する仕事」を除く)
7. 清掃やクリーニングなどのサービスの仕事
8. その他()

問11 あなたの労働状況について、おうかがいします。(複数の仕事をされている場合、主な仕事1つについてご回答ください。)

- a あなたが6月に働いた時間は1週間あたりにすると何時間ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(ボーナスがある場合は、ボーナスを除いた金額でご回答ください)
 1. 20時間未満 2. 20時間以上30時間未満 3. 30時間以上(フルタイム)
- b あなたの6月の休日は1週間あたりにすると何日ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。
 1. 1日 2. 2日 3. 3日 4. 4日以上 5. 不定期

- c あなたが6月に受け取った給与(手取り)は、いくらくらいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(ボーナスがある場合は、ボーナスを除いた金額でご回答ください)
 1. 7万円未満 2. 7万円以上13万円未満 3. 13万円以上25万円未満
 4. 26万円以上39万円未満 5. 40万円以上

- 問12 あなたの会社までの通勤についておうかがいします。(複数の仕事をされている場合、主な仕事1つについてご回答ください。)
- a. 通勤に利用する手段は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 徒歩
2. 自転車
3. 原付やオートバイ
4. 自動車(自分で運転)
5. 公共交通機関(電車やバスなど)
6. 公共交通機関(電車やバスなど)
7. その他()

- b. 通勤にかかる合計時間(片道)は、どれくらいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。
 1. 30分未満 2. 30分以上 1時間未満 3. 1時間以上 1時間30分未満
 4. 1時間30分以上 2時間未満 5. 2時間以上

- 問13 あなたの勤いている会社(自営、内職を含む。)(複数の仕事をされている場合、主な仕事1つについてご回答ください)の従業員数(規模)は、何人くらいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 1~9人 2. 10人~49人 3. 50~299人
 4. 300人~999人 5. 1000人以上 6. わからない

問14 あなたが現在の会社(自営を含む)で仕事をし始めたのは何歳のときですか。□の中に数字を記入してください

歳

問15 あなたは、自分の障害の内容(症状、服薬、休憩等)について、会社や職場の人間に説明していますか。次のうちから、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 会社や職場の人ほとんどに説明している
2. 会社や職場の人のごく一部の人だけに説明している
3. 全く説明していない
4. わからない

問16 あなたは、現在の仕事について、どの程度満足していますか。a~d の項目についてご回答ください。

	満足	どちらともいえない	どちらかども満足	どちらかども不満足	不満足
a. 仕事の内容	1	2	3	4	5
b. 給料や待遇(労働条件等)	1	2	3	4	5
c. 職場の人間関係	1	2	3	4	5
d. 職場の環境(施設整備等)	1	2	3	4	5

問17 あなたの仕事に対する今後の考え方についておうかがいします。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- a あなたの会社では何歳まで働けるか決まっていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。
 1. 決まっている 2. 決まっていない(わからない、自営業であるなどの場合も含みます)
- b 「1. 決まっている」と回答した方に「おうかがいします。あなたの会社で何歳まで働くか決まりました」と回答した方が、右の□の中に数字を記入してください(定年後の再雇用などで働く場合は、働けるもともと高い年齢を記入してください)。
 1. 決まっている 2. 決まっていない(わからない、自営業であるなどの場合も含みます)
- c 「1. 決まっている」と回答した方に「おうかがいします。あなたはいつまで仕事を続けたいと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。」
 1. bで答えた年齢よりも前に仕事をやめたい 2. bで答えた年齢まで働きたい
 3. bで答えた年齢以降も働きたい 4. その他()
- d 「2. 決まっていない」と回答した方に「おうかがいします。あなたは何歳まで仕事を続けたいと思いますか。右の□の中に数字を記入してください。」
 1. 決まっている 2. 決まっていない(わからない、自営業であるなどの場合も含みます)

- e あなたは現在の仕事を今後も続けるたいと思いますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。
 1. 現在の仕事を続けたい 2. 現在の仕事をしたい
 1. 仕事を掛け持ちしている 2. 仕事を掛け持ちはしてない

問18 現在、あなたは仕事を掛け持ち(アルバイトを2つつしているなど)していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 1~9人 2. 10人~49人 3. 50~299人
 4. 300人~999人 5. 1000人以上 6. わからない

8ページの問21へ進んでください。

ⅡB 「仕事についていない」方におうかがいします

4 ページの問9で、6 または 7 に回答された方のみご回答ください。

問19 過去2年間の仕事の経験について、おうかがいします。

a. 過去2年間に仕事についたことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1. ある
- 2. ない

「1. ある」に回答された方におうかがいします。

b. その仕事をお辞めになった理由は何ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1. 事業主の都合
- 2. 定年退職（年齢）
- 3. 定年の再雇用期間満了
- 4. 契約期間満了
- 5. 休職期間満了
- 6. 自分の都合
- 7. その他（
）
- 8. わからない

「6. 自分の都合」に回答された方におうかがいします。

c. 「自分の都合」の具体的な内容は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1. 仕事内容が合わなかつた
- 2. 賃金・労働条件に不満があつた
- 3. 職場の雰囲気・人間関係
- 4. 体調不良
- 5. 体力的にきつくなつた
- 6. 結婚
- 7. 出産
- 8. 家庭等の事情（介護など）
- 9. その他（
）
- 10. わからない

問20 あなたの就職活動についておうかがいします。

a. あなたは仕事についてどのように考えていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1. すぐに仕事につきたい
- 2. すぐというわけではないが、仕事につきたい
- 3. 時間をかけて自分で自分に合った仕事を探したい
- 4. 福祉工場や作業所で働きたい
- 5. 仕事にはつきたくない
- 6. その他（
）

「1.2.3.のいずれかに○をつかけた方におうかがいします。

b. 仕事を探すときに、相談したり、利用したことがある人や機関はありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1. 配偶者
- 2. 子ども
- 3. 父親
- 4. 母親
- 5. 兄弟姉妹
- 6. 会社の上司や同僚
- 7. 知り合い・友人
- 8. 障害者相談員
- 9. ハローワーク
- 10. 障害者職業センター
- 11. 障害者就業・生活支援センター
- 12. 相談支援事業者
- 13. かかりつけの病院・診療所（主治医等）
- 14. 保健所（福祉事務所）
- 15. その他（
）
- 16. 相談したり利用したことがない

ひきつづき次ぎのページの問21へ進んでください。

Ⅲ あなたの仕事や生活の現状についておうかがいします

問21 過去2年間に、仕事に関する何か困ったことが起きたときには、相談したり、利用したことがありますか。

「1. ある」に回答された方におうかがいします。

a. 過去2年間に仕事についたことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1. 配偶者
- 2. 子ども
- 3. 父親
- 4. 母親
- 5. 兄弟姉妹
- 6. 会社の上司や同僚
- 7. 知り合い・友人
- 8. 障害者相談員
- 9. ハローワーク
- 10. 障害者職業センター
- 11. 障害者就業・生活支援センター
- 12. 相談支援事業者
- 13. かかりつけの病院・診療所（主治医等）
- 14. 保健所（福祉事務所）
- 15. その他（
）
- 16. 相談したり利用したことがない

b. その相談支援事業者は何ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1. 会社の上司や同僚
- 2. 知り合い・友人
- 3. 障害者職業センター
- 4. 障害者就業・生活支援センター
- 5. 兄弟姉妹
- 6. 保健所（福祉事務所）
- 7. かかりつけの病院・診療所（主治医等）
- 8. 障害者相談員
- 9. ハローワーク
- 10. 障害者職業センター
- 11. 障害者就業・生活支援センター
- 12. 相談支援事業者
- 13. かかりつけの病院・診療所（主治医等）
- 14. 保健所（福祉事務所）
- 15. その他（
）
- 16. 相談したり利用したことがない

問22 あなたは障害に関する年金を受給していますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1. 受給している
- 2. 受給していない
- 3. わからない

問23 あなたは生活するための収入をどのように得ていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- （ここでいう「働いて得る収入」には、福祉工場や作業所からの収入も含めます）
- 1. 「年金」だけで生活している
- 2. 「家族などの支援」だけで生活している
- 3. 「働いて得る収入」だけで生活している
- 4. 「年金」と「家族などの支援」を合わせて生活している
- 5. 「年金」と「働いて得る収入」を合わせて生活している
- 6. 「家族などの支援」と「働いて得る収入」を合わせて生活している
- 7. 「年金」と「働いて得る収入」と「家族などの支援」を合わせて生活している
- 8. その他（
）
- 9. わからない

問24 過去2年間に、経済的に困ったことが起きたとき、相談したり、利用したことがありますか。

「1. ある」に回答された方におうかがいします。

- 1. 配偶者
- 2. 子ども
- 3. 父親
- 4. 母親
- 5. 兄弟姉妹
- 6. 会社の上司や同僚
- 7. 知り合い・友人
- 8. 障害者相談員
- 9. ハローワーク
- 10. 障害者職業センター
- 11. 障害者就業・生活支援センター
- 12. 相談支援事業者
- 13. かかりつけの病院・診療所（主治医等）
- 14. 保健所（福祉事務所）
- 15. その他（
）
- 16. 相談したり利用したことがない

IV あなたの仕事や生活に対する考え方などについておうかがいします

問25 あなたにとって次の項目は、仕事をするうえで、どのくらい重要なと思いますか。a~fの項目について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	重 要	い ど ち ら か と 重 要	い え ば 重 要	い ど ち ら か と 重 要	い え ば 重 要	重 要 で な い
a. 賃金や給料	1	2	3	4	5	
b. 自分の能力・経験	1	2	3	4	5	
c. 仕事の内容	1	2	3	4	5	
d. 職場の環境整備	1	2	3	4	5	
e. 勤務時間や休日	1	2	3	4	5	
f. 仕事仲間との人間関係	1	2	3	4	5	

問26 あなたが働きづけるために、会社や会社の人に配慮して欲しいことについて、おうかがいします。
a. あなたは、自分が仕事をする上でどんなことが必要と考えていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること
2. 作業のスピードや仕事の量を障害に合わせること
3. 作業を容易にする機器や設備を改善すること
4. 通勤の便宜を図ること
5. まわりに仕事やコミュニケーションを援助してくれる人を配置すること
6. 体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること
7. 安全や健康管理に特別の配慮をすること
8. その他()

- b. あなたが仕事をする上で、会社や会社の人に特にお願ひしたいことはどんなことですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
1. 障害や障害者などを理解してほしい
 2. 職場に障害者の仲間を多くしてほしい
 3. ずっと働き続けることができるようにしてほしい
 4. 給与面を改善してほしい
 5. 体力や障害に合わせた労働時間や休日の設定をしてほしい
 6. 能力に応じた評価や昇進・昇格をしてほしい
 7. 研修や教育訓練を充実してほしい
 8. 健康管理を充実してほしい
 9. 職場の中で困ったことの相談ができるようにしてほしい
 10. その他()

問27 あなたが普段の生活で、一番の楽しみにしていることは何ですか。□の中に自由に記入してください。

問28 あなたが近い将来(5年くらい後まで)に実現したいことは何ですか。□の中に自由に記入してください。

問29 あなたは、仕事以外の次にあげる生活のことについてどの程度満足していますか。a~dの項目について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	重 要	い ど ち ら か と 重 要	い え ば 重 要	い ど ち ら か と 重 要	い え ば 重 要	重 要 で な い
a. 家族との人間関係について	1	2	3	4	5	
b. 友人・知人との人間関係について	1	2	3	4	5	
c. 自分の体力や健康について	1	2	3	4	5	
d. 収入や経済生活について	1	2	3	4	5	

問30 この調査についてのご意見やご要望がありましたら、□の中に自由に記入してください。

問31 回答を記入するにあたって他の人に手伝つてもらいましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 自分で回答を記入した
2. 他の人に手伝つてもらつた(手伝わされた方について、□の中にあなたとの関係を記入してください)
(配偶者・子ども・父親・母親・友人・会社の上司等、具体的に記入してください)

問32 この調査票を記入したのはいつですか。□の中に日付を記入してください。

平成21年 月 日

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

資料7【アンケート調査票】

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」アンケート調査票(知的障害者用)

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」アンケート調査票	
平成21年7月（独）高輪・霞 勤務用 職業総合セセナー 研究部門 障害者職業研究部	
<p>この調査は、国の、働く障害者について、答えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> あなたがこの調査でどんなふうに答えたか、他のひとに知られることはありません。 答え終った調査票は、8月25日までに送り返してください。 家族などのなどに手伝つてくれた人について書いてください。 書き方がわからぬときは、封筒に入っている③「アンケート調査票記入の手引き」を読んでください。 	

I あなたのことについてきます

問1 あなたは男ですか、女ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 男 2. 女

問2 あなたの誕生日はいつですか。昭和または平成に○をつけて、□の中に数字を書いてください。

昭和 年 月 日生まれ

問3 あなたの障害の種類・程度や交付の年月のことについてきます。

a. 医者に障害があると最初にいわれたのは何歳のときですか。□の中には、だれですか。(何歳のときか、わからないときは、右の「わからない」に○をつけてください。)

だいたい 歳のとき / わからない

b. あなたの障害の種類はなんですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

視覚障害	聴覚障害	肢体不自由	精神障害	知的障害	精神障害	その他(くわしく)
1	2	3	4	5	6	()

c. あなたは障害者手帳を持っていますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。持っていない場合は、右欄に、手帳に書いてある障害の種類(級)と交付された年月を書いてください。持っていない場合は、5に○をつけてください。

持つている	身体障害者手帳	聴覚障害者手帳など	精神障害者手帳	保健福祉手帳	その他手帳の名前:	交付年月	障害の程度
							→
							→
							→

※級・度など

問4 あなたの家族についてきます。あてはまるものすべてに○をつけてください。(一緒に住んでいてもいるなくてもかまいません)。

1. 夫または妻
2. 子ども
3. あなたの夫どうさん
4. あなたの妻あさん
5. 夫や妻の夫どうさん
6. 夫や妻のおかあさん
7. きょうだい
8. おじいさん
9. おばあさん
10. 子どもの夫または妻
11. 孫
12. その他()

問5 あなたが生んでいるところについてきます。

- a. あなたが今生んでいるのは、どのようなところですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。
 1. 自分や夫もしくは妻が、持っている家や自分で借りている(一軒家、マンション、アパートなど)
 2. 家族親、きょうだい、子どもの夫や妻などの)の、持っている家や借りている(一軒家、マンション、アパートなど)
3. 会社の寮や会社で働いている人のために会社が用意してくれたアパート・マンション、福祉施設や地域の団体などの寮、福祉ホームやグループホームなど
4. 福祉施設や地域の団体などの寮、福祉ホームやグループホームなど
5. そのた ()

上の1、2、3のどれかに○をつけてください。

▶ b. あなたは今、一人暮らしですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. はい

2. いいえ

「2. いいえ」と答えた人にきます。

- c. あなたといっしょに住んでいる人は、だれですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
 1. 夫または妻
 2. 子ども
 3. あなたの夫どうさん
 4. あなたの妻あさん
 5. 夫や妻の夫どうさん
 6. 夫や妻のおかあさん
 7. きょうだい
 8. おじいさん
 9. おばあさん
 10. 子どもの夫または妻
 11. 孫
 12. その他()

問6 あなたは資格や免許を持っていますか。持っていたら、それがどんなものか、くわしく下の口の中に書いてください。

問7 あなたがいっていた学校についてきます。

- a. あなたが行ったことのある学校(途中でやめた学校や、今行っている学校もいれます)、あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 中学校
2. 高等学校
3. 養護学校(特別支援学校) 中学部
4. 養護学校(特別支援学校) 高等部
5. 養護学校 特別支援学校(職業訓練校など)
6. 職能開拓校(各種学校)
7. 職業能力開拓校(職業訓練校など)
8. 大学短期大学
9. 大学院
10.その他()

- a. 上のa.での○をついた学校のなかで、あなたがいちばん最後に卒業した(途中でやめた)学校はどれですか。あてはまる番号を①の□の中に書いてください。また、それは何歳のときですか。
その歳を②の□の中に書いてください。

最後に卒業した学校は
□
(途中でやめた)

それは
□
歳のとき

- b. いま学校に行っていますか。行っている場合は、その学校の種類を、上のa.の1~10からえらんで、その番号を□の中に書いてください。(通言教育の学校や作業所につくための学校などもいれます)

問8 あなたがこれまでしてきた仕事についてきます。

- a. あなたが最初に給料をもらえる仕事をしたのは何歳のときですか。□の中には数字を書いてください。
(ここでいう「仕事」には、福祉工場や作業所での仕事はいれません。また、大学や高校に通いながらしたアルバイトもいれません)

- b. 上のa.で答えた仕事をする前の前は何をしていましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。
1. 学校にいっていました
2. 福祉工場や作業所で働いていた
3. 病院にいったり、入院したりしていました
4. 家で休んでいた
5. その他()

Ⅱ あなたの仕事についてききます

問9 今、あなたは給料のものももらえる仕事をしていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。
※福祉工場や作業所で働いているときは「給料のもらえる仕事」にはりませんので、6に○をつけてください。

※いくつもの仕事をしている場合(アルバイトを2つしているなど)、ここからあと、一番給料をいっぱいもらっている仕事について答えてください。

1. 会社などで、正社員として働いている
2. 会社などで、パートやアルバイト、契約社員として働いている
3. 会社などで、派遣社員として働いている
4. 自分で会社を経営したり、家族の仕事を手伝つて働いている
5. 家で内職をして働いている
6. 上のどれにもあてはまらない(福祉工場や作業所で働いている「仕事をしていない」など)
7. その他()

1~5のどれかに答えたひとは、次のページの 間10から後の間に答えてください。

6か7に答えたひとは、8ページの 間19から後の間に答えてください。

II A 「仕事をしている人にきます」(4ページの問9で、1~5のどれかに答えた人への質問です)

- 問10 今あなたがしている仕事はどんな仕事ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(いくつもの仕事をしているときは、一番給料をいっぽいもらっている仕事1つについて答えてください。)
1. ものを作る仕事
 2. ものを売る仕事
 3. 事務の仕事
 4. ものを教える仕事(学校や塾の先生、スポーツクラブの先生など)
 5. 医療や福祉に関わる仕事
 6. 人を相手にするサービスの仕事(4. ものを教える仕事)5. 医療や福祉に関わる仕事)はのぞく清掃やクリーニングなどのサービスの仕事
 7. その他()

問11 あなたの今の仕事についてききます。(いくつもの仕事をしているときは、一番給料をいっぽいもらっている仕事ひとつについて答えてください。)

- a. あなたが6月にはたらいした時間は1週間あたりにすると何時間ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。
1. 20時間より少ない
 2. 20時間より多く30時間よりも少ない
 3. 30時間よりも多い(フルタイム)
- b. あなたの6月の休みの日は1週間にたりにすると何日ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。
1. 1日
 2. 2日
 3. 3日
 4. 4日よりも多い
 5. 決まっていない
- c. あなたが6月に受け取った給料(実際にもらった手取りの額)は、いくららいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(ボーナスがあっても、いけれないで答えてください)
1. 7万円よりも少ない
 2. 7万円よりも多いけど、25万円よりも少ない
 3. 13万円よりも多いけど、25万円よりも少ない
 4. 26万円よりも多いけど、39万円よりも少ない
 5. 40万円よりも多い

問12 仕事への行き方についてききます。(いくつもの仕事をしているときは、一番給料をいっぽいもらっている仕事1つだけについて答えてください。)

a. どうやって仕事に行きますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 歩き
2. 自転車
3. スクーターやオートバイ
4. 自動車(自分で運転する)
5. 自動車(家族や会社の人など、他の人が運転する)
6. 電車やバスなどを使っていく
7. その他()

b. 仕事に行くのに(片道)、どれくらい時間がかかりますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 30分よりも短い
2. 30分よりも長い
3. 1時間よりも長い時間30分よりも短い
4. 1時間30分よりも長い時間よりも短い

問13 今どの仕事場で働いている人の数は何人くらいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。(仕事をいくつもしているときは、一番給料をいっぽいもらっている仕事1つだけについて答えてください。)

1. 1~9人
2. 10人~49人
3. 50~299人
4. 300人~999人
5. 1000人よりも多い
6. わからぬ

問14 今どの仕事場(自分で会社を経営している場合を含む)で仕事を始めたのは何歳ですか。図の中には数字を書いてください。

問15 あなたは、自分の障害のことについて、仕事場の人に説明していますか。次の申から、あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 仕事場の人ほとんどに説明している
2. 仕事場のほんの少しの人だけに説明している
3. 全然説明していない
4. わからない

問16 あなたは、今どの仕事について、どのくらい満足していますか。a~dの項目について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

(仕事をいくつもしているときは、一番給料をいっぽいもらっている仕事1つについて答えてください。)

a. 仕事の内容	満足	いえは満足	どちらかども	あまり満足しない	満足しない
b. 給料やはたらくときの条件	満足	いえは満足	どちらかども	あまり満足しない	満足しない
c. 仕事場の人たちとの関係	満足	いえは満足	どちらかども	あまり満足しない	満足しない
d. 仕事場の環境(施設や機械など)	満足	いえは満足	どちらかども	あまり満足しない	満足しない

問17 あなたの将来の仕事についてのかんがえについてききます。

a. あなたの会社では何歳まで働けるか決まっていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

● 1. 決まっている

● 2. 決まっていない(わからない、自営業の場合などもいれます)

b. 「1. 決まっている」と答えた人に書きます。あなたの会社では何歳まで働くか、右の図の中に数字を書いてください(定年のあと雇つてももらえる場合は、働けるいちばん高い歳を書いてください)。

↑ 1. 決まっている

↑ 2. 決まっていない

↑ c 「1. 決まっている」と答えた人に書きます。あなたはいつまで仕事を続けたいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

↑ 1. bで答えた歳よりも前に仕事をやめたい

↑ 2. bで答えた歳まで働きたい

↑ 3. bで答えた歳よりも後も働きたい

↑ 4. その他の()

d 「2. 決まっていない」と答えた人に書きます。あなたは何歳まで仕事を続けたいですか。右の図の中に数字を書いてください。

↑ 1. 決まっている

↑ 2. 決まっていない

e. あなたは今どの仕事を続けたいですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

1. 今どの仕事を続けるといい1. 今どの仕事を続けるといい
2. 今、あなたは、仕事を2つ以上している。1. 仕事を2つ以上している
3. わからない

問18 今、あなたは、仕事を2つ以上している。1. 仕事を2つ以上している

1. 仕事を1つだけしている
2. 仕事を2つ以上している

二ここまで答えたたら、8ページの問21へ進んでください

ⅡB 「仕事をしていない人にききます」

問19 2年前から今までの仕事の経験についてきます。

a. この2年の間に仕事をしたことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1. ある
 - 2. ない
- 「1. ある」と答えた人にききます。
- b. その仕事をやめたのはなぜですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。
- 1. 会社の都合
 - 2. 定年退職(そのときの歳は^{さい})
 - 3. 定年のあとに雇てもらえる期間が終わった
 - 4. 契約の期間が終わった
 - 5. 休職の期間が終わった
 - 6. 自分の都合
 - 7. その他()
 - 8. わからない

「6. 自分の都合」と答えた人にききます。

- c. 「自分の都合をくわしく言うと、下のどれになりますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
- 1. 仕事の内容が自分に合わなかつた
 - 2. 給料や労働時間に不満があつた
 - 3. 仕事場のふんいきや人との関係が良くなかった
 - 4. 体のちようしがが良くなかった
 - 5. 体がきつくなった
 - 6. 結婚した
 - 7. 子供がうまれた
 - 8. 家族の世話など、家のことでのうしなくなつた
 - 9. その他()
 - 10. わからない

「1. 2、3のどれかに○をついた人にききます。

- b. 仕事をみつけるときに、だれかに相談したり、どこかを利用したことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
- 1. 夫や妻
 - 2. 子ども
 - 3. お父さん
 - 4. お母さん
 - 5. きょうだい
 - 6. 会社の上司やなかも
 - 7. 知り合い・ともだち
 - 8. 障害者相談員
 - 9. ハローワーク
 - 10. 障害者職業センター
 - 11. 障害者就業・生活支援センター
 - 12. 相談支援事業者
 - 13. いつも行く病院・診療所(いつもかかっているお医者さんなど)
 - 14. 保健所(福祉事務所)
 - 15. その他()
 - 16. 相談したり利用したことではない

問20 これからのお仕事についてきます。

a. あなたはこのからの仕事についてどのように考えていますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1. すぐに仕事をしたい
- 2. すぐにはないが、仕事をしたい
- 3. ゆっくり自分に合った仕事を見つけたい
- 4. 福祉工場や作業所で働きたい
- 5. 仕事をはしたくない
- 6. その他()

- b. 仕事をみつけるとき、だれかに相談したり、どこかを利用したことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
- 1. 夫や妻
 - 2. 子ども
 - 3. お父さん
 - 4. お母さん
 - 5. きょうだい
 - 6. 会社の上司やなかも
 - 7. 知り合い・ともだち
 - 8. 障害者相談員
 - 9. ハローワーク
 - 10. 障害者職業センター
 - 11. 障害者就業・生活支援センター
 - 12. 相談支援事業者
 - 13. いつも行く病院・診療所(いつもかかっているお医者さんなど)
 - 14. 保健所(福祉事務所)
 - 15. その他()
 - 16. 相談したり利用したことではない

Ⅲ あなたのいまの仕事や生活についてきます

問21 2年前から今日までに、仕事のことで何か困ったときに、だれかに相談したり、どこかを利用したことがありますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- 1. 夫や妻
- 2. 子ども
- 3. お父さん
- 4. お母さん
- 5. きょうだい
- 6. 会社の上司やなかも
- 7. 知り合い・ともだち
- 8. 障害者相談員
- 9. ハローワーク
- 10. 障害者職業センター
- 11. 障害者就業・生活支援センター
- 12. 相談支援事業者
- 13. いつも行く病院・診療所(いつもかかっているお医者さんなど)
- 14. 保健所(福祉事務所)
- 15. その他()
- 16. 相談したり利用したことではない

ここまで答えたたら、次のページの問21へ進んでください。

IV あなたの仕事や生活に対する考え方などについてきます

問25 あなたにとて、下の表の左がわることは、仕事をするのに、どれくらいだと思いますか。a～f の項目について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	だいたいでもない	だいたいどちらかどない	どちらかどない	どちらちらどない	どちらちらどない	どちらちらどない	どちらちらどない
a. 給料	1	2	3	4	5		
b. 自分の仕事をする能力	1	2	3	4	5		
c. 仕事のなかみ	1	2	3	4	5		
d. 仕事場の環境	1	2	3	4	5		
e. 働く時間や休みの日	1	2	3	4	5		
f. 仕事なかまとの関係	1	2	3	4	5		

- 問26 あなたが仕事をつづけるために、会社や会社の人に気を配つてしまいことについて、ときます。
- a. あなたは、自分が仕事をするのにどんなことが必要だと考えていますか。あてはまるものぜんぶに○をつけてください。
- 仕事をしてゆく一番などをわかりやすくするために、仕事をやりやすくすること
 - 仕事の量やスピードをじぶんの障壁にあわせること
 - 仕事をかんたんにするための施設や機械などをよくすること
 - 仕事や人のつきあいのときに、助けてくれる人をまわりにおいてもらうこと
 - 体のちようしに合わせて、はなはだく時間や休みを変えられるように考へてもらうこと
 - 安全や健康のために、特別に気を配つてもらうこと
 - その他()
- b. あなたが仕事をしてゆくのに、会社やまわりの人とに特にお願ひしたいことはどんなことですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
- 障害や障害者のことをわかつてほしい
 - 仕事場に障害者のなかまを多くしてほしい
 - ずっとはたらき続けることができるようにしてほしい
 - 給料をよくしてほしい
 - 自分のちよしうしや障害に合わせて働く時間や休みを決めてほしい
 - 自分の能力に合った評価や出世の方法を考へてほしい
 - 教育訓練などをもっとよくしてほしい
 - 健康管理のことをもっとよく考へてほしい
 - 仕事場の中で困ったときに、相談ができるようにしてほしい
 - その他()

問27 あなたがいつも生活で、一番樂しみにしていることは何ですか。□の中に自由に書いてください。

問28 あなたが近い将来(5年以内)にしたいことは何ですか。□の中に自由に書いてください。

問29 あなたは、次の左がわのことについて、どれくらい満足していますか。a～dの項目について、あてはまる番号1つに○をつけてください。

	満足						
a. 家族との関係について	1	2	3	4	5		
b. ともだち・知り合いの人たちとの関係について	1	2	3	4	5		
c. 自分の体力や健康について	1	2	3	4	5		
d. 給料やくらしについて	1	2	3	4	5		

問30 この調査についての意見や希望がありましたら、□の中に自由に書いてください。

問31 答えるときには、他の人に手伝つてもらいましたか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 他人に手伝つたことがありますか。
- 他人に手伝つたことがありますか。

※夫、妻、子ども、お父さん、お母さん、友だち、会社のひとなどくわしく書いてください。

問32 この調査票を書いたのはいつですか。□の中に日にちを書いてください。

平成 21 年 月

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

資料8 【アンケート調査票】

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究」アンケート調査票(点字)

数1	数2	数1	数2	数1	数2	数1	数2	数1	数2	数1	数2	数1	数2	数1	数2	数1	数2
外大丈ID	ばんごー	しょーがいのあるろーどーしゃの	しょくぎょーさいくるにかんするちょーさ	けんきゅーーあんけーとちょーさひよー	へいせい数21ねん数7がつ	どくじょーれいしそーがいしや	こよーしえんきこー	しょーがいしやしょくぎょー	そーごーせんたーけんきゅー	ぶもん	このちょーさわ、どくりつぎょーセいほーじん	しょーがいしやこよーしえんきこーが、	くにのしょーがいしやこよーたいさくのきそしりょーと	するため、しょーがいのあるろーどーしゃのかたの	しょくぎょーせいかつについてちょーさするもの	です。	
外大丈ID	ばんごー	しょーがいのあるろーどーしゃの	しょくぎょーさいくるにかんするちょーさ	けんきゅーーあんけーとちょーさひよー	へいせい数21ねん数7がつ	どくじょーれいしそーがいしや	こよーしえんきこー	しょーがいしやしょくぎょー	そーごーせんたーけんきゅー	ぶもん	このちょーさわ、どくりつぎょーセいほーじん	しょーがいしやこよーしえんきこーが、	くにのしょーがいしやこよーたいさくのきそしりょーと	するため、しょーがいのあるろーどーしゃのかたの	しょくぎょーせいかつについてちょーさするもの	です。	
外大丈ID	ばんごー	しょーがいのあるろーどーしゃの	しょくぎょーさいくるにかんするちょーさ	けんきゅーーあんけーとちょーさひよー	へいせい数21ねん数7がつ	どくじょーれいしそーがいしや	こよーしえんきこー	しょーがいしやしょくぎょー	そーごーせんたーけんきゅー	ぶもん	このちょーさわ、どくりつぎょーセいほーじん	しょーがいしやこよーしえんきこーが、	くにのしょーがいしやこよーたいさくのきそしりょーと	するため、しょーがいのあるろーどーしゃのかたの	しょくぎょーせいかつについてちょーさするもの	です。	
外大丈ID	ばんごー	しょーがいのあるろーどーしゃの	しょくぎょーさいくるにかんするちょーさ	けんきゅーーあんけーとちょーさひよー	へいせい数21ねん数7がつ	どくじょーれいしそーがいしや	こよーしえんきこー	しょーがいしやしょくぎょー	そーごーせんたーけんきゅー	ぶもん	このちょーさわ、どくりつぎょーセいほーじん	しょーがいしやこよーしえんきこーが、	くにのしょーがいしやこよーたいさくのきそしりょーと	するため、しょーがいのあるろーどーしゃのかたの	しょくぎょーせいかつについてちょーさするもの	です。	

数2	数1	数2	数1	数2	数1	数2	数1	数2	数1	数2	数1	数2	数1	数2	数1	数2	数1	数2
ちよーさけつかのこーひよーにかんしてわ、	とーけいてきにしょりされたしゅーけいけつかのみをしょー	し、こじんがとくていされるとーなけいしきで	こーひよーされることわあります。	かいとーについてわ、数7がつついたちげんざいの	じょーきよーについてごきにゆーねがいます。	かいとーのおわったちょーさひよーわ、数8がつ	数20にちまでにひつちやくでごへんそーねがいます。	なお、ごかいとーわごほんにんのきにゆーが	げんそくですが、きにゆーにあたってしえんが	ひつよーなかたわ、ごかぞくとーにてつだつて	いただいてけつこーです。	そのた、きにゆーのよーりよーわ、どーふーの	ーあんけーとちょーさひよーきにゆーのてびきーをごらん	ください。	じよーさけつかのこーひよーにかんしてわ、	とーけいてきにしょりされたしゅーけいけつかのみをしょー	し、こじんがとくていされるとーなけいしきで	
ちよーさけつかのこーひよーにかんしてわ、	とーけいてきにしょりされたしゅーけいけつかのみをしょー	し、こじんがとくていされるとーなけいしきで	こーひよーされることわあります。	かいとーについてわ、数7がつついたちげんざいの	じょーきよーについてごきにゆーねがいます。	かいとーのおわったちょーさひよーわ、数8がつ	数20にちまでにひつちやくでごへんそーねがいます。	なお、ごかいとーわごほんにんのきにゆーが	げんそくですが、きにゆーにあたってしえんが	ひつよーなかたわ、ごかぞくとーにてつだつて	いただいてけつこーです。	そのた、きにゆーのよーりよーわ、どーふーの	ーあんけーとちょーさひよーきにゆーのてびきーをごらん	ください。	ちよーさけつかのこーひよーにかんしてわ、	とーけいてきにしょりされたしゅーけいけつかのみをしょー	し、こじんがとくていされるとーなけいしきで	
ちよーさけつかのこーひよーにかんしてわ、	とーけいてきにしょりされたしゅーけいけつかのみをしょー	し、こじんがとくていされるとーなけいしきで	こーひよーされることわあります。	かいとーについてわ、数7がつついたちげんざいの	じょーきよーについてごきにゆーねがいます。	かいとーのおわったちょーさひよーわ、数8がつ	数20にちまでにひつちやくでごへんそーねがいます。	なお、ごかいとーわごほんにんのきにゆーが	げんそくですが、きにゆーにあたってしえんが	ひつよーなかたわ、ごかぞくとーにてつだつて	いただいてけつこーです。	そのた、きにゆーのよーりよーわ、どーふーの	ーあんけーとちょーさひよーきにゆーのてびきーをごらん	ください。	ちよーさけつかのこーひよーにかんしてわ、	とーけいてきにしょりされたしゅーけいけつかのみをしょー	し、こじんがとくていされるとーなけいしきで	
ちよーさけつかのこーひよーにかんしてわ、	とーけいてきにしょりされたしゅーけいけつかのみをしょー	し、こじんがとくていされるとーなけいしきで	こーひよーされることわあります。	かいとーについてわ、数7がつついたちげんざいの	じょーきよーについてごきにゆーねがいます。	かいとーのおわったちょーさひよーわ、数8がつ	数20にちまでにひつちやくでごへんそーねがいます。	なお、ごかいとーわごほんにんのきにゆーが	げんそくですが、きにゆーにあたってしえんが	ひつよーなかたわ、ごかぞくとーにてつだつて	いただいてけつこーです。	そのた、きにゆーのよーりよーわ、どーふーの	ーあんけーとちょーさひよーきにゆーのてびきーをごらん	ください。	ちよーさけつかのこーひよーにかんしてわ、	とーけいてきにしょりされたしゅーけいけつかのみをしょー	し、こじんがとくていされるとーなけいしきで	

とい 数 2 あなたのがつ びわ いつ ですか。
 しょーわ へいせいの べつと、特ふふにのなかに
 すーじをきにゅーしてく ださい。
 しょーわ へいせい | 特ふふにねん 特ふふに
 特ふふにち うまれ

とい 数 3 あなたのしょーがいのしゅるい、
 ていいどなどについておうかがいします。

数 3
 外大!あなたじしんのきほんできなことについて
 おかがいします

とい 数 1 あなたのせいべつわ だんせいですか、
 じよせいですか。あてはまるばんごーをひとつおかげ
 ください。

数 1。だんせい
 数 2。じよせい

とい 数 2 あなたのせいねんがつ びわ いつ ですか。
 しょーわ へいせいの べつと、特ふふにのなかに
 すーじをきにゅーしてく ださい。

しょーわ へいせい | 特ふふにねん 特ふふに
 特ふふにち うまれ

およそ 特ふふにさいのとき
 外 b. あなたのしょーがいのしゅるいわなんですか。
 あてはまるすべてのばんごーをおかきください。
 しかくしょーがい つつつ数 1
 ちょーかくしょーがい つつつ数 2
 したいふじゅー つつつ数 3
 ないぶしょーがい つつつ数 4
 ちてきしょーがい つつつ数 5
 せいしんしょーがい つつつ数 6

そのた特ふふに
 外 c. あなたわしょーがいしゃでちょーしんたい

しょー がいしや てちょー、りょーいく てちょー、せいしん
 しょー がいしや ほけん ふくし てちょー|を もつて
 いますか。あてはまる すべての ばんごーを おかげ
 ください。また、もつて いる ぱあいわ てちょーに
 かいて ある しょー がいの てい どと こーふ ねん げつを
 きにゅー して く ださい。
 おもつて いる | じんたい しょー がいしや てちょー| つつ
 てちょーな ど》 | つつ
 おもつて いる | せいしん しょー がいしや ほけん ふくし
 てちょー| つつ
 おもつて いる | そのた 《めいしょー 特ふふに } | つつ
 数 4
 もつて いない つつ 数 5
 しょー がいの てい ど | きゅー.
 こーふ ねん げつ 特ふふに ねん 特ふふに がつ

とい 数 4 あなたのかぞく こーせいに ついて
 おか がい します。つきの なかで あなたの
 ごかぞくと して | どきよ して いる、 して ないに
 かかわらず | 、あてはまる すべての ばんごーを おかげ
 ください。
 数 1 はい ぐーしゃ
 数 2 こども
 数 3 あなたの ちちおや
 数 4 あなたの ははおや
 数 5 はい ぐーしゃの ちちおや
 数 6 はい ぐーしゃの ははおや
 数 7 きよー だい しまい
 数 8 そふ
 数 9 そば
 数 10 こどもの はい ぐーしゃ
 数 11 まー^ト
 数 12 そのた 特ふふに

数 8

数 7

とい 数 5 あなたの おすまいに ついて、おうか がい
します。

□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：
外 a. あなたの げんざいの おすまいわ
どれですか。
ください。

□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：
数 1. じぶんもしくわ はいぐーしやの、もちいえや
ちんたいじゅーたく 数 1 こ だて、まんしょん、
あはーとなど

□□：□：□：□：□：□：□：□：□：
数 2. かぞくりよーしん、きよー だい、こども、
二どもの はいぐーしやとー|の、もちいえや ちんたい

じゅーたく 数 1 こ だて、まんしょん、あぱーとなど
□□：□：□：□：□：□：□：
数 3。かいしやの しやいんりょー や かいしや が
じゅーぎょーいんの ために よーい してくれる あぱーと、
まんしょん

□□：□：□：□：□：□：
数 4. ふくしちせつや ちいきの だんたい とー が
うんえいする えんごりょー、ふくしまーむや ぐるー ぶ

□□：□：□：□：
数 5. そのた特ふふに

□□：□：□：
数 6. をを外 a.

□□：□：□：
数 7. かいと一されたかたに おうか がい します。

□□：□：□：
数 8. 外 b. あなたわ げんざい ひとり ぐらし ですか。

□□：□：□：
数 9. あてはまるばんごーを ひとつ おかげく ださい。

□□：□：□：
数 10. はい 数 1 はい
□□：□：□：
数 2。いいえ

□□：□：□：
数 3。あなたの ちちおや

□□：□：□：□：□：
□□：□：□：

□□：□：□：
数 1. はい ぐーしや

□□：□：□：
数 2。こども

□□：□：□：
数 3。あなたと どきよして いる ひとわ、

□□：□：□：
数 4. あてはまるす べての ばんごーを

□□：□：□：
おかきく ださい。

□□：□：□：
数 5. はい ぐーしや

□□：□：□：
数 6. こども

□□：□：□：
数 7. あなた ちちおや

□□：□：□：
数 8. あなた ちちおや

□□：□：□：
数 9. あなた ちちおや

□□：□：□：
数 10. あなた ちちおや

数 9
 あなたのははおや
 といふに |

数 10。こどものはいぐーしゃ
 といふに |

数 11。まご
 といふに |

数 12。そのた特ふふに
 といふに |

数 10
 あなたのがくべきに ついて おうか がい
 ます。
 外 a. あなたのかよつた ことの ある がつこー
 ちゆーたい された がつこー およ び げんざい
 よつて いる がつこーを ふくみます | わ どこ ですか。
 はまる すべての ばんごーを おかげ ください。
 数 1。ちゆー がつこー
 数 2。こーとー がつこー
 数 3。もー ろー よー がつこー | とく べつ
 しえん がつこー | ちゆー がくぶ
 数 4。もー ろー よー がつこー | とく べつ
 しえん がつこー | こーとー ぶ
 数 5。もー ろー よー がつこー | とく べつ
 しえん がつこー | せんこー
 数 6。せんしゅー ガくべき
 特ふふに |

数 7。しょくぎょー のーりょく かいはつこー | しょくぎょー

くんれんこー | 数 1 1
 数 8。 だい がく・ たんき だい がく
 数 9。 だい がくいん
 数 10。 そのた 特ふふに
 外 b. 外 a. で えらん だ・ がつこーの うち、
 あなたが さい ごに そつきょー|ちゅーたい| した
 がつこーわ どれ ですか。 あてはまる ばん こーを
 数 1 | 特ふふに の なかに きに ゆー して く ださい。
 また、それわ なんさい の とき ですか。 その ねんれい を
 数 2 | 特ふふに の なかに きに ゆー して く ださい。
 さい ごに そつきょー|ちゅーたい| した がつこーわ
 数 1 | 特ふふに
 それわ | 数 2 | 特ふふに さい の とき
 外 c. げん さい かよつて いる がつこーわ
 ありますか。 ある ばあいわ、 その がつこーの
 しゅ べつと して あてはまる ものを、 外 a. の 数 1。 ~
 数 10。 の なかから えらび、 その ばん こーを おかげく ださい。

く ださい。 つい しんせい の がつこー や さまざまな
 せつと一 で しゅーろーに むけた くんれんに かよつて
 いる ばあいな ども ふくみます | 数 1 2
 とい 数 8 あなたの しょくぎょーれきに ついて
 おうか がい します。
 外 a. あなた が さいしょに しゆーに ゆーの ある
 しごとに ついたの わ なんさい の とき ですか。 特ふふに の
 なかに す一 じを きに ゆー して く ださい。 | ここ で
 いう 一し ごとーとわ、 ふくし こーじょー や
 さきょーしょ での し ごとわ ふくみません。 また、
 しゅ として だい がくや こーこーに かよいな がらの
 ある ばいと ヒーも ふくみません。 |
 特ふふに さい の とき
 外 b. 外 a. で かいとーを いた だいた し ことを
 する い ぜんわ なにを して いましたか。 あてはまる
 ばん こーを ひとつ おかげく ださい。

数1 がつこーに かよって いた
数2。ふくし こーじょーや さきょーしょ で はたいた
数3。ひょーいんに つーいん・ にゅーいん して いた
数4。いえ で やすん で いた
数5。そなた 特ふふに

外大! あなたの おし ごとに ついて おうか がい
します

とい 数9 げん ざい、 あなたわ しゅーにゅーの ある
しごとに ついて いますか。 あてはまる ばん ごーを

ひとつ おかげ く ださい。

をを ふくし こーじょーや さきょーしょ で はたいた
いる ばあいわ ここ で いう ーしゅーにゅーの ある
しごとーにわ ふくまれませんの で、 数6。 と おかげ
ください。

数1 がつこーに かよって いた
数2。ふくし こーじょーや さきょーしょ で はたいた
数3。ひょーいんに つーいん・ にゅーいん して いた
数4。いえ で やすん で いた
はたいて いる
数5。かいしやや そなたの きかん で、 せいしゃいん
はたいて いる
数6。かいしやや そなたの きかん で、 ぱーとや
ある ばいと、 しょくたく、 けいやく しゃいんと して
はたいて いる
数3。かいしやや そなたの きかん で、 はげん
しやいんと して はたいて いる
数4。じえいぎょー またわ か ぞく じゅーぎょーしゃと
して はたいて いる
数5。ないしょく で はたいて いる
数6。じょーきの いすれに も がいとー しない
ーふくし こーじょーや さきょーしょ で はたいて いるー
ごとーにわ ふくまれませんの で、 数6。 と おかげ
ください。

数1.4
数1 ふくすーの し ことを さされて いる ばあい
ある ばいとを ふたつ して いるな ど、 これ いこーの
せつもんわ、 おもな し ごと ひとつに ついて ごかいとー
く ださい。
数1。かいしやや そなたの きかん で、 せいしゃいん
またわ せいしょくいんと して はたいて いる
数2。かいしやや そなたの きかん で、 ぱーとや
ある ばいと、 しょくたく、 けいやく しゃいんと して
はたいて いる
数3。かいしやや そなたの きかん で、 はげん
しやいんと して はたいて いる
数4。じえいぎょー またわ か ぞく じゅーぎょーしゃと
して はたいて いる
数5。ないしょく で はたいて いる
数6。じょーきの いすれに も がいとー しない
ーふくし こーじょーや さきょーしょ で はたいて いるー
ごとーにわ ふくまれませんの で、 数6。 と おかげ
ください。

数 7。外大 A 一し ごとに ついて いる一 かたに おうか がい します。
を 数 1 3 ベー じの とい 数 9 で、 数 1。～数 5。
の い ずれかに かいと一 された かたのみ ごかいと一
く ださい。

数 8。ひとを あいてに する さ一 びすの し ごと
一数 4。ものをおしえる し ごと、 一数 5。いりよーや
ふくしに かかわる し ごとを のぞく |
数 7。せいそーや くりーにん ぐな どの さー びすの
し ごと

数 1 5
数 7。そのた 特ふふに
を 数 1。～数 5。の い ずれかに ごかいと一
された かたわ、 とい 数 1 0 いこーの しつもんに
ごかいと一 く ださい。
を を 数 6。またわ 数 7。に ごかいと一 された
かたわ、 数 2 6 ペー じの とい 数 1 9 いこーの しつもんに
ごかいと一 く ださい。
数 1 0
数 1 6
とい 数 1 0 あなた が たんと一 して いる
し ごとわ、 おもに どんないよー ですか。 あてはまる
・ばん ごーを ひとつ おかげ く ださい。 | ふくすーの
し ごとを されて いる ぱあい、 おもな し ごと ひとつに
ついて ごかいと一 く ださい。 |
数 1。もの を つくる し ごと
数 2。もの を うる し ごと
数 3。じむの し ごと
数 4。もの を おしえる し ごと | きょーし、 じゅく
こーし、 す ぼーつ くら ぶ し どーいんな どー
数 5。いりよーや ふくしに かかわる し ごと | あんま。
はり、 きゆーの し ごとを ふくむ |
数 6。ひとを あいてに する さ一 びすの し ごと
一数 4。ものをおしえる し ごと、 一数 5。いりよーや
ふくしに かかわる し ごとを のぞく |
数 7。せいそーや くりーにん ぐな どの さー びすの
し ごと

数 8。 そのた 特ふふに
数 17

とい 数 1 1 あなたのもーじよーきよーに
ついて、おうか がい します。 | ふくすーの し
されて いる ばあい、おもな し ごとひとつについて
こかいとーく ださい。 |
外 a. あなた が 数 6 がつに はたいた じかんわ
数 1 しゆーかんあたりに すると なん じかん ですか。
あてはまる ばん ごーを ひとつ おかげ く ださい。
数 1。 数 2 0 じかん みまん
数 2。 数 2 0 じかん いじよー 数 3 0 じかん みまん
数 3。 数 3 0 じかん いじよー ふるたいむ |
外 b. あなたの 数 6 がつの きゅー じつわ
数 1 しゆーかんあたりに すると なんにち ですか。 あてはまる
ばん ごーを ひとつ おかげ く ださい。

数 3。 みつか
数 4。 よつか いじよー
数 5。 ふていき
外 c. あなた が 数 6 がつに うけとった きゅーよ
| て どり | わ、いくらくらい ですか。 あてはまる
ばん ごーを ひとつ おかげ く ださい。 | ぼーなす が
ある ばいわ、ぼーなすを のぞいた きん がく で
ごかいとーく ださい
数 1。 数 7 まんえん みまん
数 2。 数 7 まんえん いじよー 数 1 3 まんえん みまん
数 3。 数 1 3 まんえん いじよー 数 2 5 まんえん みまん
数 4。 数 2 6 まんえん いじよー 数 3 9 まんえん みまん
数 5。 数 4 0 まんえん いじよー

とい 数 1 2 あなたの かいしゃま での つーきんに
ついて おうか がい します。 | ふくすーの し ことを
されて いる ばあい、おもな し ごとひとつに ついて

数 4。数 3 0 0 にん ~ 数 9 9 9 にん
 数 5。数 1 せんにん いじょー
 数 6。わからない

とい 数 1 4 あなたが げんざいのかいしゃ
 じえいをふくむし ごとをしはじめたのわ
 なんさいのときですか。特ふふにのなかにすーじを
 きにゅーしてください。
 特ふふにさい

とい 数 1 5 あなたわ、じぶんのしょーがいの
 ないよーじょー、ふくやく、きゅーけいとーに
 ついて、かいしゃやしょくばのひとにせつめいして
 いますか。つきのなかから、あてはまるばんこーを
 ひとつおかきください。
 せつめいしている

数 2.2
 数 2。かいしゃやしょくばのひとのごくいちぶの
 ひとだけにせつめいしている
 数 3。まったくせつめいしていない
 数 4。わからない

とい 数 1 6 あなたわ、げんざいのしことに
 ついて、どのていどまんぞくしていますか。
 外 a. ~外 d. のこーもくについて、あてはまる
 ばんこーをひとつおかげください。| ふくすーの
 しことをされているばあい、おもなしごとひとつに
 ついてごかいとーください。

数 2.1
 とい 数 1 4 あなたが げんざいのかいしゃ
 じえいをふくむし ごとをしはじめたのわ
 なんさいのときですか。特ふふにのなかにすーじを
 きにゅーしてください。
 特ふふにさい

とい 数 2.1 かいしゃやしょくばのひとのごくいちぶの
 ひとだけにせつめいしている
 数 3。まったくせつめいしていない
 数 4。わからない

フローティング音記号による歌詞を示す。各音の間には空隙があり、歌詞が読み取れるようになっている。
 フルスコア版の歌詞は、以下の通りである。
 数2 3
 より一 とー ジョーケン かんけい ぱの げん かんけい ぱの かんきょー せいつせい びとー
 外c. 外d.
 とい 数1 7
 かん がえに について おうか がい します。
 外a. あなたの かいしや でわ なんさいま で
 はたけるか きまつて いますか。 あてはまる ばん ごーを
 ひとつ おかげく ださい。
 数1。 数2。
 あるなど ばかり ない わからぬ、 じえいぎよー で
 外b.
 おうか がい します。 あなたの かいしや で なんさいま で

フルスコア版の歌詞は、以下の通りである。
 数2 4
 はたけるか、いかの 特ふふに の なかに すー じを きにゅー
 して く ださい ていねん ごの さいこよーな ど で
 はたける ばあいわ、 はたらける もつとも たかい
 なんれいを きにゅー して く ださい |。
 特ふふに さいま で はたらける
 外c. 一数1。 きまつて いるーと かいとー した かたに
 おうか がい します。 あなたわ いつま で し ごとを
 ひとつ おかげく ください。
 数1。 外b. で こたえた ねんれいよりも まえに
 しごとを やめた
 数2。 外b. で こたえた ねんれいま で はたきたい
 数3。 外b. で こたえた ねんれい いこーも
 はたらきたい
 数4。 そのた 特ふふに
 外d. 一数2。 きまつて いるーと かいとー した かたに
 かたに おうか がい します。 あなたわ なんさいま で

数 2 9	おうか がい します。 外 a. あなたわ し ごとに ついて どのよーに かん がえて いますか。 あてはまる ばん ごーを ひとつ おかげく ださい。	おうか がい します。 外 a. あなたわ し ごとに ついて どのよーに かん がえて いますか。 あてはまる ばん ごーを ひとつ おかげく ださい。	あてはまる もの す べての ばん ごーを おかげ く ださい。
数 3 0	数 1。 はい ぐーしゃ 数 2。 こ ども 数 3。 ちちおや 数 4。 ははおや 数 5。 きょー だい しまい 数 6。 かいしやの じょーしゃ どりょー 数 7。 しりあい ゆー じん 数 8。 しょー がいしや そー だんいん 数 9。 はろー わーく 数 1 0。 しょー がいしや しょくぎょー せんたー 数 1 1。 しょー がいしや しゅーぎょー せいかつ しょん	数 1。 はい ぐーしゃ 数 2。 こ ども 数 3。 ちちおや 数 4。 ははおや 数 5。 きょー だい しまい 数 6。 かいしやの じょーしゃ どりょー 数 7。 しりあい ゆー じん 数 8。 しょー がいしや そー だんいん 数 9。 はろー わーく 数 1 0。 しょー がいしや しょくぎょー せんたー 数 1 1。 しょー がいしや しゅーぎょー せいかつ しょん	数 1 2。 そー だん しおん じぎょーしゃ 数 1 3。 かかりつけの びょーいん しんりょーじょ りょー した こと がある ひとや きかんわ ありますか。 しゅ じい とー

数 3 1	
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	数 1 4。ほけんじょふくし じむしょ
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	数 1 5。そのた 特ふふに
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	数 1 6。そーだん じたり りよーした ことわ ない
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	く ださい。
数 3 2	
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	数 2。こ ども
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	数 3。ちぢめ や
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	数 4。ははおや
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	数 5。きよーだい しまい
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	数 6。かいしやの ジょーしや どーりょー
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	数 7。しりあい ゆーじん
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	数 8。しょーがいしや そーだんいん
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	数 9。はろー わーく
数 3 3	
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	外大 大 1 1 1 あなたのは ことや せいかつのが げんじょーに ついで おうか がいします
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	せんたー
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	数 2 1 かこのなんかんに、し ごとに かんして
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	なにか こまった こと が おきた ときに、そーだん
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	したり、りよーした こと が ある ひとや きかんわ
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	ありますか。あてはまる すべての ばんごーを おかげ
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	く ださい。
数 3 4	
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	ほけんじょふくし じむしょ
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	数 1 5。そーだん した ことわ ない
□□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：□：	数 1 6。そーだん した ことわ ない

とい 数 2 2 あなたわ しょーがいに かんする
ねんきんを じゅきゅーして いますか。あてはまる
・ばんごーを ひとつ おかげく ださい。
数 1。じゅきゅーして いる
数 2。じゅきゅーして いない
数 3。わからぬ

とい 数 2 3 あなたわ せいかつするための
しゅーに ゆーを どのよーに えて いますか。
・ばんごーを ひとつ おかげく ださい。
一はたらいて える しゅーに ゆーに わ、ふくし こじょーや
さぎよーしまからの しゅーに ゆーも ふくめます |

数 1。一ねんきんーだけ で せいかつして いる
数 2。一かぞくな どの しえんーだけ で せいかつ
して いる

数 3。一はたらいて える しゅーに ゆーだけ で
せいかつして いる

とい 数 3 3
とい 数 3 4
数 4。一ねんきんーと 一かぞくな どの しえんーを
あわせて せいかつ して いる
数 5。一ねんきんーと 一はたらいて える しゅーに ゆーを
あわせて せいかつ して いる
数 6。一かぞくな どの しえんーと 一はたらいて える しゅーに ゆーを
あわせて せいかつ して いる
数 7。一ねんきんーと 一はたらいて せる しゅーに ゆーと
一かぞくな どの しえんーを あわせて せいかつ して いる
数 8。そのた 特ふふに
数 9。わからぬ

とい 数 2 4 かこ 数 2 ねんかんに、けいざいてきに
こまつた こと が おきた とき、そーだんしたり、りよー
した こと が ある ひとや きかんわ ありますか。
あてはまる すべての ばんごーを おかげく ださい。

数 1。はい ぐーしゃ
数 2。こども

ブラウザでは表示が正しくない場合は、[こちら](http://www.toyokuni.com/song/song37.htm)から歌詞を確認してください。
 リンクは、歌詞の最初の行をクリックすると開かれます。

数 3 7

外 d. しょく ばの かんきょー せい び

外 e. きんむ じかんや きゅー じつ

外 f. し ごと なかもとの にんげん かんけい

とい 数 2 6 あなたがはたらきつづけるために、

かいしゃや かいしゃのひとにはいりよしてほしいことに

ついて、おうかがいします。

外 a. あなたわ、じぶんがしごとをする

うえで どんなことがひつよーとかんがえて

いますか。あてはあるすべてのばんごーをおかげください。

数 1。さぎょーでじゅんをわかりやすくしたり、

しごとをやりやすくすること

数 2。さぎょーのすびーどやしごとのりょーを

しょーがいにあわせること

数 3。さぎょーをよーにするききやせつびを

かいぜんすること

数 3 8

外 d. つーきんのべんぎをはかること

外 e. 数 5。まわりにしごとやこみゆにけーしょんをえんじょ

外 f. してくれるひとをはいちすること

数 6。たいりよくやたいちよーにあわせて、きんむ

じかんややすみをちよーセいすること

数 7。あんぜんやけんこーかんりにとくべつの

はいりよをすること

数 8。そのた特ふふに

外 b. あなたがしごとをするうんで、かいしゃや

かいしゃのひとにとくにおねがいしたいことわどんな

ことですか。あてはまるすべてのばんごーをおかげください。

数 1。しょーがいやしょーがいしゃのことをりかい

してほしい

数 2。しょくばにしょーがいしゃのなかまをおおく

してほしい

数 3。ずっとはたらきつづけることが

資料9 【アンケート調査票】

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査」調査票

平成21年7月 独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構 障害者職業総合センター 研究部門

ID番号 :

調査票の説明は、独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構が、国の障害者雇用対策の基礎資料とするため、障害のある労働者の方の公表に關しては、統計的・分析的に處理された集計結果のみを使用し、個人が特定されるような形式で公表されることはありません。

1. ご記入ください。7月1日現在の状況についてご記入願います。
 2. 調査票は、7月1日現在の状況についてご記入願います。
 3. 回答には必ず記入してください。
 4. 回答は必ず記入してください。
 5. 各質問の回答については、各質問の後に回答欄として3~4行程度の余白を設けてありますので、その余白にご回答願います。
 6. なお、ご回答はご本人の記入が原則ですが、記入にあたって支援が必要な方は、ご家族等に手伝つていただいて結構です。
 7. その他、記入の要領は、同封の「アンケート調査票記入の手引き」をご覧ください。

※次から質問が始まります。

問1 あなたの性別は男性ですか、女性ですか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。

1. 男性
2. 女性
回答欄

問2 あなたの生年月日はいつですか。回答欄に数字を記入してください。

回答欄

問3 あなたの障害の種類は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んで、その番号を回答欄に記入してください。

1. 視覚障害
2. 聴覚障害
3. 肢体不自由
4. 内部障害
5. 知的障害
6. 精神障害
※あてはまるものがない場合は、回答欄に障害名を記入してください
- 回答欄

問4 あなたの家族構成についておうかがいします。次の中であなたのご家族として(同居している)していらないにかかる場合は、あてはまるものをすべて選んで、その番号を回答欄に記入してください。その他の場合は、その詳細も記入してください。

1. 配偶者
2. 子ども
3. あなたの父親
4. あなたの母親
5. 配偶者の母親
6. 配偶者の兄弟姉妹
7. 兄弟姉妹
8. 祖父
9. 祖母
10. 子どもの配偶者
11. 孫
12. その他 (回答欄に詳細を記入してください)
- 回答欄

問5 あなたのお住まいについておうかがいします。
 a. あなたの現在のお住まいはどれですか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。

1. 自分もしくは配偶者の、持ち家や賃貸住宅(一戸建て、マンション、アパートなど)
2. 家族(両親、兄弟、子ども、子どもの配偶者等)
3. 会社の社員寮や会社が從業員のために用意してくれるアパート・マンション等
4. 福祉施設や地域の団体等が運営する施設、福祉ホームやグループホーム等
5. その他 (回答欄に詳細を記入してください)
- 回答欄

※1、2、3のいずれかに回答された方におうかがいします。
 b. あなたは現在一人暮らしですか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。

1. いいえ
2. いいえ
回答欄

問6 あなたは取扱している資格や免許がありますか。その内容を回答欄に記入してください。

c. あなたは障害者手帳(身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳)を持っていますか。あてはまるものについて、回答欄の該当する手帳のところに「あり」と記入してください。つづけて持つている手帳も持つていない場合は、その他の回答欄に「持っていない」と記入してください。

- 1) 身体障害者手帳

- 2) 緊育手帳(愛の手帳など)

問6 あなたは取扱している資格や免許がありますか。その内容を回答欄に記入してください。

など具体的に記入してください)

回答欄

問 7 あなたの学歴についておうかがいします。^a 中退された学校（中退された学校および現在通っている学校を含みます）はどこですか。
あてはまるものをすべて選んで、その番号を回答欄に記入してください。

1. 中学校
2. 高等学校
3. 盲・ろう・難聴学校（特別支援学校）中学部
4. 盲・ろう・難聴学校（特別支援学校）高等部
5. 専修・各種学校（特別支援学校）事務科
6. 専修・各種学校（特別支援学校）専門科
7. 職業能力開発校（職業訓練校）
8. 大学・短期大学
9. 大学院
10. その他（回答欄にその内容を具体的にご記入ください）

回答欄

問 8 ^a ^b ^c aで回答した学校のうち、あなたが最後に卒業（中退）した学校はどれですか。その番号を回答欄1に記入してください。^a ^b ^c また、それは何歳のときですか。その年齢のときですか。（回答欄2に記入してください。）

回答欄

問 9 ^a ^b ^c aで回答した学校はありますか。ある場合は、その学校の種別としてあてはまるものを^aの1～10の中から選び、その番号を記入してください。^a（通信制の学校やさまざまな施設等で就労に向けた訓練等で就労に通っている場合なども含みます）

回答欄

問 10 現在あなたが担当している仕事は、主にどんな内容ですか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。（複数の仕事をされている場合、主な仕事1つについて記入してください。）

問 11 あなたの現在の労働状況について、おうかがいします。（複数の仕事をされている場合、主な仕事1つについてご回答ください。）

問 12 あなたの会社までの通勤についておうかがいします。（複数の会社をされている場合、主な仕事1つについてご回答ください。）

※1～5のいずれかにご回答された方は、次の問10（II A 「仕事についている」人におうかがいします。）以降の質問にお答えください。

※6または7にご回答された方は、問19（II B 「仕事についてない」人におうかがいします。）以降の質問にお答えください。

II A 「仕事についている」人におうかがいします。（4ページの問9で、1～5のいずれかにご回答された方のみ回答をお願いします。）

問 10 現在あなたが担当している仕事は、主にどんな内容ですか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。（複数の仕事をされている場合、主な仕事1つについて記入してください。）

1. ものを作り出す仕事
2. ものを弄る仕事
3. 事務の仕事をする仕事（教師、塾講師、スポーツクラブ指導員など）
4. ものを教える仕事（教師、医療や福祉の仕事（「あんま・鍼・灸の仕事を教える仕事」、「4. ものを教える仕事」、「5. 医療や福祉に関わる仕事」を除きます）
5. 医療や福祉に関するサービスの仕事（「4. ものを教える仕事」、「5. 医療や福祉に関わる仕事」を除きます）
6. 人を相手にするサービスの仕事（「4. ものを教える仕事」、「5. 医療や福祉に関わる仕事」を除きます）
7. 溝端やクリーニングなどのサービスの仕事
8. その他（回答欄にその内容を具体的にご記入ください）

回答欄

問 11 あなたの現在の労働状況について、おうかがいします。（複数の仕事をされている場合、主な仕事1つについてご回答ください。）

問 12 あなたの6月の休日は1週間あたりにすると何時間ですか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。

1. あなたが6月に勤いた時間は1週間あたりに記入してください。

2. 20時間未満

3. 20時間以上30時間未満

4. 30時間以上（フルタイム）

回答欄

問 13 あなたが6月に受け取った給与（手取り）は、いくらですか。（ボーナスがある場合は、ボーナスを除いた金額でご回答願います）

1. 7万円未満

2. 7万円以上13万円未満

3. 13万円以上25万円未満

4. 26万円以上39万円未満

5. 40万円以上

回答欄

II あなたのお仕事についておうかがいします

問 9 現在、あなたは収入のある仕事についていますか。あてはまるもの1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。

※福利厚生や作業所で勤いでいた

1. 福祉工場・作業所で勤いでいた

2. 病院・通院・入院していった

3. 家で休んでいた

4. 会社やその他の機関で、正社員または職員として働いている

5. その他（回答欄にその内容を具体的にご記入ください）

回答欄

a. 通勤に利用する手段は何ですか。あてはまるものをすべて選んで、その番号を回答欄に記入してください

- い。
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足
回答欄

1. 徒歩
2. 自転車
3. 原付やオートバイ
4. 自動車（自家用や会社の回数など、自分が以外の人が運転）
5. 公共交通機関（電車やバスなど）
6. その他（回答欄にその内容を具体的にご記入ください）

- 回答欄
b. 通勤にかかる合計時間（片道）は、どれくらいですか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。
1. 3分未満
2. 30分以上 1時間未満
3. 1時間以上 1時間30分未満
4. 1時間30分以上 2時間未満
5. 2時間以上
回答欄

- 問13 あなたが働いている会社（自営、内職を含む。）の従業員数（規模）は、何人くらいですか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。（複数の仕事をされている場合、主な仕事1つについてご回答ください。）
1. 1~9人
2. 10人~49人
3. 50~299人
4. 300人~999人
5. 1,000人以上
6. わからない
回答欄

問14 今の会社（自営を含む）で仕事をし始めたのは何歳のときですか。回答欄に数字を記入してください。

- 回答欄
c. 「あなたは、自分の障害の内容（症状、服薬、休憩等）について、会社や職場の人間に説明していますか。次の申から、あてはまるものを1つ選んで、その番号を記入してください。

1. 会社や職場の人ほとんどに説明をしている

2. 会社や職場の人のごく一部の人だけに説明している

3. 全く説明していない

4. わからない

- 回答欄

- 問15 あなたは、今の仕事について、どの程度満足していますか。a～dの項目について、あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。（複数の仕事をされている場合、主な仕事1つについてご回答ください。）
a. 仕事の内容
1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば不満足
5. 不満足
回答欄

- b. 給料や待遇（労働条件等）
1. 満足
2. どちらかといえば満足
3. どちらともいえない
回答欄

- c. 「1. 決まっている」と回答した方に「もうかがいします」。
d. 「2. 決まっている」と回答した方に「もうかがいします」。
e. 「あなたは現在の仕事を今後も続けたいと思いますか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。
1. 現在の仕事を続けたい
2. 現在の仕事をやめたい
3. わからない
回答欄

問 18 現在あなたは仕事を掛け持ち（アルバイトを2つしているなど）していますか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。
1. 仕事を掛け持っている
2. 仕事の掛け持ちはしていない
回答欄

4. 福祉工場や作業所で働きたい
5. 仕事にはつきたくない
6. その他（回答欄にその内容を具体的にご記入ください）
回答欄

※「1. ある」に回答された方に「おうかがいします」。
※問 10から問 18に回答された方は、問 21（Ⅲ あなたの仕事や生活の現状についておうかがいします）へ進んでください。

※「1、2、3」のいずれかに○をつけた方に「おうかがいします」。
b. 仕事を深すとき記入してくださり、利用したことがある人や機関はありますか。あてはまるものをすべて選んで、その番号を回答欄に記入してくださり、相談してくださり、利用したことがありますか。あてはまるものをすべて選んで、その番号を回答欄に記入してください。

Ⅱ 目 「仕事についていない」人に「おうかがいします」。（4ページの問 9で、6または7に回答された方のみご回答ください。）
問 19 この2年間の仕事の経験について、おうかがいします。
1. この2年間に仕事についていたことがありますか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。
1. ある
2. ない
回答欄

2. 定年退職（回答欄にその年齢もご記入ください）
3. 定年後の雇用期間満了
4. 職務期間満了
5. 休職期間満了
6. 自分の都合
7. その他の（回答欄にその内容を具体的にご記入ください）
8. わからない
回答欄

※「1. ある」に回答された方に「おうかがいします」。

b. その仕事をお筋めになつた理由は何ですか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。
1. 事業主の都合
2. 定年退職（回答欄にその年齢もご記入ください）
3. 定年後の雇用期間満了
4. 職務期間満了
5. 休職期間満了
6. 自分の都合
7. その他の（回答欄にその内容を具体的にご記入ください）
8. わからない
回答欄

※「1、2、3」のいずれかに○をつけた方に「おうかがいします」。
b. 仕事を深すとき記入してくださり、利用したことがある人や機関はありますか。あてはまるものをすべて選んで、その番号を回答欄に記入してください。

Ⅲ あなたの仕事や生活の現状についておうかがいします。
問 21 過去2年間に、仕事に関する何か困ったことが起きたときに、相談したり、利用したことがある人や機関はありますか。あてはまるものをすべて選んで、その番号を回答欄に記入してください。
1. 配偶者
2. 子ども
3. 父親
4. 母親
5. 兄弟姉妹
6. 会社の上司や同僚
7. 知り合い・友人
8. 障害者相談員
9. ハローワーク
10. 障害者就業・生活支援センター
11. 障害者就業事業者
12. 相談支援事業者
13. かかりつけの病院・診療所（福利事務所）
14. 保健所（福祉事務所）
15. その他（回答欄にその内容を具体的にご記入ください）
16. 相談したり利用したことはない
回答欄

問 22 あなたは障害に関する年金を受給していますか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。
1. 受給している
2. 受給していない
3. わからない
回答欄

問 20 あなたの就職活動についておうかがいします。
a. あなたは仕事についてどのように考えていますか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。
1. すぐに仕事につきたい
2. すぐどういわけではなくが、仕事につけたい
3. 時間をかけて自分で自分に合った仕事を探したい
回答欄

問23 あなたは生活するための収入をどのように得ていますか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。
 1. 「年金」だけで生活している
 2. 「家族などの支援」だけで生活している
 3. 「年金」と「家族などの支援」を合わせて生活している
 4. 「年金」と「家族などで働いて得る収入」と「働いて得る収入」を合わせて生活している
 5. 「年金」と「働いて得る収入」と「家族などからの支援」を合わせて生活している
 6. 「年金」と「年金などで働いて得る収入」と「働いて得る収入」を合わせて生活している
 7. 「年金」と「その他（回答欄にその内容を具体的にご記入ください）」
 8. 「年金」わからぬ

問24 過去2年間に、経済的に困ったことが起きたときに、相談したり、利用したことがある人や機関はありますか。
 あてはまるものをして選んで、その番号を回答欄に記入してください。

- 1. 配偶者
- 2. 子ども
- 3. 父親
- 4. 母親
- 5. 兄姉妹
- 6. 会社の上司や同僚
- 7. 知り合い・友人
- 8. 障害者相談員
- 9. ハローワーク
- 10. 障害者就業・生活支援センター
- 11. 相談支援事業者
- 12. 相談支援事業者の病院・診療所（主治医等）
- 13. かかりつけの病院・診療所
- 14. 保健所（福祉事務所）
- 15. その他（回答欄にその内容を具体的にご記入ください）
- 16. その他（回答欄に利活用したことはない）

問25 あなたの仕事や生活に対する考え方などについておうかがいします
 あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。
 a. 賃金や給料

- 1. 重要
- 2. どちらかといえは重要
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえは重要でない
- 5. 重要でない

- 1. 重要な経験
- 2. どちらかといえは重要
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえは重要でない
- 5. 重要でない

- c. 仕事の内容
- 1. 重要
- 2. どちらかといえは重要
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえは重要でない
- 5. 重要でない

d. 職場の環境整備

1. 「年金」だけで生活している

2. 「家族などの支援」だけで生活している

3. 「年金」と「家族などの支援」を合わせて生活している

4. 「年金」と「家族などで働いて得る収入」と「働いて得る収入」を合わせて生活している

5. 「年金」と「年金などで働いて得る収入」と「働いて得る収入」を合わせて生活している

6. 「年金」と「その他（回答欄にその内容を具体的にご記入ください）」

7. 「年金」わからぬ

8. 「年金」（回答欄にその内容を具体的にご記入ください）

9. わからぬ

回答欄

e. 勤務時間や休日

1. 重要

2. どちらかといえは重要

3. どちらともいえない

4. どちらかといえは重要でない

5. 重要でない

回答欄

f. 仕事仲間との人間関係

1. 重要

2. どちらかといえは重要

3. どちらともいえない

4. どちらかといえは重要でない

5. 重要でない

回答欄

問26 あなたが働きつづけるために、会社や会社の人に配慮して欲しいことについて、おうかがいします。
 あてはまるものをして選んで、その番号を回答欄に記入してください。
 その番号を回答欄に記入してください。
 1. 作業手順をわかりやすくしてほしい
 2. 仕事や機器や設備を改善すること
 3. 作業のスルードを改善すること
 4. 通勤の便りを図やコミュニケーションを援助してくれる人を配置すること
 5. 体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること
 6. 体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること
 7. 安全や健康管理に特別の配慮をするること
 8. その他（回答欄にその内容を具体的にご記入ください）

回答欄

b. あなたが仕事をする上で、会社やまわり人に特にお願いしたいことはどんなことがありますか。あてはまるものをして選んで、その番号を回答欄に記入してください。
 1. 書類や障害者とのことで理解してほしい
 2. 職場に障害者の仲間を多くしてほしい
 3. すとと働き続けることができるようにしてほしい
 4. 給与面を改善してほしい
 5. 体力や障害者に合った労働時間や休日の設定をしてほしい
 6. 能力に応じた評価や昇進、昇格をしてほしい
 7. 研修や教育を充実してほしい
 8. 健康管理を充実してほしい
 9. 職場の中で困ったことの相談ができるようにしてほしい
 10. その他（回答欄にその内容を具体的にご記入ください）

回答欄

問27 あなたが普段の生活で、一番の楽しみにしていることは何ですか。回答欄に自由に記入してください。

問28 あなたが近い将来（5年くらい後まで）に実現したいことは何ですか。回答欄に自由に記入してください。

資料10 【アンケート調査票】

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査」調査票
〔電子ファイル版〕

- 問29 あなたは、仕事以外の次にあげる生活のことについてどの程度満足していますか。a～dの項目について、あてはまるものをお1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。
- a. 家族との人間関係について
 1. 満足 2. どちらかといえれば満足 3. どちらともいえない 4. どちらかといえれば不満足 5. 不満足
回答欄
- b. 友人・知人との人間関係について
 1. 満足 2. どちらかといえれば満足 3. どちらともいえない 4. どちらかといえれば不満足 5. 不満足
回答欄
- c. 自分の体力や健康について
 1. 満足 2. どちらかといえれば満足 3. どちらともいえない 4. どちらかといえれば不満足 5. 不満足
回答欄
- d. 収入や経済生活について
 1. 満足 2. どちらかといえれば満足 3. どちらともいえない 4. どちらかといえれば不満足 5. 不満足
回答欄

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査」調査票

平成21年1月 (独) 高齢・障害者雇用支援機構

障害者職業総合センター 研究部門

- この調査は、独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構が、国の障害者雇用対策の基礎資料とするため、障害のある労働者の方の職業生活について調査するものです。
- 調査結果の公表に関しては、統計的に処理された集計結果のみを使用し、個人が特定されるような形式で公表されることはありません。
- 回答については、**1月1日現在**の状況についてご記入願います。
- 回答の終わった調査票は、**2月20日**までに必ずご返送願います。
- なお、ご回答はご本人の記入が原則ですが、記入にあたって支援が必要な方は、ご家族等に手伝つていただきたいと結論です。
- その他、記入の要領は、同封の「アンケート調査票記入の手引き」をご覧ください。

I あなた自身の基本的なことについておうかがいします

問1 あなたの性別は男性ですか、女性ですか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。	
1. 男性	2. 女性
問2 あなたの生年月日はいつですか。回答欄に数字を記入してください。	
年	月
日	

- 問30 この調査についてのご意見やご要望がありましたら、回答欄に自由に記入してください。
- 回答欄

問3 あなたの障害の種類・程度などについておうかがいします。	
a. ご自分に障害があると医師等から最初に診断を受けたのは何歳のときですか。回答欄に数字を記入してください。(診断された年齢がわからなければ、「はつきりしない」場合は、「わからない」と記入してください。)	
b. あなたの障害の種類は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んで、その番号を回答欄に記入してください。	
1. 脳血管障害	2. 脳震盪障害
3. 疲労不自由	4. 内部障害
5. 知的障害	6. 精神障害
※あてはまるものがない場合は、回答欄に障害名を記入してください。	
c. あなたは障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳)を持っていますか。あてはまるものすべてについて、回答欄1に「あり」と記入し、回答欄2に障害の程度も記入してください。	
回答欄1	回答欄2
回答欄2	
問32 この調査票を記入したのはいつですか。回答欄に日付を記入してください。	
回答欄	

※以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。ファイルを上書き保存して、その保存したフロッピーディスク又はCD-RWをご返送ください。

問4 あなたの家族構成についておうかがいします。次の中であなたのご家族として(同居している、しないにかかわらず)、あてはまるものをすべて選んで、その番号を回答欄に記入してください。その他の場合は、その詳細も記入してください。

1. 配偶者	2. 子ども	3. あなたの父親
4. あなたの母親	5. 配偶者の父親	6. 配偶者の母親
7. 兄弟姉妹	8. 祖父	9. 祖母
10. その他		

問5 あなたの現在のお住まいについて、おうかがいします。
記入してください。

1. 自分の持ち家や賃貸住宅（一戸建て、マンション、アパートなど）
 2. 家族（両親、兄弟等）の持ち家や賃貸住宅（一戸建て、マンション、アパートなど）
 3. 会社の社員寮や会社が従業員のために用意してくれるアパート・マンション
 4. 福祉施設や地域の団体等が運営する援護寮、福祉ホームやグループホーム等の施設
 5. その他（回答欄に詳細を記入してください）

1、2、3のいずれかに回答された方におうかがいします。

→ b. あなたは現在一人暮らしですか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。

1. はい
2. いいえ

→ c. あなたと同居している人は、どなたですか。あてはまるものをすべて選んで、その番号を回答欄に記入してください。

1. 配偶者
2. 子ども
3. あなたの父親
4. あなたの母親
5. 配偶者の父親
6. 配偶者の母親
7. 兄弟姉妹
8. 祖父
9. 祖母
10. その他（回答欄に詳細を記入してください）

「2. いいえ」に回答された方におうかがいします。

→ c. あなたと同居している人は、どなたですか。あてはまるものをすべて選んで、その番号を回答欄に記入してください。

1. 配偶者
2. 子ども
3. あなたの父親
4. あなたの母親
5. 配偶者の父親
6. 配偶者の母親
7. 兄弟姉妹
8. 祖父
9. 祖母
10. その他（回答欄に詳細を記入してください）

問6 あなたは取得している資格や免許がありますか。その内容を回答欄に記入してください。
（原付免許、英検2級など具体的に記入してください）

回答欄

問7 あなたの学歴についておうかがいします。

a. あなたの通ったことのある学校（中退された学校および現在通っている学校を含みます）はどこですか。あてはまるものをすべて選んで、その番号を回答欄に記入してください。	回答欄
1. 中学校	
2. 高等学校	
3. 盲・ろう・養護学校（特別支援学校）中学部	
4. 盲・ろう・養護学校（特別支援学校）高等部	
5. 盲・ろう・養護学校（特別支援学校）専攻科	
6. 専修・各種学校（回答欄にその種別を具体的にご記入ください）	
7. 職業能力開発校（職業訓練校）	
8. 大学・短期大学	
9. 大学院	
10. その他（回答欄にその内容を具体的にご記入ください）	
b. aで回答した学校のうち、あなたが最後に卒業（中退）した学校はどれですか。その番号を回答欄1に記入してください。	回答欄 1
c. aで回答した学校のうち、それは何歳のときですか。その年齢を回答欄2に記入してください。	回答欄 2
最後に卒業（中退）した学校は	回答欄
現在通っている学校はありますか。ある場合は、その学校の種別としてあてはまるものを、aの1～10の中から選び、その番号を回答欄に記入してください。	回答欄
a. あなたが最初に収入のある仕事についたのは何歳のときですか。回答欄に数字を記入してください。（ここでいう「仕事」とは、福祉工場や作業所での仕事は含まれません。また、主として大学や高校に通いながらのアルバイト等も含みません。）	回答欄
b. aで回答をいただいた仕事をする以前は何をしていましたか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。	回答欄
1. 学校に通っていた 2. 福祉工場や作業所で働いていた 3. 病院に通院・入院していた 4. 家で休んでいた 5. その他（回答欄にその内容を具体的にご記入ください）	

II あなたのお仕事についておうかがいします

II A 「仕事についている」人におうかがいします

問9 現在、あなたは収入のある仕事についていますか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。
※複数の仕事をされている場合(アルバイトを2つしているなど)、これ以降の設問は、主な仕事1つについてご回答ください。

1. 会社やその他の機関で、正社員または職員として働いている
2. 会社やその他の機関で、パートやアルバイト、嘱託、契約社員として働いている
3. 会社やその他の機関で、派遣社員として働いている
4. 自営業又は家族従業者として働いている
5. 内職で働いている
6. 上記のいずれにも該当しない(「福祉工場や作業所で働いている」「仕事をしていないなど」)
7. その他(回答欄にその内容を具体的にご記入ください)

回答欄

問10 現在あなたが担当している仕事は、主にどんな内容ですか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。(複数の仕事をされている場合、主な仕事1つについてご回答ください。)

1. ものを作る仕事
2. ものを売る仕事
3. 事務の仕事
4. ものを教える仕事(教師、塾講師、スポーツクラブ指導員など)
5. 医療や福祉に関わる仕事(あんま鍼灸の仕事を含む)
6. 人を相手にするサービス業(「4. ものを教える仕事」、「5. 医療や福祉に関する仕事」を除きます)
7. 清掃やクリーニングなどのサービス業
8. その他(回答欄にその内容を具体的にご記入ください)

回答欄

問11 あなたの現在の労働状況について、おうかがいします。(複数の仕事をされている場合、主な仕事1つについてご回答ください。)

a. あなたが12月に勤いた時間は週間あたりにすると何時間ですか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。

1. 20時間未満	2. 20時間以上30時間未満	3. 30時間以上(フルタイム)
-----------	-----------------	------------------

b. あなたの12月の休日は1週間あたりにすると何日ですか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。

1. 1日	2. 2日	3. 3日	4. 4日以上	5. 不定期
-------	-------	-------	---------	--------

c. あなたが12月に受け取った給与(手取り)は、いくらくらいですか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。(ボーナスがある場合は、ボーナスを除いた金額でご回答願います)

1. 7万円未満	2. 7以上13万円未満	3. 13以上25万円未満	4. 26以上39万円未満	5. 40万円以上
----------	--------------	---------------	---------------	-----------

回答欄

問12 あなたの会社までの通勤についておうかがいします。(複数の仕事をされている場合、主な仕事1つについてご回答ください。)

a. 通勤に利用する手段は何ですか。あてはまるものをすべて選んで、その番号を回答欄に記入してください。

1. 徒歩	2. 自転車	3. 原付やオートバイ
4. 自動車(自分で運転)	5. 自動車(家族や会社の同僚など、自分以外の人が運転)	6. 公共交通機関(電車やバスなどを使っていく)
7. その他(回答欄にその内容を具体的にご記入ください)		

b. 通勤にかかる合計時間(片道)は、どれくらいですか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。

1. 30分未満	2. 30分以上1時間未満	3. 1時間以上1時間30分未満	4. 1時間30分以上2時間未満	5. 2時間以上
----------	---------------	------------------	------------------	----------

回答欄

問13 あなたの働いている会社(自営、内職を含む。)の従業員数(規模)は、何人くらいですか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。(複数の仕事をされている場合、主な仕事1つについてご回答ください。)

1. 1~9人
2. 10人~49人
3. 50~299人
4. 300人~999人
5. 1000人以上
6. わからない

回答欄

問14 今の会社(自営を含む)で仕事をし始めたのは何歳のときですか。回答欄	回答欄
に数字を記入してください。	

問15 あなたは、自分の障害の内容(症状、服薬、休憩等)について、会社や職場の人に関する経験についていますか。次の中から、あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。	回答欄
1. 会社や職場の人ほとんどに説明している 2. 会社や職場の人のごく一部の人だけに説明している 3. 全く説明していない 4. わからない	

問16 あなたは、今の仕事について、どの程度満足していますか。a～dの項目について、あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。(複数の仕事をされている場合、主な仕事1つについてご回答ください。)	満足	どちらかども満足	どちらかども不満足	不満足	回答欄
a.仕事の内容	1	2	3	4	5
b.給料や待遇(労働条件等)	1	2	3	4	5
c.職場の人間関係	1	2	3	4	5
d.職場の環境(施設整備等)	1	2	3	4	5

ⅡB 「仕事についていない」人におうかがいします

4ページの問2で、6または7に回答された方のみご回答ください。

問19 この2年間の仕事の経験について、おうかがいします。 答欄に記入してください。	回答欄
a. この2年間に仕事についたことがありますか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回 答欄に記入してください。	
1. ある 2. ない	

「1. ある」に回答された方に「おうかがいします。 答欄に記入してください。	回答欄
b. その仕事をお辞めになった理由は何ですか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回 答欄に記入してください。	
1. 事業主の都合 2. 契約期間満了 3. 休職期間満了 4. 自分の都合 5. その他(回答欄にその内容を具体的にご記入ください) 6. わからない	

「4. 自分の都合」に回答された方にお聞きします。	回答欄
c. 「自分の都合」の具体的な内容は何ですか。あてはまるものをすべて選んで、その番号を 回答欄に記入してください。	
1. 仕事内容が合わなかった 2. 賃金・労働条件に不満があった 3. 職場の雰囲気・人間関係 4. 体調不良 5. 結婚 6. 出産 7. 家庭等の事情(介護など) 8. その他(回答欄にその内容を具体的にご記入ください) 9. わからない	

「問20 あなたの就職活動についておうかがいします。	回答欄
a. あなたは仕事についてどのように考えていますか。あてはまるものを1つ選んで、その番号 を回答欄に記入してください。	
1. すぐに仕事につきたい 2. すぐというわけではないが、仕事につきたい 3. 時間をかけて自分に合った仕事を探したい 4. 福祉工場や作業所で働きたい 5. 仕事にはつきたくない 6. その他(回答欄にその内容を具体的にご記入ください)	

「1.2.3のいずれかに○をつけた方におうかがいします。 b. 仕事を探しに、相談したり、利用したことがある人や機関はありますか。あてはまるも のをすべて選んで、その番号を回答欄に記入してください。	回答欄
1. 父親 2. 母親 3. 配偶者 4. 兄弟姉妹 5. 会社の上司や同僚 6. 知り合い・友人 7. 障害者相談員 8. ハローワーク 9. 障害者職業センター 10. 障害者就業・生活支援センター 11. 相談支援事業者 12. かかりつけの病院・診療所・主治医等 13. 保健所・福祉事務所 14. 学校 15. その他(回答欄にその内容を具体的にご記入ください) 16. 相談したり利用したことない	

8ページの問21へ進んでください。

III あなたの仕事や生活の現状についておうかがいします

IV あなたの仕事や生活に対する考え方などについておうかがいします

問21 過去 2 年間に、仕事に関するものすべてを記入してください。その番号を回答欄に記入してください。

1. 父親	2. 母親	3. 配偶者
4. 兄弟姉妹	5. 会社の上司や同僚	6. 知り合い、友人
7. 障害者相談員	8. ハローワーク	9. 障害者職業センター
10. 障害者就業・生活支援センター	11. 相談支援事業者	
12. かかりつけの病院・診療所(主治医等)	13. 保健所(福祉事務所)	
14. 学校	15. その他(回答欄にその内容を具体的にご記入ください)	
16. 相談したり利用したことではない		

問22 あなたは障害に関する年金を受給していますか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。

1. 受給している	2. 受給していない	3. わからない
-----------	------------	----------

問25 あなたにとって、次の項目は、仕事をするうえで、どのくらい重要なことがありますか。a~f の項目について、あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。

重要	いちぢからと いえらない	いちぢからと いえは必要と 思わない	いちぢからとも いえは必要と 思わない	いちぢからとも いえは必要と 思わない	重要でない
a.賃金や給料	1	2	3	4	5
b.自分の能力・経験	1	2	3	4	5
c.仕事の内容	1	2	3	4	5
d.職場の環境整備	1	2	3	4	5
e.勤務時間や休日	1	2	3	4	5
f.仕事中間との人間関係	1	2	3	4	5

問26 あなたが働きつづけるために、会社や会社の人に配慮して欲しいことについて、おうかがいします。

a. あなたは、自分が仕事をする上でどんなことが必要と考えていますか。あてはまるものをすべて選んで、その番号を回答欄に記入してください。

1. 作業手順をわかりやすくしたり、仕事をやりやすくすること
2. 作業のスピードや仕事の量を障害にあわせること
3. 作業を容易にする機器や設備を改善すること
4. 通勤の便宜を図ること
5. まわりに仕事やコミュニケーションを援助してくれる人を配置すること
6. 体力や体調に合わせて、勤務時間や休みを調整すること
7. 安全や健康管理に特別の配慮をするること
8. その他(回答欄にその内容を具体的にご記入ください)

b. あなたが仕事をする上で、会社や会社の人に特にお願いしたいことはどんなことがありますか。あてはまるものをすべて選んで、その番号を回答欄に記入してください。

1. 障害や障害者のことを理解してほしい
2. 職場に障害者の仲間を多くしてほしい
3. ずっと働き続けることができるようにしてほしい
4. 給与面を改善してほしい
5. 体力や障害に合わせた労働時間や休日の設定をしてほしい
6. 能力に応じた評価や昇進・昇格をしてほしい
7. 研修や教育訓練を充実してほしい
8. 健康管理を充実してほしい
9. 職場の中で困ったことの相談ができるようにしてほしい
10. その他(回答欄にその内容を具体的にご記入ください)

問23 あなたは生活するための収入をどのように得ていますか。あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。

1. 「年金」だけで生活している
2. 「家族などの支援」だけで生活している
3. 「働いて得る収入」だけで生活している
4. 「年金」と「家族などの支援」を合わせて生活している
5. 「年金」と「働いて得る収入」を合わせて生活している
6. 「家族などからの支援」と「働いて得る収入」を合わせて生活している
7. 「年金」と「働いて得る収入」と「家族などからの支援」を合わせて生活している
8. その他(回答欄にその内容を具体的にご記入ください)
9. わからない

問24 過去 2 年間に、経済的に困ったことが起きたとき、相談したり、利用したことがある人や機関はありますか。あてはまるものをすべて選んで、その番号を回答欄に記入してください。

1. 父親	2. 母親	3. 配偶者
4. 兄弟姉妹	5. 会社の上司や同僚	6. 知り合い、友人
7. 障害者相談員	8. ハローワーク	9. 障害者職業センター
10. 障害者就業・生活支援センター	11. 相談支援事業者	
12. かかりつけの病院・診療所(主治医等)	13. 保健所(福祉事務所)	
14. 学校	15. その他(回答欄にその内容を具体的にご記入ください)	
16. 相談したり利用したことではない		

資料11 【アンケート調査票記入の手引き】
アンケート調査票記入上の注意事項、記入例等の解説

アンケート調査票記入の手引き

問27 あなたが普段の生活で、一番の楽しみにしていることは何ですか。回答欄に自由に記入してください。

回答欄

問28 あなたが近い将来(5年くらい後まで)に実現したいことは何ですか。回答欄に自由に記入してください。

回答欄

1. 記入いただく前に

- (1) 同封の「ID番号のお知らせ」に記載されている番号が、あなたのID番号です。
このID番号と調査票1ページの右上にある番号が同じであることを確認できます。

問29 あなたは、仕事以外の次にあげる生活のことについてどの程度満足していますか。a～d の項目について、あてはまるものを1つ選んで、その番号を回答欄に記入してください。

		満足	どちらかとも満足	どちらかとも不満	不満	回答欄
a.家族との人間関係について	1	2	3	4	5	
b.友人・知人との人間関係について	1	2	3	4	5	
c.自分の体力や健康について	1	2	3	4	5	
d.収入や経済生活について	1	2	3	4	5	

問30 この調査についてのご意見やご要望があればましたら、回答欄に自由に記入してください。

回答欄

- （2）もしも、ID番号と、調査票1ページにある数字が違ついたら、すぐにご連絡ください。
(連絡先の詳細は最後のページに記載しております)。

2. アンケート調査票の内容

調査票は大きく分けて、下の図のような内容をお聞きします。ただし、「Ⅰ あなたのお仕事についておうかがいします」のところだけは、「仕事についている人」と「仕事についていない人」で回答していただく質問が異なりますのでご注意ください。

- I あなた自身の基本的なことについておうかがいします
II あなたのお仕事についておうかがいします

- III あなたの仕事や生活の現状についておうかがいします
IV あなたの仕事や生活に対する考え方などについておうかがいします

回答欄	回答欄2	
1. 自分で回答欄に記入してください。	II A 「仕事についている人におうかがいします (問 10～18)	問 1～8
2. 他の人に手伝つもらつた(手伝われた方について、回答欄2に、あなたとの関係を記入してください。父親、母親、友達、会社の上司等 具体的に記入してください)	II B 「仕事についていない人におうかがいします (問 19～20)	問 9～20

問32 この調査票を記入したのはいつですか。
回答欄に日付を記入してください。

平成 21 年 月 日

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

3. アンケート調査票の記入の仕方

- (1) 調査票記入に当たっては、各質問を読んで、それぞれの指示に従ってください。
- 以下に基本的な記入例を紹介しておきますので、ご参照ください。

- 「あてはまるもの1つに○をつけください」とある場合、すぐ下にある選択肢の中から回答を1つ選んで、その番号に○をつけてください。

記入例(回答が「男性」の場合)

① 男性 ② 女性

- 「あてはまるものすべてに○をつけください」とある場合、すぐ下にある選択肢の中からあてはまる回答を全て選んで、その番号に○をつけてください。

記入例(回答が「中学校」と「高等学校」の場合)

① 中学校
 ② 高等学校
3. 盲・ろう・養護学校(特別支援学校)中学部
4. 盲・ろう・養護学校(特別支援学校)高等部
5. 盲・ろう・養護学校(特別支援学校)専攻科
6. 専修・各種学校(具体的に)
7. 職業能力開発校
8. 大学・短期大学
9. 大学院
10. その他 ()

- 「あてはまる番号を□の中に記入してください」とあるいは、「□の中に数字を記入してください」とある場合、□の中に回答の数字を記入してください。

記入例(回答が「20歳」の場合)

20 歳のとき

- 回答の内容によって、次に回答する質問が分かれます。その場合、矢印などで次に回答する場所を示していますので、その箇所に書かれている指示を読んで間違わないようにご回答をお願いします。

記入例

(a で「1. ある」に回答し、b. で「2. 契約期間満了」に回答する場合
この場合c. には回答しない)

- a. 過去2年間に仕事についたことがありますか。あてはまるもの1つに○をつけてください。
 ① ある
 ② ない

「1. ある」に回答された方におうかがいします。

- b. その仕事をお辞めになった理由は何ですか。あてはまるもの1つに○をつけてください。

- 1. 事業主の都合
 ② 契約期間満了
2. 休職期間満了
3. その他 ()

- 4. 自分の都合
5. その他 ()

- 6. わからない

「4. 自分の都合」に回答された方にお聞きします。

→ c. 「自分の都合」の具体的な内容は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください

- 1. 仕事内容が合わなかった
2. 賃金、労働条件に不満があった
3. 職場の雰囲気・人間関係
4. 体調不良
5. 結婚
6. 出産
7. 家庭等の事情(介護など)
8. その他 ()

- 9. わからない

- 「a～○の項目について、あてはまる番号1つに○をつけてください」とある場合、左に並んでいるa～○の項目のそれについて、自分の回答にあてはまる番号(右側の1～5)に1つだけ○をつけてください。

記入例(「賃金や給料」に「不満足」、「自分の能力・経験」に「どちらともいえない」と回答する場合)

	満足	いえば満足	どちらかどもいえない	どちらかども不満足	不満足
a. 賃金や給料	1	2	3	4	<input checked="" type="radio"/> 5
b. 自己の能力・経験	1	2	<input checked="" type="radio"/> 3	4	5

(2) 障害の分類について
調査票 問3において、障害の種類をお聞きしていますが、回答にあたっては、次の障害分類および記入例を参考にご回答をお願いいたします。

4. 住所等の変更手続について

本調査に関するデータの管理は、障害者職業総合センター研究部門で行っています。調査票等を間違いないお届けするために、住所及び姓名等が変更になつたときは、お早めに下記の問合せ窓口までご連絡をお願いします。

障害分類名	含まれる主な障害				
視覚障害	視力障害、視野障害、色覚障害など				
聴覚障害	聴覚障害、平衡機能障害、音声又は言語機能の障害など				
肢体不自由	上肢・下肢・体幹・脳性マヒなど				
内部障害	心臓・じん臓・呼吸器・小腸・ぼうこう・直腸・ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害など				
知的障害					
精神障害	統合失調症、そうう病、神経症、気分障害など				

記入例
(障害の種類が小腸機能障害の場合、
内部障害に分類されるので 4 に○をつける)

視覚障害	聴覚障害	肢体障害	知的障害	精神障害	その他
1	2	3	4	5	6 ()

自分の障害がどの分類になるのかよくわからない
という場合は、「その他」欄に障害の名前をご記入ください。

(3) 障害者手帳の有無と障害の程度の記入について

調査票 問3において、障害者手帳の有無と障害の程度をお聞きしていますが、回答にあたっては、次の記入例を参考にご回答をお願いいたします。

記入例
(身体障害者手帳を持つていて、その等級が3級の場合、
1 に○をつけ、右の欄に「3級」と記入する)

持っている	身体障害者手帳	療育手帳(愛の手帳など)	精神障害者保健福祉手帳	その他(名称:)	持っていない	障害の程度
	①	2	3	4	5	3級

(4)ご回答は電子ファイル(フロッピーディスクもしくはCDディスク)での入力も可能です。ご希望の方は下記の問合せ窓口までご連絡下さい。

問合せ窓口
わからぬことなどがありましたら、次の連絡先へ、お気軽にお問い合わせください。
〒261-0014 千葉市美浜区若葉3-1-3
障害者職業総合センター研究部門 (社会的支援部門)
担当 石黒・三島
電話 : 043-297-9025 (月～金曜日 10:00～17:00)
FAX : 043-297-9057
E-mail : cyclesav@jjeed.or.jp

ホームページについて

本冊子のほか、障害者職業総合センターの研究成果物については、一部を除いて、下記のホームページから PDF ファイル等によりダウンロードできます。

【障害者職業総合センター研究部門ホームページ】

<http://www.nivr.jeed.or.jp/research/research.html>

著作権等について

視覚障害その他の理由で活字のままでこの本を利用できない方のために、営利を目的とする場合を除き、「録音図書」「点字図書」「拡大写本」等を作成することを認めます。その際は下記までご連絡下さい。

なお、視覚障害の方等で本冊子のテキストファイル（文章のみ）を希望されるときも、ご連絡ください。

【連絡先】

障害者職業総合センター企画部企画調整室

電話 043-297-9067

FAX 043-297-9057

資料シリーズ No.54

「障害のある労働者の職業サイクルに関する調査研究－第1回職業生活
後期調査（平成21年度）－」

編集・発行 独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構

障害者職業総合センター

〒261-0014

千葉市美浜区若葉3-1-3

電話 043-297-9067

FAX 043-297-9057

発 行 日 2010年3月

印刷・製本 株式会社 成光社
